七　波蘭國トノ境界

前記北端ヨリ「ロルツエンドルフ」ノ東方約二吉米ニ於テ審査ノ上確定セラルヘキ地點ニ至ルノ間

第八十八條ニ依リ定メラルヘキ國境ニ依ル

次テ北方ニ進ミ「ポズナニア」行政境界ト「バルチュ」河トノ會合點ニ至ルノ間「スコリシヤウ」「ライヒタール」「トレムバチャウ」「クンツエンドルフ」「シュライゼ」「グロース、コーゼル」「シュライベルストドルフ」「リッピン」「フェルストリッヒ、ニーフケン」「パウエラウ」「チェッシェン」「コンラダウ」「ヨハンニスドルフ」「モヅェノウエ」「ポグダイ」ノ各地ヲ波蘭國ニ屬セシム「ロルツエンドルフ」「カウルウィッツ」「グラウシェ」「ダルベルスドルフ」レーゼウィッツ」「ストラーダム」「グロース、シルテンベルグ」「クラッシュン」「ノイ、ミッテルワルデ」「ドマスノウィッツ」「ウェーデルスドルフ」「チェッシェン、ハムメル」ノ各地ヲ獨逸國ニ屬セシムルモノトシ審査ノ上境界線ヲ定ム

次テ「ポズナニア」ノ境界ヲ北西方ニ進ミ之ト「ラウィッチュ」ト「ヘルンスタット」鐵道トノ交叉點ニ至ル

次テ「ポズナニア」ノ行政境界ト「ライゼン」ト「チルナウ」街道トノ交叉點ニ至ルノ間

「トリーブッシュ」「ザーベル」ノ西方、「ザーポルウィッツ」ノ東方ヲ過ルモノトシ實査ノ上境界線ヲ定ム

次テ「ポズナニア」ノ行政境界ヲ進メ「フラウスタット」郡ノ東方行政境界トノ接合點ニ至ル

次テ北西方ニ進ミ「ウンルースタット」「コプニッツ」兩村落間ノ街道上ニ選定スヘキ地點ニ至ルノ間

「ガイエルスドルフ」「アレンノ」「フェーレン」「アルトクロステル」「クレーベル」ノ西方、「ウルベルスドルフ」「フーファルド」「イルゲン」「アイネ」「ルピッツェ」「シュウェンテン」ノ東方ヲ過ルモノトシ實査ノ上境界線ヲ定ム

次テ北方ニ向ヒ「クロップ」湖ノ北端ニ至ルノ間

諸湖ノ中央線ニ從ヒ實査ノ上境界線ヲ定ム但シ「ベンチェン」ノ市街及停車場「シュウィーブス」「ベンチェン」「チュリッヒャウ」「ベンチェン」兩鐵道ノ接合點ヲ含ム)ハ引續キ波蘭ノ版圖トス

次テ北東方ニ向ヒ「シュウェリン」「ビルンバウム」及「メゼリッツ」ノ三郡境界ノ交會點ニ至ルノ間

「ベッチェ」ノ東方ヲ過ルモノトシ實査ノ上境界線ヲ定ム

次テ北方ニ向ヒ「シュウェリン」「ビルンバウム」兩郡間ノ境界ニ從ヒ次ニ東方ニ向ヒ「ポズナニア」ノ北境ヲ進ミ「ネッツェ」河トノ交叉點ニ至ル

次テ「ネッツェ」河ヲ溯リ「キュッドウ」河トノ會流點ニ至ルノ間

「ネッツェ」河ノ河流ニ依ル

次テ「キュッドウ」河ヲ溯リ「シュナイデミュール」ノ南東方約六吉米ニ於テ選定スヘキ地點ニ至ルノ間

「キュッドウ」河ノ河流ニ依ル

次テ北東方ニ向ヒ「スターレン」ノ西方約五吉米ニ於ケル「ポズナニア」北境凹入部ノ南端ニ至ルノ間

此ノ地方ニ於ケル「シュナイデミュール」―「コーニッツ」鐵道ヲ獨逸國版圖内ニ全部留ムルモノトシ實査ノ上境界線ヲ定ム

次テ「ポズナニア」ノ境界ヲ北東方ニ進ミ「フラトウ」ノ東方約十五吉米ニ於ケル凸出部ノ尖端ニ至ル

次テ北東方ニ向ヒ「グルーナウ」ノ北東方約三吉米ニ於ケル「カミオンカ」河ト「コーニッツ」郡南境トノ會合點ニ至ルノ間

「ヤスドロウオ」「グロース、ルータウ」「クライン、ルータウ」及「ウイットカウ」ノ各地ヲ波蘭國ニ屬セシメ「グロース、ブーチッヒ」「チスコウォ」「バットロウ」「ベック」及「グルーナウ」ノ各地ヲ獨逸國ニ屬セシムモノトシ實査ノ上境界線ヲ定ム

次テ北方ニ向ヒ「コーニッツ」―「シュロッハウ」兩郡間ノ境界ヲ進ミ之ト「プラーヘ」河トノ交叉點ニ至ル

次テ「ポメラニア」ノ境界上「ルムメルスブルグ」ノ東方十五吉米ノ地點ニ至ルノ間

「コナルチン」「ケルセン」「アドレル、プリーゼン」ノ各地ヲ波蘭國ニ屬セシメ「ザムポール」「ノイグート」「スタインフォルト」「グロース、ペーテルカウ」ノ各地ヲ獨逸國ニ屬セシムルモノトシ實査ノ上境界線ヲ定ム

次テ「ポメラニア」ノ境界ヲ東方ニ進ミ「コーニッツ」「シュロッハウ」兩郡間ノ境界トノ接合點ニ至ル

次テ北方ニ向ヒ「ポメラニア」西境魯西間ノ境界ヲ進ミ「ゴーラ」ノ北西方約三吉米ニ於ケル「レダ」河ト北西方ヨリ來ル一支流トノ會流點ニ至ル

次テ北西方ニ進ミ「ウンルースタット」「コプニッツ」兩村落間ノ街道上ニ選定スヘキ地點ニ至ルノ間

「ガイエルスドルフ」「アレンノ」「フェーレン」「アルトクロステル」「クレーベル」ノ西方、「ウルベルスドルフ」「フーファルド」「イルゲン」「アイネ」「ルピッツェ」「シュウェンテン」ノ東方ヲ過ルモノトシ實査ノ上境界線ヲ定ム

次テ北方ニ向ヒ「クロップ」湖ノ北端ニ至ルノ間

諸湖ノ中央線ニ從ヒ實査ノ上境界線ヲ定ム但シ「ベンチェン」ノ市街及停車場「シュウィーブス」―「ベンチェン」「チュリッヒャウ」―「ベンチェン」兩鐵道ノ接合點ヲ含ム)ハ引續キ波蘭ノ版圖トス

次テ北東方ニ向ヒ「シュウェリン」「ビルンバウム」及「メゼリッツ」ノ三郡境界ノ交會點ニ至ルノ間

「ベッチェ」ノ東方ヲ過ルモノトシ實査ノ上境界線ヲ定ム

次テ北方ニ向ヒ「シュウェリン」「ビルンバウム」兩郡間ノ境界ニ從ヒ次ニ東方ニ向ヒ「ポズナニア」ノ北境ヲ進ミ「ネッツェ」河トノ交叉點ニ至ル

次テ「ネッツェ」河ヲ溯リ「キュッドウ」河トノ會流點ニ至ルノ間

「ネッツェ」河ノ河流ニ依ル

次テ「キュッドウ」河ヲ溯リ「シュナイデミュール」ノ南東方約六吉米ニ於テ選定スヘキ地點ニ至ルノ間

「キュッドウ」河ノ河流ニ依ル

次テ北東方ニ向ヒ「スターレン」ノ西方約五吉米ニ於ケル「ポズナニア」北境凹入部ノ南端ニ至ルノ間

次テ「ソルシュカウ」ノ北西方約一吉米半ニ於ケル「ピアスニッツ」河ノ彎曲部ニ於テ選定スヘキ地點ニ至ルノ間

次テ「ピアスニッツ」河ヲ下リ「ツァルノウィッツ」湖ノ中央線、西普魯西ノ舊境界ヲ進ミ波羅的海ニ至ル

八　丁抹國トノ境界

第三編第十二款(シュレスウィヒ)第百九條乃至第百十一條ニ依リ定ムル國境ニ依ル

第二十八條

東普魯西ノ境界ハ第三編第九款(東普魯西)ノ規定ニ從フノ外左ノ通之ヲ決定ス

「プレッベルナウ」教會堂ノ北方約一吉米半ノ波羅的海岸ノ地點ヨリ該地點ヲ通スル眞子午線ノ東方約百五十九度ノ方位ニ向ヒ約二吉米ノ間實査ノ上境界線ヲ定ム

次テ北緯五十四度十九分半線盛東經十九度二十六分ノ邊ニ在ル「エルビング」水道彎曲部ノ燈臺ニ向ヒ一直線ニ進ミ

次テ同地點ヨリ眞子午線ノ東方約二百九度ノ方位ニ向ヒ「ノガット」河口ノ東端ニ達ス

次テ「ノガット」河ノ河流ヲ溯リ同河カ「ヴィスチュラ」河(「ツイグセル」河)ト分岐スル點ニ至ル

次テ「ヴィスチュラ」河主要航行水道ヲ溯リ「マリエンウェルデル」郡及「ローゼンベルグ」郡ノ南境ヲ東方ニ進ミ東普魯西舊境界トノ接合點ニ至ル

〔外務版〕

次テ東西普魯西間ノ舊境界竝「オステローデ」及「ナイデンブルグ」兩郡間ノ境界ヲ進ミ「スコッタウ」河ノ河流ヲ下リ更ニ「ナイデ」河ノ河流ヲ溯リ「ピアルッテン」ノ西方約五吉米ニ於ケル露西亞國舊國境ニ最近キ地點ニ至ル

次テ東方ニ向ヒ「ナイデンブルグ」ト「ムラヴァ」街道ト露西亞國舊國境トノ交叉點直南ノ地點ニ至ルノ間

「ピアルッテン」ノ北方ヲ過ルモノトシ實査ノ上境界線ヲ定ム

次テ露西亞國舊國境ニ沿ヒ「シュマルレニンケン」東方ノ地點ニ至リ「ニーメン」河（「メーメル」河）ノ主要航行水道ヲ下リ三角洲ノ「スキルウィート」入江ヨリ「クーリッシェ、ネールング」ノ東岸ト「ニッデン」南西方約四吉米ニ於ケル行政境界トノ接合點ニ至ル

次テ此ノ行政境界ヲ進ミ「クーリッシェ、ネールング」ノ西岸ニ達ス

第二十九條

前記ノ境界ハ本條約附屬百萬分一地圖（地圖第一號）上ニ赤線ヲ以テ之ヲ表示ス

本條約ノ本文ト前項ノ地圖又ハ他ノ附屬地圖トノ間ニ相違アル場合ニ於テハ本文ニ從フモノトス

第三十條

水路ヲ以テ境界ヲ決定スル場合ニ於テ本條約ニ使用スル「河流」及「水道」ナル語ハ航行不能河川ニ在リテハ水路ノ又ハ其ノ本流ノ中央線、航行可能河川ニ在リテハ主要航行水道ノ中央線ヲ謂フ河流又ハ水道ノ移動ニ從ヒ國境線ノ變更ヲ生スヘキヤ或ハ本條約實施當時ニ於ケル河流又ハ水道ノ位置ニ依リ國境線ヲ確定スヘキヤハ本條約ニ定ムル境界委員會ニ於テ各場合ニ付之ヲ決定ス

第三編　歐洲政治條項

第一款　白耳義國

第三十一條

獨逸國ハ戰前ニ於ケル白耳義國ノ地位ヲ確立シタル千八百三十九年四月十九日ノ條約カ既ニ現時ノ要求ニ適合セサルニ至リタルコトヲ認メ該條約ノ廢棄ニ同意シ且前記千八百三十九年ノ條約ニ代フルニ爲主タル同盟及聯合國又ハ其ノ何レカノ國カ白耳義國政府及和蘭國政府ト共ニ締結スヘキ一切ノ條約ヲ直ニ承認遵守スルコトヲ約ス該條約又ハ其ノ何レカノ條項ニ對シ獨逸國ノ正式加入ヲ求メラルル場合ニ於テハ獨逸國ハ直ニ之ニ加入スヘキコトヲ約ス

第三十二條

獨逸國ハ「モレスネ」係爭地域（所謂「モレスネ」中立地帶）全部ニ對スル白耳義國ノ完全ナル主權ヲ承認ス

第三十三條

獨逸國ハ「リエージュ」ヨリ「エークス、ラ、シャペル」ニ至ル道路ノ西方ニ位スル普魯西領「モレスネ」地域ニ對スル一切ノ權利及權原ヲ白耳義國ノ爲ニ拋棄ス該道路ニシテ右地域ノ境界タル部分ハ白耳義國ニ歸屬スヘシ

第三十四條

獨逸國ハ「オイペン」「マルメディー」兩郡ノ全部ニ亙ル地域ニ對スル一切ノ權利及權原ヲ白耳義國ノ爲ニ拋棄ス

本條約實施後六月間白耳義國官憲ハ「オイペン」及「マルメディー」ニ於テ登錄簿ヲ公開スヘク前記地域ノ住民ハ同地域ノ全部又ハ一部ヲ引續キ獨逸國主權ノ下ニ立タムコトヲ希望スル旨右登錄簿ニ記入スルノ權利ヲ有ス

白耳義國政府ハ右民意公表ノ結果ヲ國際聯盟ニ通告スヘク白耳義國ハ聯盟ノ決定ヲ受諾スヘキコトヲ約ス

第三十五條

經濟上ノ要素及交通機關ノ關係ヲ參酌シテ白耳義獨逸兩國間ノ新國境線ヲ實査ノ上確定スル爲本條約實施後十五日以內ニ主タル同盟及聯合國ノ任命スル五名ノ委員竝獨逸國及白耳義國ノ任命スル各一名ノ委員計七名ヨリ成ル委員會ヲ設置スヘシ

該委員會ノ決定ハ過半數ニ依ルヘク且當事國ヲ拘束スヘシ

第三十六條

前掲地域ニ對スル主權ノ移轉確定シタルトキハ該地域ニ定住スル獨逸國民ハ當然確定的ニ白耳義國國籍ヲ取得シ獨逸國國籍ヲ喪失ス

尤モ千九百十四年八月一日以後該地域ノ住民ト爲リタル獨逸國民ハ白耳義國政府ノ許可ヲ得ルニ非サレハ白耳義國國籍ヲ取得セサルモノトス

第三十七條

本條約ニ基キ白耳義國ニ讓渡シタル地域ニ定住スル十八歲以上ノ獨逸國民ハ該地域ニ對スル主權ノ移轉完了後二年以內ニ獨逸國國籍ヲ選擇スルノ權利ヲ有ス

夫ノ國籍選擇ハ妻ニ、父母ノ國籍選擇ハ十八歲未滿ノ子ニ及フ

右選擇權ヲ行使シタル者ハ爾後十二月以內ニ獨逸國ニ住所ヲ移スコトヲ要ス

右選擇權行使者ハ白耳義國ノ取得シタル地域ニ在ル其ノ不動產ヲ保有スルノ權利ヲ有ス各種ノ動產ハ之ヲ携帶スルコトヲ得ヘク該財產ノ移動ニ關シテハ一切ノ輸出稅又ハ輸入稅ヲ課スルコトヲ得ス

第三十八條

獨逸國政府ハ白耳義國ノ主權ノ下ニ移シタル地域內ニ於ケル民政、軍政、財政、司法其ノ他ニ關スル記錄、登錄簿、圖面、證書其ノ他各種ノ文書ヲ遺滯ナク白耳義國政府ニ引渡スヘシ

獨逸國政府ハ戰時中獨逸國官憲カ白耳義國官公署殊ニ「ブリュッセル」ニ於ケル外務省ヨリ持去リタル各種ノ記錄及文書ヲ同樣白耳義國政府ニ返付スヘシ

第三十九條

白耳義國カ其ノ讓渡ヲ受ケタル地域ニ關シ負擔スヘキ獨逸國及普魯西ノ債務ノ割合及性質ハ第九編（財政條項）第二百五十四條及第二百五十六條ニ依リテ之ヲ決定スヘシ

第二款　盧森堡國

第四十條

盧森堡大公國ニ關シ獨逸國ハ千八百四十二年二月八日、千八百四十七年四月二日、千八百六十五年十月二十日ニ二十五日、千八百六十六年八月十八日、千八百六十七年二月二十一日同五月十一日、千八百七十一年五月十日、千八百七十二年六月十一日及千九百二年十一月十一日ノ諸條約竝此等條約ニ基ク一切ノ條約中獨逸國ノ爲ニ設ケタル一切ノ規定ノ利益ヲ拋棄ス

獨逸國ハ盧森堡大公國カ千九百十九年一月一日以後獨逸關稅同盟ヲ脫退

シタルコトヲ承認シ、鐵道經營ニ關スル一切ノ權利ヲ拋棄シ、大公國ノ永世局外中立ノ終了ニ同意シ且同盟及聯合國カ大公國ニ關シテ締結スヘキ一切ノ國際協定ヲ豫メ承認ス

第四十一條

獨逸國ハ主タル同盟及聯合國カ之ヲ要求スル場合ニ於テハ經濟問題竝運送及航空ニ關スル問題ニ付該諸國又ハ其ノ國民ノ爲ニ本條約中ニ規定シタル諸種ノ權利及便益ヲ盧森堡大公國ニ許與スヘキコトヲ約ス

第三款　萊因河左岸

第四十二條

獨逸國ハ萊因河ノ左岸又ハ同河ノ東方五十吉米ニ引キタル線ノ西方ニ在ル同河右岸ニ於テ築城ヲ保有シ又ハ構設スルコトヲ得ス

第四十三條

前條規定ノ境域内ニ於テハ武裝シタル兵力ノ永久又ハ一時ノ駐屯及集合竝各種ノ軍事演習ヲ禁ス動員ノ爲ニスル一切ノ永久施設ノ保持ニ付亦同シ

第四十四條

獨逸國ニシテ其ノ方法ノ如何ヲ問ハス第四十二條及第四十三條ノ規定ニ違反シタルトキハ本條約ノ署名國ニ對シ敵對行爲ヲ爲シ且世界ノ平和ヲ攪亂スルモノト看做サルヘシ

第四款　「ザール」河流域

第四十五條

獨逸國ハ佛蘭西國北部ノ炭鑛破壞ニ對スル補償トシテ又戰爭ニ基ク損害ニ付獨逸國ノ負擔スル全賠償額ノ一部支拂トシテ第四十八條ニ規定スル「ザール」河流域ニ在ル炭鑛ニ對スル完全且絶對ナル所有權及之カ採掘ノ獨占權ヲ何等ノ金錢債務及負擔ヲモ伴フコトナク佛蘭西國ニ讓渡ス

第四十六條

住民ノ權利及福祉ヲ確保シ且佛蘭西國ニ對シ鑛山經營ニ關スル完全ナル自由ヲ保障スル爲獨逸國ハ本款附屬書第一章及第二章ノ規定ニ同意ス

第四十七條

「ザール」河流域ノ施政ニ關シ相當期間内ニ於テ住民ノ希望ニ適應スル永久ノ規定ヲ設クルノ目的ヲ以テ佛蘭西國及獨逸國ハ本款附屬書第三章ノ規定ニ同意ス

第四十八條

本條款ニ掲クル「ザール」河流域地方ノ境界ハ左ノ通之ヲ決定ス

南方及南西方方面　本條約ニ定ムル佛蘭西國境ニ依ル

北西方及北方方面　「メルチッヒ」郡北方行政境界ト佛蘭西國境トノ接合點ヨリ該行政境界ヲ進ミ「ザールヘルツバッハ」「ブリッテン」兩村間ノ行政境界トノ接合點ニ至ル次テ該兩村ノ境界ヲ南進シ「メルチッヒ」區ノ行政境界ニ達シ「ブリッテン」村ヲ除クノ外「メットラッハ」區ヲ「ザール」河流域地方ニ包含セシメ次テ前記「ザール」河流域ニ編入セラレタル「メルチッヒ」及「ハウスタット」兩區ノ北方行政境界ヲ進ミ更ニ「ザールルイス」「オットワイレル」及「サン、ウェンデル」各郡ト「メルチッヒ」「トレーヴ」(「トリエール」)兩郡及「ビルケンフェルド」公國トノ行政境界ヲ進ミ「フルシュワイレル」村落ノ北方約五百米ノ地點(卽チ「メッツェルベルグ」ノ最高點)ニ至ル

北東方及東方方面　前記ノ地點ヨリ「サン、ウェンデル」ノ東北東方約三吉米半ノ地點ニ至ルノ間

「フルシュワイレル」ノ東方、「ロッシュベルグ」ノ西方及標高四一八及三二九(「ロッシュベルグ」ノ南方)ノ東方、「ライテルスワイレル」ノ西方、標高四六四ノ北東方ヲ過キ分水線ヲ南方ニ進ミ「クーゼル」郡行政境界トノ接合點ニ至ルモノトシ實査ノ上境界線ヲ定ム

次テ南方ニ向ヒ「クーゼル」郡ノ境界ヲ進ミ更ニ「ホムブルグ」郡ノ境界ヲ南南東方ニ進ミ「ドゥンツワイレル」ノ西方約千米ノ地點ニ至ル

次テ「ホルンバッハ」ノ南方約一吉米ノ地點ニ至ルノ間

標高四二四(「ドゥンツワイレル」ノ南東方約千米)、標高三六三(「フックス、ベルグ」)、標高三二二(「ワルドモール」ノ南西方)ヲ過キ「エーゲルスブルグ」及「エルバッハ」ノ東方ヲ經テ「ホムブルグ」ヲ繞回シ標高三六一(「ホムブルグ」市街ノ北東微東方約二吉米半)、標高三四二(「ホムブルグ」市街南東方約二吉米)、標高三五七(「シュライネルス、ベルグ」)、標高三五六、標高三五〇(「シュワルツェンバッハ」ノ南東方約一吉米半)ヲ經テ「アインネェド」ノ東方、標高三二二及三三三ノ南東方、「ウェーベンハイム」ノ東方約二吉米及「ミームバッハ」ノ東方約二吉米ヲ過キ更ニ「ミームバッハ」—「ベックワイレル」街道ニ依リ横斷セラルル高地ノ東方ヲ經テ(該街道ヲ「ザール」河流域地方ニ包含セシメ)「アルトハイム」ノ北方約二吉米ニ於ケル「ベックワイレル」及「アルトハイム」ヨリ來ル兩街道ノ接合點ノ直北ヲ過キ「リングワイレルホーフ」ノ南方及標高三二二ノ北方ヲ過キ「ホルンバッハ」ノ南方約一吉米佛蘭西國境ノ凸角部ニ於テ之ト合スルモノトシ實査ノ上境界線ヲ定ム(本條約附屬十萬分一地圖第二號參照)

前記國境線ノ實査劃定ヲ行フ爲本條約實施後十五日以内ニ佛蘭西國ノ任命スル委員一名、獨逸國ノ任命スル委員一名及國際聯盟理事會ニ於テ右二國外ノ國ノ國民中ヨリ選任スル委員三名合セテ五名ヨリ成ル委員會ヲ設置スヘシ

前記境界線中行政境界ト一致セサル部分ニ付テハ委員會ハ能フ限リ地方ノ經濟上ノ利益及現在ノ市町村ノ境界ヲ斟酌シ指定ノ境界ニ依ルコトニ力ムヘシ

右委員會ノ決定ハ過半數ニ依ルヘク且當事國ヲ拘束スヘキモノトス

第四十九條

獨逸國ハ受託者トシテノ國際聯盟ノ爲ニ前記地域上ノ施政權ヲ拋棄ス

本條約實施後十五年ノ終ニ於テ前記地域ノ住民ヲシテ何レノ主權ニ服スルコトヲ希望スルヤヲ表示セシムヘシ

第五十條

「ザール」河流域ニ於ケル鑛山ノ讓渡實行ニ關スル規定ハ住民ノ權利福祉及該地域ノ施政ノ保障ヲ目的トスル措置竝前條ノ民意表示ニ關スル條件ト共ニ本款附屬書ニ之ヲ規定ス該附屬書ハ本條約ノ一部ヲ爲スモノト認メラルヘク且獨逸國ハ之ヲ遵守スヘキコトヲ聲明ス

附屬書

第四十五條乃至第五十條ノ規定ニ依リ獨逸國ノ佛蘭西國ニ對スル「ザール」河流域鑛山ノ讓渡ノ實行ニ關スル規定、住民ノ權利及福祉ヲ尊重シ及該地域ノ施政ヲ確保スルコトヲ目的トスル措置竝該住民ニ對シ其ノ何レノ主權ニ服スルコトヲ希望スルヤヲ表示セムコトヲ求ムル條件ヲ規定スルコト左ノ如シ

第一章　鑛山ノ讓渡及採掘

一

第四十八條ニ規定スル「ザール」河流域地方ニ在ル一切ノ炭田ハ本條約實施ノ日以後完全且絶對ニ佛蘭西國ノ財産ト爲ルモノトス

佛蘭西國ハ豫メ認諾ヲ經ルコトナク又ハ何等ノ手續ヲ履ムコトナク該鑛山ヲ採掘シ若ハ採掘セサルノ權利又ハ之カ採掘權ヲ第三者ニ讓渡スルノ權利ヲ有スヘシ

佛蘭西國ハ其ノ權利ヲ確實ニスル爲何時タリトモ左記ノ獨逸國鑛業法令ノ適用ヲ請求スルコトヲ得

二

佛蘭西國ノ所有權ハ未タ特許ヲ付與セラレサル未著手ノ炭田ニ及フノミナラス既ニ特許ヲ付與セラレタル炭田ト雖現所有者ノ何人タルヲ問ハス卽チ其ノ普魯西國ニ屬スルト巴威國ニ屬スルト其ノ他ノ國若ハ團體ニ屬スルト會社若ハ個人ニ屬スルトヲ問ハス又ハ現ニ採掘セラルルト否トヲ以テ地表所有者ノ權利ト別個ノ採掘權カ認メラレタルト否トニ拘ラス總テ之ニ及フヘシ

三

現ニ採掘中ノ鑛山ニ在リテハ佛蘭西國ニ對スル所有權讓渡ノ效力ハ該鑛山ニ關スル一切ノ附帶機關殊ニ地表及地下ニ於ケル其ノ諸設備及機械、採掘機、石炭ヲ電力骸炭及副産物ニ變形スル工場設備、作業場、交通機關、電線、引水及配水ノ設備、土地、事務所支配人被用者及勞働者ノ住宅學校病院藥局等ノ建築物、各種ノ在庫品及供給品、記錄及圖面竝概言スレハ鑛山ヲ所有シ又ハ採掘スル者カ鑛山及其ノ附帶機關經營ノ爲占有シ又ハ享有スル一切ノモノニ及フヘシ

前記讓渡ノ效力ハ佛蘭西國ノ占有前本條約署名後ノ交付ニ係ル産出物ノ代金及取引先ノ爲シタル供託金ニ及フ但シ取引先ノ權利ハ佛蘭四國之ヲ保障スヘシ

四

佛蘭西國ハ一切ノ金錢債務及負擔ヲ負フコトナク前記ノ財産ヲ取得スヘシ但シ鑛山及其ノ附帶機關ノ被用者カ本條約實施ノ日ニ於テ養老又ハ癈疾年金ニ關シ既ニ取得シ又ハ取得ノ中途ニ在ル權利ハ之ニ因リテ影響ヲ受クルコトナカルヘシ獨逸國ハ右代償トシテ佛蘭西國ニ對シ該被用者ノ受クヘキ年金ニ對スル保險統計上ノ積立金ヲ支拂フコトヲ要ス

五

右佛蘭西國ニ讓渡サレタル財産ノ價額ハ第八編（賠償）第二百三十三條ノ賠償委員會之ヲ決定スヘシ

右價額ハ賠償金額ノ一部支拂トシテ之ヲ獨逸國ノ貸方ニ計上スヘシ

獨逸國ハ當該財産ノ所有者又ハ利害關係人ノ何人タルヲ問ハス之ニ賠償ヲ爲スヘキモノトス

六

獨逸國ノ鐵道及運河ニ於テハ鑛山及其ノ附帶機關ノ人員若ハ産出物又ハ經營ニ必要ナル材料ノ運途ニ不利益ナル直接又ハ間接ノ差別料金率ヲ設クルコトヲ得ス右運途ニ關シテハ佛蘭西國原産ノ同種産出物ニ對シ國際鐵道條約ノ保障スル一切ノ權利及特權ヲ許與スヘシ

七

鑛山及其ノ附帶機關ノ産出物ノ發送及運途竝勞働者及被用者ノ運搬ヲ確保スル爲必要ナル設備及人員ハ「ザール」河流域ノ地方鐵道管理者之ヲ提

八

佛蘭西國カ鑛山及其ノ附帶機關ノ産出物ノ發送及運途ヲ確保スル爲必要ト認ムル鐵道又ハ水路ノ改良例ヘハ複線工事、停車場ノ擴張竝構內設備及附屬物ノ建設等ニ對シテハ何等ノ障礙ヲ設クルコトヲ得ス費用ノ分擔ニ付協議調ハサルトキハ之ヲ仲裁裁判ニ付スヘシ

佛蘭西國ハ又鑛山ノ採掘ニ必要ト認ムル道路、電線及電話聯結ノ如キ新交通機關ヲ開設スルコトヲ得

佛蘭西國ハ其ノ所有スルコトアルヘキ交通機關殊ニ鑛山及其ノ附帶機關ト佛蘭西國版圖內ニ在ル交通機關トヲ連結スルモノヲ自由ニ且何等ノ制限ナク經營スルコトヲ得

九

佛蘭西國ハ鑛山及其ノ附帶機關ノ經營ノ爲必要ト認ムル土地ヲ取得スル爲何時タリトモ千九百十八年十一月十一日現行ノ獨逸國鑛業法令ノ適用ヲ要求スルノ權利ヲ有ス但シ戰爭狀態ニ鑑ミ特ニ設ケラレタル規定ハ此ノ限ニ在ラス

右鑛山及其ノ附帶機關ノ經營ニ依リ不動産ニ及ホシタル損害ニ對スル支拂ハ前記獨逸國鑛業法令ニ依リ之ヲ行フヘシ

十

鑛山及其ノ附帶機關經營ノ權利ノ全部又ハ一部ニ付佛蘭西國カ自己ニ代位セシムル者ハ本附屬書所定ノ特權ノ利益ヲ享受スヘシ

十一

佛蘭西國ノ所有ニ歸シタル鑛山其ノ他ノ不動産ハ失權、買戻、公用徵收又ハ徵發其ノ他財産權ニ影響ヲ及ホス何等ノ處分ノ目的ト爲ルコトナシ

鑛山又ハ其ノ附帶機關ノ經營ニ關係アル人員及設備竝鑛山ヨリ採掘シ又ハ其ノ附帶機關ニ依リ製造シタル産出物ハ如何ナル場合ニ於テモ何等徵發處分ノ目的ト爲ルコトナシ

十二

佛蘭西國ノ所有ニ歸シタル鑛山及其ノ附帶機關ノ經營ハ本附屬書二十三ノ規定ニ從フノ外千九百十八年十一月十一日現行ノ獨逸國法令ニ依リ定メラレタル制度ニ引續キ遵守スヘシ但シ戰爭狀態ニ鑑ミ特ニ設ケラレタル規定ハ此ノ限ニ在ラス

勞働者ノ權利ハ右二十三ノ規定ニ從フノ外前記獨逸國法令ニ依リ定メラレタル千九百十八年十一月十一日現在ノ通維持セラルヘシ

右流域外ノ地ノ勞働者ヲ鑛山及其ノ附帶機關ニ傭入レ又ハ之ヲ使用スルニ對シテハ何等ノ障礙ヲ設クルコトヲ得ス

佛蘭西國國籍ヲ有スル被用者及勞働者ハ佛蘭西勞働組合ニ屬スルノ權利ヲ有スヘシ

十三

鑛山及其ノ附帶機關ヨリ「ザール」河流域地方ノ地方歲入又ハ市町村收入中ニ納付スヘキ金額ハ鑛山ノ價額ト該流域ニ於ケル課稅シ得ヘキ一切ノ富トノ割合ヲ案シテ之ヲ決スヘシ

十四

佛蘭西國ハ當ニ鑛山ノ附帶事業トシテ被用者及其ノ兒童ノ爲小學校又ハ技藝學校ヲ建設維持シ且該學校ニ於ヰ佛蘭西國ノ選定スル課程及教師ニ

依リ佛蘭西語ヲ以テ教育ヲ授クルノ權利ヲ有スヘシ
佛蘭西國ハ又病院、藥局、勞働者ノ住宅及庭園其ノ他慈善的及社會的ノ設備ヲ建設維持スルノ權利ヲ有スヘシ

十五

佛蘭西國ハ鑛山及其ノ附帶機關ノ產出物ノ分配、發送及賣價ニ關シ完全ナル自由ヲ享有スヘシ
尤モ鑛山全產出額ノ多少ニ拘ラス佛蘭西國政府ハ產業用及家事用ノ地方的消費ニ充ツル爲千九百十三年度ニ於ケル「ザール」河流域ノ地方的消費額ト該流域全產出額トノ比例ニ依リ常ニ右產出物ヲ供給スヘキコトヲ約ス

第二章　「ザール」河流域地方ノ施政

十六

「ザール」河流域地方ノ施政ハ國際聯盟ヲ代表スル委員會ニ之ヲ委任スヘシ該委員會ハ「ザール」河流域地方ニ之ヲ設置ス

十七

本附屬書十六ニ規定スル施政委員會ハ國際聯盟理事會ノ選定スル五名ノ委員ヲ以テ之ヲ組織シ佛蘭西國人民一名、佛蘭西國人民ニ非サル「ザール」河流域土著ノ住民一名及佛蘭西獨逸兩國以外ノ三國ニ屬スル者三名ヲ以テ之ニ充ツ

施政委員會委員ノ任期ハ一年トシ重任スルコトヲ得國際聯盟理事會ハ該委員ヲ罷免スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ該理事會ハ其ノ後任者ヲ定ムヘシ
施政委員會委員ハ俸給ヲ受クルノ權利ヲ有ス俸給ノ額ハ國際聯盟理事會之ヲ定ム該俸給ハ地方收入ノ支辨トス

十八

施政委員會ノ委員長ハ委員中ヨリ國際聯盟理事會之ヲ任命ス其ノ任期ハ一年トシ再任スルコトヲ得
委員長ハ委員會ノ執行機關トシテ行動ス

十九

施政委員會ハ「ザール」河流域地方ニ於テ從來獨逸帝國、普魯西又ハ巴威ニ屬シタル一切ノ施政權ヲ保有スヘシ該施政權中ニハ官吏ヲ任免シ竝其ノ必要ト認ムル行政機關及代表機關ヲ創設スルノ權能ヲ包含ス
右委員會ハ鐵道、運河其ノ他ノ公企業ヲ管理及經營スルノ全權ヲ有スヘシ
右委員會ノ決議ハ過半數ニ依ルヘシ

二十

獨逸國ハ「ザール」河流域地方又ハ其ノ住民ノ權利ニ關スル一切ノ公文書及記錄ニシテ獨逸國、獨逸各邦又ハ地方官憲ノ管理ノ下ニ在ルモノヲ施政委員會ノ使用ニ供スヘシ

二十一

施政委員會ハ其ノ適當ト認ムル手段及條件ニ依リ「ザール」河流域地方住民ノ利益ヲ其ノ地方外ニ於テ確實ニ保護スルノ責ニ任ス

二十二

施政委員會ハ「ザール」河流域地方ニ於テ公物又ハ私物上ニ存在シ獨逸帝國政府又ハ獨逸各邦政府ニ屬スル鑛山以外ノ一切ノ財產ニ對シ完全ナル使用收益ノ權利ヲ有スヘシ

徽道ニ付テハ「ザール」河流域地方政廳ト獨逸諸鐵道トヲ代表スル混合委員會ハ車輛ノ衡平ナル分配ヲ爲スヘシ
「ザール」河流域ニ出入スル人、貨物、船舶、客車、貨車及郵便物ハ第十二編（港、水路及鐵道）ニ規定スル通過及運送ニ關スル一切ノ權利及特權ヲ享有スヘシ

二十三

「ザール」河流域地方ニ於テハ千九百十八年十一月十一日現行ノ法令ハ戰爭狀態ニ基キ制定セラレタルモノヲ除クノ外引續キ之ヲ適用スヘシ
一般的理由ニ依リ又ハ本條約ノ規定ト合致セシムル爲右諸法令ニ修正ヲ加フルノ必要アルトキハ施政委員會ハ其ノ定ムル方法ニ依リ住民ノ選出代表者ト協議シタル後該修正ヲ決定シ且施行スヘシ
本附屬書十二ニ規定スル鑛山採掘ニ關スル法制ハ豫メ佛蘭西國ト協議スルニ非サレハ之ヲ修正スルコトヲ得ス但シ國際聯盟ノ採用シタル勞働ニ關スル一般規定ニ基ク修正ハ此ノ限ニ在ラス
男子、婦人及兒童ノ勞働條件及時間ヲ決定スルニ當リテハ施政委員會ハ地方勞働團體ノ表示シタル希望及國際聯盟ノ採用シタル原則ヲ參酌スルコトヲ要ス

二十四

「ザール」河流域ノ住民カ本條約實施ノ日ニ於テ既ニ取得シ又ハ取得ノ中途ニ在ル權利ニシテ獨逸國ノ保險制度又ハ各種ノ年金ニ關スルモノハ本條約ノ規定ニ依リ何等影響ヲ受クルコトナシ但シ第四項ノ規定ノ適用ヲ妨ケス
獨逸國及「ザール」河流域地方政廳ハ一切ノ前記ノ權利ヲ存續セシムヘシ

二十五

「ザール」河流域地方ノ民事及刑事ノ裁判所ハ之ヲ存續スヘシ
右裁判所ノ裁判ニ對スル上訴ヲ審理シ及其ノ權限外ノ事件ヲ裁判スル爲施政委員會ハ一ノ民刑事裁判所ヲ設置スヘシ
施政委員會ハ該裁判所ノ構成及管轄ヲ決定スルノ責任ヲ有ス
裁判ハ施政委員會ノ名ニ於テ之ヲ行フ

二十六

「ザール」河流域地方ニ於ケル租稅及手數料ハ施政委員會獨リ之ヲ徵收スルノ權能ヲ有ス
右ノ租稅及手數料ハ專ラ之ヲ該地域ノ需用ニ充ツ
千九百十八年十一月十一日現行ノ財政制度ハ成ルヘク之ヲ維持スヘシ又豫メ住民ノ選出代表者ト協議シタル場合ヲ除クノ外新ニ關稅以外ノ何等ノ租稅ヲ賦課スルコトヲ得ス

二十七

本諸規定ハ「ザール」河流域地方ノ住民ノ現ニ有スル國籍ニ影響スルコトナシ
仲國籍ヲ取得セムコトヲ希望スル者ニ對シテハ何等ノ障礙ヲ設クルコトヲ得ス此ノ場合ニ於テ新國籍ノ取得ハ其ノ他ノ國籍ヲ喪失セシムルモノトス

二十八

住民ハ施政委員會ノ監督ノ下ニ其ノ地方議會、信敎ノ自由、學校及言語ヲ保持スヘシ
投票權ハ地方議會以外ノ議會ニ關シ行使セラルルコトナカルヘク又男女

ノ別ナク二十歳以上ノ總テノ住民之ヲ有スヘシ

二十九

「ザール」河流域ノ住民ニシテ該地域ヲ退去セムト欲スル者ハ其ノ不動産ヲ該地域内ニ保有シ又ハ相當ノ價格ヲ以テ之ヲ賣却シ且何等ノ負擔ヲ課セラルルコトナクシテ其ノ動産ヲ撤去スルノ完全ナル自由ヲ有ス

三十

「ザール」河流域地方ニ於テハ强制タルト志願タルトヲ問ハス何等ノ兵役制度ヲ設クルコトナカルヘシ又同地域内ニ於テハ築城ノ構設ヲ禁止ス秩序維持ノ爲ニスル地方憲兵ノミハ之ヲ置クコトヲ得

施政委員會ハ一切ノ場合ニ於テ「ザール」河流域内ニ於ケル人及財産ノ保護ニ任スルノ義務ヲ有ス

三十一

第四十八條ニ掲クル「ザール」河流域地方ニ於テハ佛蘭西國ノ關稅制度ニ依ルヘキモノトス地方消費ノ爲仕向ケラレタル貨物ニ對スル關稅收入ハ一切ノ徵收費ヲ控除シタル上之ヲ該地域ノ豫算ニ繰入スヘシ

右地域ヨリ獨逸國ニ輸出スル冶金生產品又ハ石炭ニ對シテハ何等ノ輸出稅ヲ賦課セス「ザール」河流域地方ノ產業ニ使用スル獨逸國ノ輸出品ニ亦同シ

獨逸國ノ版圖ヲ通過スル右流域原產ノ天產物又ハ製造品ハ何等ノ關稅ヲ賦課セラルルコトナシ該流域ヲ通過スル獨逸國產物亦同シ

右流域ノ原產ニシテ右流域ヨリ獨逸國ニ入ル生產物ニ對シテハ本條約實施ノ日以後五年間輸入稅ヲ免除スヘシ地方消費ノ爲獨逸國ヨリ右流域ニ輸入スル貨物ニ對シ亦同シ

佛蘭西國政府ハ前記五年ノ期間獨逸國ヨリ無稅ニテ右流域ニ輸入セラレタル原料品及半製品ヲ含ム一切ノ貨物ニシテ同流域ヨリ佛國西國ニ運送セラルルモノノ數量ヲ千九百十一年乃至千九百十三年ニ「アルザス、ロレーヌ」及佛蘭西國ニ輸入セラレタル數量ノ平均年額迄制限スルノ權利ヲ留保ス右平均額ハ一切ノ公ノ情報及統計ヲ參照シテ之ヲ決定スヘシ

三十二

「ザール」河流域地方ニ於テハ佛蘭西國貨幣ノ流通ヲ禁止シ又ハ制限スルコトヲ得ス

佛蘭西國ハ鑛山又ハ其ノ附帶機關ノ經營ニ關スル一切ノ購買、支拂及契約ニ於テ佛蘭西國貨幣ヲ使用スルノ權利ヲ有ス

三十三

施政委員會ハ前記諸規定ノ解釋ヨリ生スル一切ノ問題ヲ決定スルノ權能ヲ有ス

佛蘭西國及獨逸國ハ前記諸規定ノ解釋ニ關スル意見ノ相違ニ基ク一切ノ爭議ヲ均シク施政委員會ニ付議スヘキコトヲ承諾ス過半數ニ依ル該委員會ノ決定ハ兩國ヲ拘束スヘシ

第三章　人民一般投票

三十四

「ザール」河流域地方ノ住民ハ本條約實施後十五年ノ期間滿了ノ時ニ於テ左ノ方法ニ依リ其ノ希望ヲ表示スルコトヲ求メラルヘシ

市町村又ハ區毎ニ左ノ三者中ノ一ヲ選フ爲投票ヲ行フヘシ

(イ)　本條約及本附屬書ニ依リ設定セラレタル制度ノ維持

(ロ)　佛蘭西國トノ合併

(ハ)　獨逸國トノ合併

投票ノ日ニ於テ二十歳以上ニシテ本條約署名ノ日ニ右地域内ニ居住シタル者ハ男女ノ別ナク悉ク投票權ヲ有ス

右ノ外ノ投票ノ要件、方法及期日ハ投票ノ自由、祕密及確實ヲ保障シ得ヘキ方法ニ依リ國際聯盟理事會之ヲ決定ス

三十五

國際聯盟ハ投票ニ依リ表示セラレタル住民ノ希望ヲ考量シ右地域ノ歸屬スヘキ主權ヲ決定スヘシ

(イ)　國際聯盟カ右地域ノ全部又ハ一部ニ對シ本條約及本附屬書ニ依リ設定セラレタル制度ヲ維持スルコトニ決定シタル場合ニ於テハ獨逸國ハ國際聯盟ノ必要ト認ムル所ニ從ヒ國際聯盟ノ爲ニ主權ヲ拋棄スルコトヲ茲ニ承諾ス國際聯盟ハ確定的ニ採用セラレタル前記制度ヲ右地域ノ永久ノ福祉及一般ノ利益ニ適應セシムル爲適當ナル處置ヲ講スルノ義務ヲ有ス

(ロ)　國際聯盟カ右地域ノ全部又ハ一部ヲ佛蘭西國ニ合併スルコトニ決定シタル場合ニ於テハ獨逸國ハ國際聯盟ノ決定ニ從ヒ佛蘭西國ニ對シ聯盟ノ指定スル地域ニ於ケル一切ノ權利及權原ヲ讓渡スヘキコトヲ承諾ス

(ハ)　國際聯盟カ右地域ノ全部又ハ一部ヲ獨逸國ニ合併スルコトニ決定シタル場合ニ於テハ國際聯盟ハ其ノ指定スル地域ニ對シ獨逸國政府ヲシテ其ノ施設ヲ再興セシムヘキ義務ヲ有ス

三十六

國際聯盟カ「ザール」河流域地方ノ全部又ハ一部ヲ獨逸國ニ合併スルコトニ決定シタルトキハ該地域ニ在ル鑛山ニ對スル佛蘭西國ノ所有權ハ金貨拂ノ價格ヲ以テ全部獨逸國之ヲ買戻スヘシ其ノ價格ハ獨逸國ノ指名スル一名、佛國西國ノ指名スル一名、國際聯盟理事會ニ於テ佛蘭西人及獨逸人ニ非サル者ヨリ指名スル一名計三名ノ專門家之ヲ決定スヘシ右專門家ノ決定ハ過半數ニ依ル

前記獨逸國ノ支拂義務ハ賠償委員會之ヲ考量スヘシ獨逸國ハ右支拂ニ充ツル爲同委員會ノ同意シタル細目條件ニ依リ其ノ財產又ハ收入ノ上ニ優先權ヲ設定スルコトヲ得

獨逸國カ支拂期日後一年内ニ右支拂ヲ爲ササルトキハ賠償委員會ハ國際聯盟ノ訓令ニ從ヒ支拂ノ方法ヲ講シ又必要ノ場合ニ於テハ當該鑛山ヲ精算シ右支拂ニ充ツヘシ

三十七

本附屬書三十六ノ規定ニ依ル買戻ノ結果鑛山又ハ其ノ一部ノ所有權カ獨逸國ニ移轉シタルトキハ佛蘭西國及同國民ハ其ノ產業用及家事用ノ爲其ノ當時必要ト認メラルル數量ノ「ザール」河流域ノ石炭ヲ購買スルノ權利ヲ有スヘシ石炭ノ數量、契約ノ存續期間及價格ニ關スル衡平ナル協定ハ適當ナル時期ニ於テ國際聯盟理事會之ヲ決定スヘシ

三十八

佛蘭西國及獨逸國ハ鑛山買戻ノ價格支拂期日以前ニ締結スル特別取極ヲ以テ本附屬書三十六及三十七ノ規定ヲ修正スルコトヲ得

三十九

國際聯盟理事會ハ本附屬書三十五ニ規定スル國際聯盟ノ決定實施後行ハルヘキ制度ノ設定ノ爲必要ナル規定ヲ設クヘシ該規定中ニハ委員會ノ起債ニ依リ又ハ其ノ他ノ原因ニ依リ生シタル「ザール」河流域地方政廳ノ債

〔外務省版〕

務ノ衡平ナル分配ヲ含ムヘシ

施政委員會ノ權能ハ新制度實施ノ時ヨリ消滅ス但シ本附屬書三十五(イ)號ニ規定スル場合ハ此ノ限ニ在ラス

四十

本附屬書ニ掲クル一切ノ事項ニ關スル國際聯盟理事會ノ決定ハ過半數ニ依ル

第五款　「アルザス、ロレーヌ」

締約國ハ佛蘭西國ノ權利ニ對シ竝「ボルドー」會議ニ於ケル「アルザス」及「ロレーヌ」代表者ノ嚴重ナル抗議ニ拘ラス祖國ヨリ分離セラレタル右兩州人民ノ希望ニ對シ千八百七十一年獨逸國ノ加ヘタル非行ヲ是正スヘキ德義上ノ義務アルコトヲ認メ

左ノ諸條ヲ約定ス

第五十一條

千八百七十一年二月二十六日「ヴェルサイユ」ニ於テ署名セラレタル講和豫備條約及千八百七十一年五月十日ノ「フランクフルト」條約ニ依リ獨逸國ニ讓渡セラレタル地域ハ千九百十八年十一月十一日ノ休戰條約締結ノ日以後佛蘭西國主權ノ下ニ復歸ス

千八百七十一年以前ニ於ケル國境劃定ニ關スル諸條約ノ規定ハ其ノ效力ヲ回復スヘキモノトス

第五十二條

獨逸國政府ハ佛蘭西國主權ノ下ニ復歸シタル地域ノ民政、軍政、財政、司法其ノ他ニ關スル一切ノ記錄、登錄簿、圖面、證書其ノ他各種ノ文書ヲ遲滯ナク佛蘭西國政府ニ引渡スヘシ若シ以上ノ文書、記錄、登錄簿、證書又ハ圖面中他ニ移シタルモノアルトキハ獨逸國政府ハ佛蘭西國政府ノ請求ニ應シ之ヲ還付スヘシ

第五十三條

第五十一條ノ地域ニ於ケル住民ノ利益殊ニ其ノ私權、營業及業務執行ニ關シテハ佛蘭西國ト獨逸國トノ間ニ別個ノ取極ヲ締結スヘシ但シ獨逸國ハ今後本款附屬書中ニ掲ケタル右地域内ノ住民又ハ原住者ノ國籍ニ關スル規定ヲ承認受諾シ、既ニ佛蘭西人タルコトヲ何等ノ理由ニ依ルヲ問ハス宣明セラレタル者ニ對シテハ如何ナル時又ハ如何ナル場所ニ於テモ之ヲ獨逸國民ナリト主張スルコトナク、其ノ他ノ者ハ總テ之ヲ其ノ領土内ニ引取リ且第五十一條ノ地域ニ於ケル獨逸國民ノ財產ニ付テハ第十編(經濟條項)第二百九十七條及同第四款附屬書ノ規定ニ準據スヘキコトヲ約シタルモノトス

獨逸國民ニシテ佛蘭西國國籍ヲ取得スルコトナクシテ佛蘭西國政府ヨリ前記地域内ニ居住スルノ許可ヲ受ケタル者ニ對シテハ同條ノ規定ヲ適用ス

第五十四條

本款附屬書一ニ依リ佛蘭西國國籍ヲ回復シタル者ハ本款ノ適用ニ付テハ之ヲ「アルザス、ロレーヌ」人ト看做ス

同附屬書二ニ掲クル者ハ其ノ佛蘭西國國籍ヲ請求シタル日ヨリ之ヲ「アルザス、ロレーヌ」人ト看做スヘク其ノ效力ハ千九百十八年十一月十一日ニ溯及ス其ノ請求ヲ却下セラレタル者ハ却下ノ日ニ於テ其ノ特權ヲ喪失スヘシ

法人ニシテ佛蘭西國行政官憲又ハ司法裁判ニ依リ其ノ資格ヲ有スト認定セラレタルモノハ亦「アルザス、ロレーヌ」人タルノ資格ヲ享有スヘシ

第五十五條

第五十一條ノ地域ハ第九編(財政條項)第二百五十五條ニ規定スル條件ニ依リ一切ノ公債ヲ負擔スルコトナク佛蘭西國ニ復歸スヘシ

第五十六條

佛蘭西國ハ第九編(財政條項)第二百五十六條ノ規定ニ依リ第五十一條ノ地域内ニ於テ獨逸帝國又ハ獨逸各邦ノ所有スル一切ノ財產及土地ヲ取得スヘク之カ爲該地域ヲ讓渡スル各邦ニ對シ支拂ヲ爲シ又ハ債權ヲ認ムルコトナカルヘシ

本規定ハ獨逸帝國、獨逸各邦又ハ其ノ行政區劃ニ屬スル公私ノ財產タル一切ノ動產又ハ不動產竝一切ノ權利ニ之ヲ適用ス

帝室財產及前獨逸皇帝其ノ他ノ獨逸君主ノ財產ハ之ヲ公財產ト同視スヘシ

第五十七條

獨逸國ハ其ノ版圖ノ他ノ部分ニ於テ均シク適用セラルルニ非サル極印其ノ他立法上又ハ行政上ノ措置ニ依リ本條約署名ノ日ニ於テ法定通用力ヲ有シ且其ノ日ニ於テ佛蘭西國政府カ所有スル獨逸國ノ金錢證券又ハ貨幣ノ法律上ノ價値又ハ償還力ヲ毀損スヘキ何等ノ手段ヲ執ルコトヲ得ス

第五十八條

戰時中「アルザス、ロレーヌ」又ハ「アルザス、ロレーヌ」ニ於ケル公共團體カ獨逸帝國ノ爲獨逸國ノ法律ニ從ヒ支出シタル特別戰時費例ヘハ動員者ノ家族手當、徵發、軍隊宿舍料、追放民救助費等ニ對シ「麻」ヲ以テスル辨償ノ條件ハ特別協定ヲ以テ之ヲ定ムヘシ

右費用ニ充ツル爲獨逸帝國ニ對シ「アルザス、ロレーヌ」カ貢納スヘカリシ金額ハ前記金額ヲ決定スルニ當リ之ヲ獨逸國ノ貸方ニ計上スヘシ尤モ右貢納額ハ千九百十三年ニ於ケル「アルザス、ロレーヌ」ヨリ生シタル獨逸帝國ノ歲入ノ割合ニ依リ之ヲ算定スヘシ

第五十九條

第五十一條ノ地域ニ於テ賦課シ得ヘキ各種ノ獨逸帝國ノ租稅、賦課金及手數料ニシテ千九百十八年十一月十一日ノ休戰條約ノ當時未徵收ニ係ルモノハ佛蘭西國政府自己ノ爲ニ之ヲ徵收スヘシ

第六十條

獨逸國政府ハ遲滯ナク「アルザス、ロレーヌ」人(自然人、法人及營造物法人)ニ對シ千九百十八年十一月十一日ニ於テ其ノ所有シタル一切ノ財產、權利及利益ニシテ獨逸國版圖内ニ存スルモノヲ還付スヘシ

第六十一條

獨逸國政府ハ休戰條約ニ規定シタル「アルザス、ロレーヌ」ニ關スル財政條項ノ實行ヲ繼續シ且遲滯ナク之ヲ完了スルコトヲ約ス

第六十二條

獨逸國政府ハ千九百十八年十一月十一日迄ニ「アルザス、ロレーヌ」ニ於テ權利ヲ取得セラレ且其ノ支出カ獨逸帝國ノ豫算ノ負擔タリシ軍人及非軍人ノ一切ノ恩給費ヲ負擔スルコトヲ約ス

獨逸國政府ハ「アルザス、ロレーヌ」カ依然獨逸國法權ノ下ニ在リタル場合ニ於テハ「アルザス、ロレーヌ」居住者カ請求權ヲ有スヘキ「麻」計算ノ金額ヲ當該年度平均爲替相場ニ依リ「法」ヲ以テ支拂フ爲ニ必要ナル基金ヲ毎年提供スヘシ

〔外初版〕

第六十三條

同盟及聯合國ノ普通人民カ罰金ノ形式ニ於テ被リタル損害ノ賠償トシテ獨逸國カ第八編（賠償）ニ於テ承認シタル義務ニ付テハ第五十一條ノ地域ニ於ケル住民ハ之ヲ前記人民ト同視スヘシ

第六十四條

萊因河及「モーゼル」河ノ管理ニ關スル規則ハ第十二編（港、水路及鐵道）ニ於テ之ヲ定ム

第六十五條

本條約實施後三週間以内ニ於テ「ストラスブルグ」及「ケール」ノ兩港ハ其ノ利用ノ爲七年ヲ期間トシテ一組織ヲ爲スヘシ

右組織ノ經理ハ萊因河中央委員會ノ任命シタル一名ノ經理長之ヲ執行スヘシ該委員會ハ經理長ヲ罷免スルノ權能ヲ有スヘシ

右經理長ハ佛蘭西國國籍ヲ有スル者タルヘシ

經理長ハ「ストラスブルグ」ニ居住シ萊因河中央委員會ノ監督ヲ受クヘシ

第十二編（港、水路及鐵道）ノ規定ニ依リ前記兩港ニ自由地域ヲ設定スヘシ

佛蘭西國及獨逸國ハ其ノ特殊條約ニ依リ前記組織ニ其ノ財政ニ關スル細目ヲ規定スヘシ右條約ハ萊因河中央委員會ノ承認ヲ經ヘシ

本條ノ關スル限リ「ケール」港ニハ同港ノ交通及出入列車ノ運轉ニ必要ナル全地域竝同港ノ設備ヲ構成スル港内、埠頭及鐵道、歩廊、起重機、上屋及倉庫、地下室、昇降機及水力發電裝置ヲ包含ス

獨逸國政府ハ萊因河ノ左右兩岸ニ於テ「ケール」發著列車ノ一切ノ組立及入換作業カ能フ限リ完全ニ處理セラルルコトヲ保障スル爲必要ナル一切ノ措置ヲ執ルコトヲ約ス

一切ノ財産權ハ保障セラルヘシ殊ニ前記兩港經理ノ爲佛蘭西又ハ「バーデン」ノ鐵道ノ財産權ハ何等毀損セラルルコトナカルヘシ

前記兩港ニ於テハ各國ノ國民、船舶及貨物ノ運送ニ關シ均等ノ待遇ヲ保障スヘシ

佛蘭西國ハ第六年ノ終ニ當リ「ストラスブルグ」港改良進捗ノ程度カ尚此ノ假制度ノ期間延長ヲ要スト思考スルトキハ之ヲ萊因河中央委員會ニ要求スルコトヲ得該委員會ハ三年ヲ超エサル期間右延長ヲ許可スルコトヲ得

前記ノ自由地域ハ延長ノ全期間之ヲ維持スヘシ

萊因河中央委員會カ第一次經理長ヲ任命スル迄ハ主タル同盟及聯合國ハ前記規定ニ依リ佛蘭西國人タル一名ノ假經理長ヲ任命スルコトヲ得

本條ノ關スル限リ萊因河中央委員會ノ決定ハ總テ表決ノ過半數ニ依ル

第六十六條

現ニ「アルザス、ロレーヌ」内ニ於テ萊因河上ニ架シタル鐵道橋梁其ノ他ノ橋梁ハ其ノ各部分及其ノ全長共佛蘭西國ノ財産ト爲ルヘク佛蘭西國ハ之カ維持ヲ確保スヘシ

第六十七條

佛蘭西國政府ハ獨逸帝國鐵道廳ノ管理ニ屬シ現ニ事業ヲ行ヒ又ハ建設中ニ在ル一切ノ鐵道ニ對スル獨逸帝國ノ一切ノ權利ニ付代位ス

右ノ規定ハ第五十一條ノ地域ニ於ケル鐵道及軌道ノ特許ニ關スル同帝國ノ權利ニ付亦之ヲ適用スヘシ

佛蘭西國ハ右代位ノ爲何等ノ支拂ヲ爲ササルヘシ

國境鐵道停車場ハ追テ締結スヘキ取極ニ依リ設置セラルヘシ但シ萊因河國境ニ於テハ停車場ハ同河ノ右岸ニ在ルヘキコトヲ玆ニ豫メ規定ス

第六十八條

第五十一條ノ地域内ニ原産シ且其ノ地域ヨリ來ル天産物又ハ製造品ハ第十編（經濟條項）第一款第一章第二百六十八條ノ規定ニ依リ本條約實施後五年間獨逸國ノ關稅地域内ニ輸入セラルルニ當リ一切ノ關稅ヲ免除セラルヘシ

佛蘭西國政府ハ此ノ免除ヲ享受スヘキ物品ノ性質及數量ヲ毎年命令ヲ以テ定メ其ノ命令ハ獨逸國政府ニ之ヲ通告スヘシ

右ニ依リ毎年獨逸國内ニ仕向ケ得ル各種物品ノ數量ハ千九百十一年乃至千九百十三年ニ仕向ケラレタル毎年ノ數量ノ平均額ヲ超過スヘカラス

右五年ノ期間獨逸國政府ハ又漂白、染色、捺染、「マーセライズ」、瓦斯燒、撚掛又ハ糊付艶付ノ如キ仕上工程ヲ經ル爲獨逸國ヨリ第五十一條ノ地域内ニ仕向ケラルル一切ノ種類及一切ノ狀態ニ於ケル繊絲、織物其ノ他ノ織物原料又ハ織物製品ニ對シ獨逸國ヨリノ輸出及獨逸國ヘノ再輸入ヲ自由ナラシメ一切ノ關稅其ノ他ノ課金（内國課稅金ヲ含ム）ヲ免除スヘシ

第六十九條

第五十一條ノ地域又ハ永久若ハ一時獨逸國ヨリ佛蘭西國ニ經營ヲ移シタル各種ノ施設ニ對シ從來電力ヲ供給シタル獨逸國版圖内ノ電氣供給中央作業場ハ千九百十八年十一月十一日現存ノ諸契約ニ相當スル消費高以内ノ供給ヲ本條約實施後十年間繼續スルノ義務アルモノトス

前記ノ供給ハ現存ノ契約ニ依リ且該作業場ニ對シ獨逸國民ノ支拂フ料金ヨリ高カラサル率ヲ以テ之ヲ行フヘシ

第七十條

佛蘭西國政府ハ第五十一條ノ地域ニ於テ左記事項ニ付テノ一切ノ新ナル獨逸ノ關與ヲ將來禁止スルノ權利ヲ留保ス

一　鐵道、航行可能水路竝水道、瓦斯及電力ノ配給等ノ如キ公物及公企業ノ經理又ハ經營

二　各種ノ鑛山及採石場ノ所有及之ニ關聯スル諸事業

三　冶金事業其ノ鑛山ノ經營ト關聯セサルモノト雖異ルコトナシ

第七十一條

第五十一條ノ地域ニ於テハ獨逸國ハ加里鹽取引ニ關スル千九百十年五月二十五日ノ法律及一般ニ加里鑛山ノ經營ニ對スル獨逸國諸團體ノ干與ニ關スル法規ニ基ク一切ノ權利ヲ千九百十八年十一月十一日以後自國及其ノ國民ノ名ニ於テ抛棄ス獨逸國ハ又右地域ニ於ケル他ノ生産物ニ關シ其ノ利益ノ爲存在スル取極又ハ法令ニ基ク一切ノ權利ヲ自國及其ノ國民ノ名ニ於テ抛棄ス

第七十二條

千九百十八年十一月十一日以前一方獨逸帝國及獨逸各邦又ハ其ノ國民ニシテ獨逸國ニ居住スルモノト他方「アルザス、ロレーヌ」ニ居住スル「アルザス、ロレーヌ」人トノ間ニ契約シタル金錢債務ニ關スル問題ノ解決ハ第十編（經濟條項）第三款ノ規定ニ依リ之ヲ行フヘシ但シ該條項中「戰前」ノ語ハ「千九百十八年十一月十一日以前」ノ語ヲ以テ之ニ代フヘシ右解決ニ際シ適用スヘキ爲替相場ハ千九百十八年十一月十一日ヲ以テ終ル一月間ノ「ジュネーヴ」取引所ニ於ケル平均相場ニ依ルヘキモノトス

第十編（經濟條項）第三款規定ノ條件ニ依リ前記金錢債務ノ決濟ヲ爲ス爲第五十一條ノ地域內ニ特別ノ淸算所ヲ設置スルコトヲ得該淸算所ハ之ヲ同款附屬書一ノ「中央淸算所」ト看做スヘシ

第七十三條

獨逸國ニ於ケル「アルザス、ロレーヌ」人ノ私財產、權利及利益ハ第十編（經濟條項）第四款ノ規定ニ依リ之ヲ處理スヘシ

第七十四條

佛蘭西國政府ハ千九百十八年十一月十一日ニ於テ獨逸國民又ハ獨逸國ノ管理ノ下ニ在ル會社カ第五十一條ノ地域內ニ於テ有スル一切ノ財產、權利及利益ヲ前記第五十三條末項ノ條件ノ下ニ保有淸算スルノ權利ヲ留保ス

獨逸國ハ前記淸算ニ依リ財產、權利及利益ヲ喪失シタル獨逸國民ニ對シ直接補償スヘシ

右淸算ノ殘高ハ第十編（經濟條項）第三款及第四款ノ規定ニ依リ之ヲ處理スヘシ

第七十五條

第十編（經濟條項）第五款ノ規定ニ拘ラス千九百十八年十一月三十日ノ佛蘭西國ノ命令カ「アルザス、ロレーヌ」ニ於テ公布セラレタル日以前一方「アルザス、ロレーヌ」人（自然人又ハ法人）其ノ他ノ「アルザス、ロレーヌ」居住者ト他方獨逸帝國若ハ獨逸各邦又ハ其ノ國民ニシテ獨逸國ニ居住スルモノトノ間ニ締結セラレタル一切ノ契約ハ休戰條約又ハ其ノ後ノ佛蘭西國法令ニ依リ履行ヲ停止セラレタルモノト雖其ノ效力ヲ持續スヘシ

然レトモ本條約實施ノ日以後六月以內ニ佛蘭西國政府ヨリ獨逸國ニ對シ一般利益ノ爲其ノ取消ヲ通告シタル契約ハ總テ取消サルヘキモノトス但シ千九百十八年十一月十一日以前該條約ニ基キ金錢ノ支拂ヲ爲シ又ハ行爲ヲ爲シタルニ因リ生スル金錢債務其ノ他ノ金錢上ノ債務ニ關シテハ此ノ限ニ在ラス取消ノ爲當事者ノ一方カ蒙シク損害ヲ被リタルトキハ該當事者ニ對シ衡平ナル補償ヲ與フヘシ右補償ハ專ラ使用資本額ニ依リテ之ヲ計算シ其ノ得ヘカリシ利潤ノ額ヲ計上セサルモノトス

「アルザス、ロレーヌ」ニ於ケル時效、出訴期間及失權ニ關シテハ第十編（經濟條項）第五款第三百條及第三百一條ノ規定ヲ適用ス但シ「開戰」ノ語ハ「千九百十八年十一月十一日」、「戰時中」ノ語ハ「千九百十八年十一月十一日ヨリ本條約實施ノ日ニ至ル期間」ノ語ヲ以テ之ニ代フヘキモノトス

第七十六條

「アルザス、ロレーヌ」人ノ工業所有權又ハ文學的若ハ美術的著作物ニ關スル權利ニ付テノ問題ハ第十編（經濟條項）第七款ノ一般規定ニ依リ之ヲ處理スヘシ但シ獨逸國法令ニ從ヒ此ノ種ノ權利ヲ有スル「アルザス、ロレーヌ」人ハ獨逸國版圖內ニ於テ依然該權利ヲ完全ニ享有スルモノトス

第七十七條

獨逸國政府ハ老癈保險ノ目的ヲ以テ獨逸帝國又ハ之ニ從屬スル公私團體ニ於テ積立テタル一切ノ準備金中「スラスブルグ」老癈保險基金ニ屬スヘキ部分ヲ佛蘭西國政府ニ交付スルコトヲ約ス

前項ノ規定ハ獨逸國內ニ積立テラレタル資金及準備金ニシテ本來前項ノ外ノ社會保險基金、鑛夫養老基金、「アルザス、ロレーヌ」ニ於ケル鐵道基金及「アルザス、ロレーヌ」人ノ爲ニ設ケラレタル他ノ養老機關ニ屬スヘキモノニ關シ竝「アルザス、ロレーヌ」居住ノ私的使用タル被保險者ノ利益ノ爲ニ締盟セラレタル契約ニ基キ伯林ニ於ケル私的使用人保險基金ノ負擔スル資金及準備金ニ關シ之ヲ適用スヘシ

前記交付ノ條件及手續ハ特別條約ニ依リ之ヲ決定ス

第七十八條

判決ノ執行、上訴及公訴ニ關シテハ左ノ規定ヲ適用ス

一　千九百十四年八月三日以後「アルザス、ロレーヌ」ノ裁判所ニ於テ「アルザス、ロレーヌ」人相互間、「アルザス、ロレーヌ」人ト外國人トノ間又ハ外國人相互間ノ民事及商事事件ニ付下シタル一切ノ判決ニシテ千九百十八年十一月十一日前ニ上訴セラレサリシモノハ之ヲ確定ト認メ更ニ手續ヲ履ムコトナク直ニ之ヲ執行スルコトヲ得ルモノト認ム

「アルザス、ロレーヌ」人ト獨逸國人間又ハ「アルザス、ロレーヌ」人ト獨逸國ノ同盟國ノ臣民トノ間ノ事件ニ付下シタル判決ハ第五十一條ノ復歸地域ニ於ケル當該新裁判所ノ執行ノ命令カ發セラレタル場合ニ於テノミ之ヲ執行スルコトヲ得

二　「アルザス、ロレーヌ」人ニ對シ政治犯罪ニ付千九百十四年八月三日以後獨逸國裁判所ノ下シタル一切ノ判決ハ無效タルヘシ

三　「アルザス、ロレーヌ」ノ裁判所ノ判決ニ對スル上訴ニ付千九百十八年十一月十一日以後「ライプチッヒ」帝國大審院ノ下シタル一切ノ判決ハ無效タルヘク且其ノ旨宣言セラルヘシ上記ノ判決アリタル裁判事件ニ關スル記錄ハ「アルザス、ロレーヌ」ノ當該裁判所ニ之ヲ返還スヘシ

「アルザス、ロレーヌ」ノ裁判所ノ判決ニ對シ帝國大審院ニ提起セラレタル一切ノ上訴ハ之ヲ停止スヘク其ノ關係記錄ハ直ニ之ヲ該事件決定ノ權限アル佛蘭西國大審院ニ移送スル爲前記條件ニ依リ返還スヘシ

四　千九百十八年十一月十一日以後本條約實施以前ニ犯シタル犯罪ニ對スル「アルザス、ロレーヌ」ニ於ケル一切ノ公訴ハ佛蘭西國官憲カ該地ニ於テ合法ニ公布シタル命令ニ依リ變更セラレサル限リ獨逸國法令ニ依リ之ヲ處理スヘシ

五　裁判上ノ權限、手續又ハ處理ニ關スル他ノ一切ノ問題ハ佛蘭西獨逸兩國間ノ特別條約ニ依リ之ヲ決定スヘシ

第七十九條

本款附屬書ノ國籍ニ關スル規定ハ本款ノ規定ト同一ノ效力ヲ有スルモノト認メラルヘシ

「アルザス、ロレーヌ」ニ關スル他ノ一切ノ問題ニシテ本款、本款附屬書又ハ本條約ノ一般條項中ニ規定セラレサルモノハ追テ佛蘭西獨逸兩國間ニ締結スル條約ニ依ルヘシ

附屬書

一

左記ノ者ハ千九百十八年十一月十一日以後當然佛蘭西國國籍ヲ回復スヘシ

一　千八百七十一年五月十日ノ佛蘭西獨逸兩國間條約ノ適用ノ結果佛

蘭西國國籍ヲ喪失シ其ノ後獨逸國國籍以外ノ國籍ヲ取得セサリシ者

二　前號ニ掲ケタル者ノ嫡出又ハ私生ノ直系卑屬但シ父系直系尊屬中ニ千八百七十年七月十五日以後「アルザス、ロレーヌ」ニ移住シタル獨逸人ヲ有スル者ヲ除ク

三　「アルザス、ロレーヌ」ニ於テ出生シタル者ニシテ其ノ父母不明ナル者又ハ其ノ國籍不明ナル者

二

左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ本條約實施後一年以内ニ佛蘭西國國籍ヲ請求スルコトヲ得

一　本附屬書一ノ規定ニ依リ佛蘭西國國籍ヲ回復セサル者ニシテ其ノ直系尊屬中ニ一ニ掲クル事情ニ因リ佛蘭西國國籍ヲ喪失シタル佛蘭西人タル男子又ハ女子ヲ有スル者

二　獨逸各邦ノ國民ニ非サル外國人ニシテ千九百十四年八月三日以前「アルザス、ロレーヌ」ノ人民タル資格ヲ取得シタル者

三　「アルザス、ロレーヌ」ニ住所ヲ有スル獨逸人ニシテ千八百七十年七月十五日以前ヨリ同地方ニ住所ヲ有スル者又ハ其ノ直系尊屬ノ一人カ該期日以前ニ於テ「アルザス、ロレーヌ」ニ住所ヲ有シ居リタル者

四　「アルザス、ロレーヌ」ニ於テ出生シ又ハ住所ヲ有スル獨逸人ニシテ戰爭中同盟及聯合國軍隊ニ從軍シタル者及其ノ直系卑屬

五　千八百七十一年五月十日以前「アルザス、ロレーヌ」ニ於テ外國人ヲ父母トシテ出生シタル者及其ノ直系卑屬

六　本附屬書一ノ規定ニ依リ佛蘭西國國籍ヲ回復シ又ハ前各號ノ規定ニ依リ佛蘭西國國籍ヲ請求取得シタル者ノ配偶者

未成年者ノ法定代理人ハ該未成年者ノ爲佛蘭西國國籍請求權ヲ行使スルコトヲ得若シ該權利ニシテ行使セラレサルトキハ該未成年者ハ其ノ成年ニ達シタル後一年以内ニ佛蘭西國國籍ヲ請求スルコトヲ得

第六號ニ掲クル場合ヲ除クノ外佛蘭西國官憲ハ個個ノ場合ニ付佛蘭西國國籍ノ請求ヲ拒否スルノ權利ヲ留保ス

三

本附屬書二ニ規定スル場合ヲ除クノ外「アルザス、ロレーヌ」ニ於テ出生シ又ハ住所ヲ有スル獨逸人ハ其ノ既ニ「アルザス、ロレーヌ」ノ人民タル資格ヲ有スル者ト雖「アルザス、ロレーヌ」ノ復歸ニ因リテ佛蘭西國國籍ヲ取得スルコトナシ

右獨逸人ハ歸化ニ依リテノミ佛蘭西國國籍ヲ取得スルコトヲ得但シ千九百十四年八月三日以前ヨリ「アルザス、ロレーヌ」ニ住所ヲ有スルコトヲ要シ且千九百十八年十一月十一日以後三年間繼續シテ該復歸地域内ニ居住シタルコトノ證據ヲ提出スルコトヲ要ス

佛蘭西國歸化ノ請求ヲ爲シタル日以後ハ前記獨逸人ニ對スル外交官及領事官ニ依ル保護ハ佛蘭西國專ラ其ノ責ニ任スヘシ

四

佛蘭西國政府ハ佛蘭西國國籍回復權ノ實行ニ要スル手續竝本附屬書規定ノ國籍請求及歸化請求ノ許否ニ關スル條件ヲ定ムヘシ

第六款　墺地利國

第八十條

獨逸國ハ墺地利國ト主タル同盟及聯合國トノ條約ニ依リ決定セラルヘキ國境内ニ於ケル墺地利國ノ獨立ヲ承認シ且嚴ニ之ヲ尊重スヘシ獨逸國ハ

國際聯盟理事會ノ同意アル場合ヲ除クノ外該獨立ノ動カスヘカラサルモノナルコトヲ承諾ス

第七款　「チェッコ、スロヴァキア」國

第八十一條

獨逸國ハ同盟及聯合國ノ既ニ執リタル措置ニ從ヒ「カルパート」山脈南方「ルテーヌ」人ノ自治地域ヲ含ム「チェッコ、スロヴァキア」國ノ完全ナル獨立ヲ承認シ且之ト共ニ獨逸國ハ主タル同盟及聯合國竝他ノ利害關係國ノ決定シタル「チェッコ、スロヴァキア」國ノ國境ヲ承認ス

第八十二條

千九百十四年八月三日ニ於ケル墺地利洪牙利國ト獨逸帝國トノ舊國境ハ獨逸國ト「チェッコ、スロヴァキア」國トノ國境ヲ構成スヘシ

第八十三條

獨逸國ハ「シレジア」ノ地域中左ノ區別ニ對スル一切ノ權利及權原ヲ「チェッコ、スロヴァキア」國ノ爲ニ抛棄ス

「カッチェル」ノ南東方約二吉米ニ於ケル「レオプシュッツ」及「ラティボール」兩郡間ノ境界上ノ地點ヨリ發シ

右兩郡間ノ境界ニ從ヒ

次テ「ラティボール」ー「オーデルベルグ」鐵道ノ南方ニ接スル「オーデル」河上ノ一點ニ至ル迄獨逸及墺地利洪牙利兩國ノ舊境界ニ依リ

次テ北西方ニ向ヒ「カッチェル」ノ南東方約二吉米ノ地點ニ至ルノ間

「クラノウィッツ」ノ西方ヲ過ルモノトシ實査ノ上境界線ヲ定ム

波蘭國及「チェッコ、スロヴァキア」國間ノ國境線ヲ實査ノ上確定スル爲本條約實施後十五日ニ於テ主タル同盟及聯合國ノ指名スル五名、波蘭國及「チェッコ、スロヴァキア」國ノ指名スル各一名計七名ヨリ成ル委員會ヲ設クヘシ

前記委員會ノ決議ハ過半數ニ依リ之ヲ決シ且關係當事國ヲ拘束スヘシ

獨逸國ハ獨逸波蘭兩國ノ國境確定ノ結果「レオプシュッツ」郡中左ノ境界線内ニ在ル部分カ獨逸國ヨリ隔離シタル場合ニ於テ此ノ部分ニ對スル一切ノ權利及權原ヲ「チェッコ、スロヴァキア」國ノ爲ニ抛棄スルコトヲ約ス

「レオプシュッツ」ノ西方約五吉米ニ於ケル墺地利國舊國境凸出部ノ南東端ヨリ南方ニ進ミ「レオプシュッツ」及「ラティボール」兩郡間ノ境界トノ接合點ニ至ルノ間

獨逸及墺地利洪牙利兩國ノ舊國境ニ依リ

次テ北方ニ向ヒ「カッチェル」ノ南東方約二吉米ノ地點ニ至ル迄「レオプシュッツ」及「ラティボール」兩郡間ノ行政境界ニ依リ

次テ北西方ニ進ミ前記出發點ニ至ルノ間

「カッチェル」ノ東方ヲ過ルモノトシ實査ノ上境界線ヲ定ム

第八十四條

「チェッコ、スロヴァキア」國ノ一部ヲ爲スト認メラレタル地域ニ定住スル獨逸國民ハ當然「チェッコ、スロヴァキア」國國籍ヲ取得シ且其ノ獨逸國國籍ヲ喪失スヘシ

第八十五條

「チェッコ、スロヴァキア」國ノ一部ヲ爲スト認メラレタル地域ニ定住スル十八歳以上ノ獨逸國民ハ本條約實施後二年以内ニ於テ獨逸國國籍ヲ選擇スルノ權利ヲ有スヘシ獨逸國内ニ定住スル獨逸國民タル「チェッコ、スロヴァキア」人ハ前同樣「チェッコ、スロヴァキア」國國籍ヲ選擇スルノ權利

ヲ有スヘシ

夫ノ國籍選擇ハ妻ニ、父母ノ國籍選擇ハ十八歳未滿ノ子ニ及フ

右選擇權ヲ行使シタル者ハ爾後十二月以內ニ其ノ選擇シタル國ニ住所ヲ移スコトヲ要ス

右ノ者ハ其ノ選擇權ノ行使前ニ住所ヲ有シタル他ノ國ノ領土內ニ其ノ不動產ヲ保有スルノ權利ヲ有ス各種ノ動產ハ之ヲ携帶スルコトヲ得ヘク該財產ノ移動ニ關シテハ一切ノ輸出稅又ハ輸入稅ヲ課スルコトヲ得ス

獨逸國民タル「チェッコ、スロヴァキア」人ニシテ外國ニ在ルモノハ當該外國ノ法令ニ何等反對ノ規定ナク且未タ該外國ノ國籍ヲ取得セサル場合ニ於テ前記期間內ニ「チェッコ、スロヴァキア」國ノ國籍ヲ取得シ且獨逸國國籍ヲ離脫スルノ權利ヲ有スヘシ

第八十六條

「チェッコ、スロヴァキア」國ハ其ノ多數ノ住民ト人種、言語又ハ宗教ヲ異ニスル其ノ住民ノ利益ヲ保護スル爲主タル同盟及聯合國ニ於テ必要ト認ムル規定ヲ該諸國トノ條約中ニ設クルコトヲ約諾ス

「チェッコ、スロヴァキア」國ハ尙他ノ國民ニ對シ通過ノ自由ト通商ノ衡平ナル取扱トヲ保護スル爲前記諸國ニ於テ必要ト認ムル規定ヲ該諸國トノ條約中ニ設クルコトヲ約諾ス

獨逸國及普魯西ノ財政上ノ義務ニシテ「チェッコ、スロヴァキア」國カ「シレジア」ノ地域ヲ其ノ主權ノ下ニ置キタル結果負擔スヘキモノノ割合及性質ハ第九編（財政條項）第二百五十四條ニ依リ之ヲ決定スヘシ

前記領土ノ割讓ノ結果生スヘキ一切ノ問題ニシテ本條約ニ依リテ決定セラレサルモノハ後日ノ取極ヲ以テ之ヲ決定スヘシ

第八款　波蘭國

第八十七條

獨逸國ハ主タル同盟及聯合國ノ既ニ執リタル措置ニ從ヒ波蘭國ノ完全ナル獨立ヲ承認シ且波羅的海、「ロルツェンドルフ」ノ東方約二吉米ノ地點ニ至ル迄第二編（獨逸國ノ境界）第二十七條ニ定メタル獨逸國ノ東方國境、次ニ「ジムメナウ」ノ北西方約三吉米ニ於テ上部「シレジア」ノ北方境界カ鋭角ヲ爲ス箇所ニ至ル線、次ニ獨逸及露西亞兩國間ノ舊國境トノ接合點ニ至ル迄右上部「シレジア」境界、次ニ「ニーメン」河ノ河流トノ交叉點ニ至ル迄右兩國間ノ舊國境竝前揭第二編第二十八條ニ定メタル東普魯西ノ北境ニ依リ圍繞セラルル地域ニ對スル一切ノ權利及權原ヲ波蘭國ノ爲ニ抛棄ス

本條ノ規定ハ第二編（獨逸國ノ境界）第二十八條及本編第十一款（「ダンチッヒ」）第百條ニ定メタル東普魯西及「ダンチッヒ」自由市ノ地域ニハ之ヲ適用セス

波蘭國ノ境界ニシテ本條約ニ於テ定メサルモノハ主タル同盟及聯合國追テ之ヲ決定スヘシ

波蘭國ト獨逸國トノ國境線ヲ實査劃定スル爲本條約實施後十五日以內ニ於テ主タル同盟及聯合國ノ指名スル五名、獨逸國及波蘭國ノ指名スル各一名計七名ヨリ成ル委員會ヲ設クヘシ

委員會ノ決議ハ表決ノ過半數ニ依リ之ヲ決シ且當事國ヲ拘束スヘシ

第八十八條

上部「シレジア」中左記境界內ニ在ル部分ニ於テハ住民ヲシテ其ノ獨逸國又ハ波蘭國ノ何レニ屬スルコトヲ希望スルヤヲ投票ニ依リ表示セシムヘシ

（外務省）

「ノイスタット」ノ東方約八吉米ニ於ケル舊塊地利國領「シレジア」州ノ凸出部ノ北端ヨリ獨逸國及塊地利國間ノ舊國境ニ依リ「レオブシュッツ」ニ「ラティボール」兩郡間ノ境界トノ接合體ニ至ル

次テ北方ニ向ヒ「カッチェル」ノ南東方約二吉米ノ地點ニ至ル迄

「レオブシュッツ」「ラティボール」兩郡間ノ境界ニ從ヒ

次テ南東方ニ向ヒ「ラティボール」「オーデルベルグ」鐵道ノ南方ニ接スル「オーデル」河河流上ノ一點ニ至ルノ間

「クラノヴィッツ」ノ南方ヲ過ルモノトシ實査ノ上境界線ヲ定ム

次テ獨逸國及塊地利國間ノ舊國境、次テ獨逸國及露西亞國間ノ舊境界ニ依リ「ボズナニア」及上部「シレジア」間ノ行政境界トノ接合點ニ至ル

次テ該行政境界ニ依リ上部「シレジア」及中部「シレジア」間ノ行政境界トノ接合點ニ至ル

次テ西方ニ向ヒ右行政境界カ「ジムメナウ」ノ北西方約三吉米ニ於テ鋭角ヲ以テ南東方ニ轉スル地點ニ至ルノ間

上部「シレジア」及中部「シレジア」間ノ境界ニ依ル

次テ西方ニ向ヒ「ロルツェンドルフ」ノ東方約二吉米ニ於テ實査ノ上定メラルヘキ地點ニ至ルノ間

「クライン、ヘンネルスドルフ」ノ北方ヲ過ルモノトシ實査ノ上境界線ヲ定ム

次テ南方ニ向ヒ上部「シレジア」及上部「シレジア」間ノ境界ト「ステッテル」ト「カールスルーエ」街道トノ交叉點ニ至ルノ間

「ヘンネルスドルフ」「ポルコウィッツ」「ノルダウ」「スタイネルスドルフ」及「ダムメル」ノ「西方並「ストレーリッツ」「ナッサデル」「エッケルスドルフ」「シュウィルツ」及「ステッテル」ノ東方ヲ過ルモノトシ實査ノ上境界線ヲ定ム

次テ上部「シレジア」及中部「シレジア」間ノ境界ニ依リ「ファルケンベルグ」郡ノ東境トノ接合點ニ至ル

次テ「ファルケンベルグ」郡ノ東境ニ依リ「プシネ」ノ東方三吉米ニ位スル凸出部地點ニ至ル

次テ「ノイスタット」ノ東方約八吉米ニ位スル舊塊地利國領「シレジア」州凸出部ノ北端ニ至ルノ間

「ツュルツ」ノ東方ヲ過ルモノトシ實査ノ上境界線ヲ定ム

前記ノ人民一般投票ノ執行及其ノ效果ニ關スル制度ハ本條附屬書ニ之ヲ規定ス

波蘭國及獨逸國ノ政府ハ本條附屬書ニ規定スル制度ノ存續中及該地方ノ終局ノ地位ノ確定スル迄上部「シレジア」ニ於テ爲シタル一切ノ政治上ノ行動ニ對シ相互ニ其ノ領土ニ於テ訴追ヲ爲サス且何等ノ例外的手續ヲ執ラサルコトヲ玆ニ約ス

獨逸國ハ上部「シレジア」中人民一般投票ノ結果トシテ主タル同盟及聯合國ノ定メタル境界線內ノ區域ニ對スル一切ノ權利及權原ヲ波蘭國ノ爲ニ玆ニ抛棄ス

附屬書

一

獨逸國軍隊及本附屬書ニノ規定ニ依リ設置シタル委員會ノ指定スル獨逸國官吏ハ本條約實施後十五日以內ニ人民一般投票區域ヲ撤退スヘシ右軍

隊及官吏ハ其ノ撤退完了ニ至ル迄形式ノ如何ヲ問ハス金錢又ハ物品ノ徴發及該地方ノ物資上ノ利益ヲ害スル虞アル一切ノ行爲ヲ爲スコトナカルヘシ

右區域ニ於テ設立シタル勞兵會ハ前記期間内ニ解散スヘク同會會員中他地方人ニシテ本條約實施ノ時ニ其ノ職務ヲ行フ者又ハ千九百十九年三月一日以後其ノ職務ヲ罷メタル者ハ撤退スヘシ

右區域ニ於テ其ノ住民ノ組織シタル一切ノ軍事的及准軍事的團體ハ直ニ之ヲ解隊セシムヘシ右軍事團體ノ團員ニシテ該區域内ニ住所ヲ有セサル者ハ退去セシムヘシ

二

人民一般投票區域ハ直ニ北米合衆國、佛蘭西國、英帝國及伊太利國ノ任命スヘキ四名ノ委員ヨリ成ル國際委員會ノ權限ノ下ニ置カルヘシ同區域ハ同盟及聯合國ニ屬スル軍隊ヲ以テ之ヲ占領スヘク獨逸國政府ハ該軍隊ヲ上部「シレジア」ニ輸送スルニ付便宜ヲ供スヘキコトヲ約ス

三

右委員會ハ立法及課稅ニ關スル場合ヲ除クノ外獨逸國又ハ普魯西政府ノ行使シタル一切ノ權能ヲ有シ且州及縣ノ行政廳ニ代ルヘシ

本項ニ依リ付與セラレタル權能ニ關シ解釋ヲ下シ且如何ナル範圍ニ於テ其ノ權能ヲ行使シ又ハ之カ行使ヲ現存官憲ニ委スヘキカヲ決定スルハ右委員會ノ權限ニ屬スルモノトス

現行法律及現行租稅ノ變更ハ委員會ノ同意ヲ經ルニ非サレハ其ノ效力ヲ生セス

委員會ハ其ノ使用ニ供セラレタル軍隊ノ助力ニ依リ及其ノ必要ト認ムル限度ニ於テ地方住民中ヨリ募集シタル憲兵ヲ以テ秩序ヲ維持スヘシ

委員會ハ速ニ撤退獨逸國官吏ノ補充ニ力メ且必要ナル場合ニ於テハ自ラ獨逸國官憲ノ撤退ヲ命シ且必要ナル地方官憲ノ補充ヲ爲スヘシ

委員會ハ投票ノ自由、公正及祕密ヲ確保スル爲其ノ適當ト思量スル一切ノ手段ヲ執ルヘク殊ニ方法ノ如何ニ拘ラス贈賄又ハ威嚇ノ手段ニ依リ人民一般投票ノ結果ヲ紛更セムト企テタル者ノ追放ヲ命スルノ權利ヲ有スヘシ

委員會ハ本條項ノ實施ヨリ生スル一切ノ問題ヲ決定スル全權ヲ有スルモノトス委員會ハ其ノ地方住民中ヨリ選任シタル專門事項顧問ヲ以テ其ノ補佐トスヘシ

委員會ノ決議ハ夷決ノ過半數ニ依ルヘシ

四

投票ハ主タル同盟及聯合國ノ定ムヘキ期日ニ於テ之ヲ行フヘシ但シ前記區域ニ委員會ヲ設置シタル時ヨリ六月以後十八月以前ナルコトヲ要ス

投票權ハ男女ノ別ナク左記ニ該當スル一切ノ者ニ之ヲ付與ス

(イ) 人民一般投票施行ノ年ノ一月一日ニ於テ滿二十歲以上ニシテ

(ロ) 人民一般投票區域内ニ出生シタル者、千九百十九年一月一日前ニ於テ委員會ノ決定スヘキ日以來同區域内ニ住所ヲ有スル者又ハ獨逸國官憲ニ依リ追放セラレ右地域ニ住所ヲ有セサル者

政治犯罪ニ付有罪ノ宣告ヲ受ケタル者モ其ノ投票權ヲ行使スルコトヲ得

投票ハ各自ノ住所ヲ有スル市町村ニ於テ、投票區域内ニ住所ヲ有セサル者ニ在リテハ其ノ出生シタル市町村ニ於テ之ヲ行フヘシ

投票ノ結果ハ市町村毎ニ各其ノ投票ノ多數ニ依リ之ヲ決定スヘシ

五

投票終了シタルトキハ委員會ハ主タル同盟及聯合國ニ對シ各市町村ニ於ケル投票數ヲ通告スルト共ニ投票施行ニ關スル詳細ナル報告及上部「シレジア」ニ於テ獨逸國ノ國境トシテ採用スヘキ境界線ニ關スル意見ヲ提出スヘシ右意見ノ中ニ於テハ投票ニ依リ表示セラレタル住民ノ希望竝該地方ノ地理上及經濟上ノ事情ヲ考慮スヘシ

六

主タル同盟及聯合國ニ於テ國境ヲ確定シタル時ハ國際委員會ハ直ニ獨逸國官憲ニ對シ獨逸國領タルヘシト認メラレタル地域ノ施政ノ引繼ヲ受クルコトヲ得ヘキ旨通牒スヘシ該官憲ハ右通牒後一月以内ニ委員會ノ指定スル方法ニ依リ之カ引繼ヲ受クルコトニ著手スルコトヲ要ス

波蘭國政府ハ同期間内ニ委員會ノ指定シタル方法ヲ以テ波蘭國領タルヘシト認メラレタル地域ノ施政ノ引繼ヲ受クルコトニ著手スルコトヲ要ス

委員會ノ權能ハ獨逸國及波蘭國ノ官憲カ各當該地域ノ施政ニ任スル時ヲ以テ終了ス

占領軍ノ費用及委員會ノ經費ハ其ノ職務執行ノ爲ナルト當該地域ノ施政ノ爲ナルトヲ問ハス同區域ノ負擔トス

第八十九條

波蘭國ハ東普魯西ト獨逸國ノ他ノ地域トノ間ニ運送セラルル人、貨物、船舶、客車、貨車及郵便物ニ對シ波蘭國領土(領水ヲ含ム)通過ノ自由ヲ許與シ且便宜、制限其ノ他一切ノ事項ニ付少クトモ波蘭國又ハ之ヨリ有

(外務局)

利ナル待遇ヲ受クル國ノ國民及此等ノ國ヲ原産地、輸入地若ハ出發地トシ又ハ此等ノ國ノ國民ノ所有ニ屬スル貨物、船舶、客車、貨車及郵便物ト同等ノ待遇ヲ爲スヘキコトヲ約ス

通過中ノ貨物ハ一切ノ關稅其ノ他之ニ類スル稅ヲ免除セラルヘシ

通過ノ自由ハ第九十八條ニ掲クル條約ヲ以テ定メタル條件ノ下ニ電信及電話ニ及フヘシ

第九十條

波蘭國ハ本條約ニ依リ同國ニ讓渡サレタル上部「シレジア」ノ鑛産物ノ獨逸國ヘノ輸出ヲ十五年間許スヘキコトヲ約ス

右鑛産物ハ一切ノ輸出稅其ノ他ノ課金又ハ輸出制限ヲ受クルコトナカルヘシ

波蘭國ハ波蘭國又ハ他ノ各國ノ購買者ニ同樣ノ事情ノ下ニ於テ賣却セラルル同種產物ニ對スルト同等ニ有利ナル條件ヲ以テ前記鑛產物カ獨逸國ノ購買者ニ賣却セラルルコトヲ確保スル爲必要ナル措置ヲ執ルコトニ同意ス

第九十一條

波蘭國ノ一部ヲ爲スト認メラレタル地域ニ定住スル獨逸國民ハ當然波蘭國國籍ヲ取得シ且其ノ獨逸國國籍ヲ喪失スヘシ

尤モ千九百八年一月一日以後ニ於テ右地域ニ居住スルニ至リタル獨逸國民又ハ其ノ子孫ハ波蘭國ノ特別ノ許可アルニ非サレハ波蘭國國籍ヲ取得スルコトナカルヘシ

波蘭國ノ一部ヲ爲スト認メラレタル地域ニ定住スル十八歲以上ノ獨逸國民ハ本條約實施後二年以内ニ獨逸國國籍ヲ選擇スルノ權利ヲ有スヘシ

獨逸國ニ定住スル獨逸國民タル十八歳以上ノ波蘭人ハ前同樣波蘭國國籍ヲ選擇スルノ權利ヲ有スヘシ

夫ノ國籍選擇ハ妻ニ、父母ノ國籍選擇ハ十八歳未滿ノ子ニ及フ

右選擇權ヲ行使シタル者ハ爾後十二月以內ニ其ノ選擇シタル國ニ住所ヲ移スコトヲ得

前記ノ者ハ其ノ選擇權ノ行使前住所ヲ有シタル他ノ國ノ領土內ニ其ノ不動產ヲ保有スルノ權利ヲ有ス

各種ノ動產ハ之ヲ携帶スルコトヲ得ヘク該財產ノ移動ニ關シテハ一切ノ輸出稅、輸入稅又ハ課金ヲ課スルコトヲ得ス

獨逸國民タル波蘭人ニシテ外國ニ在ルモノハ當該外國ノ法令ニ何等反對ノ規定ナク且未タ該外國ノ國籍ヲ取得セサル場合ニ於テ前記期間內ニ波蘭國ノ定ムル要件ニ從ヒ波蘭國國籍ヲ取得シ且獨逸國國籍ヲ離脫スルノ權利ヲ有スヘシ

上部「シレジア」中人民一般投票ニ付シタル地域ニ於テハ本條ノ規定ハ右地域ノ所屬確定ノ時ヨリノミ其ノ效力ヲ生スヘシ

第九十二條

獨逸國及普魯西ノ財政上ノ義務ニシテ波蘭國カ負擔スヘキモノノ割合及性質ハ第九編（財政條項）第二百五十四條ニ依リ之ヲ決定スヘシ

右財政上ノ義務中前記第二百五十四條ニ規定スル賠償委員會ノ判定ニ依レハ獨逸國及普魯西ノ政府カ波蘭國ニ於ケル獨逸殖民ノ爲ニ執リタル措置ニ因リ發生シタル部分ハ波蘭國ノ分擔額ヨリ之ヲ除外スヘシ

領土ノ移轉ト共ニ波蘭國ニ引渡スヘキ獨逸帝國又ハ獨逸各邦ニ屬スル財產及所有物ノ價額ヲ第二百五十六條ニ依リ決定スルニ當リテハ賠償委員會ハ舊波蘭王國ニ屬シタル建物、森林其ノ他ノ國有財產ヲ該評價額ヨリ除外スヘク波蘭國ハ一切ノ費用及賦課ヲ負フコトナク此等ノ財產ヲ取得スヘシ

本條約ニ依リ讓渡サレ且確定的ニ波蘭國ノ一部ヲ爲スト認メラレタル獨逸國ノ領土ニ於ケル獨逸國民ノ財產、權利及利益ニ付テハ波蘭國政府ハ左ノ規定ニ依ルニ非サレハ第二百九十七條ノ清算ヲ行フコトヲ得ス

一　清算殘高ハ直接所有者ニ之ヲ支拂フヘシ

二　所有者カ第十編（經濟條項）第六款ニ規定スル混合仲裁裁判所又ハ同裁判所ノ任命スル仲裁人ニ對シ波蘭國政府ノ一般法令ノ規定外ニ亙リテ執リタル措置又ハ贊助條件カ取得價格ニ付所有者ニ不當ニ損害ヲ與ヘタルモノナルコトヲ證明スルトキハ同裁判所又ハ仲裁人ハ波蘭國政府ヲシテ所有者ニ衡平ナル賠償ヲ爲サシムルノ判定ヲ與フルノ裁量ヲ有ス

前記領土ノ讓渡ヨリ生スル諸問題ニシテ本條約ニ規定セサルモノハ總テ今後ノ取極ニ依リテ之ヲ規定スヘシ

第九十三條

波蘭國ハ其ノ多數ノ住民ト人種、言語又ハ宗教ヲ異ニスル其ノ住民ノ利益ヲ保護スル爲主タル同盟及聯合國ニ於テ必要ト認ムル規定ヲ該諸國トノ條約中ニ設クルコトヲ約諾ス

波蘭國ハ尙他ノ國民ニ對シ通過ノ自由ト通商ノ衡平ナル取扱トヲ保證スル爲前記諸國ニ於テ必要ト認ムル規定ヲ此等諸國トノ條約中ニ設クルコトヲ約諾ス

第九十四條

第二編（獨逸國ノ境界）第二十八條ニ掲クル東普魯西ノ南方境界ト左記ノ線トノ間ニ在ル地域ニ於テハ住民ヲシテ投票ニ依リ其ノ所屬ヲ希望スル國ヲ指示セシムヘシ

「アレンスタイン」縣ノ西方及北方境界ニ從ヒ「オレツコ」及「アンゲルブルグ」兩郡間ノ境界線トノ接合點ニ至リ次テ「オレツコ」郡ノ北方境界ニ從ヒ東普魯西ノ舊境界トノ接合點ニ至ル

第九十五條

獨逸國ノ軍隊及官憲ハ本條約實施後十五日以內ニ前揭地域ヨリ撤退スヘキ該撤退完了ニ至ル迄右軍隊及官憲ハ一切ノ金錢又ハ物品ノ徵發及該地方ノ經濟上ノ利益ニ害アル一切ノ處置ヲ爲スコトヲナカルヘシ

前記ノ期間滿了シタルトキハ右地域ハ之ヲ主タル同盟及聯合國ノ任命シタル五名ノ委員ヨリ成ル國際委員會ノ權限ノ下ニ置クヘシ該委員會ハ施政上ノ一般權能ヲ有シ殊ニ投票ノ準備ヲ爲スノ任務及其ノ自由、公正及祕密ヲ確保スルニ必要ト認ムル措置ヲ執ルノ任務ヲ負ヒ尙此等規定ノ施行ニ因リテ生スヘキ各問題ヲ決定スルニ必要ナル一切ノ權限ヲ有ス委員會ハ地方住民中ヨリ其ノ選任シタル吏員ヲシテ其ノ職務ノ實行ヲ幇助セシムル爲必要ナル措置ヲ講スヘシ委員會ノ決議ハ過半數ニ依ル

左記ニ該當スル者ハ男女ノ別ナク總テ投票ノ權利ヲ有ス

(イ)　本條約實施ノ日ニ於テ滿二十歳以上ニシテ且

(ロ)　投票ヲ行フヘキ地域內ニ出生シタル者又ハ委員會ノ決定スヘキ日以來同地域內ニ定住シタル者

投票ハ各自ノ定住スル市町村ニ於テ、右地域內ニ定住セサル者ニ在リテハ其ノ出生シタル市町村ニ於テ之ヲ行フヘシ

第九十六條

「ストウーム」及「ローゼンベルグ」兩郡「ノガット」河ノ東ニ在ル「マリエ

投票ノ結果ハ市町村毎ニ各其ノ投票ノ過半數ニ依リ之ヲ決定スヘシ

投票終了シタルトキハ委員會ハ主タル同盟及聯合國ニ對シ各市町村ニ於ケル投票數ヲ通告スルト共ニ投票施行ニ關スル詳細ナル報告及該地方ニ於テ東普魯西ノ國境トシテ採用スヘキ境界線ニ關スル意見ヲ提出スヘシ右意見中ニハ投票ニ依リ表示セラレタル住民ノ希望及該地方ノ地理上及經濟上ノ事情ヲ考慮スヘキモノトス主タル同盟及聯合國ハ乃チ此ノ地方ニ於ケル東普魯西及波蘭國間ノ國境ヲ確定スヘシ

主タル同盟及聯合國ニ依リ確定セラレタル境界線ニシテ第九十四條ノ揭ケル地域ノ一部分ヲ東普魯西ヨリ除外スルモノナルトキハ獨逸國カ第八十七條ノ規定ニ依リ波蘭國ノ爲ニスル權利拋棄ハ右除外セラレタル地方ニ及フヘシ

主タル同盟及聯合國ニ於テ境界線ヲ確定シタルトキハ國際委員會ハ直ニ東普魯西ノ施政ニ任スヘキ官憲ニ對シ該境界線ノ北方ニ當ル地域ノ施政ヲ引繼クコトヲ得ヘキ旨通牒スヘシ該官憲ハ右通牒後一月以內ニ委員會ノ指定スル方法ニ依リ之カ引繼ニ著手スヘシ波蘭國政府ハ同期間內ニ委員會ノ指定ニ從ヒ同境界線ノ南方ニ當ル地域ノ施政ノ引繼ニ著手スルコトヲ要ス委員會ノ權能ハ東普魯西及波蘭國ノ官憲カ各自當該地域ノ施政ニ任スル時ヲ以テ終了ス

委員會ノ經費ハ其ノ職務執行ノ爲ナルト當該地域ノ施政ノ爲ナルトヲ問ハス該地方ノ收入ヲ以テ之ヲ支辨ス東普魯西ハ主タル同盟及聯合國カ決定スヘキ不足金ノ割當額ヲ負擔スヘシ

第九十六條

「ストウーム」及「ローゼンベルグ」兩郡「ノガット」河ノ東ニ在ル「マリエ

ンプルゲ」郡ヲ一部並「ヴィスチュラ」河東方ノ「マリエンウェルデル」郡ノ一部ヲ包含スル地域ニ於テハ住民チシテ市町村毎ニ施行セラルヘキ投票ニ依リ該地域ノ各市町村カ波蘭國又ハ東普魯西ノ何レニ屬スルコトヲ希望スルカヲ表示セシムヘシ

第九十七條

獨逸國ノ軍隊及官憲ニ本條約實施後十五日以内ニ第九十六條ニ揭クル地域ヨリ撤退スヘシ該撤退完了ニ至ル迄右軍隊及官憲ハ一切ノ金錢又ハ物品ノ徴發及該地方ノ經濟上ノ利益ニ害アル一切ノ處置ヲ爲スコトナカルヘシ

前記ノ期間滿了シタルトキハ右地域ハ之ヲ主タル同盟及聯合國ノ任命シタル五名ノ委員ヨリ成ル國際委員會ノ權限ノ下ニ置クヘシ該委員會ハ必要ノ場合ニ於テハ所要兵力ノ支持ヲ受クヘク施政上ノ一般權能ヲ有シ殊ニ投票ノ準備ヲ爲スノ任務及其ノ自由、公正及祕密ヲ確保スルニ必要ト認ムル措置ヲ執ルノ任務ヲ負フヘシ委員會ハ能フ限リ「アレンスタイン」地方ニ於ケル人民一般投票ニ關スル本條約ノ規定ニ從フヘシ委員會ノ決議ハ過半數ニ依ル

委員會ノ經費ハ其ノ職務執行ノ爲ナルト常該地域ノ施政ノ爲ナルトヲ問ハス該地方ノ收入ヲ以テ之ヲ支辨ス

投票終了シタルトキハ委員會ハ主タル同盟及聯合國ニ對シ市町村ニ於ケル投票數ヲ通告スルト共ニ投票ノ施行ニ關スル詳細ナル報告及該地方ニ於テ東普魯西ノ境界トシテ採用スヘキ境界線ニ關スル意見ヲ提出スヘシ右意見ノ中ニ於テハ投票ニ依リ表示セラレタル住民ノ希望竝該地方ノ地理上及經濟上ノ事情ヲ考慮スヘキモノトス主タル同盟及聯合國ハ乃チ此ノ地方ニ於ケル東普魯西及波蘭國間ノ境界ヲ確定スヘシ但シ如何ナル場合ニ於テモ「ヴィスチュラ」河沿岸區域全部ニ亙リ同河ニ對スル完全ナル管理權ヲ波蘭國ニ保有セシムヘク該管理權ハ「ヴィスチュラ」河ノ取締及改良ニ必要ナル範圍ニ於テ其ノ東岸一帶ニ及フヘシ

獨逸國ハ引續キ獨逸領タル前記地域中ノ何レノ部分ニ於テモ又如何ナル時ニ於テモ築城ヲ構設セサルコトヲ約ス

主タル同盟及聯合國ハ之ト同時ニ東普魯西ノ人民ニ對シ充分ニ且衡平ナル條件ノ下ニ該人民竝其ノ通商及船舶ノ爲「ヴィスチュラ」河ニ往來シ及之ヲ使用スルコトヲ確保スヘキ規則ヲ設クヘシ

國境ノ確定及前記ノ規則ハ一切ノ當事國ヲ拘束ス

委員會ノ權能ハ東普魯西及波蘭國ノ官憲カ各自當該地域ノ施政ニ任スル時ヲ以テ終了ス

第九十八條

獨逸國及波蘭國ハ本條約實施後一年以内ニ一方ニ於テハ獨逸國ニ對シ東普魯西ト獨逸國ノ他ノ地域トノ間ノ交通ノ爲其ノ間ニ介在スル波蘭國領土ニ於テ充分且適當ナル鐵道、電信及電話ノ便益ヲ確保シ又他方ニ於テハ波蘭國ニ對シ波蘭國ト「ダンチッヒ」自由市トノ間ノ交通ノ爲「ヴィスチュラ」河ノ右岸ニ於テ波蘭國ト「ダンチッヒ」自由市トノ間ニ介在スルコトアルヘキ波蘭國ノ領土ニ於テ充分且適當ナル鐵道、電信及電話ノ便益ヲ確保スルノ目的ヲ以テ條約ヲ締結スヘク且其ノ條項ニ關シ爭議アルトキハ國際聯盟理事會ヲシテ之ヲ決定セシムヘキコトヲ約ス

第十款　「メーメル」

第九十九條

獨逸國ハ波羅的海、第二編（獨逸國ノ境界）第二十八條ニ定メタル東普魯西ノ北東方國境及獨逸露西亞兩國間ノ舊國境ヲ以テ包括シタル地域ニ對スル一切ノ權利及權原ヲ主タル同盟及聯合國ノ爲ニ抛棄ス

獨逸國ハ右地域ニ關シ殊ニ其ノ住民ノ國籍ニ付主タル同盟及聯合國ノ爲シタル決定ヲ承認スヘキコトヲ約ス

第十一款　「ダンチッヒ」自由市

第百條

獨逸國ハ左記境界内ノ地域ニ對スル一切ノ權利及權原ヲ主タル同盟及聯合國ノ爲ニ抛棄ス

波羅的海ヨリ南方ニ進ミ「ノガット」河及「ヴィスチュラ」河（「ワイクセル」河）主要航行水道ノ會合點ニ至ルノ間

第二編（獨逸國ノ境界）第二十八條ニ規定スル東普魯西ノ境界ニ依ル

次テ「ヴィスチュラ」河主要航行水道ヲ下リ「ディル シャウ」橋ノ北方約六吉米半ノ地點ニ至ル

次テ北西方ニ向ヒ「ギュットラシド」教會堂ノ南東方一吉米半標高五ノ地點ニ至ルノ間

實査ノ上境界線ヲ定ム

次テ略西方ニ向ヒ「シェーネック」ノ北東方八吉米半ニ於ケル「ペーレンド」郡境界ノ凸出部ニ至ルノ間

「ミュールバンツ」ノ北方、「ラムベルチュ」ノ南方ヲ過ルモノトシ實査ノ上境界線ヲ定ム

次テ「ペーレント」郡ノ境界ヲ西方ニ進ミ「シェーネック」ノ北北西方六吉米ノ四入瀉ニ至ル

次テ「ロンケネル、ゼー」ノ中央線上ノ一點ニ至ルノ間

「ノイ、フィーツ」及「シャタルビ」ノ北方、「バーレンヒュッテ」及「ロンケン」ノ南方ヲ過ルモノトシ實査ノ上境界線ヲ定ム

次テ「ロンケネル、ゼー」ノ中央線ニ從ヒ其ノ北端ニ至ル

次テ「ボレンチーネル、ゼー」ノ南端ニ至ルノ間

實査ノ上境界線ヲ定ム

次テ「ボレンチーネル、ゼー」ノ中央線ニ從ヒ其ノ北端ニ至ル

次テ北東方ニ向ヒ「コリープケン」教會堂ノ南方約一吉米ニ於ケル「ダンチッヒ」―「ノイスタット」鐵道カ小河ヲ橫斷スル地點ニ至ルノ間

「カメーレン」「クリッサウ」「フィドリン」「ズルミン」（「リヒトホーフ」）「マッテルン」「シェーフェライ」ノ南東方ヲ過キ「ノイエンドルフ」「マルシャウ」「ツアピールケン」「ホッホ、ケルピン」「クライン、ケルピン」「プルフェルミュール」「レンネベルゲ」及「オルヴァ」「ツォポット」兩市街ノ北西方ヲ過ルモノトシ實査ノ上境界線ヲ定ム

次テ前記小河ノ河流ニ從ヒ波羅的海ニ至ル

本條ノ境界ハ本條約附屬十萬分一獨逸地圖（地圖第三號）ニ之ヲ表示ス

第百一條

市町村ノ現在ノ境界ヲ能フ限リ參酌シテ實査ノ上前記地域ノ境界ヲ劃定セムカ爲本條約實施後十五日以内ニ委員會ヲ設置スヘシ該委員會ハ主タル同盟及聯合國ノ任命スル各一名ノ委員ヲ以テ之ヲ組織ス

第百二條

主タル同盟及聯合國ハ「ダンチッヒ」市ヲ第百條ニ揭クル爾餘ノ地域ト共

ニ自由市ト爲スコトヲ約ス右自由市ハ國際聯盟ノ保護ノ下ニ置カルヘシ

第百三條

「ダンチッヒ」自由市ノ憲法ハ該自由市ノ正當ニ任命スル代表者ニ於テ國際聯盟ノ任命スル高級委員ト協議ノ上之ヲ起草スヘシ該憲法ハ國際聯盟之ヲ保障スヘシ

高級委員ハ本條約又ハ之ニ基ク協定若ハ取極ニ關シ波蘭國ト「ダンチッヒ」自由市トノ間ニ發生スル一切ノ紛議ヲ第一次ニ處理スルノ任務ヲ付託セラルヘシ

高級委員ハ「ダンチッヒ」ニ駐在スヘシ

第百四條

主タル同盟及聯合國ハ波蘭國政府ト「ダンチッヒ」自由市トノ間ニ同自由市ノ設立ト同時ニ實施スヘキ左ノ目的ヲ有スル條約ノ商議ヲ爲スコトヲ約ス

一　「ダンチッヒ」自由市ヲ波蘭國關稅地域ニ編入シ且同港ニ一ノ自由地域ヲ設定スルコト

二　自由市地域内ニ存スル波蘭國ノ輸出入品ノ爲必要ナル一切ノ水路、船渠、泊船渠、埠頭其ノ他ノ工作物ノ自由使用ヲ波蘭國ニ對シ何等ノ制限ナク保障スルコト

三　波蘭國ニ對シ「ヴィスチュラ」河及右自由市内ニ在ル鐵道系全部竝「ダンチッヒ」波蘭國間ノ郵便、電信及電話ノ管理經營權ヲ保障スルコト但シ主トシテ同自由市ノ用ニ供セラルル市街鐵道其ノ他ノ鐵道ハ此ノ限ニ在ラス

四　波蘭國ニ對シ水路、船渠、泊船渠、埠頭、鐵道其ノ他本條ニ揭クル工作物及交通機關ヲ改良シ發達セシムルノ權利竝右目的ノ爲必要ナル土地其ノ他ノ財産ヲ適當ナル手續ニ依リ賃借又ハ買收スルノ權利ヲ保障スルコト

五　「ダンチッヒ」自由市内ニ於テ波蘭國人民及波蘭系ニ屬シ又ハ波蘭語ヲ用ヰル人民ニ不利益ナル差別待遇ヲ爲ササル規定ヲ設クルコト

六　波蘭國政府ヲシテ「ダンチッヒ」自由市ノ外交關係ヲ處理シ且外國ニ在ル該市人民ノ外交上ノ保護ニ當ラシムルノ規定ヲ設クルコト

第百五條

第百條ニ揭クル地域内ニ定住スル獨逸國民ハ本條約實施ト同時ニ「ダンチッヒ」自由市ノ人民ト爲ル爲當然獨逸國國籍ヲ離脫スヘシ

第百六條

第百條ニ揭クル地域内ニ定住スル十八歲以上ノ獨逸國民ハ本條約實施後二年内ニ獨逸國國籍ヲ選擇スルノ權利ヲ有ス

夫ノ國籍選擇ハ妻ニ、父母ノ國籍選擇ハ十八歲未滿ノ子ニ及フ

右選擇權ヲ行使シタル者ハ總テ爾後十二月以内ニ獨逸國ニ住所ヲ移スコトヲ要ス

右選擇權行使者ハ「ダンチッヒ」自由市地域内ニ其ノ不動産ヲ保有スルノ權利ヲ有ス其ノ各種ノ動産ハ之ヲ携帶スルコトヲ得右ニ關シテハ輸出稅又ハ輸入稅ヲ課スヘカラス

第百七條

「ダンチッヒ」自由市ノ地域内ニ存スル一切ノ財産ニシテ獨逸帝國又ハ獨逸各邦ニ屬スルモノハ主タル同盟及聯合國ノ衡平ナリト思惟スル所ニ從ヒ「ダンチッヒ」自由市又ハ波蘭國ニ之ヲ引渡ス爲右同盟及聯合國ニ移轉ス

第百八條

獨逸國及普魯西ノ財政上ノ義務ニシテ「ダンチッヒ」自由市カ負擔スヘキモノノ割合及性質ハ第九編（財政條項）第二百五十四條ノ規定ニ依リ之ヲ決定スヘシ

第百條ニ揭クル領土ノ讓渡ヨリ生スル他ノ一切ノ問題ハ今後ノ取極ヲ以テ之ヲ決定スヘシ

第十二款「シュレスウィヒ」

第百九條

獨逸丁抹兩國間ノ國境ハ住民ノ希望ニ從ヒ之ヲ決定ス

此ノ目的ノ爲東方ヨリ西方ニ向ヒ劃シタル左記ノ線（本條約附屬地圖第四號ノ褐色線）ノ北方ニ位スル舊獨逸帝國版圖内ノ住民ヲシテ本條第一號乃至第四號ノ條件ノ下ニ行フヘキ投票ニ依リ其ノ希望ヲ表示セシムヘシ

「フレンスブルグ」ノ東北東方約十三吉米ニ於テ波羅的海ヲ離レ南西方ニ走リ「シゲム」「リングスベルグ」「ムンクブルラップ」「アデルビー」「クストルップ」「ヤルプルンド」「オーヴェルゼー」ノ南東方及「ランゲバリックホルツ」「ランゲバリック」「ベンストルップ」「リエルシャウ」「ウェゼビー」「クラインウォルストルップ」「グロース、ゾルト」ノ北方ヲ過キ

次テ西方ニ向ヒ「フレールップ」ノ南方「ヴァンデルップ」ノ北方ヲ過キ

次テ南西方ニ進ミ「オックスルンド」「スィーグルンド」及「オステナウ」ノ南東方及「ワンデルップ」ー「コルンド」街道上ニ在ル諸村ノ北西方ヲ過キ

次テ北西カニ向ヒ「レーヴェンステット」「ヨルデルンド」「ゴルデルンド」ノ南西方及「コルケルハイデ」「ヘーゲル」ノ北東方ヲ過キ「ゾホルム」ノ東方約一吉米、「ゾホルメル、アウ」ト「トンデルン」郡ノ南境トノ會合點ニ於ケル「ゾホルメル、アウ」ノ彎曲部ニ至リ

次テ該境界ヲ進ミ北海ニ至リ

次テ「フォール」「アムルム」兩島ノ南方及「オランド」「ランゲネス」兩島ノ北方ヲ過ク

一　獨逸國軍隊及官憲（州知事、縣知事、郡長、警察區長、市長ヲ含ム）ハ本條約實施後十日以内ニ前記境界線ノ北ニ位スル地帶ヨリ撤退スヘシ

右地帶内ニ設立セラレタル勞兵會ハ同期間内ニ解散スヘシ該會員ニシテ他ノ地方ニ出生シ且本條約實施ノ際其ノ職務ヲ行フ者又ハ千九百十九年三月一日以後其ノ職務ヲ去リタル者ハ共ニ右地帶ヨリ撤退セシムヘシ

前記地帶ハ直ニ之ヲ五名ノ委員ヨリ成ル國際委員會ノ權限ノ下ニ置クヘシ該委員ノ中三名ハ主タル同盟及聯合國之ヲ任命シ諮威國政府及瑞典國政府ニ對シ其ノ各一名ノ任命ヲ委囑スヘシ右兩國政府任命ヲ爲ササルトキハ右二名ノ委員ハ主タル同盟及聯合國之ヲ選任ス

右委員會ハ施政上ノ一般權能ヲ有シ必要ノ場合ニ於テハ所要兵力ノ援助ヲ受クヘシ殊ニ委員會ハ撤退シタル獨逸國官憲ノ地位ヲ充ス爲直ニ措置ヲ講シ且必要アルトキハ自ラ獨逸國官憲ニ撤退ヲ命シ及必要ナル

（外務版）

ス ル 十 八 歳 以 上 ノ 者 ヲ 丁 抹 国 領 域 ニ 居 住 ス ル 丁 抹 国 ノ 権 利 ヲ 有 ス

丁 抹 国 ニ 復 帰 ス ル 丁 抹 国 ノ 領 域 ニ 定 住 ス ル 十 八 歳 以 上 ノ 者 ノ 総 数 ノ 過 半 数 ノ 投 票 ニ 依 リ 之 ヲ 決 ス

第 百 十 四 條

領 域 ノ 譲 渡 ニ 関 ス ル 丁 抹 国 ノ 義 務 ニ 付 テ ハ 丁 抹 国 ハ 千 九 百 十 四 年 四 月 三 十 日 ノ 条 約 ニ 依 リ 確 認 セ ラ レ タ ル 地 域 ノ 割 合 及 性 質 ノ 第 九 編（財 政 條 項）第 二 百 五 十 四 條 ノ 規 定 ニ 依 リ 之 ヲ 決 定 ス ル コ ト ヲ 得 ル ヤ ウ ニ 丁 抹 国 ハ 全 部 又 ハ 一 部 ヲ 領 土 ノ 譲 渡 ニ 関 ス ル 国 際 会 議 ニ 提 出

諸點ヲ連結スル諸線ノ間ニ在ル構設濟又ハ構設中ノ一切ノ海陸軍用ノ工作物、築城及建物ヲ包含スヘシ

(イ) 北緯　五十四度十分四十九秒　東經　七度五十三分三十九秒
(ロ) 北緯　五十四度十分三十五秒　東經　七度五十四分十八秒
(ハ) 北緯　五十四度十分十四秒　東經　七度五十四分
(ニ) 北緯　五十四度十分十七秒　東經　七度五十三分三十七秒
(ホ) 北緯　五十四度十分四十四秒　東經　七度五十三分二十六秒

前記ノ築城、軍事建設物及港ハ之ヲ再構設スヘカラス又將來何等之ニ類スル工作物ヲ構設スヘカラス

第十四款　露西亞及露西亞諸國

第百十六條

獨逸國ハ千九百十四年八月一日ニ於テ前露西亞帝國ノ一部タリシ一切ノ地域ノ獨立ヲ永久不變ノモノトシテ承認シ且之ヲ尊重スヘキコトヲ約ス

獨逸國ハ第九編(財政條項)第二百五十九條及第十編(經濟條項)第二百九十二條ノ規定ニ從ヒ「ブレスト、トリウスク」條約竝其ノ露西亞過激派政府ト締結シタル一切ノ條約及取極ノ失效ヲ確認ス

同盟及聯合國ハ露西亞國カ本條約ノ原則ニ基ク同復及賠償ヲ獨逸國ヨリ取得スルノ權利ヲ明確ニ留保ス

第百十七條

獨逸國ハ同盟及聯合國カ千九百十四年八月一日ニ於ケル前露西亞帝國ノ全部又ハ一部ニ於テ現ニ存シ又ハ將來成立スル諸國ト締結スヘキ一切ノ條約又ハ取極ノ完全ナル效力ヲ承認シ且右條約又ハ取極中ニ決定スル此等諸國ノ國境ヲ承認スヘキコトヲ約ス

第四編　獨逸國外ニ於ケル獨逸國ノ權利及利益

第百十八條

獨逸國ハ本條約ニ定メタル其ノ歐羅巴ニ於ケル國境外ノ地域ニ於テ自國又ハ其ノ同盟國ノ領土內ニ又ハ該領土ニ關シテ有スル一切ノ權利、權原及特權竝發生事由ノ如何ヲ問ハス同盟及聯合國ニ對シテ有スル一切ノ權利、權原及特權ヲ拋棄ス

獨逸國ハ前項ノ規定實行ノ爲主タル同盟及聯合國カ必要ナル場合ニハ第三國ト協議シテ現在又ハ將來ニ於テ執ルコトアルヘキ措置ヲ承認シ且之ニ遵由スルコトヲ茲ニ約ス

獨逸國ハ殊ニ特定事項ニ關スル左ノ各條ヲ受諾スルコトヲ聲明ス

第一款　獨逸國殖民地

第百十九條

獨逸國ハ其ノ海外屬地ニ關スル一切ノ權利及權原ヲ主タル同盟及聯合國ノ爲ニ拋棄ス

第百二十條

前記地域ニ於ケル一切ノ動產及不動產ニシテ獨逸帝國又ハ獨逸各邦ニ屬スルモノハ總テ第九編(財政條項)第二百五十七條ニ規定スル條件ニ從ヒ該地域ニ對シ權限ヲ行使スル政府ニ歸屬スヘシ右財產ノ性質ニ關スル爭議ニ付テハ該地方ノ裁判所ノ判決ヲ以テ確定ト爲スヘシ

第百二十一條

第十編(經濟條項)第一款及第四款ノ規定ハ前記地域ニ對スル施政ノ形式如何ニ拘ラス該地域ニ付之ヲ適用スヘシ

第百二十二條

前記地域ニ對シ權限ヲ行使スル政府ハ該地域內ニ在ル獨逸國民ノ送還ニ關シ及歐羅巴系獨逸國臣民ノ該地域ニ於ケル居住、財產保有、營業又ハ職業ヲ許可シ又ハ禁止スルノ條件ニ關シ其ノ適當ト認ムル處置ヲ執ルコトヲ得

第百二十三條

第九編(財政條項)第二百六十條ノ規定ハ獨逸國海外屬地ニ於ケル公共工事ノ實行又ハ經營ノ爲獨逸國民ノ締結シタル一切ノ取極及該取極ニ基キ獨逸國民ニ許與シ又ハ之ト締結シタル下請負又ハ契約ニ之ヲ適用スヘシ

第百二十四條

獨逸國ハ佛蘭西國政府カ提出シテ賠償委員會ノ承認ヲ受クヘキ見積ニ從ヒ佛蘭西國民カ千九百年一月一日ヨリ千九百十四年八月一日ニ至ル期間ニ「カメルーン」又ハ其ノ國境地帶ニ於テ獨逸國文武官憲及獨逸國私人ノ行爲ニ因リ受ケタル損害ノ賠償ヲ支拂フコトヲ茲ニ約ス

第百二十五條

獨逸國ハ赤道地帶阿弗利加ニ關スル千九百十一年十一月四日及千九百十二年九月二十八日ノ佛蘭西國ト ノ條約及取極ニ基ク一切ノ權利ヲ拋棄ス

獨逸國ハ佛蘭西國政府カ提出シテ賠償委員會ノ承認ヲ受クヘキ見積ニ從ヒ右條約及取極ニ依リ獨逸國ノ爲ニ爲シタル一切ノ保證金、貸金、前貸金等ヲ佛蘭西國政府ニ支拂フコトヲ約ス

第百二十六條

獨逸國ハ武器及火酒ノ取引ニ關シ竝千八百八十五年二月二十六日ノ伯林一般議定書、千八百九十年七月二日ノ「ブリユッセル」一般議定書及之ヲ補足シ又ハ變更スル條約ニ規定スル事項ニ關シ同盟及聯合國ノ人ノ其ノ敵國ト他國トノ間ニ締結シタル又ハ締結スルコトアルヘキ取極ヲ受諾シ且遵守スルコトヲ約ス

第百二十七條

舊獨逸國海外屬地ノ土人ハ該地域ニ對シ權限ヲ行使スル政府ノ外交上ノ保護ヲ受クルノ權利ヲ有スヘシ

第二款　支那國

第百二十八條

獨逸國ハ千九百一年九月七日北京ニ於テ署名シタル最終議定書ノ規定竝之ヲ補足スル一切ノ附屬書、公文及文書ヨリ生スル利益及特權ヲ總テ支那國ノ爲ニ拋棄ス獨逸國ハ又該議定書ニ基ク千九百十七年三月十四日以後ノ償金請求權ヲ支那國ノ爲ニ拋棄ス

第百二十九條

締約國ハ本條約實施後各自國ノ關スル限リ左ノ協定ヲ適用スヘシ

一　支那新關稅率ニ關スル千九百二年八月二十九日ノ協定

二　黃浦江ニ關スル千九百五年九月二十七日ノ協定及千九百十二年四月四日ノ追加假協定

但シ支那國ハ前記協定ニ依リ獨逸國ニ許與シタル利益又ハ特權ヲ今後獨逸國ニ認ムルノ義務ナシ

第百三十條

獨逸國ハ天津及漢口ニ在ル獨逸專管居留地其ノ他支那國領土內ニ存在シ又ハ存在スルコトアルヘキ獨逸國政府所屬ノ一切ノ建築物、埠頭及臺船、兵營、堡壘、兵器及軍需品、各種艦船、無線電信設備其ノ他ノ公財產ヲ

(外務省版)

第一類　一般共通條約

第一編　平和條約

支那國ハ露國、獨逸國及墺國ニ關スル一切ノ權利名義及特權ヲ拋棄ス但シ本編第ノ規定ノ適用ヲ妨ケス

外交官又ハ領事官ノ住宅又ハ事務所ニ使用シ千九百一年九月七日ノ最終議定書ノ前記第十一條ニ掲ケタル土地物件中ニ包含セラルヽ支那國政府ノ所有ニ屬スル一切ノ建物ハ清國政府ニ於テ之ヲ保護スヘキコトヲ約ス

條約實施當時ノ常事國ノ外交代表者ノ同意アルニ非サレハ所謂北京公使館區域内ニ在ル獨逸ノ公私財産ノ處分ニ付何等ノ處置ヲ執ルコトヲ得ス

獨逸國ハ「リベリア」國ニ於ケル獨逸國人ノ財產、權利及利益ニ對シ第十項ノ規定ヲ適用セサルヘキ措置ヲ執ラサルヘキコトヲ約ス

獨逸國ハ「リベリア」國ニ關スル千九百十一年及千九百十二年ノ協定ニ基キ獨逸國人ノ關稅徵收官ノ任命ニ關スル一切ノ權利名義及特權ヲ、殊ニ「リベリア」國ニ於ケル獨逸國人ノ關稅徵收官ノ任命ニ關スル一切ノ權利ヲ拋棄ス

獨逸國ハ「リベリア」國ニ於ケル獨逸國人ノ財產ノ清算ニ關スル一切ノ權利ヲ拋棄ス

獨逸國ハ「リベリア」國ニ於ケル獨逸國人ノ財產、權利及利益ニ對シ第十項ノ規定ヲ適用セサルヘキ措置ヲ執ラサルコトヲ約

國內ニ於ケル獨逸國民所屬ノ財産ト同樣ニ之ヲ取扱フヘシ

第百四十五條

獨逸國政府ハ摩洛哥國立銀行ノ資本金中獨逸國ノ持分ニ相當スル株券ヲ佛蘭西國政府ノ指定シタルボニ讓渡スルコトヲ確保スヘシ該株券ノ價額ハ賠償委員會ノ評定ヲ經タル上賠償金額ニ充當スル爲獨逸國ノ貸方トシテ賠償委員會ニ之ヲ支拂フヘシ獨逸國政府ハ之ニ依リ權利ヲ喪失シタル

獨逸國民ニ對シ賠償ノ責ニ任スヘシ

前記讓渡ハ獨逸國民カ摩洛哥國立銀行ニ對シ負擔シタル金錢債務ノ辨濟ヲ害スルコトナクシテ行ハルヘシ

第百四十六條

獨逸國ニ輸入スル摩洛哥國ノ貨物ハ佛蘭西國ノ貨物ニ許與セラルル待遇ヲ享受スヘシ

第六款　埃及國

第百四十七條

獨逸國ハ千九百十四年十二月十八日大不列顛國カ宣言シタル埃及國ニ對スル保護權ヲ承認シ且埃及國ニ於ケル治外法權ヲ拋棄スルコトヲ聲明ス

右拋棄ハ千九百十四年八月四日ヨリ其ノ效力ヲ有ス

第百四十八條

獨逸國カ埃及國ト締結シタル一切ノ條約、取極、協定及契約ハ千九百十四年八月四日以後廢棄セラレタルモノト看做ス

獨逸國ハ如何ナル場合ニ於テモ前記文書ヲ援用スルコトヲ得ス又大不列顛國ノ他ノ諸國トノ間ニ生スルコトアルヘキ埃及國ニ關スル商議ニ何等干渉セサルコトヲ約ス

第百四十九條

一般管轄權ヲ有スル裁判所ヲ設置スル埃及國裁判所構成法施行ニ至ルマテハ埃及國王殿下ノ發布スル命令ニ依リ英國領事裁判所ニ於テ獨逸國ノ國民及財産ニ對スル裁判權ヲ行使シ得ルノ規定ヲ設クヘシ

第百五十條

埃及國政府ハ埃及國ニ於ケル獨逸國民ノ地位及其ノ居住營業ノ條件ヲ定ムルコトニ付行動ノ完全ナル自由ヲ有スヘシ

第百五十一條

獨逸國ハ埃及太守殿下カ埃及國公債委員會ニ關シ發布シタル千九百四年十一月二十八日ノ命令ヲ廢棄シ又ハ埃及國政府ノ希望スル變更ヲ同命令ニ加フルコトニ同意ス

第百五十二條

獨逸國ハ自國ノ關スル限リ蘇士運河ノ自由航行ニ付千八百八十八年十月二十九日「コンスタンティノープル」ニ於テ署名シタル條約ニ依リ土耳其國皇帝陛下ニ付與セラレタル權能ヲ英國政府ニ移轉スルコトニ同意ス

獨逸國ハ埃及國ノ衞生、海事及檢疫委員會ニ干與スル一切ノ權利ヲ拋棄シ又其ノ關スル限リ右委員會ノ權能ヲ埃及國官憲ニ移轉スルコトニ同意ス

第百五十三條

埃及國ニ於ケル獨逸帝國及獨逸各邦ノ一切ノ財産及所有物ハ無償ニテ埃及國政府ニ歸屬ス

右條項ノ適用ニ付テハ獨逸帝國及各邦ノ財産及所有物ニハ帝室、帝國又ハ各邦ノ一切ノ財産及前獨逸皇帝其ノ他ノ王族ノ私財産ヲ包含スルモノト認ムヘシ

埃及國內ニ於ケル獨逸國民所屬ノ一切ノ動産及不動産ハ第十編（經濟條項）第三款及第四款ニ依リ之ヲ處理スヘシ

第百五十四條

獨逸國ニ輸入スル埃及國ノ貨物ハ英國ノ貨物ニ許與セラルル待遇ヲ享受スヘシ

第七款　土耳其國及勃爾牙利國

第百五十五條

獨逸國ハ土耳其國及勃爾牙利國ニ於テ獨逸國又ハ其ノ國民ノ請求スルコトアルヘキ一切ノ權利、利益及特權ニシテ本條約ニ其ノ規定ヲ設ケサルモノニ關シ同盟及聯合國カ土耳其國及勃爾牙利國ト爲スコトアルヘキ一切ノ協定ヲ認諾スヘキコトヲ約ス

第八款　山東

第百五十六條

獨逸國ハ千八百九十八年三月六日獨逸國ト支那國トノ間ニ締結シタル條約及山東省ニ關スル他ノ一切ノ協定ニ依リ取得シタル權利、權原及特權ノ全部殊ニ膠州灣地域、鐵道、鑛山及海底電信線ニ關スルモノヲ日本國ノ爲ニ拋棄ス

青島濟南府間ノ鐵道（其ノ支線ヲ含ミ竝各種ノ附屬財産、停車場、工場、固定物件及車輛、鑛山、鑛業用設備及材料ヲ包含ス）ニ關スル一切ノ獨逸ノ權利ハ之ニ附帶スル一切ノ權利及特權ト共ニ日本國之ヲ取得保持ス

青島上海間及青島芝罘間ノ獨逸國有海底電信線ハ之ニ附帶スル一切ノ權利、特權及財産ト共ニ無償且無條件ニテ日本國之ヲ取得ス

第百五十七條

膠州灣地域內ニ於ケル獨逸國有ノ動産及不動産竝該地域ニ關シ獨逸國カ直接又ハ間接ニ施設若ハ改良ヲ爲シ又ハ費用ヲ負擔シタル爲其ノ主張シ得ヘキ一切ノ權利ハ無償且無條件ニテ日本國之ヲ取得保持ス

第百五十八條

獨逸國ハ膠州灣地域ノ民政、軍政、財政、司法其ノ他ニ關スル記錄、登錄簿、圖面、證書其ノ他各種ノ文書ヲ其ノ所在ノ如何ニ拘ラス本條約實施後三月以內ニ日本國ニ引渡スヘシ

獨逸國ハ前二條ニ規定シタル權利、權原又ハ特權ニ關スル一切ノ條約、協定又ハ取極ニ付其ノ詳細ヲ前記期間內ニ日本國ニ通告スヘシ

第五編　陸軍海軍及航空條項

各國軍備ノ一般的制限ノ企圖ヲ實現セシムル爲獨逸國ハ左ニ掲クル陸軍海軍及航空條項ヲ嚴ニ遵守スルコトヲ約ス

第一款　陸軍條項

第一章　獨逸國陸軍ノ兵力及幹部

第百五十九條

獨逸國陸軍ハ左ニ規定スル所ニ從ヒ復員シ且縮少スヘシ

第百六十條

一　獨逸國陸軍ハ千九百二十年三月三十一日迄ニ之ヲ歩兵七師團及騎兵三師團以下ト爲スコトヲ要ス

獨逸國ヲ組織スル諸邦ノ陸軍總兵員數ハ前記ノ期限以後將校及補充部隊ノ員ヲ合セ十萬人ヲ超ユルコトヲ得ス獨逸國陸軍ハ專ラ其ノ版圖內

ノ秩序維持及國境ノ警備ニ從事スヘキモノトス

將校ノ總員數ハ其ノ編成ノ如何ヲ問ハス司令部ノ要員ヲ合セ四千人ヲ超ユルコトヲ得ス

二　師團及軍團司令部ノ編制ハ本款第一附屬表ニ依ル

前記附屬書ニ掲クル歩兵、砲兵及工兵ノ部隊竝特種勤務部隊ノ數竝人員數ハ超過スヘカラサル最大限ヲ示スモノトス

左ノ部隊ハ各其ノ補充部隊ヲ有スルコトヲ得

歩兵聯隊
騎兵聯隊
野戰砲兵聯隊
工兵大隊

三　師團ハ之ヲ二箇ヲ超ユル軍團司令部ノ下ニ編合スルコトヲ得ス

軍隊ノ統率又ハ戰爭準備ノ爲右ト異リテ編合セラレタル軍隊又ハ他ノ機關ヲ維持シ又ハ設クルコトヲ禁止ス

獨逸國參謀本部及之ニ類似スル一切ノ機關ハ之ヲ廢止スヘク且如何ナル形式ヲ以テスルモ再ヒ之ヲ設置スルコトヲ得ス

獨逸國各邦ノ陸軍省及其ノ附屬諸官衙ニ在ル將校又ハ之ト同一ノ地位ニ在ル者ノ員數ハ三百人ヲ超ユヘカラス尙此ノ人員ハ本條第一號第三項ニ規定スル最大限四千人ノ中ニ包含セラルルモノトス

第百六十一條

本條約規定ノ兵員中ニ包含セサル文官ヲ以テ組織スル軍政諸機關ノ人員ハ其ノ各級ニ於テ千九百十三年度豫算ニ計上シタルモノノ十分ノ一ニ之ヲ減スヘシ

第百六十二條

獨逸國各邦ニ於ケル稅關吏、森林看守及海岸監視者ノ如キ官吏又ハ傭員ノ數ハ千九百十三年ノ現在數ヲ超ユヘカラス

地方又ハ市町村警察ノ憲兵及官吏又ハ傭員ノ數ハ常該地方又ハ市町村ニ於ケル千九百十三年以後ノ人口增加ニ相應スル範圍ニ限リ之ヲ增員スルコト得

前記ノ官吏及傭員ハ軍事教育ノ爲之ヲ召集スルコトヲ得ス

第百六十三條

第百六十條ニ規定スル獨逸國陸軍兵力ノ縮少ハ左ノ方法ニ依リ漸次之ヲ施行スルコトヲ得

本條約實施後三月以內ニ總兵力ヲ二十萬人ニ縮少スルコトヲ要ス但シ其ノ部隊ノ數ハ第百六十條ニ規定スルモノノ二倍ヲ超ユルコトヲ得ス

前項ノ期間滿了ノ時及爾後每三月ノ終ニ於テ主タル同盟及聯合國ノ軍事專門家ノ會議ハ次ノ三月間ニ行フヘキ縮少ノ程度ヲ決定シ以テ遲クトモ千九百二十年三月三十一日迄ニ獨逸國ノ總兵力ヲ第百六十條ニ規定スル最大限十萬人ヲ超エサルニ至ラシムルモノトス右各次ノ縮少ニ際シテハ同條ニ規定スル將校數ト下士卒數トノ比率及各種部隊間ノ比率ヲ維持スヘシ

第二章　兵器、彈藥及材料

第百六十四條

獨逸國カ國際聯盟加入ヲ許容セラルルニ至ル迄同國陸軍ハ本款第二附屬表ノ定數ヲ超ユル數ノ兵器ヲ有スルコトヲ得ス但シ專ラ臨時必要ノ補充ニ供スル爲携帶兵器ニ在リテハ二十五分ノ一、火砲ニ在リテハ五十分ノ一ヲ超エサル範圍內ニ於テ任意其ノ數ヲ增加スルコトヲ得

獨逸國ハ前記附屬表ノ兵器ノ定數カ其ノ國際聯盟ノ一國ト成サタル後ト雖聯盟理事會ニ於テ之ヲ修正スル迄引續キ效力ヲ有スヘキコト及此ノ問題ニ關シ聯盟理事會ノ決定ヲ嚴守スヘキコトヲ約ス

第百六十五條

本條約實施ノ時ヨリ第百六十條ニ規定スル千九百二十年三月三十一日ニ至ル期間ニ於テ獨逸國カ有スルコトヲ得ヘキ火砲、機關銃、迫撃砲及小銃ノ最大數竝彈藥及裝備ノ量ト本款第三附屬表ノ定數トノ比率ハ第百六十三條ニ依リ逐次縮少セラルル獨逸國陸軍兵力ト第六十條ニ依リ承認セラルル兵力トノ比率ニ均シカルヘシ

第百六十六條

獨逸國陸軍カ任意ニ處分シ得ヘキ彈藥ノ貯藏量ハ千九百二十年三月三十一日ニ於テ本款第三附屬表ノ定數ヲ超ユルコトヲ得ス

獨逸國政府ハ右期限迄ニ前項ノ貯藏彈藥ヲ特定ノ地點ニ集積シ其ノ地點ヲ主タル同盟及聯合國政府ニ通知スヘシ獨逸國政府ハ右ノ外彈藥ノ貯藏所、補給廠又ハ豫備彈藥ヲ存置スルコトヲ得ス

第百六十七條

獨逸國カ存置ヲ許サレタル築城工事、堡壘、陸地要塞及海岸要塞ノ兵備ヲ構成スル火砲ノ數及口徑ハ本條約實施ノ日ノ現在ニ依リ獨逸國政府ヨリ之ヲ主タル同盟及聯合國政府ニ通知スヘク且之ヲ以テ超過シ得サル最大限トス

前記火砲用ノ彈藥ノ最大貯藏量ハ本條約實施後二月以內ニ之ヲ左ノ定率ニ低減シ且之ヲ持續スヘシ

口徑十珊牛以下ノ火砲　一門ニ付　千五百發

口徑十珊牛ヲ超エル火砲　一門ニ付　五百發

兵器、彈藥其ノ他ノ軍用材料ハ主タル同盟及聯合國政府ニ通知シテ其ノ承認ヲ經タル地ノ工場又ハ製造所ニ限リ之ヲ製造スルコトヲ得主タル同盟及聯合國政府ハ右工場又ハ製造所ノ數ヲ制限スルノ權利ヲ留保ス

兵器、彈藥其ノ他一切ノ軍用材料ノ製造、準備、貯藏又ハ設計ヲ目的トスル前記以外ノ設備ハ本條約實施後三月以內ニ總テ之ヲ閉鎖スヘシ承認セラレタル彈藥ノ補給廠トシテ使用スルモノヲ除クノ外一切ノ軍用工場ニ付亦同シ右軍用工場ニ使用スル人員ハ同一期間內ニ之ヲ解傭スヘシ

第百六十九條

獨逸國內ニ在ル獨逸國ノ兵器、彈藥及軍用材料（對航空機材料ヲ含ム）ニシテ承認セラレタル數量ヲ超ユルモノハ本條約實施後二月以內ニ破壞又ハ廢棄ノ爲之ヲ主タル同盟及聯合國政府ニ引渡スコトヲ要ス承認セラレタル獨逸國陸軍ノ裝備ニ必要ト認メラルルモノヲ除クノ外軍用材料ノ製造ヲ目的トスル特別設備ニ付亦同シ

前項ノ引渡ハ主タル同盟及聯合國政府ノ指定スル獨逸國敵國內ノ地點ニ於テ之ヲ實行スヘシ

獨逸國ノ原產ニ非サル兵器、彈藥及軍用材料（對航空機材料ヲ含ム）ハ其ノ狀態ノ如何ヲ問ハス右期間內ニ之ヲ主タル同盟及聯合國政府ニ引渡スヘク同政府ハ其ノ處分ヲ決スヘシ

獨逸國陸軍兵力ノ逐次縮少ノ結果第二及第三附屬表ノ定數ヲ超過スルニ至リタル兵器、彈藥ハ第百六十三條ノ會議ニ於テ決定スル期間內ニ右同樣之ヲ引渡スコトヲ要ス

第七十條

獨逸國ニ對スル兵器、彈藥及一切ノ軍用材料ノ輸入ハ嚴ニ之ヲ禁止ス
前項ノ規定ハ外國ノ爲ニスル兵器、彈藥及一切ノ軍用材料ノ製造及外國ニ對スル其ノ輸出ニ之ヲ適用ス

第七十一條

窒息性、毒性其ノ他ノ瓦斯及之ニ類似スル一切ノ液體、材料又ハ考案ハ其ノ使用ヲ禁止セラレアルニ因リ獨逸國內ニ於テ之ヲ製造シ又ハ輸入スルコトヲ嚴禁ス
前項ノ規定ハ特ニ右物品又ハ考案ノ製造、貯藏及使用ヲ目的トスル材料ニ付之ヲ適用ス
裝甲車、「タンク」及軍用ニ供シ得ヘキ之ニ類似スル一切ノ製品亦之カ製造及獨逸國ヘノ輸入ヲ禁止ス

第七十二條

獨逸國政府ハ戰時中獨逸國ノ使用シ又ハ使用ノ目的ヲ以テ準備シタル一切ノ爆藥、有毒材料其ノ他類似ノ化學製品ノ性質及製造方法ヲ本條約實施後三月以內ニ主タル同盟及聯合國政府ニ開示スヘシ

第三章　募兵及軍事教育

第七十三條

獨逸國ニ於ケル一般業務兵役制度ハ之ヲ廢止スヘシ
獨逸國陸軍ハ志願兵制度ノミニ依リ之ヲ組織シ且補充スルコトヲ得

第七十四條

下士及兵卒ノ服役期間ハ繼續十二年タルコトヲ要ス
服役期間滿了前理由ノ如何ヲ問ハス服役ヲ免セラルル下士及兵卒ノ數ハ每年第百六十條第一號第二項ノ總兵員定數ノ百分ノ五ヲ超ユヘカラス

第七十五條

獨逸國陸軍ニ引續キ在職スル將校ハ少クトモ四十五歲迄服役スルノ義務ヲ約スルコトヲ要ス
新ニ任命セラルル將校ハ少クトモ繼續二十五年間ノ現役服務ヲ約スルコトヲ要ス
從前獨逸國陸軍ノ編成ニ屬シタル將校ニシテ存置ヲ承認セラレタル部隊ニ引續キ在職スルニ非サルモノハ學理ト實地トヲ問ハス一切ノ軍事教育ニ參加スルコトヲ得ス且何等軍事上ノ義務ヲ負擔スルコトナカルヘシ
服役期間滿了前理由ノ如何ヲ問ハス服役ヲ免セラルル將校ノ數ハ每年第百六十條第一號第三項ノ將校總員定數ノ百分ノ五ヲ超ユヘカラス

第七十六條

本條約實施後二月ノ終ニ於ケル獨逸國內陸軍學校ノ數ハ承認セラレタル部隊ノ將校ヲ補充スル爲絕對ニ必要ナルモノニ限ル右學校ハ各兵科ニ付一校ノ割合ヲ以テ專ラ其ノ兵科將校ノ補充ヲ目的トスヘキモノトス
前記學校ノ課程ヲ修ムルノ許可ヲ得タル學生ノ數ハ將校定員中充足スヘキ闕員ノ數ト嚴ニ比例スルコトヲ要ス此等學生及幹部ノ數ハ第百六十條第一號第二項及第三項ノ兵員定數中ニ算入スヘキモノトス
依テ獨逸國內ニ在ル陸軍大學校又ハ之ニ類似スル機關及將校、將校候補者（アスピランテン）、幼年生徒、下士又ハ下士候補者（アスピランテン）ノ爲設置シタル各種陸軍學校ハ右ニ規定スルモノヲ除クノ外右期間內ニ總テ之ヲ廢止スヘシ

第七十七條

教育機關、大學、在鄉軍人會、射擊協會、旅行協會其ノ他團員ノ年齡ヲ問ハス各種ノ團體ハ何等軍事上ノ事項ニ干與スヘカラサルモノトス
前項ノ團體ハ殊ニ軍事又ハ兵器ノ使用ニ付其ノ團員ヲ教育訓練シ又ハ其ノ團員ヲシテ教育訓練ヲ受ケシムルコトヲ禁止セラルヘシ
前記ノ會、團體、教育機關及大學ハ陸軍省其ノ他ノ陸軍官憲ト何等ノ關係ヲ有スルコトヲ得ス

第七十八條

動員又ハ之ニ關スル一切ノ措置ハ之ヲ禁止ス
如何ナル場合ト雖軍隊、官衙又ハ司令部ハ定員外ノ幹部ヲ有スルコトヲ得ス

第七十九條

獨逸國ハ本條約實施後陸軍、海軍又ハ航空委員ヲ外國ニ駐劄セシメ若ハ派遣セス又ハ其ノ出國ヲ容認セサルコトヲ約ス又獨逸國ハ其ノ國民ニシテ外國ノ陸海若ハ空軍ニ編入セラルル爲又ハ外國ニ於テ陸海若ハ空軍ノ訓練ヲ援助シ其ノ他其ノ教育ヲ爲スノ目的ヲ以テ外國ノ陸海若ハ空軍ニ附屬スル爲獨逸國領土ヲ離ルルモノヲ防止スヘキ適當ノ措置ヲ執ルコトヲ約ス
同盟及聯合國ハ其ノ關スル限リ本條約實施後其ノ陸海又ハ空軍ノ軍事教育ヲ援助セシムル目的ヲ以テ獨逸國民ヲ其ノ陸海又ハ空軍ニ編入シ又ハ附屬セシメ其ノ他陸海又ハ空軍ノ教育トシテ獨逸國民ヲ雇入レサルコトヲ約ス
尤モ本條ノ規定ハ佛蘭西國カ佛蘭西國陸軍法令ニ依リ外人聯隊ノ募兵ヲ爲スノ權利ヲ妨ケサルモノトス

第四章　築城

第一類　一般共通條約　—　第二編　平和條約

第八十條

萊因河ノ東方五十吉米ニ引カレタル線ノ西方ニ位スル獨逸國版圖內ニ在ル一切ノ築城工事、堡壘及陸地要塞ハ其ノ武裝ヲ解除シ且防備ヲ撤廢スヘシ
前記ノ築城工事、堡壘及陸地要塞ニシテ同盟及聯合軍ノ占領地域內ニ在ラサルモノハ本條約實施後二月以內ニ其ノ武裝ヲ解除シ爾後四月以內ニ其ノ防備ヲ撤廢スヘシ同盟及聯合軍ノ占領地域內ニ在ルモノハ同盟及最高統帥部ノ定ムル期間內ニ其ノ武裝ヲ解除シ且防備ヲ撤廢スヘシ
本條第一項ノ地帶內ニ於テハ其ノ性質ノ如何及重要ノ程度ヲ論セス新築城ノ構設ヲ禁止ス
獨逸國ノ南方及東方國境ニ於ケル築城工事ハ現狀ノ儘之ヲ存置スヘキモノトス

第一附屬表　軍團司令部、步兵師團及騎兵師團ノ編制

左ノ諸表ハ獨逸國ニ課スヘキ確定ノ編制ヲ示スモノニ非サルモ諸表中ニ掲ケル員數（部隊及人員）數ハ如何ナル場合ニ於テモ超過スヘカラサル最大限ヲ示スモノトス

一　軍團司令部

部隊	承認最大數	各部隊ノ最大人員
	將校	下士卒
軍團司令部	二	三〇　一五〇
軍團司令部合計	—	六〇　三〇〇

二　歩兵師團ノ編制

部隊	一師團内各部隊ノ最大數	各部隊ノ最大人員 將校	各部隊ノ最大人員 下士卒
歩兵師團司令部	一	二五	七〇
師團歩兵司令部	一	四	三〇
師團砲兵司令部	一	四	三〇
歩兵聯隊（各歩兵聯隊ハ歩兵大隊三ヨリ又各大隊ハ歩兵中隊三及機關銃中隊一ヨリ成ル）	三	七〇	二、三〇〇
迫撃砲中隊	三	六	一五〇
師團騎兵中隊	一	六	一五〇
野戰砲兵聯隊（各野戰砲兵聯隊ハ砲兵大隊三ヨリ各大隊ハ砲兵中隊三ヨリ成ル）	一	八五	一、三〇〇
工兵大隊（本工兵大隊ハ工兵中隊二、橋船隊一、探照燈班一ヨリ成ル）	一	一二	四〇〇
通信隊（本通信隊ハ電話隊一、聽取班一、軍用鳩隊一ヨリ成ル）	一	一二	三〇〇
師團衛生隊	一	二〇	四〇〇
諸廠及輜重隊	一	一四	八〇〇
歩兵師團合計	一	四一〇	二〇、八三〇

三　騎兵師團ノ編制

部隊	一師團内各部隊ノ最大數	各部隊ノ最大人員 將校	各部隊ノ最大人員 下士卒
騎兵師團司令部	一	一五	五〇
騎兵聯隊（各聯隊ハ中隊四ヨリ成ル）	六	四〇	八〇〇
騎砲兵大隊（中隊三）	一	二〇	四〇〇
騎兵師團合計	一	二七五	五、二五〇

第二附屬表　歩兵師團七、騎兵師團三及軍團司令部二ニ對スル兵器最大限數表

品目	歩兵師團（一）	歩兵師團七ニ對スル分（二）	騎兵師團（三）	騎兵師團三ニ對スル分（四）	軍團司令部二（五）	（二）（四）（五）欄ノ合計（六）
歩兵銃	三、〇〇〇	八四、〇〇〇	一	一	本編制ノ所要數ハ師團歩兵ノ過剩兵器ヨリ補給スルコトヲ要ス	八四、〇〇〇
騎銃	一	一	六、〇〇〇	一八、〇〇〇		一八、〇〇〇
重機關銃	一〇八	七五六	三	三六		七九二
輕機關銃	一六二	一、一三四	一	一		一、一三四
中迫撃砲	九	六三	一	一		六三
輕迫撃砲	二七	一八九	一	一		一八九
七・七珊野砲	二四	一六八	三	三六		二〇四
一〇・五珊榴彈砲	三	八四	一	一		八四

第三附屬表　承認最大貯藏量表

品目	承認兵器最大數	一銃一砲ノ彈藥定數	最大數合計
歩兵銃	八四、〇〇〇	四〇〇發	四〇、八〇〇、〇〇〇發
騎銃	一八、〇〇〇		
重機關銃	七九二	八、〇〇〇發	一五、四〇八、〇〇〇發
輕機關銃	一、一三四		
中迫撃砲	六三	四〇〇發	二五、二〇〇發
輕迫撃砲	一八九	八〇〇發	一五一、二〇〇發
野戰砲 七・七珊野砲	二〇四	一、〇〇〇發	二〇四、〇〇〇發
野戰砲 一〇・五珊榴彈砲	八四	八〇〇發	六七、二〇〇發

第二款　海軍條項

第百八十一條

本條約實施後二月ノ期間滿了後ニ於テ獨逸國常備海軍力ハ左ノ定數ヲ超エサルコトヲ要ス

「ドイチュランド」又ハ「ロートリンゲン」型戰艦　六隻
輕巡洋艦　六隻
驅逐艦　十二隻
水雷艇　十二隻

第一類　一般共通條約　第二編　平和條約

又ハ第百九十條ノ規定ニ依リ右艦艇ノ代艦トシテ建造セラルル同數ノ艦艇

前項ノ海軍力中ニハ潜水艦ヲ包含セサルモノトス

爾餘ノ艦艇ハ本條約中ニ反對ノ規定ナキ限リ總テ之ヲ豫備ニ編入シ又ハ商業上ノ目的ニ專用スルコトヲ要ス

第百八十二條

第百九十三條ニ規定スル機雷掃海ノ完了ニ至ル迄獨逸國ハ主タル同盟及聯合國政府ノ指定スル隻數ノ機雷掃海船ヲ常備スヘシ

第百八十三條

本條約實施後二月ノ期間滿了後ニ於テ獨逸國海軍所屬總人員ハ艦隊乘員及沿岸防禦、望樓、官衙其ノ他ノ陸上勤務者ヲ合セ各兵種及各階級ノ准士官以上及下士卒ヲ通シテ一萬五千人ヲ超エサルコトヲ要ス

准士官以上ノ總員數ハ千五百人ヲ超ユルヘカラス

前記員數ヲ超過スル人員ハ本條約實施後二月以内ニ之ヲ復員スヘシ

獨逸國ニ於テハ前記員數以外ニ海軍ニ關係アル海上若ハ陸上ノ部隊又ハ豫備兵力ヲ編成スルコトヲ得ス

第百八十四條

獨逸國港灣ニ現在セサル一切ノ獨逸國水上艦艇ハ本條約實施後獨逸國ニ屬セス獨逸國ハ該艦艇ニ對スル一切ノ權利ヲ拋棄ス

千九百十八年十一月十一日ノ休戰條約ニ依リ現ニ同盟及聯合國港灣ニ抑留セラルル獨逸國船舶ハ確實ニ之ヲ引渡シタルモノト聲明ス

現ニ中立國港灣ニ抑留セラルル獨逸國船舶ハ該港灣ニ於テ主タル同盟及聯合國ニ之ヲ引渡スヘシ獨逸國政府ハ本條約實施ノ時ニ其ノ旨中立國ニ

通告スルコトヲ要ス

第百八十五條

次テ列記スル獨逸國水上艦艇ハ本條約實施後二月以内ニ主タル同盟及聯合國政府ニ其ノ指定スル同盟國港灣ニ於テ之ヲ引渡スヘシ

此等艦艇ハ千九百十八年十一月十一日ノ休戰條約第二十三條ノ規定ニ依リ豫メ其ノ武裝ヲ解除スヘシ但シ砲全部ハ之ヲ艦内ニ存置スルコトヲ要ス

戰艦	
「ボルデンブルグ」	「ポーゼン」
「テューリンゲン」	「ウェストファーレン」
「オストフリースランド」	「ラインランド」
「ヘルゴランド」	「ナッサウ」
輕巡洋艦	
「ステッティン」	「ストラールズンド」
「ダンチッヒ」	「アウグスブルグ」
「ミュンヘン」	「コールベルグ」
「リューベック」	「ストウットガルト」

右ノ外主タル同盟及聯合國政府ノ選定スル新式驅逐艦四十二隻及新式水雷艇五十隻

第百八十六條

獨逸國政府ハ本條約實施ノ時ニ現ニ建造中ノ一切ノ獨逸國水上艦艇ノ解體ヲ主タル同盟及聯合國政府ノ監視ノ下ニ行フコトヲ要ス

第百八十七條

左ニ列記スル獨逸國補助巡洋艦及補助特務船ハ武裝ヲ解除シ商船トシテ之ヲ取扱フヘシ

中立國ニ抑留中ノモノ

「ベルリン」	「ザイドリッツ」
「サンク、フェ」	「ヨルク」

獨逸國ニ在ルモノ

「アムモン」	「フェールスト、ビューロー」
「アンスワルド」	「ゲルトルード」
「ボスニア」	「キゴマ」
「コルドバ」	「ルギア」
「カッセル」	「サンタ、エレナ」
「ダニア」	「シュレスウィヒ」
「リガ、オグロ」	「モエーウェ」
「リガ、バルト」	「シエラ、ヴェンタナ」
「サンタ、クレーズ」	「ケムニッツ」
「シュワーベン」	「エミル、ゲオルグ、フォン、ストラウス」
「ゾーリンゲン」	「ハブスブルグ」
「スタイゲルワルド」	「メテオル」
「フランゲン」	「ワルトラウテ」
「ゲンドマール」	「シャルンホルスト」

第百八十八條

獨逸國潜水艦、潜水艦救難船及潜水艦用船渠、（管狀船渠ヲ含ム）ハ本條約實施後一月ノ終ニ於テ總テ主タル同盟及聯合國政府ニ引渡濟ナルコト

ヲ要ス

此等潜水艦、救難船及船渠中主タル同盟及聯合國政府カ自力航行又ハ被曳航ニ堪フト認メタルモノハ指定セラレタル同盟國港灣ニ獨逸國政府之ヲ回航スヘシ

爾餘ノモノ及建造中ノモノハ主タル同盟及聯合國政府ノ監視ノ下ニ獨逸國政府全部之ヲ解體スヘシ該解體作業ハ本條約實施後遲クトモ三月以内ニ之ヲ完了スルコトヲ要ス

第百八十九條

水上艦艇タルト潜水艦タルトヲ問ハス各種ノ獨逸國艦艇ノ解體ニ因リテ生シタル物品、機械及材料ハ純然タル産業上又ハ商業上ノ目的外ニ之ヲ使用スルコトヲ得ス

前項ノ物品、機械及材料ハ之ヲ外國ニ賣却シ又ハ讓渡スコトヲ得ス

第百九十條

獨逸國ハ第百八十一條ニ規定スル常備艦艇ノ代艦ノ外如何ナル艦艇ヲモ建造又ハ取得スルコトヲ得ス

前項ノ代艦ハ左記排水量ヲ超ユルコトヲ得ス

裝甲艦	一萬噸
輕巡洋艦	六千噸
驅逐艦	八百噸
水雷艇	二百噸

各種艦艇ハ喪失ノ場合ヲ除クノ外進水ヨリ起算シ戰艦及巡洋艦ハ二十年、驅逐艦及水雷艇ハ十五年ノ期間ノ終ニ非サレハ代艦ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得ス

第百九十一條

獨逸國ニ於テハ如何ナル潜水艦船ヲモ建造又ハ取得スルコトヲ得ス其ノ商業上ノ目的ニ供セラルルモノト雖異ルコトナシ

第百九十二條

獨逸國常備艦艇ハ主タル同盟及聯合國ノ指定スル數量ノ兵器、彈藥及軍用材料ノミヲ艦内ニ備ヘ又ハ豫備トシテ保有スヘシ

現ニ獨逸國政府ノ保有スル兵器、彈藥及各種軍用材料（機雷及魚雷ヲ含ム）ニシテ前項ノ數量ヲ超ユルモノハ該數量指定後一月以内ニ主タル同盟及聯合國政府ノ指定スル場所ニ於テ之ヲ同政府ニ引渡スヘシ右ノ兵器、彈藥及軍用材料ハ之ヲ破壞シ又ハ廢棄スヘシ

前記以外ノ兵器、彈藥又ハ各種海軍軍用材料ノ貯藏品、補充品又ハ豫備品ハ之ヲ保有スルコトヲ得ス

獨逸國版圖内ニ於テ外國ノ爲ニスル前記物件ノ製造及外國ニ對スル其ノ輸出ハ之ヲ禁止ス

第百九十三條

獨逸國ハ本條約實施後直ニ綠威東經四度以東左ノ區域内ノ北海ニ於テ機雷掃海ヲ行フヘシ

一　北緯五十三度ト北緯五十九度トノ間

二　北緯六十度三十分以北

獨逸國ハ前項ノ區域内ニ機雷ノ存在スルモノナカラシムルコトヲ要ス

獨逸國ハ又今後主タル同盟及聯合國政府ノ指定スル區域内ノ波羅的海ニ於テ掃海ヲ行ヒ且機雷ノ存在スルモノナカラシムルコトヲ要ス

第百九十四條

獨逸國海軍人員ハ准士官以上ハ繼續二十五年、下士卒ハ繼續十二年ヲ最有スルモノト認メ現狀ノ儘之ヲ存置スルコトヲ得

短期間トスル志願契約ニ依リ總テ之ヲ採用スヘシ

服役期間滿了前理由ノ如何ヲ問ハス服役ヲ免セラルル人員ノ補充數ハ每年本款（第百八十三條）ノ總人員定數ノ百分ノ五ヲ超ユヘカラス

前項ノ限界内ニハ新ニ要塞ヲ構築スルコトヲ得ス又前項防備ノ兵裝ハ砲數及口徑ニ付本條約實施當時現存ノ兵裝ヲ超ユルコトヲ得ス獨逸國政府ハ速ニ右兵裝ニ關スル細項ヲ歐洲各國政府ニ通報スヘシ

瀕軍ノ服役ヲ免セラルル者ハ各種ノ海陸軍軍事教育ヲ受ケス又ハ再ヒ海陸軍ノ勤務ニ服セサルコトヲ要ス

本條約實施後二月ノ期間滿了ノ時ニ於ケル前記砲用ノ彈藥ノ貯藏量ハ最大限ニ於テ口徑四・一吋以下ノ砲ニ在リテハ一門ニ付千五百發、之ヨリ大ナル口徑ノ砲ニ在リテハ一門ニ付五百發ニ低減シ之ヲ持續スヘシ

獨逸國海軍ニ屬スル准士官以上ニシテ復員セラレサルモノハ正當ノ理由ニ因リ服役ヲ免セラルル場合ヲ除クノ外四十五歲迄ノ服役ヲ約スルコトヲ要ス

第百九十七條

獨逸國商船ノ高級船員又ハ乘組員ハ海軍ニ於テ何等ノ教育ヲ受クルコトヲ得ス

本條約實施後三月ノ期間「ナウエン」、「ハノーヴァー」及伯林ノ「電力無線電信所ハ主タル同盟及聯合國政府ノ承認アルニ非サレハ獨逸國又ハ戰時中獨逸國ト同盟シタル各國ニ利害關係アル海陸軍事又ハ政治ノ問題ノ通信ニ之ヲ使用スヘカラス此等無線電信所ハ前記政府ノ監視ノ下ニ於テノミ商業上ノ目的ニ之ヲ使用スルコトヲ得其ノ使用スル波長ハ右政府之ヲ決定ス

第百九十五條

波羅約海ニ至ル自由航行ヲ各國ニ保障スル爲獨逸國ハ北緯五十五度二十七分及北緯五十四度ノ兩緯線ト綠威東經九度及同東經十六度ノ兩子午線トヲ以テ劃シタル區域内ニ於テ要塞ヲ構築スルコトヲ得又北海波羅的海間ノ海路ヲ管制スヘキ砲ヲ裝備スルコトヲ得ス右區域内ニ現存スル要塞ハ同盟國政府ノ監視ノ下ニ且其ノ指定期間内ニ之ヲ破壞シ其ノ砲ヲ除去スヘシ

前項ノ期間獨逸國ハ其ノ版圖内又ハ埃地利國、洪牙利國、勃爾牙利國若ハ土耳其國ノ版圖内ニ大電力無線電信所ヲ增設スルコトヲ得ス

獨逸國政府ハ波羅的海北海間ノ海峽及隣接水域ニ關スル一切ノ水路圖誌ニシテ其ノ現ニ有スルモノヲ主タル同盟及聯合國政府ニ提供スヘシ

第百九十六條

第百九十五條及第三編（歐洲政治條項）第十三款（ヘリゴランド）ニ揭クルモノノ外ノ築城工事及築城ニシテ現ニ獨逸國海岸ヨリ五十吉米以内ニ在ルモノ又ハ獨逸國沿岸ノ獨逸國島嶼内ニ在ルモノハ總テ防禦ノ性質ヲ有スルモノト認メ現狀ノ儘之ヲ存置スルコトヲ得

第三款　航空條項

第百九十八條

獨逸國軍ニハ陸軍又ハ海軍ノ航空隊ヲ包含セサルコトヲ要ス

獨逸國ハ千九百十九年十月一日迄ノ期間水中機雷ノ搜索ニ專ラ使用セラレ且此ノ目的ノ爲必要ナル裝備ヲ有スル水上飛行機又ハ飛行艇百隻以内ヲ存置スルコトヲ得該水上飛行機又ハ飛行艇ハ如何ナル場合ニ於テモ

何等ノ兵器、彈藥又ハ爆彈ヲ携行スルコトヲ得ス

前項ノ水上飛行機又ハ飛行艇ニ對シテハ之ニ裝置スル發動機ノ外各機艇ノ各發動機ニ付一箇ノ豫備發動機ヲ準備シ置クコトヲ得

航空船ハ之ヲ保有スルコトヲ得ス

第百九十九條

獨逸國陸海軍軍人名簿ニ錄セラルル航空隊ノ兵員ハ本條約實施後二月以内ニ復員スルコトヲ要ス尤モ獨逸國ハ千九百十九年十月一日ニ至ル迄ノ間一切ノ軍隊及官衙等ニ於テ幹部及兵員（飛行者及非飛行者共）ヲ合セ將校ヲ含ミ總員千人ヲ存置スルコトヲ得

第二百條

同盟及聯合國ノ航空機ハ同盟及聯合國軍隊ノ獨逸國版圖内ヨリ完全ニ撤退スルニ至ル迄ノ間獨逸國内ニ於テ航空ノ自由竝通過者陸ノ自由ヲ有ス

第二百一條

航空機、航空機ノ部品、航空機用發動機及航空機用發動機ノ部品ノ製造及輸入ハ本條約實施後六月間獨逸國全版圖内ニ於テ之ヲ禁止ス

第二百二條

第百九十八條第二項及第三項ニ揭クル航空器材ヲ除クノ外一切ノ陸海軍用航空材料ハ本條約實施ノ時ニ之ヲ主タル同盟及聯合國政府ニ引渡スコトヲ要ス

前項ノ引渡ハ前記政府ノ指定スル場所ニ於テ之ヲ行ヒ且三月以内ニ之ヲ完了スルコトヲ要ス

前記ノ材料ニハ軍用ノ目的ヲ以テ使用セラルル若ハ使用セラレタル又ハ設計セラレタル左記各項ノ物件ヲ特ニ包含スルモノトス

飛行機及水上飛行機ニシテ完成シタルモノ竝製造、修理又ハ取纏中ノモノ

航空船ニシテ飛行ニ堪フルモノ又ハ製造、修理又ハ取纏中ノモノ

水素製造裝置

航空船格納庫及航空機用各種格納庫

航空船ハ交付ノ時迄獨逸國ノ費用ヲ以テ水素ヲ充タシ置クヘク水素製造裝置及航空船格納庫ハ前記諸國ノ裁量ニ依リ航空船交付ノ時迄之ヲ獨逸國ニ存置スルコトヲ得

航空機用發動機

座框及胴體

武裝（火砲、機關銃、輕機關銃、爆彈投下機、魚雷投下機、同調機、照準機）

彈藥（藥筒、彈丸、塡實シ又ハ塡實セサル爆彈、貯藏爆彈藥及此等ノ製造ニ用ヰル原料）

航空機用器機

航空機用ノ無線電信機、無線電話機及寫眞機又ハ活動寫眞機

以上諸項ニ列記スル各品目ニ屬スル部品

右ノ材料ハ前記政府ノ特別ノ許可アルニ非サレハ之ヲ移動スルコトヲ得ス

第四款　同盟國國際監督委員會

第二百三條

本條約中ノ陸軍海軍及航空條項ニシテ其ノ履行ニ付期限ヲ定メタルモノハ總テ主タル同盟及聯合國ノ之カ爲特ニ任命シタル同盟國國際監督委員

〔外務省〕

會ノ監督ノ下ニ獨逸國之ヲ履行スヘシ

第二百四條

同盟國國際監督委員會ハ本條約ニ依リ獨逸國政府ノ費用ヲ以テ實行スヘキ引渡、破壞、爆破及廢棄ノ完了ヲ監視スルノ任務ヲ特ニ委託セラルヘシ

右委員會ハ主タル同盟及聯合國カ其ノ留保シタル權利ニ基キテ爲シ又ハ陸軍海軍及航空條項ノ履行上ノ必要ニ基キテ爲サレタル決定ヲ獨逸國官憲ニ通告スヘシ

第二百五條

同盟國國際監督委員會ハ獨逸國中央政府ノ所在地ニ其ノ機關ヲ設置スルコトヲ得

右委員會ハ隨時獨逸國版圖內ノ各地ニ移動シ、小委員會ヲ派遣シ又ハ一名若ハ數名ノ委員ヲ出張セシムルノ權利ヲ有ス

第二百六條

獨逸國政府ハ同盟國國際監督委員會及其ノ委員ニ對シ其ノ任務ノ遂行上必要ナル一切ノ便宜ヲ供與スルコトヲ要ス

獨逸國政府ハ各同盟國國際監督委員會ニ權能アル一名ノ代表者ヲ附屬セシメ該委員會ヨリ獨逸國政府ニ宛テ發送スル通告ヲ受領シ且該委員會ノ爲必要ナル一切ノ情報又ハ文書ヲ供給又ハ蒐集セシムヘシ

獨逸國政府ハ每ニ其ノ費用ヲ以テ本條約ニ規定スル引渡竝破壞、防備撤廢、爆破及廢棄ノ作業ノ實行ニ必要ナル一切ノ勞力及材料ヲ提供スルコトヲ要ス

第二百七條

監督委員會ノ維持及費用竝其ノ事業上ノ費用ハ獨逸國之ヲ負擔スヘシ

第二百八條

同盟國國際陸軍監督委員會ハ陸軍條項ノ履行ニ關スル一切ノ事項ニ付獨逸國政府トノ交涉ニ於テ主タル同盟及聯合國政府ヲ代表ス

右委員會ハ特ニ彈藥ノ貯藏所及補給廠ノ位置、獨逸國ニ於テ存置ヲ承認セラレタル築城工事、堡壘及要塞ノ兵備竝兵器、彈藥及軍用材料ヲ製造スル工場又ハ製造所ノ位置及其ノ作業狀態ニ關スル通報ヲ獨逸國政府ヨリ受領スルノ任務ヲ有ス

同委員會ハ兵器、彈藥及軍用材料ノ引渡ヲ受ケ、該交付ノ行ハルヘキ地點ヲ指定シ且本條約ニ依リ實行スヘキ破壞、爆破及廢棄ノ作業ヲ監視ス」獨逸國政府ハ同盟國國際陸軍監督委員會ニ於テ陸軍條項ノ完全ナル履行ヲ保障スルニ必要ト認ムル情報及文書殊ニ一切ノ立法上及行政上ノ文書竝規則ヲ該委員會ニ提供スルコトヲ要ス

第二百九條

同盟國國際海軍監督委員會ハ海軍條項ノ履行ニ關スル一切ノ事項ニ付獨逸國政府トノ交涉ニ於テ主タル同盟及聯合國政府ヲ代表ス

右委員會ハ特ニ造船所ニ就キテ建造中ノ艦艇ノ解體ヲ監視シ、一切ノ水上艦艇、潛水艦、救難船、船渠及管狀船渠ノ引渡ヲ受ケ且所定ノ破壞及解體ヲ監視スルノ任務ヲ有ス

獨逸國政府ハ同盟國國際海軍監督委員會ニ於テ海軍條項ノ完全ナル履行ヲ保障スルニ必要ト認ムル情報及文書殊ニ艦艇ノ設計、其ノ兵裝ノ組織、砲熕、彈藥、魚雷、機雷、爆藥、無線電信機其ノ他一切ノ海軍軍用材料ニ關スル細目及模型竝一切ノ立法上若ハ行政上ノ文書又ハ規則ヲ該委員會ニ提供スルニ必要ナル一切ノ勞力及材料ヲ提供スルコトヲ要ス

第二百十條

同盟國國際航空監督委員會ハ航空條項ノ履行ニ關スル一切ノ事項ニ付獨逸國政府トノ交涉ニ於テ主タル同盟及聯合國政府ヲ代表ス

右委員會ハ特ニ獨逸國版圖內ニ在ル航空用材料ノ目錄ヲ調製シ、飛行機、氣球及發動機ノ製造所竝航空機ニ使用シ得ヘキ兵器、彈藥及爆藥ノ製造場ヲ檢閱シ、一切ノ飛行場、格納庫、著陸場、集積場及補給廠ヲ臨檢シ、必要ノ場合ニハ材料ノ移動ヲ許シ且該材料ノ引渡ヲ受クルノ任務ヲ有ス

獨逸國政府ハ同盟國國際航空監督委員會ニ於テ航空條項ノ完全ナル履行ヲ保障スルニ必要ト認ムル一切ノ情報及立法上行政上其ノ他ノ文書殊ニ獨逸國航空勤務總人員表、現存材料及製造中又ハ註文中ノ材料ノ目錄竝航空ニ關スル一切ノ設備、其ノ位置及一切ノ格納庫著陸場ニ關スル表ヲ該委員會ニ提供スルコトヲ要ス

第五款　一般規定

第二百十一條

獨逸國ノ法令ハ本條約實施後三月ノ期間滿了迄ニ之ヲ修正シテ本編ノ規定ニ適應セメシ且之ヲ維持スヘシ

本編ノ履行ニ關スル行政上其ノ他ノ措置ハ總テ前記期間內ニ之ヲ爲スコトヲ要ス

第二百十二條

千九百十八年十一月十一日ノ休戰條約中第六條、第七條第一項第二項第六項第七項、第九條、第二附屬書第一項第二項第五項及右休戰條約ニ追加セラルル千九百十九年四月四日ノ議定書ハ前記諸規定ニ反セサル限リ引續其ノ效力ヲ有ス

第二百十三條

本條約カ效力ヲ有スル限リ獨逸國ハ國際聯盟理事會カ所要ノ場合ニ其ノ過半數決ヲ以テ必要ト認メタル一切ノ調査ニ付各種ノ便宜ヲ供與スルコトヲ約ス

第六編　俘虜及墳墓

第一款　俘虜

第二百十四條

俘虜及抑留人民ノ送還ハ本條約實施後成ルヘク速ニ之ニ着手シ且最迅速ニ之ヲ實行スヘシ

第二百十五條

獨逸俘虜及抑留獨逸人民ノ送還ハ第二百十四條ニ依リ同盟及聯合國代表者竝獨逸國政府ノ代表者ヲ以テ組織スル委員會ニ於テ之ヲ實行スヘシ

各同盟及聯合國ニ在リテハ當該國代表者及獨逸國政府ノ代表委員ノミヲ以テ組織スル小委員會ニ於テ俘虜送還ノ實施ニ關スル細目ヲ定ムヘシ

第二百十六條

獨逸國ハ憲ハ前記俘虜及抑留人民ノ引渡ヲ受ケタルトキハ遲滯ナク之ヲ各自ノ鄉里ニ歸還セシムヘシ

前記俘虜及抑留人民中同盟及聯合國軍隊ノ占領地域內ニ戰爭前常住シタル者ハ亦之ヲ各自ノ鄉里ニ歸還セシムヘシ

尤モ同盟及聯合國ノ占領軍官憲ノ許可及監督ヲ受クルモノトス

第二百十七條

獨逸國政府ハ送還ニ要スル出發以後ノ一切ノ費用ヲ負擔シ且第二百十五條ノ委員會ニ於テ必要ト認ムル海陸輸送方法及職員ヲ準備スヘシ

第二百十八條

紀律違反ノ犯行ニ付取調中又ハ處罰中ノ俘虜及抑留人民ハ其ノ處罰又ハ取調手續ノ完了スルト否トヲ問ハス之ヲ送還スヘシ

前項ノ規定ハ千九百十九年五月一日以後ノ犯行ニ付罰ヲ受クル俘虜及抑留人民ニハ之ヲ適用セス

送還未了ノ間俘虜及抑留人民ハ總テ引續キ現行ノ規則殊ニ作業及紀律ニ關スル規則ノ適用ヲ受クヘシ

第二百十九條

紀律違反以外ノ犯行ニ付取調中又ハ處罰中ノ俘虜及抑留人民ハ尚之ヲ抑留スルコトヲ得

第二百二十條

獨逸國政府ハ送還セラルヘキ一切ノ者ニ對シ差別ヲ設クルコトナク之ヲ自國版圖內ニ入國セシムルコトヲ約ス

俘虜其ノ他ノ獨逸國民ニシテ送還ヲ欲セサル者ハ之ヲ送還セサルコトヲ得但シ同盟及聯合國政府ハ右ノ者ヲ送還シ、中立國ニ送致シ又ハ自國版圖內ノ居住ヲ之ニ許可スルノ權利ヲ留保ス

獨逸國政府ハ右ノ者又ハ其ノ家族ニ對シ何等例外的取扱方法ヲ設ケス又從テ何等抑壓的若ハ煩瑣ナル措置ヲ執ラサルコトヲ約ス

第二百二十一條

同盟及聯合國政府ハ獨逸國政府ヲシテ同國內ニ俘虜トシテ殘存スルコトアルヘキ自國民ニ關シ直ニ通告ヲ爲サシメ且直ニ之ヲ解放セシムルコトヲ以テ其ノ權內ニ在ル獨逸俘虜國民送還ノ條件ト爲スノ權利ヲ留保ス

第二百二十二條

獨逸國ハ左ノ事項ヲ約ス

一　失踪者調査委員ニ對シ一切ノ便宜ヲ供與シ必要ナル一切ノ輸送手段ヲ提供シ收容所、監獄、病院其ノ他一切ノ場所ニ出入スルコトヲ許容シ及調査ヲ容易ナラシムヘキ公私一切ノ書類ヲ其ノ使用ニ供スルコト

二　同盟及聯合國國民ノ所在ヲ隱蔽シ又ハ其ノ所在ヲ知リタル後之カ報告ヲ怠リタル獨逸國官吏又ハ人民ヲ處罰スルコト

第二百二十三條

獨逸國ハ同盟及聯合國國民ニ屬シ獨逸國官憲ノ押收シタル一切ノ物品、現金、證券及書類ヲ本條約實施後遲滯ナク返還スルコトヲ約ス

第二百二十四條

締約國ハ各自國版圖內ニ於ケル俘虜收容ニ因ル費用ノ償還ノ要求ヲ總テ相互的ニ拋棄ス

第二款　墳墓

第二百二十五條

同盟及聯合國政府並獨逸國政府ハ各其ノ版圖內ニ埋葬セラレタル陸海軍軍人ノ墳墓ヲ尊重シ且保存スヘシ

前記諸國政府ハ同盟國又ハ聯合國政府ニ於テ右境墓ノ識別、登錄若ハ管理ノ爲又ハ其ノ上ニ適當ナル記念碑ヲ建設スル爲任命シタル委員ヲ承認シ且其ノ職務執行ニ便宜ヲ供與スルコトヲ約ス

尙前記諸國政府ハ自國ノ法令上及公共衛生上差支ナキ限リ陸海軍軍人ノ遺骸ヲ其ノ本國ニ移サムトスル要求ヲ實現スル爲一切ノ便宜ヲ供與スルコトヲ約ス

第二百二十六條

各交戰國國民タル俘虜及抑留人民ニシテ拘束中死亡シタルモノノ墳墓ハ第二百二十五條ニ依リ適當ニ之ヲ保存スヘシ

同盟及聯合國政府並獨逸國政府ハ相互ニ左記ノモノヲ提供スルコトヲ約ス

一　死亡者全表及識別上必要ナル一切ノ情報

二　識別セラレスシテ埋葬セラレタル者ノ墳墓ノ數及其ノ位置ニ關スル一切ノ情報

第七編　制裁

第二百二十七條

同盟及聯合國ハ國際道義ニ反シ條約ノ神聖ヲ瀆シタル重大ノ犯行ニ付前獨逸皇帝「ホーヘンツオルレルン」家ノ維廉二世ヲ訴追ス

右被告審理ノ爲特別裁判所ヲ設置シ被告ニ對シ辯護權ニ必要ナル保障ヲ與フ該裁判所ハ五名ノ裁判官ヲ以テ之ヲ構成シ亞米利加合衆國、大不列顚國、佛蘭西國、伊太利國及日本國各一名ノ裁判官ヲ任命ス

右裁判所ハ國際間ノ約諾ニ基ク嚴正ナル義務ト國際道義ノ儼存トヲ立證セムカ爲國際政策ノ最高動機ノ命スル所ニ從ヒ判決スヘシ其ノ至當ト認ムル刑罰ヲ決定スルハ該裁判所ノ義務ナリトス

同盟及聯合國ハ審理ノ爲前皇帝ノ引渡ヲ和蘭國政府ニ要求スヘシ

第二百二十八條

獨逸國政府ハ戰爭ノ法規慣例ニ違反スル行爲アリトシテ訴追セラルル者ヲ軍事裁判所ニ出廷セシムル同盟及聯合國ノ權利ヲ承認ス上記ノ者有罪ト決シタルトキハ之ヲ法ノ定ムル刑罰ニ處スヘシ本規定ハ獨逸國又ハ其ノ同盟國ノ裁判所ニ於ケル訴訟手續又ハ公訴ノ爲其ノ適用ヲ妨ケラルルコトナシ

獨逸國政府ハ戰爭ノ法規慣例ニ違反スル行爲アリトシテ訴追セラルル者ニシテ其ノ氏名又ハ獨逸國官憲ノ下ニ於テ其ノ有シタル地位官職ヲ明示セラレタルモノハ總テ之ヲ同盟及聯合國又ハ引渡ヲ要求スル其ノ一國ニ引渡スヘシ

第二百二十九條

同盟及聯合國中ノ一國ノ國民ニ對シ罪ヲ犯シタル者ハ之ヲ該國ノ軍事裁判所ノ裁判ニ付ス

同盟及聯合國中ノ二國以上ノ國民ニ對シ罪ヲ犯シタル者ハ之ヲ該諸國ノ軍事裁判所ノ職員ヲ以テ組織スル軍事裁判所ノ裁判ニ付ス

被告ハ何レノ場合ニ於テモ自己ノ辯護人ヲ指定スルノ權ヲ有ス

第二百三十條

獨逸國政府ハ犯罪行爲ノ知悉、犯罪者ノ發見及責任ノ適正ナル量定ニ必要ト認メラルル一切ノ文書及資料ノ提供ヲ約ス

第八編　賠償

第一款　一般規定

第二百三十一條

同盟及聯合國政府ハ獨逸國及其ノ同盟國ノ攻擊ニ因リテ强ヒラレタル戰爭ノ結果其ノ政府及國民ノ被リタル一切ノ損失及損害ニ付テハ責任ノ獨

逸國及其ノ同盟國ニ在ルコトヲ斷定シ獨逸國ハ之ヲ承認ス

第二百三十二條

同盟及聯合國政府ハ獨逸國ノ資源カ本條約ノ他ノ規定ノ結果永遠ニ減少スヘキコトヲ考慮シ其ノ右損失及損害ノ全部ニ對シ完全ナル賠償ヲ爲スニ充分ナラサルコトヲ認ム

然レトモ同盟及聯合國政府ハ其ノ各國ト獨逸國トノ交戰期間內其ノ陸上海上及空中ノ攻撃ニ因リ同盟及聯合國ノ普通人民及其ノ財產ニ對シ加ヘラレタル一切ノ損害概言スレハ本款第一附屬書ニ揭ケル一切ノ損害ニ付補償ヲ要求シ獨逸國ハ之カ補償ヲ爲スヘキコトヲ約ス

獨逸國ハ本編中別ニ規定スル損害ヲ補償スル外ニ白耳義國ノ完全ナル回復ニ關シ其ノ既ニ與ヘタル誓約ニ遵ヒ白耳義國カ千九百十八年十一月十一日前ニ於テ同盟及聯合國政府ヨリ借入レタル一切ノ金額及之ニ對スル年五分ノ利息ヲ千八百三十九年ノ條約ニ違反シタル結果トシテ償還スヘキコトヲ約ス右金額ハ賠償委員會之ヲ決定スヘク獨逸國政府ハ該決定後直ニ千九百二十六年五月一日又ハ其ノ選擇ニ從ヒ千九百二十六年以前ノ年ノ五月一日「マルク」金貨ヲ以テ支拂フヘキ右金額相當ノ無記名債券ヲ特ニ發行スルコトヲ約ス上記規定ニ依ルノ外該債券ノ樣式ハ賠償委員會之ヲ定ム該債券ハ之ヲ賠償委員會ニ引渡スヘク同委員會ハ白耳義國ニ代リテ之ヲ受領シ且受領ヲ通牒スルノ權限ヲ有ス

第二百三十三條

獨逸國ノ補償スヘキ前記損害ノ總額ハ賠償委員會ト稱スル同盟國國際委員會之ヲ決定スヘシ該委員會ノ組織及權能ハ本款及本款第二乃至第七附屬書ノ定ムル所ニ依ル

右委員會ハ請求ヲ審査シ且意見陳述ノ公平ナル機會ヲ獨逸國政府ニ與フヘシ

前記損害額ニ關スル委員會ノ査定ハ獨逸國政府ノ債務ノ範圍ヲ示スモノトシテ千九百二十一年五月一日前ニ之ヲ確定シ且獨逸國政府ニ通告スヘシ

委員會ハ同時ニ千九百二十一年五月一日以後三十年ノ期間內ニ獨逸國カ右債務全部ヲ辨濟スヘキ時期及方法ヲ定ムル支拂一覽表ヲ調製スヘシ但シ獨逸國カ右期間內ニ其ノ債務ヲ辨濟セサル場合ニ於テハ未拂額ハ委員會ノ裁量ニ依リ其ノ決濟ヲ後年ニ延期シ又ハ同盟及聯合國政府カ本編所定ノ手續ニ從ヒ決定スヘキ方法ニ依リ之ヲ處理スルコトヲ得

第二百三十四條

賠償委員會ハ千九百二十一年五月一日以後隨時獨逸國ノ資源及能力ヲ審査シ且意見陳述ノ公平ナル機會ヲ獨逸國ノ代表者ニ與ヘタル後第二百三十三條ニ依リ定ムル支拂時期ヲ延長シ又ハ其ノ方法ヲ變更スルノ裁量ヲ有ス但シ委員會ニ代表セラルル各國政府ノ特定ノ承認アル場合ヲ除クノ外債務ノ何レノ部分ヲモ免除スルコトヲ得ス

第二百三十五條

獨逸國ハ同盟及聯合國ヲシテ其ノ請求額ノ確定ニ先チ速ニ其ノ產業及經濟生活ノ回復ニ著手スルコトヲ得シムル爲賠償委員會ノ定ムル割賦及方法ニ從ヒ（金、貨物、船舶、有價證券其ノ他ヲ以テ）千九百十九年及千九百二十年中竝千九百二十一年四月末日迄ニ二百億「マルク」金貨ニ相當スル額ヲ支拂フヘシ千九百十八年十一月十一日ノ休戰條約以後ニ於ケル占領軍ノ費用ハ右金額中ヨリ先ツ之ヲ支辨スヘシ主タル同盟及聯合國政府ニ於テ獨逸國ヲシテ其ノ賠償義務ヲ履行セシムル爲必要ナリト認メタル糧食及原料ノ供給ニ對シテハ右政府ノ承認ヲ經テ該金額中ヨリ亦之カ支辨ヲ爲スコトヲ得殘額ハ賠償義務額ノ清算ニ之ヲ充當スヘシ獨逸國ハ右ノ外尙本款第二附屬書十二ノ(四)號ニ揭ケル債券ヲ供託スヘシ

第二百三十六條

獨逸國ハ尙商船、物質的回復、石炭及其ノ製品竝染料其ノ他ノ化學製品ニ付各第三乃至第六附屬書ニ依リ直接其ノ經濟資源ヲ賠償ニ充ツルコトニ同意ス但シ右各附屬書ニ依リ獨逸國ノ讓渡シタル財產及履行シタル役務ノ價額ハ常ニ上記各附屬書ニ揭ケル方法ヲ以テ之ヲ評價シ前各條ニ依ル債務ノ清算ニ際シ獨逸國ノ貸方ニ之ヲ計上スヘシ

第二百三十七條

前記請求ニ應シ獨逸國ノ支拂ヒタル累次ノ割賦（前記ノ額ヲ含ム）ハ同盟及聯合國政府ニ於テ一般的衡平及各國政府ノ權利ヲ基礎トシテ豫メ決定シタル割合ヲ以テ同政府間ニ之ヲ分配スヘシ

右分配ニ付テハ第二百四十三條及第三乃至第七附屬書ニ依リ讓渡シタル財產及履行シタル役務ノ價額ハ之ヲ當該年度ニ於ケル現金支拂ト同樣ニ計算スヘシ

第二百三十八條

前記支拂ノ外獨逸國ハ尙賠償委員會ノ定ムル手續ニ從ヒ其ノ奪取シ差押ヘ又ハ保管シタル現金ヲ以テ還付スヘク又奪取シ差押ヘ又ハ保管シタル動物、各種物件及有價證券ハ獨逸國又ハ其ノ同盟國ノ領土內ニ於テ之ヲ識別シ得ヘキ場合ニ於テハ之ヲ還付スルコトヲ要ス

右手續ノ決定ニ至ル迄還付ハ千九百十八年十一月十一日ノ休戰條約、其ノ更新取極及同附屬議定書ノ規定ニ依リ之ヲ繼續スヘシ

第二百三十九條

獨逸國政府ハ第二百三十八條ニ定ムル還付ヲ直ニ實行シ且第二百三十三條乃至第二百三十六條ニ定ムル支拂及引渡ヲ實行スヘキコトヲ約ス

第二百四十條

獨逸國政府ハ第二百三十三條ノ委員會ヲ第二附屬書ニ依リ同盟及聯合國政府ノ組織スヘキ委員會トシテ承認シ且該委員會カ本條約ニ依リ付與セラレタル權能及權限ヲ有シ且之ヲ行使スルコトニ確實ニ同意ス

獨逸國政府ハ金融ノ狀態及作用、獨逸國及其ノ國民ノ財產及生產力竝其ノ原料及製造品ノ貯藏額及當時ノ產額ニ關シ賠償委員會ノ要求スヘキ一切ノ情報其ノ他第一附屬書ニ規定スル獨逸國賠償債務ノ査定上該委員會ノ必要ト認ムヘキ軍事行動ニ關スル情報ヲ該委員會ニ提供スヘシ

獨逸國政府ハ其ノ友好國ノ正式ニ任命シタル外交官カ獨逸國ニ於テ享有スルト同一ノ權利及免除ヲ賠償委員會ノ委員及其ノ權限アル吏員ニ許與スヘシ

獨逸國ハ尙委員會及其ノ使用スル職員ノ俸給及費用ヲ支辨スルコトニ同意ス

第二百四十一條

獨逸國ハ此等諸規定ノ安全ナル實行ニ必要ナル法律命令ヲ制定シ、公布シ及施行スルコトヲ約ス

第二百四十二條

本編ノ規定ハ第十編（經濟條項）第三款及第四款ニ揭ケル財產、權利及利益竝其ノ淸算殘高ニ之ヲ適用セス但シ第二百四十三條第一項(f)號ニ依リ

獨逸國ノ受取勘定ト爲ルヘキ最終殘額ニ關シテハ此ノ限ニ在ラス

第二百四十三條

左ニ掲クルモノハ獨逸國ノ賠償債務ニ關シ其ノ貸方ニ之ヲ計上スヘシ

(イ) 第三編（歐洲政治條項）第五款（「アルザス、ロレーヌ」）竝第十編（經濟條項）第三款及第四款ノ規定ニ依リ獨逸國ノ受取勘定ト爲ルヘキ最終殘額

(ロ) 第三編（歐洲政治條項）第四款（「ザール」河流域）、第九編（財政條項）及第十二編（港、水路及鐵道）ニ依ル讓渡ニ關シ獨逸國ニ支拂フヘキ額

(ハ) 右ノ外本條約ニ依リ財產、權利、利權其ノ他ノ利益ヲ讓渡シタル結果賠償委員會ニ於テ獨逸國ノ貸方ニ計上スヘシト決定シタル額

本編第二百三十八條ノ規定ニ依リ還付シタル財產ハ如何ナル場合ニ於テモ獨逸國ノ貸方ニ之ヲ計上スルコトナシ

第二百四十四條

本條約ニ特別ノ規定ヲ設ケサル獨逸海底電信線ノ讓渡ハ本款第七附屬書ノ規定ニ依ル

第一附屬書

補償ハ第二百三十二條ニ依リ左記種目ノ全損害ニ付之ヲ獨逸國ニ請求スルコトヲ得

一　戰爭ノ行爲（陸上、海上又ハ空中ノ砲擊其ノ他ノ攻擊、其ノ一切ノ直接ノ結果及場所ノ如何ヲ問ハス交戰國ノ雙方ノ行ヘル軍事行動ノ一切ノ直接ノ結果ヲ含ム）ニ因ル普通人民ノ傷害又ハ死亡ノ爲該負傷者及生存被扶養者ノ受ケタル損害

二　場所ノ如何ヲ問ハス獨逸國又ハ其ノ同盟國ノ殘忍、虐暴又ハ虐待行爲（監禁、追放、抑留、退去命令、海上遺棄又ハ强制勞働ノ結果タル生命又ハ健康ノ危害ヲ含ム）ノ犧牲ト爲リタル普通人民及其ノ生存被扶養者ノ損害

三　獨逸國又ハ其ノ同盟國ノ領土、占領地又ハ侵入地ニ於テ該諸國カ行ヒタル健康、活動力又ハ名譽ヲ害スル一切ノ行爲ノ犧牲ト爲リタル普通人民及其ノ生存被扶養者ノ損害

四　俘虜ニ對スル各種ノ虐待ニ基ク損害

五　同盟及聯合國國民ノ被リタル損害トシテ傷痍ヲ受ケ疾病ニ罹リ又ハ不具廢疾ト爲リテ戰爭ノ犧牲ト爲リタル陸海軍軍人（空軍軍人ヲ含ム）及其ノ被扶養者ニ對スル一切ノ恩給金及恩給金ノ性質ヲ有スル一切ノ補償金但シ同盟及聯合國政府ニ支拂フヘキ右金額ハ本條約實施ノ日ニ於ケル佛蘭西國現行ノ率ヲ基礎トシ同時期ニ於テ恩給金及補償金ヲ一時金ニ換算シタル額ニ依リ右各國政府毎ニ之ヲ計算スヘシ

六　俘虜竝其ノ家族及被扶養者ニ對スル同盟及聯合國政府ノ扶助費

七　動員セラレタル者又ハ軍務ニ服シタル者ノ家族及被扶養者ニ對スル同盟及聯合國政府ノ給與額但シ同盟及聯合國政府ニ支拂フヘキ給與額ハ戰時狀態ニ在リタル各曆年毎ニ當該年ニ於テ佛蘭西國ニ行ハレタル此ノ種支拂ノ平均率ヲ基礎トシ右各國政府毎ニ之ヲ計算スヘシ

八　獨逸國又ハ其ノ同盟國カ正當ノ報酬ナクシテ勞働ヲ强制シタル爲普通人民ノ受ケタル損害

九　陸海軍ノ工作物又ハ材料ヲ除ク外同盟國若ハ聯合國又ハ其ノ國民ニ屬スル一切ノ財產ニシテ其ノ所在地ノ如何ヲ問ハス陸上、海上又ハ空中ニ於ケル獨逸國又ハ其ノ同盟國ノ行爲ニ因リ搬去、差押、毀損又ハ破壞セラレタルモノニ關スル損害竝敵對行爲又ハ軍事行動ノ直接ノ結果タル損害

十　獨逸國又ハ其ノ同盟國カ普通人民ニ課シタル賦金、罰金其ノ他之ニ類スル强制徵收ノ形式ニ依ル損害

第二附屬書

一

第二百三十三條ノ委員會ニハ「賠償委員會」ノ名稱ヲ附スヘク以下之ヲ「委員會ト稱ス」

二

本委員會ノ委員ハ亞米利加合衆國、大不列顛國、佛蘭西國、伊太利國、日本國、白耳義國及「セルブ、クロアート、スロヴェース」國之ヲ任命スヘシ右諸國ハ各委員一名副委員一名ヲ任命スヘシ副委員ハ委員ノ病氣又ハ已ムヲ得サル闕席ノ場合ニ於テ之ニ代ルヘク其ノ他ノ場合ニ於テハ單ニ會議ニ出席スルノ權利ヲ有シ議事ニ參與スルコトヲ得ス

上記諸國ニシテ其ノ委員カ委員會ノ議事ニ參與シ且表決ノ數ニ加ハルノ權利ヲ有スルモノハ如何ナル場合ニ於テモ五國ヲ超ユルコトナシ亞米利加合衆國、大不列顛國、佛蘭西國及伊太利國ノ委員ハ一切ノ場合ニ於テ此ノ權利ヲ有ス白耳義國ノ委員ハ以下ノ場合ヲ除クノ外一切ノ場合ニ於テ此ノ權利ヲ有ス日本國ノ委員ハ海上ニ於ケル損害ニ關スル問題及第九編（財政條項）第二百六十條ニ基キ發生シ日本國ノ利害ニ關係アル問題ヲ審議スル場合ニ於テ此ノ權利ヲ有ス「セルブ、クロアート、スロヴェーヌ」國ノ委員ハ埃地利國、洪牙利國又ハ勃爾牙利國ニ關スル問題ヲ審議スル場合ニ於テ此ノ權利ヲ有ス

委員會ニ代表セラルル各政府ハ委員會ニ對スル十二月前ノ豫告及該豫告ノ日以後六月中ニ爲ス確認ニ依リ委員會ヨリ脫退スルノ權利ヲ有ス

三

前記以外ノ同盟及聯合國ニシテ利害關係ヲ有スルモノハ各自國ノ請求及利益ノ審査討議中ニ限リ陪席委員トシテ出席シ且行動スル委員一名ヲ任命スルノ權利ヲ有ス該委員ハ表決ノ數ニ加ハルコトナシ

四

委員、副委員又ハ陪席委員ノ死亡、辭任又ハ召還ノ場合ニ於テハ成ルヘク速ニ後任者ヲ任命スヘシ

五

委員會ハ其ノ常設事務局本部ヲ巴里ニ設ケ本條約實施後成ルヘク速ニ其ノ第一回會議ヲ巴里ニ開クヘシ爾後ハ其ノ便宜ナリト認メ且其ノ職務ノ最敏活ナル執行ニ必要ナル地及時期ニ於テ開會スヘシ

六

委員會ハ其ノ第一回會議ニ於テ前記委員中ヨリ議長一名及副議長一名ヲ選擧スヘシ議長及副議長ノ任期ハ一年トシ再選ヲ妨ケス任期中議長及副議長ニ關スル事故アルトキハ委員會ハ當該任期ノ殘餘ニ對シ新ニ選擧ヲ行フヘシ

七

委員會ハ其ノ職務ノ執行ニ必要ナル一切ノ役員、吏員及使用人ヲ任命シ、其ノ給與額ヲ定メ、必シモ本委員會ノ委員タルコトヲ要セサル委員ヨリ

成ル小委員會ヲ組織シ、任務ノ遂行ニ必要ナル一切ノ執行手段ヲ講シ且役員、支員及小委員會ニ其ノ權限及裁量ヲ委任スルノ權限ヲ有ス

八

委員會ノ一切ノ議事ハ之ヲ公開セス但シ特殊ノ理由ニ因リ委員會カ特ニ別段ノ決定ヲ爲シタル場合ニ於テハ此ノ限ニ在ラス

九

委員會ハ獨逸國政府ノ請求アルトキハ隨時期間ヲ定メ獨逸國ノ支拂能力ニ關スル問題ニ付其ノ證明及辯論ヲ聽取スヘシ

十

委員會ハ各請求ヲ審査シ且意見陳述ノ公平ナル機會ヲ獨逸國政府ニ與フヘシ但シ獨逸國政府ハ委員會ノ決定ニ何等參與スルコトナシ委員會ハ問題カ獨逸國ノ同盟國ノ利害ニ關スルコトヲ認メタルトキハ獨逸國ノ場合ト同樣ニ意見陳述ノ機會ヲ該同盟國ニ與フヘシ

十一

委員會ハ何等特定ノ法典、法規又ハ證憑若ハ手續ニ關スル何等特定ノ規則ニ拘束セラルルコトナク正義、衡平及信義ニ準據スヘシ委員會ノ決定ハ其ノ適用シ得ル限リ一切ノ場合ヲ通シテ同一ノ原則及規則ニ準據スルコトヲ要ス委員會ハ請求ノ立證方法ニ關スル規則ヲ設クヘシ委員會ハ信憑シ得ヘキ如何ナル計算方法ニモ準據スルコトヲ得

十二

委員會ハ本條約ニ依リ其ノ付與セラレタル一切ノ權能ヲ有シ且其ノ付託セラレタル一切ノ職務ヲ行フヘシ

委員會ハ本編ニ規定スル賠償問題全部ノ管掌及處理ニ付一般ニ廣汎ナル權能ヲ有シ且本編ノ規定ヲ解釋スル權限ヲ有スヘシ本條約ノ規定ニ依ル外委員會ハ本編ノ規定ニ依リテ爲スヘキ賠償支拂ノ受領、賣却、保有及分配ニ付前記二及三ノ各同盟及聯合國政府ニ依リ各自ノ唯一ノ代理者トシテ組織セラルルモノトス委員會ハ左記ノ條件及規定ニ遵由スルコトヲ要ス

(イ)　確定シタル請求全額中金ヲ以テ又ハ船舶。有價證券、貨物其ノ地ヲ以テ支拂ハレサル部分ニ付テハ獨逸國ニ對シ該部分ノ金錢債務ノ承認ヲ明ニスル爲擔保トシテ同額ノ債券、債務證書其ノ他ヲ委員會ノ決定スル條件ニ依リ發行スルコトヲ要求スヘシ

(ロ)　委員會ハ獨逸國ノ支拂能力ヲ定期ニ評定スルニ際シ第一ニ獨逸國ノ支拂フヘキ賠償額ヲ內國債ノ利息支拂又ハ償還ニ先チ獨逸國ノ全歲入ニ課スル爲第二ニ一般ニ獨逸國ノ租稅制度カ委員會ニ代表セラルル何レノ國ノ租稅制度ト比較スルモ其ノ負擔決シテ輕カラサル事實ニ付確信ヲ得ル爲獨逸國ノ租稅制度ヲ檢査スヘシ

(ハ)　同盟及聯合國ノ經濟生活ノ卽時ノ回復ヲ容易ナラシメ且之ヲ繼續セシムル爲委員會ハ第二百三十五條ノ規定ニ從ヒ獨逸國ヨリ其ノ金錢債務ノ保證及承認トシテ金貨無記名債券ノ第一回割賦ヲ受領スヘシ該債券ハ獨逸帝國若ハ獨逸各邦ノ政府又ハ之ニ屬スル官憲ノ課シ又ハ課スルコトアルヘキ各種ノ租稅及負擔ヲ總テ免除セラルヘシ右債券ハ內金拂トシテ左記ノ通三分シテ之ヲ交付スヘシ其ノ「麻」金貨ノ支拂ニ付テハ第九編(財政條項)第二百六十二條ニ依ル

(一)　千九百二十一年五月一日迄ニ支拂フヘキ二百億「麻」金貨ノ無利息無記名債券ヲ直ニ發行スルコト、獨逸國カ第二百三十五條ニ從ヒ履行ヲ約シタル支拂額ハ占領軍隊ノ費用ノ償還食料及原料ノ支拂ニ供シタル金額ヲ控除シタル上特ニ之ヲ本債券ノ償却ニ充當スヘシ右債券ニシテ千九百二十一年五月一日迄ニ償却セラレサルモノハ次(十二)ノ(ハ)號ノ(二)ニ規定スル債券ト同一樣式ノ新債券ヲ以テ之ト引換フヘシ

(二)　前記ノ外尙四百億「麻」金貨ノ無記名債券ヲ直ニ發行スルコト本債券ニハ千九百二十一年ヨリ千九百二十六年迄ハ年二分五厘、爾後ハ年五分ノ利息ヲ附シ更ニ千九百二十六年ヨリ開始スヘキ償還ノ爲發行總額ニ對シ一分ヲ添加セシム

(三)　獨逸國カ前記ノ利息及減債基金ノ債務ヲ履行シ得ルコトヲ委員會ニ於テ確認スルニ至リタルトキハ始メテ更ニ四百億「麻」金貨年五分利附無記名債券ヲ發行スヘキ旨ノ約束書ヲ直ニ委員會ニ交付スルコト、本債券ノ元利支拂ノ時期及方法ハ委員會之ヲ決定スヘシ債券ノ利息支拂期、減債基金ノ使用方法其ノ他一切ノ問題ニシテ發行、管理及債券發行規則ニ關スルモノハ委員會隨時之ヲ決定ス委員會ハ爾後尙隨時其ノ決定スル所ニ依リ債務ノ承認及保證トシテ更ニ債券ノ發行ヲ要求スルコトヲ得

(ニ)　賠償金錢債務ノ保證又ハ承認トシテ獨逸國ノ發行シタル債券、債務證書其ノ他ノ債務證憑ニシテ獨逸國ノ原賠償債務ヲ發生セシメタル諸政府以外ノ者ニ擔保ノ爲ニ非スシテ完全ニ讓渡サレタル場合ニ於テハ該賠償金錢債務額ハ右ノ如ク完全ニ讓渡サレタル債券等ノ券面價額ニ相當スル額ヲ限リ消滅シタルモノト看做サルヘシ此ノ債券ニ關スル獨逸國ノ債務ハ債券所持人ニ對スル券面記載ノ義務ニ限定セラルヘシ

(ホ)　侵略及暴掠ヲ受ケタル地方ノ財產ノ修繕、再造及再建(家具、機械其ノ他ノ設備ノ再裝置ヲ含ム)ニ因ル損害ハ其ノ作業ヲ實行シタル時期ニ於ケル價額ニ依リ之ヲ計算スヘシ

(ヘ)　獨逸國ノ確定金錢債務ノ元本又ハ利息ノ全部又ハ一部ノ免除ニ關スル委員會ノ決定ニハ其ノ理由ヲ附スルコトヲ要ス

十三

委員會ハ表決ニ關シ左ノ規則ヲ遵守スヘシ

委員會ノ決定ヲ爲スニ當リテハ表決權ヲ有スル各委員ノ表決、其ノ缺席ノ場合ニ於テハ其ノ副委員ノ表決ヲ記錄スヘシ表決ノ棄權ハ審議中ノ議案ニ反對スル表決トシテ之ヲ取扱フヘシ陪席委員ハ表決權ヲ有セス

左記ノ問題ニ關シテハ全會ノ一致ヲ要ス

(イ)　同盟及聯合國中ノ一國ノ主權ニ關スル問題又ハ獨逸國ノ金錢債務若ハ債務ノ全部若ハ一部ノ免除ニ關スル問題

(ロ)　獨逸國政府ノ發行スヘキ債券其ノ他ノ債務證書ノ金額及條件ヲ定ムル問題及該債券ノ賣却、讓渡又ハ分配ノ時期及方法ヲ定ムル問題

(ハ)　千九百二十一年五月一日以後千九百二十六年末日以前支拂期ニ達スヘキ割賦ノ全部又ハ一部ノ支拂ヲ千九百三十年末日ヨリ後ニ延期スルコト

(ニ)　千九百二十六年ヨリ後ニ於テ支拂期ニ達スヘキ割賦ノ全部又ハ一部ノ支拂ヲ三年ヲ超ユル期間延期スルコト

(ホ)　特定ノ場合ニ於テ從來同樣ノ場合ニ適用シタルモノト異ナル損害計算方法ヲ適用スル問題

（ヘ）本編ノ規定ノ解釋ニ關スル問題

前記ノ外一切ノ問題ハ表決ノ過半數ヲ以テ之ヲ決ス

一ノ問題カ其ノ決定ニ全會一致ヲ要スルモノナリヤ否ヤニ付委員間ニ意見ノ相違アリテ其ノ本國政府ニ請訓スルモ尙解決スルコト能ハサル場合ニ於テハ遠ニ之ヲ各本國政府ノ同意シタル公平ナル人士ノ仲裁ニ付スヘク同盟及聯合國政府ハ其ノ裁定ヲ承認スルコトヲ約ス

十四

委員會カ其ノ付與セラレタル權能ニ依リテ下シタル決定ハ卽時ニ其ノ拘束力ヲ有スヘク且更ニ他ノ手續ヲ經スシテ直ニ之ヲ執行スルコトヲ得

十五

委員會ハ其ノ定ムル樣式ニ依リ關係各國ニ對シ左ノ證明書ヲ發スヘシ

一　委員會カ當該國ノ計算ニ於テ前記發行ノ債券ヲ保有スル旨ヲ記載シタル證明書、本證明書ハ當事國ノ要求アルトキハ五箇ヲ超エサル部分ニ之ヲ分割スルコトヲ得

二　委員會カ獨逸國ニ依リ其ノ賠償金錢債務ニ基キテ引渡サレ且當該國ノ計算ニ於テ保有スル物品ヲ記載シタル時時ノ證明書

右證明書ハ登錄セラルヘク且委員會ニ通知シタル後裏書ヲ以テ之ヲ讓渡スルコトヲ得

債券カ賣買又ハ讓渡ノ爲發行セラレタルトキ及物品カ委員會ヨリ引渡サレタルトキハ其ノ價額ニ相當スル證明書ハ之ヲ回收スルコトヲ要ス

十六

委員會ニ於テ決定シタル獨逸國ノ金錢債務中現金ノ支拂若ハ之ニ相當スルモノニ依リ、委員會ニ對シ獨逸國ノ發行シタル債券ニ依リ又ハ第二百四十三條ニ依リ既ニ辨濟シタル金額ヲ控除シタル殘額ニ對シ千九百二十一年五月一日以後ノ利息ハ之ヲ獨逸國ノ借方ニ計上スヘシ其ノ利率ハ將來委員會ニ於テ其ノ變更ヲ正當トスル事情アリト決定シタル場合ヲ除ク外年五分トス

委員會ハ千九百二十一年五月一日ニ於テ獨逸國ノ金錢債務總額ヲ決定スルニ當リ物質的損害ノ賠償額ニ對スル千九百十八年十一月十一日ヨリ千九百二十一年五月一日ニ至ル迄ノ間ノ利息ヲ算入スルコトヲ得

十七

獨逸國本編規定ノ義務ヲ履行セサル場合ニ於テハ委員會ハ速ニ之ヲ關係各國ニ通知シ且右不履行ノ爲執ルヘキ行動ニ付必要ト認ムル建議ヲ爲スコトヲ得

十八

獨逸國カ故意ニ履行ヲ怠リタル場合ニ同盟及聯合國カ執ルノ權利ヲ有スル措置ニハ經濟上及金融上ノ禁止及報復其ノ他ノ一般ニ各當該國政府ニ於テ事情ニ應シ必要ト決定シタル措置ヲ包含ス獨逸國ハ右措置ヲ以テ戰爭行爲ト認メサルコトヲ約ス

十九

同盟及聯合國ノ確定請求ニ基キ金又ハ之ニ相當スルモノヲ以テ爲スヘキ支拂ハ委員會ニ於テ獨逸國領土ノ內外ニ在ル動產、不動產、貨物、營業、權利若ハ利益、船舶、債券、株券若ハ各種ノ有價證券又ハ獨逸國若ハ其ノ他ノ國ノ通貨ヲ以テ何時ニテモ之ヲ受領スルコトヲ得右金ノ代物ノ價額ハ委員會自ラ公平且正當ナリト認ムル額ニ於テ之ヲ定ム

委員會ハ特定ノ財產又ハ權利ヲ以テスル支拂ヲ確定シ又ハ受領スルニ當リ同盟及聯合國若ハ中立國又ハ其ノ國民カ之ニ對シ有スル法律上又ハ衡平上ノ利益ヲ相當尊重スヘシ

二十一

委員會ノ委員ハ委員トシテノ作爲又ハ不作爲ニ付任命國ニ對スルノ外其ノ責ニ任セス各同盟及聯合國政府ハ他ノ政府ニ關シテハ何等ノ責ニ任スルコトナシ

二十二

本條約ノ規定ニ依ルノ外本附屬書ハ時時委員會ニ代表セラルル政府ノ一致ノ決定ヲ以テ之ヲ修正スルコトヲ得

二十三

委員會ハ本條約又ハ委員會ノ決定ニ依リ獨逸國及其ノ同盟國カ負擔スル總額ノ辨濟ヲ受ケ且受領シタル一切ノ金額又ハ之ニ相當スルモノヲ關係諸國ニ分配ヲ了シタルトキハ解散スヘシ

第三附屬書

一

獨逸國ハ戰爭ニ因リ喪失シ又ハ損害ヲ受ケタル一切ノ商船及漁船ニ對シ噸數對噸數（無噸數）及等級對等級ノ現物代償ヲ受クル同盟及聯合國ノ權利ヲ承認ス

尤モ獨逸國ノ現存船舶ノ噸數ハ其ノ攻擊ニ因リ同盟及聯合國ニ於テ喪失シタル船舶ノ噸數ニ比スレハ遙ニ小ナリト雖右承認セラレタル權利ハ左記條件ニ依リ獨逸船舶ニ對シテ之ヲ行使スヘシ

獨逸國政府ハ自己ノ名ニ於テ且一切ノ他ノ關係者ヲ拘束シテ總噸數千六百噸以上ノ獨逸商船全部、總噸數千噸以上千六百噸未滿ノ船舶ノ噸數計算ニ依ル二分ノ一、「トロール」汽船ノ噸數計算ニ依ル四分ノ一及其ノ他ノ漁船ノ噸數計算ニ依ル四分ノ一ニ對スル所有權ヲ同盟及聯合國政府ニ讓渡ス

二

獨逸國政府ハ本條約實施後二月以內ニ一ニ揭ケル一切ノ船舶ヲ賠償委員會ニ引渡スヘシ

三

一ニ揭ケル船舶ニハイ）獨逸商船旗ヲ揭揚スルモノ又ハ揭揚スルノ權利アルモノロ）獨逸國ノ國民、會社若ハ法人ノ所有ニ屬スルモノ又ハ同盟及聯合國ニ非サル國ノ會社若ハ法人ニシテ獨逸國民ノ管理若ハ指揮ノ下ニ在ルモノノ所有ニ屬スルモノハ）一）獨逸國內ニ於テ建造中ノモノ二）獨逸國ノ國民、會社又ハ法人ノ計算ニ於テ同盟及聯合國ニ非サル國ニ於テ建造中ノモノノ全數ヲ含ム

四

獨逸國政府ハ右ノ如ク引渡スヘキ船舶ニ對スル權原證書ヲ提供スル爲

イ）各船舶ニ付一切ノ負擔、擔保及留置權ヲ附帶セシムルコトナクシテ船舶ノ全所有權ヲ賠償委員會ニ移轉シタルコトヲ證明スル賣渡證書其ノ他ノ權原證書ヲ賠償委員會ノ要求ニ從ヒ同委員會ニ交付スヘシ

ロ）船舶ヲ賠償委員會ノ處分ニ委スルコトヲ確保スル爲其ノ指示スル一切ノ措置ヲ執ルヘシ

獨逸國ハ賠償ノ附加トシテ同盟及聯合國政府ノ爲ニ獨逸造船所ニ於テ左ノ商船ヲ建造セシムルコトヲ約ス

(イ)　賠償委員會ハ本條約實施後三月以內ニ其ノ三月ニ續ク二年間毎年獨逸造船所ニ於テ起工スヘキ噸數ヲ獨逸國政府ニ通告スヘシ

(ロ)　賠償委員會ハ本條約實施後二年以內ニ前號ノ二年ニ續ク三年間毎年起工スヘキ噸數ヲ獨逸國政府ニ通告スヘシ

(ハ)　毎年起工スヘキ噸數ハ總噸數合計二十萬噸ヲ超エサルモノトス

(ニ)　建造スヘキ船舶ノ細目、建造及引渡ノ條件、賠償委員會ノ計算ニ供スヘキ噸當リ價格其ノ他一切ノ問題ニシテ船舶ノ計算、注文、建造及引渡ニ關スルモノハ委員會之ヲ決定スヘシ

六

獨逸國ハ千九百十四年八月一日以後ニ何ナル手段ニ依ルヲ問ハス自國又ハ自國民ノ占有ニ歸シタル內地航行用ノ船舶其ノ他ノ可動具ニシテ之ヲ識別シ得ルモノヲ賠償委員會ノ定ムル手續ニ依リ本條約實施後二月以內ニ現物ノ儘普通ノ保存狀態ニ於テ同盟及聯合國ニ還付スヘキコトヲ約ス

戰時中原因ノ如何ヲ問ハス同盟及聯合國ノ被リタル內地航行船舶ノ損失ニシテ前記ノ還付ニ依リ塡補スルコト能ハサルモノヲ補償スル爲獨逸國ハ右損失ノ總額ニ達スル迄獨逸國河川船隊ノ一部ヲ賠償委員會ニ讓渡スルコトニ同意ス但シ該讓渡ハ千九百十八年十一月十一日現在ノ河川船隊ノ二割ヲ超エサルヘシ

右讓渡ノ條件ハ特定ノ河川ニ適用セラルヘキ新國際制度ニ因リ又ハ該河川ニ關係ヲ有スル領土ノ變更ニ因リ生スヘキ河川航行船舶ノ分配ニ關スル紛爭ヲ裁定スルノ任務ヲ有スル第十二編(港、水路及鐵道)第三百三十九條ノ仲裁委員之ヲ決定スヘシ

七

獨逸國ハ同盟及聯合國ノ同意ナクシテ戰時中中立國國籍ニ移轉シ又ハ現ニ移轉ノ中途ニ在ル一切ノ船舶ニ對シ完全ナル所有權ヲ取得スル爲賠償委員會ノ指示スル一切ノ措置ヲ執ルコトニ同意ス

八

獨逸國ハ一切ノ獨逸船舶ノ抑留、使用、喪失又ハ損害ニ付同盟及聯合國政府竝其ノ國民ニ對スル各種ノ請求權ヲ拋棄ス但シ千九百十九年一月十三日ノ休戰取極及其ノ後ノ取極ニ依ル船舶使用ニ關スル支拂ハ此ノ限ニ在ラス

獨逸商船ノ引渡ハ中斷スルコトナク右取極ニ從ヒ之ヲ繼續スルコトヲ要ス

九

獨逸國ハ同盟國若ハ聯合國政府又ハ其ノ國民カ所有者、傭船者、保險者其ノ他トシテ利害關係ヲ有スル船舶又ハ其ノ載貨ニシテ海軍ノ行動ニ依リ又ハ其ノ結果トシテ沈沒シ其ノ後救助セラレタルモノニ對シ獨逸國又ハ其ノ同盟國ノ捕獲審檢所ニ於テ捕獲ノ宣言アリタル場合ト雖一切ノ請求權ヲ拋棄ス

第四附屬書

一

同盟及聯合國ハ獨逸國カ本編ニ掲クル其ノ債務ノ一部履行トシテ以下規定スル所ニ從ヒ同盟及聯合國ノ被侵入地ノ物質的回復ノ爲該諸國ノ決定スル範圍內ニ於テ獨逸國ノ經濟的資源ヲ直接提供スヘキコトヲ要求シ獨逸國ハ之ヲ爲スコトヲ約ス

二

同盟及聯合國政府ハ左記ノ品目表ヲ賠償委員會ニ提出スルコトヲ得

(イ)　獨逸國カ差押ヘ消費シ若ハ破壞シ又ハ軍事行動ノ直接ノ結果破壞セラレタル動物、機械、設備、器具其ノ他商的性質ヲ有スル類似ノ物品ニシテ同盟及聯合國政府ニ於テ卽時緊急ノ必要ニ應スル爲本條約實施ノ日ニ於テ獨逸國領土內ニ現存スル同種ノ動物及物品ヲ以テ代償セラルルコトヲ欲スルモノ

(ロ)　再築材料(石材、煉瓦、硬質煉瓦、瓦、木材、窯硝子、鋼鐵、石灰、「セメント」等)、機械、廣房具、家具其ノ他商的性質ヲ有スル類似ノ物品ニシテ同盟及聯合國政府ニ於テ被侵入地ノ回復ノ爲獨逸國ニ於テ生產又ハ製造セシメ且交付セシメムコトヲ欲スルモノ

三

右二ノ(イ)ニ掲クル物品ノ品目表ハ千九百十九年十二月三十一日以前ニ之ヲ提出スヘシ

二ノ(ロ)ニ掲クル物品ノ品目表ハ千九百十九年十二月三十一日以前ニ之ヲ提出スヘシ

品目表ニハ當該物品ノ取引ニ關スル商業契約ノ慣習ニ從ヒ品種、引渡期日(但シ四年ヲ超エルコトヲ得ス)及引渡地ヲ含ム一切ノ細目ヲ記載スヘシ尤モ物品ノ價格又ハ價額ハ左記ノ規定ニ從ヒ委員會之ヲ決定スヘシ

四

右品目表委員會ニ提出セラレタルトキハ委員會ハ直ニ獨逸國ニ要求スヘキ前記品目表ニ記載スル材料及動物ノ數量ヲ審査スヘシ委員會ハ此ノ決定ヲ爲スニ當リ獨逸國ノ社會的及經濟的生活ノ維持ニ緊要ナリト思考スル獨逸國ノ國內需要、獨逸品ニ對シ定ムヘキ價格及期日ト同盟及聯合國ニ於テ同種物品ヲ取得スルニ要スル價格及期日トノ差等竝他ノ賠償義務ヲ履行スル獨逸國ノ能力ヲ阻礙スルニ至ルヘキ獨逸國ノ產業生活ノ攪亂ヲ生セシメサルコトニ付同盟及聯合國ノ一般的利益ヲ考量スヘシ

現ニ產業ニ使用中ノ機械、設備、器具及商的性質ヲ有スル類似ノ物品ハ現ニ使用セラレサル貯藏額ニシテ利用シ得ヘキモノナキ限リ獨逸國ニ之ヲ要求スルコトヲ得但シ其ノ要求額ハ一事務所又ハ一企業ヨリ各其ノ使用量三割以內ニ限ルヘシ

委員會ハ前記材料、物品及動物ヲ供給シ得ル獨逸國政府ノ能力ニ關シ意見陳述ノ機會及時間ヲ獨逸國政府ノ代表者ニ與フヘシ

委員會ノ決定ハ其ノ法定後成ルヘク速ニ獨逸國政府及利害關係ヲ有スル各同盟及聯合國政府ニ之ヲ通知スヘシ

獨逸國政府ハ該通告中ニ指定スル材料、物品及動物ヲ交付スヘキコトヲ約シ利害關係ヲ有スル同盟及聯合國政府ハ其ノ提出スル細目ニ該當セサル場合又ハ委員會ニ於テ同復作業ニ利用スルニ適セスト認ムル場合ヲ除クノ外此等ノ物品ヲ受領スヘキコトヲ各自ニ承諾ス

五

委員會ハ右規定ニ依リ交付セラルヘキ材料、物品及動物ノ價額ヲ決定スヘシ該物件ヲ受領スル各同盟及聯合國ハ該價額ヲ引受クヘキコトヲ承諾シ其ノ額ハ之ヲ本編第二百三十七條ノ規定ニ依リテ分配スヘキ獨逸國ノ支拂トシテ取扱フヘシ

(外務省版)

前記物質的回復ヲ要求スル權利ヲ行使シタル場合ニ於テハ委員會ハ獨逸國ノ賠償義務ニ對シ其ノ貸方ニ計上セラルヘキ額カ獨逸國ノ爲シタル役務又ハ供給シタル材料ノ公正ナル價額タルヘキコト及關係國ノ要求ハ物質的回復ヲ以テ現ニ補償セラレタル損害ニ付テハ其ノ請求全損害額ニ對スル既補償損害額ノ割合ヲ限度トシテ銷除セラルヘキコトヲ確保スヘシ

六

(イ)號ニ掲クル動物ニ付テハ獨逸國ハ即時ノ前渡トシテ本條約實施後三月內ニ均一ノ月賦ヲ以テ左記頭數ノ家畜ヲ交付スヘキコトヲ約ス

一　佛蘭西國政府ニ

種牡馬	(三歲乃至七歲)	五百頭
仔牝馬及牝馬	(十八月乃至七歲)	三萬頭
馬種ハ「アルデンネー」及「ブーロネー」ニ		
牡牛	(十八月乃至三歲)	二千頭
乳牛	(二歲乃至六歲)	九萬頭
牡緬羊		一千頭
緬羊		十萬頭
山羊		一萬頭

二　白耳義國政府ニ

種牡馬	(三歲乃至七歲) 大白耳義種	二百頭
牝馬	(三歲乃至七歲) 大白耳義種	五千頭
仔牝馬	(十八月乃至三歲) 大白耳義種	五千頭
牡牛	(十八月乃至三歲)	二千頭
乳牛	(二歲乃至六歲)	四萬頭
牡緬羊		二百頭
緬羊		二萬頭
牝豚		一萬五千頭

引渡動物ハ普通ノ健康及狀態ヲ有スルモノタルヘシ

引渡サレタル動物曩ニ奪取セラレ又ハ差押ヘラレタルモノト識別シ得サルトキハ該動物ノ價額ハ本附屬書五ニ依リ獨逸國ノ賠償債務ニ對シ其ノ貸方ニ計上スヘシ

七

獨逸國ハ本附屬書四ニ掲クル委員會ノ決定ヲ俟ツコトナク千九百十九年一月十六日ノ休戰更新取極第三條ニ依ル佛蘭西國ニ對スル農業材料ノ引渡ヲ繼續スルコトヲ要ス

第五附屬書

一

獨逸國ハ下記ノ本條約署名國ニ對シ石炭及石炭製品ノ引渡ニ付左ノ選擇權ヲ付與ス

二

獨逸國ハ十年間毎年石炭七百萬噸ヲ佛蘭西國ニ引渡スコトヲ約ス尙獨逸國ハ十年ヲ超エサル期間戰爭ノ結果破壞セラレタル「ノール」及「パ・ド・カレー」兩縣內ノ炭鑛ノ戰前年產額ト右期間ニ於ケル同地ノ炭鑛ノ產額トノ差額ニ相當スル石炭ヲ毎年佛蘭西國ニ引渡スコトヲ約ス該引渡ハ最初ノ五年間ハ年二千萬噸、其ノ後ノ五年間ハ年八百萬噸ヲ超エサルヘシ

「ノール」及「パ・ド・カレー」兩縣內ノ破壞セラレタル炭鑛ノ回復ニ付テハ相當ノ努力爲サルヘキモノトス

三

獨逸國ハ十年間毎年石炭八百萬噸ヲ白耳義國ニ引渡スコトヲ約ス

四

獨逸國ハ伊太利國ニ對シ左記數量迄ノ石炭ヲ引渡スコトヲ約ス

千九百十九年七月ヨリ千九百二十年六月ニ至ル間	四百五十萬噸
千九百二十年七月ヨリ千九百二十一年六月ニ至ル間	六百萬噸
千九百二十一年七月ヨリ千九百二十二年六月ニ至ル間	七百五十萬噸
千九百二十二年七月ヨリ千九百二十三年六月ニ至ル間	八百萬噸
千九百二十三年七月ヨリ千九百二十四年六月ニ至ル間	八百五十萬噸

及其ノ後ノ五年間毎年

現實引渡量ノ小クトモ三分ノ二ハ陸上輸送タルヘシ

五

獨逸國ハ賠償委員會ノ指定アルトキハ更ニ墺森堡國ニ對シ戰前同國ニ於ケル獨逸石炭ノ消費年額ニ相當スル石炭ヲ毎年引渡スコトヲ約ス

六

前記選擇權ニ基キ引渡サルル石炭ニ對シ支拂フヘキ價格ハ左ノ通トス

(イ)　陸上引渡(艀船ニ依ル引渡ヲ含ム)ニ對シテハ獨逸國民ニ對スル獨逸國坑口渡値段ニ佛蘭西國、白耳義國、伊太利國又ハ墺森堡國境ニ至ル運賃ヲ加ヘタルモノタルヘシ但シ右獨逸國坑口渡値段ハ輸出向英吉利國石炭坑口渡値段ヲ超エサルコトヲ條件トス白耳義國船用炭ノ場合ニ於テハ其ノ價格ハ和蘭國船用炭ノ價格ヲ超ユヘカラス

鐵道及艀船運賃ハ獨逸國ニ於テ支拂ハルル同種最低率ヲ超ユヘカラス

(ロ)　海上引渡ニ對シテハ獨逸港ニ於ケル船渡輸出値段ノ中低廉ナルモノニ依ル

七

關係同盟及聯合國政府ハ石炭四噸ニ對シ骸炭三噸ノ割合ヲ以テ石炭ノ代リニ冶金用骸炭ノ引渡ヲ要求スルコトヲ得

八

獨逸國ハ本條約實施後三年間毎年左記生產品ヲ佛蘭西國ニ引渡シ且鐵道又ハ水路ニ依リ佛蘭西國境迄之ヲ輸送スルコトヲ約ス

「ベンゾール」	三萬五千噸
「コールタール」	五萬噸
硫酸安母尼亞	三萬噸

「コールタール」ノ全部又ハ一部ハ佛蘭西國政府ノ選擇ニ依リ之ニ相當スル數量ノ輕油、重油、「アンスラシーン」、「ナフタリン」又ハ「ピッチ」ノ如キ乾溜生產品ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得

九

骸炭及前項記載ノ物品ノ價格ハ發送及佛蘭西國境又ハ獨逸港迄ノ運送ニ關スル一切ノ條件カ同種生產品ニ付獨逸國民ニ許容セラルル最有利ナルモノナル場合ニ於テ獨逸國民ノ支拂フモノト同額タルヘシ

十

前記ノ選擇權ハ賠償委員會ノ仲介ヲ經テ之ヲ行使スヘシ該委員會ハ之ニ關スル特別規定ニ依リ手續、生產品ノ品質及數量、石炭ニ代リ得ヘキ骸

炭ノ數量竝引渡及支拂ノ時期及方法ニ關スル一切ノ問題ヲ決定スル權能ヲ有ス委員會ハ獨逸國政府ニ對シ右選擇權ノ通告ヲ爲スニ當リ千九百二十年一月一日ヨリ後ニ於テ行ハルヘキ引渡ニ付テハ少クトモ百二十日前、本條約實施後千九百二十年一月一日前ニ於テ行ハルヘキ引渡ニ付テハ少クトモ三十日前ニ豫告スヘシ千九百十八年十二月二十五日ノ議定書（千九百十八年十一月十一日ノ休戰條約第六條ノ施行）ノ規定ハ獨逸國カ本規定中ニ掲クル要求ヲ接受スル迄其ノ效力ヲ有ス七及八ニ依リ付與セラレタル代物要求權ノ行使ニ付獨逸國政府ニ與フヘキ豫告ハ賠償委員會ニ於テ充分ト認ムル期間ヲ存スヘシ委員會前記選擇權ノ全部ノ行使ヲ以テ獨逸國ノ產業上ノ需要ヲ過當ニ阻礙スヘシト認メタルトキハ引渡ノ延期又ハ取消ヲ爲シ且之ニ伴フ優先ニ關スル一切ノ問題ヲ決定スルノ權限ヲ有ス但シ破壞セラレタル炭鑛ノ石炭ヲ代償スヘキ石炭ハ他ノ引渡ニ對シ優先スヘシ

第六附屬書

一

獨逸國ハ本條約實施ノ日ニ於テ獨逸國ニ現存シ又ハ其ノ管理ニ屬スル各種染料及化學藥品貯藏額總量ノ各百分ノ五十ヲ超エサル範圍內ニ於テ委員會ノ指定スル數量及種類ノ染料及化學藥品ヲ引渡スコトヲ賠償ノ一部トシテ獨逸國ニ要求スルノ選擇權ヲ賠償委員會ニ許與ス

右選擇權ハ委員會ニ於テ其ノ必要ト認ムル貯藏額明細書ヲ受領シタル後六十日以內ニ之ヲ行使スヘシ

二

獨逸國ハ更ニ本條約實施ノ日ヨリ千九百二十年一月一日ニ至ル期間及爾後千九百二十五年一月一日ニ至ル迄每六月ノ期間各前六月間ニ於ケル獨逸國ノ全產額ノ百分ノ二十五ヲ超エサル限度ニ於テ各種特定ノ染料及化學藥品ヲ引渡スコトヲ要求スルノ選擇權ヲ賠償委員會ニ許與ス委員會上記各前六月間ノ生產額カ普通ノ生產額ヨリ少カリシコトヲ認ムルトキハ何レノ場合ニ於テモ其ノ要求額ヲ普通生產額ノ百分ノ二十五ト爲スコトヲ得

右選擇權ハ委員會ニ於テ其ノ必要ト認ムル形式ヲ具フル生產明細書ヲ受領シタル後四週間以內ニ之ヲ行使スヘシ該明細書ハ每六月ノ期間滿了後直ニ獨逸國政府ヨリ之ヲ提出スヘシ

三

一ニ依リ引渡サレタル染料及化學藥品ノ價格ハ其ノ戰前ノ純輸出價格及爾後ノ生產費增加ヲ參酌シテ委員會之ヲ決定ス

二ニ依リ引渡サレタル染料及化學藥品ノ價格ハ其ノ戰前ノ純輸出價格及爾後ノ生產費變動又ハ他ノ購買者ニ對スル同種染料及化學藥品ノ最低純賣價ヲ參酌シテ委員會之ヲ決定ス

四

選擇權行使及引渡ノ方法及時期其ノ他ノ一切ノ細目竝本協定ノ下ニ發生スル他ノ一切ノ問題ハ賠償委員會之ヲ決定ス獨逸國政府ハ委員會ニ對シ其ノ要求スル一切ノ必要ナル情報其ノ他ノ援助ヲ供與スヘシ

五

前記「染料及化學藥品」ニハ販賣ノ目的ヲ以テ製造スル一切ノ人造染料、人造藥品染色ニ關聯シテ使用セラルル中間生產物其ノ他ノ生產物ヲ含ム本協定ハ規那皮及規那鹽類ニ對シ亦之ヲ適用ス

第七附屬書

獨逸國ハ自己及其ノ國民ノ名ニ於テ主タル同盟及聯合國ノ爲ニ左記海底電信線又ハ其ノ一部ニ關スル各種ノ權利、權原又ハ特權ヲ總テ拋棄ス

「エムデン」—「ヴィゴー」　「ドーヴァー」海峽ヨリ「ヴィゴー」沖ニ至ル

「エムデン」—「ブレスト」　「シェルブール」沖ヨリ「ブレスト」ニ至ル

「エムデン」—「テネリッフェ」　「ダンケルク」沖ヨリ「テネリッフェ」沖ニ至ル

「エムデン」—「アゾーレス」(一)「ドーヴァー」海峽ヨリ「ファヤール」ニ至ル

「エムデン」—「アゾーレス」(二)「ドーヴァー」海峽ヨリ「ファヤール」ニ至ル

「アゾーレス」—紐育(一)　「ファヤール」ヨリ紐育ニ至ル

「アゾーレス」—紐育(二)　「ファヤール」ヨリ「ハリファックス」ノ經度ニ至ル

「テネリッフェ」—「モンロヴィア」　「テネリッフェ」沖ヨリ「モンロヴィア」沖ニ至ル

「モンロヴィア」—「ローム」　「北緯二度三十分、綠威西經七度四十分ノ邊ヨリ

北緯二度二十分、綠威西經五度三十分ノ邊ニ至ル及北緯三度四十八分、經度零度零分ノ邊ヨリ

「ローム」—「デュアラ」　「ローム」ヨリ「デュアラ」ニ至ル

「モンロヴィア」—「ペルナンブロ」　「モンロヴィア」沖ヨリ「ペルナンブコ」沖ニ至ル

「コンスタンティノープル」—「コンスタンザ」　「コンスタンティノープル」ヨリ「コンスタンザ」ニ至ル

「ヤップ」—上海、「ヤップ」—「グァム」及「ヤップ」—「メナド」（セレベス）　「ヤップ」島ヨリ上海ニ、「ヤップ」島ヨリ「グァム」島ニ及「ヤップ」島ヨリ「メナド」ニ至ル

前記各海底電信線又ハ其ノ一部ニシテ私有ニ屬スルモノニ對スル價額ハ相當ナル減價見積額ヲ控除シタル原經費ヲ基礎トシテ計算シ賠償計算ニ於テ之ヲ獨逸國ノ貸方ニ計上スヘシ

第二款　特別規定

第二百四十五條

獨逸國政府ハ佛蘭西國政府ノ送付スル目錄ニ照シ千八百七十年—千八百七十一年ノ戰爭中及今次ノ戰爭中獨逸國官憲カ佛蘭西國ヨリ奪取シタル戰利品、記錄、歷史的記念物又ハ美術品殊ニ千八百七十年—千八百七十一年ノ戰爭中ニ奪取シタル佛蘭西國國旗及千八百七十年十月十日前國務大臣「ルーエル」氏カ當時所有シタル「ブリューノア」（「セーヌ、エ、オアーズ」縣）附近「セルセイ」ノ城ニ於テ獨逸國官憲ノ奪取シタル一切ノ政治文書ヲ本條約實施後六月以內ニ佛蘭西國政府ニ還付スルコトヲ要ス

（外初版）

第一類　一般共通條約

第二編　平和條約

第一類　一般共通條約

第一百四十六條

獨逸國ハ佛蘭西共和國ノ爲メ及聯合國ノ爲メ獨逸國東亞及太平洋ニ於ケル一切ノ權利名義及特權ヲ放棄ス

獨逸國ハ獨逸國政府ヲシテ千九百十七年十一月七日ノ露國ト獨逸國トノ間ノ休戰條約ヲ承認セシメ且露國ニ關スル一切ノ條約、協定及契約ヲ破棄スヘキコトヲ約ス

獨逸國ハ千九百十八年三月三日ノ露國ト獨逸國トノ間ノ平和條約ヲ承認スヘキコトヲ約ス

獨逸國ハ千九百十八年八月三日ノ羅馬尼國ト獨逸國トノ間ノ平和條約ヲ承認スヘキコトヲ約ス

獨逸國ハ千九百十八年五月七日ノ獨逸國ト烏克蘭國トノ間ノ平和條約ヲ承認スヘキコトヲ約ス

獨逸國ハ千九百十八年八月二十三日ノ獨逸國ト芬蘭國トノ間ノ平和條約ヲ承認スヘキコトヲ約ス

獨逸國ハ千九百十八年五月七日ノ獨逸國ト烏克蘭國トノ間ノ平和條約ヲ承認スヘキコトヲ約ス

獨逸國ハ千九百十八年八月三日ノ獨逸國ト芬蘭國トノ間ノ平和條約ヲ承認スヘキコトヲ約ス

獨逸國ハ千九百十八年八月二十

要スル力如キ方法ヲ採用シタル場合ニ於テハ獨逸國賠償額未拂部分ノ存スル限リ之ニ充當スル爲該支拂金ハ之ヲ賠償委員會ニ交付スヘシ

第二百五十五條

一　右ノ例外トシテ且千八百七十一年獨逸國カ佛蘭西國公債ノ引受ヲ拒絶シタルノ事實ニ顧ミ佛蘭西國ハ「アルザス、ロレーヌ」ニ付テハ第二百五十四條ニ依ル支拂義務ヲ負フコトナカルヘシ

二　波蘭國ニ付テハ賠償委員會ニ於テ獨逸國及普魯西ノ政府ノ波蘭ニ於ケル獨逸殖民政策ニ基因スルモノト認メタル公債ニ限リ第二百五十四條ニ依ル其ノ割當中ヨリ之ヲ除外スヘシ

三　「アルザス、ロレーヌ」以外ノ一切ノ讓渡地域ニ付テハ賠償委員會ニ於テ獨逸帝國又ハ其ノ各邦ノ政府カ第二百五十六條ノ官有財產ノ爲ニ費シタル支出ニ該當スト認メタル獨逸帝國又ハ其ノ各邦ノ公債ニ限リ第二百五十四條ニ依ル割當中ヨリ之ヲ除外スヘシ

第二百五十六條

獨逸國ノ領土ノ讓渡ヲ受ケル諸國ハ其ノ讓受地域内ニ在ル獨逸帝國又ハ其ノ各邦ニ屬スル一切ノ財產所有物ヲ取得スヘシ其ノ取得物ノ價額ハ賠償委員會之ヲ定メ且獨逸國政府ノ貸方トシテ其ノ賠償金額ニ計上セシムル爲該讓受國ヨリ賠償委員會ニ之ヲ拂込ムヘシ

本條ノ獨逸帝國及其ノ各邦ノ財產及所有物ニハ帝室、帝國又ハ各邦ノ一切ノ財產及前獨逸皇帝其ノ他ノ王族ノ私財產ノ全部ヲ包含ス

千八百七十一年「アルザス、ロレーヌ」ヲ獨逸國ニ讓渡シタル條件ニ顧ミ佛蘭西國ハ「アルザス、ロレーヌ」ニ在ル獨逸帝國又ハ其ノ各邦ノ財產及所有物ニ對シテ本條ニ依リ支拂ヲ爲シ又ハ貸方ニ計上スルコトナカルヘシ

第二百五十七條

獨逸國ノ舊領土（殖民地、保護領又ハ屬領地ヲ含ム）ニシテ本條約第一編（國際聯盟）第二十二條ニ依リ受任國ニ於テ施政ヲ行フニ付テハ該領土又ハ受任國ハ共ニ獨逸帝國又ハ其ノ各邦ノ公債ノ何レノ部分ヲモ負擔スルコトナカルヘシ

前記領土内ニ在ル獨逸帝國又ハ獨逸各邦ニ屬スル一切ノ財產及所有物ハ受任國之ヲ該領土ト共ニ受任國タル資格ニ於テ讓受クヘク且其ノ對價トシテ獨逸國又ハ獨逸各邦ノ政府ニ對シ何等支拂ヲ爲シ又ハ貸方ニ計上スルコトナカルヘシ

本條ノ獨逸帝國及獨逸各邦ノ財產及所有物ニハ帝室、帝國又ハ各邦ノ一切ノ財產及前獨逸皇帝其ノ他ノ王族ノ私財產ノ全部ヲ包含ス

第二百五十八條

獨逸國ハ各同盟及聯合國、墺地利國、洪牙利國、勃爾牙利國、土耳其國、右諸國ノ屬領地又ハ前露西亞帝國ニ於テ管理又ハ行政ノ權能ヲ行使スル委員會、國立銀行、代表機關其ノ他國際的性質ヲ有スル金融上又ハ經濟上ノ機關ノ管理又ハ行政ニ付各種ノ條約又ハ取極ニ依リ獨逸國又ハ其ノ國民ニ許與セラレタル一切ノ代表權又ハ參加權ヲ拋棄ス

第二百五十九條

一　獨逸國ハ本條約實施後一月以内ニ土耳其國政府紙幣第一回發行ノ

白耳義國ハ本條約ニ依リ同國ニ讓渡セラルル獨逸國ノ領土内ニ在ル獨逸帝國又ハ其ノ各邦ノ財產及所有物ニ對シ亦本條ニ依リ支拂ヲ爲シ又ハ貸方ニ計上スルコトナカルヘシ

第二百五十七條

獨逸國ノ舊領土（殖民地、保護領又ハ屬領地ヲ含ム）ニシテ本條約第一編（國際聯盟）第二十二條ニ依リ受任國ニ於テ施政ヲ行フニ付テハ該領土又ハ受任國ハ共ニ獨逸帝國又ハ其ノ各邦ノ公債ノ何レノ部分ヲモ負擔スルコトナカルヘシ

前記領土内ニ在ル獨逸帝國又ハ獨逸各邦ニ屬スル一切ノ財產及所有物ハ受任國之ヲ該領土ト共ニ受任國タル資格ニ於テ讓受クヘク且其ノ對價トシテ獨逸國又ハ獨逸各邦ノ政府ニ對シ何等支拂ヲ爲シ又ハ貸方ニ計上スルコトナカルヘシ

本條ノ獨逸帝國及獨逸各邦ノ財產及所有物ニハ帝室、帝國又ハ各邦ノ一切ノ財產及前獨逸皇帝其ノ他ノ王族ノ私財產ノ全部ヲ包含ス

第二百五十八條

獨逸國ハ各同盟及聯合國、墺地利國、洪牙利國、勃爾牙利國、土耳其國、右諸國ノ屬領地又ハ前露西亞帝國ニ於テ管理又ハ行政ノ權能ヲ行使スル委員會、國立銀行、代表機關其ノ他國際的性質ヲ有スル金融上又ハ經濟上ノ機關ノ管理又ハ行政ニ付各種ノ條約又ハ取極ニ依リ獨逸國又ハ其ノ國民ニ許與セラレタル一切ノ代表權又ハ參加權ヲ拋棄ス

第二百五十九條

一　獨逸國ハ本條約實施後一月以内ニ土耳其國政府紙幣第一回發行ノ

保證トシテ土耳其國公債管理委員會ノ名ヲ以テ獨逸帝國銀行ニ寄託スヘカリシ額ノ金ヲ主タル同盟及聯合國ノ指定スル官憲ニ引渡スコトヲ約ス

二　獨逸國ハ土耳其國政府紙幣第二回及其ノ後ノ發行ニ對スル保證トシテ土耳其國公債管理委員會ノ名ヲ以テ獨逸國カ時時寄託シタル獨逸國大藏省證券面ノ規定ニ依リ十二年間毎年金ヲ以テ支拂ヲ爲スノ義務ヲ承認ス

三　獨逸國ハ千九百十五年五月五日ノ協定ニ依リ土耳其國公債管理委員會ヨリ土耳其國政府ニ對スル金ヲ以テシタル貸出ノ殘高タル獨逸帝國銀行其ノ他ニ預入ノ金ヲ本條約實施後一月以内ニ主タル同盟及聯合國ノ指定スル官憲ニ引渡スコトヲ約ス

四　獨逸國ハ千九百十九年五月支拂ヲ爲スヘキ土耳其國内國公債ノ元利償還ノ爲千九百十八年十一月中土耳其國大藏省ニ交付シタル金銀ノ額ニ對シ獨逸國ノ有スヘキ權利ヲ主タル同盟及聯合國ニ讓渡スルコトヲ約ス

五　獨逸國ハ獨逸國又ハ其ノ國民カ墺地利洪牙利國政府ニ對シ爲シタル貸付金ニ關聯シ擔保トシテ獨逸國又ハ其ノ國民ニ引渡サレタル額ノ金ヲ本條約實施後一月以内ニ主タル同盟及聯合國ニ引渡スコトヲ約ス

六　獨逸國ハ「アカレスト」條約及「ブレスト、リトウスク」條約竝其ノ附屬條約ニ規定シタル利益ヲ千九百十八年十一月十一日ノ休戰條約第十五條ニ依リ拋棄スルコトヲ確認ス但シ第十編（經濟條項）第二百九十二條ノ適用ヲ妨ケス

獨逸國ハ前記諸條約ニ依リ收受シタル一切ノ金錢證書、正金、有價證券及流通證券又ハ物品ヲ羅馬尼亞國又ハ主タル同盟及聯合國ニ夫々引渡スコトヲ約ス

七　本條ノ規定ニ依リ引渡シ支拂ヒ又ハ讓渡セラルヘキ現金、一切ノ有價證券、證書及物品ハ主タル同盟及聯合國其ノ今後決定スヘキ方法ニ依リ之ヲ處分スヘシ

第二百六十條

本條約ノ他ノ規定ニ依リ獨逸國カ自國又ハ其ノ國民ニ屬スル權利ヲ拋棄スル場合ヲ除クノ外賠償委員會ハ本條約實施後一年以内ニ露西亞國、支那國、土耳其國、墺地利國、洪牙利國及勃爾牙利國ニ於テ、此等諸國ノ屬地屬領地内ニ於テ又ハ本條約ニ依リ受任國カ施政ヲ行フヘキ者ハ他國ニ讓渡セラルヘキ獨逸國若ハ其ノ同盟國ノ舊領土内ニ於テ經營セラルル公共事業又ハ特許事業ニ關スル獨逸國民ノ權利及利益ヲ獨逸國政府カ取得スルコトヲ要求スルコトヲ得ヘク且該政府ニ對シ其ノ取得シタル一切ノ前記ノ權利又ハ利益及同政府自身ノ有スル同種ノ權利及利益ヲ右要求ノ日ヨリ六月以内ニ賠償委員會ニ讓渡スルコトヲ求ムルコトヲ得

獨逸國ハ右ニ依リ權利及利益ヲ失ヒタル其ノ國民ニ對シ賠償ノ責ヲ負フヘシ賠償委員會ハ讓渡セラレタル權利及利益ノ價格トシテ其ノ評定シタル金額ヲ獨逸國ノ賠償負擔額ニ對シ其ノ貸方ニ計上スヘシ前記一切ノ權利及利益ハ其ノ既ニ付與セラレタルト條件附ナルト未タ行使セラレサルトヲ問ハス本條約實施後六月以内ニ獨逸國政府賠償委員會ニ之ヲ通知スヘク其ノ通知ニ洩レタル權利及利益ハ獨逸國ハ自國トシテ及其ノ國民ニ代リテ同盟ノ爲ニ總テ之ヲ拋棄スヘシ

第二百六十一條

獨逸國ハ埃地利國、洪牙利國、勃爾牙利國又ハ土耳其國ノ政府ニ對シ有スル支拂又ハ償還ノ請求權殊ニ獨逸國カ戰時中右諸國政府ト締結シタル約定ノ履行ノ結果發生スル現在又ハ今後ノ一切ノ請求權ヲ同盟及聯合國ニ讓渡スルコトヲ約ス

第二百六十二條

本條約ニ依リ發生シ且「麻」金貨ナル文字ニテ表示セラルル獨逸國ノ金錢上ノ債務ハ債權者ノ選擇ニ從ヒ倫敦拂「磅」金貨、紐育拂亞米利加合衆國「弗」金貨、巴里拂「法」金貨又ハ羅馬拂「利」金貨ニテ之ヲ支拂フヘシ

右金貨ハ本條ノ適用上千九百十四年一月一日現在ノ法定重量及法定品位ヲ有スヘキモノトス

第二百六十三條

獨逸國ハ漢堡「ブレーメン」「アンヴェルス」及「トリエスト」ノ諸港ニ於テ賣却シタル「サン、パウロ」州所有ノ珈琲ノ代金トシテ在伯林「ブライヒレーテル」銀行ニ預入シタル總金額ヲ今後協定スヘキ利息ヲ附シ辨償スヘキコトヲ伯剌西爾國政府ニ保證ス又獨逸國ハ前記金額ヲ正當ノ時期ニ「サン、パウロ」州ニ引渡スコトヲ妨ケタルニ依リ右辨償ハ預入當時ノ爲替相場ヲ以テ行ハルヘキコトヲ保證ス

第十編　經濟條項

第一款　通商關係

第一章　稅關規則、稅金及制限

第二百六十四條

獨逸國ハ其ノ版圖內ニ輸入セラルル同盟國又ハ聯合國ノ一國ノ生產又ハ製造ニ係ル貨物ニ對シ其ノ何レノ地ヨリ來ルヲ問ハス他ノ同盟國若ハ聯合國又ハ其ノ他ノ外國ノ生產又ハ製造ニ係ル同種ノ貨物ニ對シ課スルト異ルカ又ハ之ヨリ高キ稅金又ハ課金（內國課稅金ヲ含ム）ヲ課セサルコトヲ約ス

獨逸國ハ同盟國又ハ聯合國ノ一國ノ版圖內ノ生產又ハ製造ニ係ル貨物ノ獨逸國ノ版圖內ヘノ輸入ニ對シ其ノ何レノ地ヨリ來ルヲ問ハス他ノ同盟國若ハ聯合國又ハ其ノ他ノ外國ノ生產又ハ製造ニ係ル同種ノ貨物ノ輸入ニ對シ均シク及ホササル禁止若ハ制限ヲ加ヘ又ハ之ヲ存續スルコトナカルヘシ

第二百六十五條

獨逸國ハ又輸入ニ適用スヘキ制度ニ關シ同盟及聯合國ノ一國ノ通商ニ對シ稅關規則若ハ稅關手續、檢定若ハ分析方法、稅金納付ノ條件、稅率表ノ分類若ハ解釋又ハ專賣制ノ作用ノ如キ間接ノ方法ニ依リテモ他ノ同盟國若ハ聯合國又ハ其ノ他ノ外國ニ比シ何等差別アル取扱ヲ爲ササルコトヲ約ス

第二百六十六條

輸出ニ關スル一切ノ事項ニ付獨逸國ハ其ノ版圖ヨリ同盟國又ハ聯合國ノ一國ノ版圖ニ輸出セラルル天產物又ハ製造品タル貨物ニ對シ他ノ同盟國若ハ聯合國又ハ其ノ他ノ外國ニ輸出セラルル同種ノ貨物ニ對シ課スルト異ルカ又ハ之ヨリ高キ稅金又ハ課金（內國課稅金ヲ含ム）ヲ課セサルコトヲ約ス

獨逸國ハ其ノ版圖ヨリ同盟國又ハ聯合國ノ一國ニ仕向ケラルル貨物ノ輸出ニ對シ他ノ同盟國若ハ聯合國又ハ其ノ他ノ外國ニ仕向ケラルル天產物

又ハ製造品タル同種ノ貨物ノ輸出ニ對シ均シク及ホサルル禁止若ハ制限ヲ加ヘ又ハ之ヲ存續スルコトナカルヘシ

第二百六十七條

貨物ノ輸入、輸出又ハ通過ニ關シ獨逸國カ同盟國若ハ聯合國又ハ其ノ他ノ外國ニ許與スル一切ノ恩典、免除又ハ特權ハ卽時且無條件ニテ又請求ヲ俟タス且無償ニテ一切ノ同盟及聯合國ニ及ホサルヘシ

第二百六十八條

本章第二百六十四條乃至第二百六十七條及第十二編（港、水路及鐵道）第三百二十三條ノ規定ニ左ノ例外ヲ設ク

（イ）佛蘭西國ニ復歸シタル「アルザス」及「ロレーヌ」ノ地域內ニ原產シ且其ノ地域ヨリ來ル天產物又ハ製造品ハ本條約實施後五年間獨逸國ノ關稅地域內ヘ輸入セラルルニ當リ一切ノ關稅ヲ免除セラルヘシ

佛蘭西國政府ハ此ノ免除ヲ享受スヘキ生產品ノ性質及數量ヲ每年命令ヲ以テ定ムヘク其ノ命令ハ獨逸國政府ニ之ヲ通告ス

右ニ依リ每年獨逸國內ニ仕向ケ得ル各種生產品ノ數量ハ千九百十一年乃至千九百十三年ニ仕向ケラレタル每年ノ數量ノ平均額ヲ超過スヘカラス

前記ノ期間獨逸國政府ハ又漂白、染色、捺染、「マーセライズ」、「瓦斯燒」、摩掛又ハ糊付艷付ノ如キ仕上工程ヲ經ル爲獨逸國ヨリ「アルザス」又ハ「ロレーヌ」ノ地域內ニ仕向ケラルル一切ノ種類及一切ノ狀態ニ於ケル纖絲、織物其ノ他ノ織物原料又ハ織物製品ニ對シ獨逸國ヨリノ輸出及獨逸國ヘノ再輸入ヲ自由ナラシメ一切ノ關稅其ノ他ノ課金（內國課稅金ヲ含ム）ヲ免除スヘシ

（ロ）戰爭前獨逸國ノ一部ナリシ波蘭國ノ版圖內ニ原產シ且其ノ版圖ヨリ來ル天產物又ハ製造品ハ本條約實施後三年間獨逸國ノ關稅地域內ニ輸入セラルルニ當リ一切ノ關稅ヲ免除セラルヘシ

波蘭國政府ハ此ノ免除ヲ享受スヘキ生產品ノ性質及數量ヲ每年命令ヲ以テ定ムヘク其ノ命令ハ獨逸國政府ニ之ヲ通告ス

右ニ依リ每年獨逸國ニ仕向ケ得ル各種生產品ノ數量ハ千九百十一年乃至千九百十三年ニ仕向ケラレタル每年ノ數量ノ平均額ヲ超過スヘカラス

（ハ）同盟及聯合國ハ本條約實施後五年間盧森堡大公國內ニ原產シ且同大公國ヨリ來ル天產物及製造品カ獨逸國ノ關稅地域內ニ輸入セラルルニ當リ關稅ノ免除ヲ許與セラルヘキコトヲ獨逸國ニ要求スルノ權利ヲ留保ス

本制度ノ利益ヲ享受スヘキ生產品ノ性質及數量ハ每年獨逸國政府ニ之ヲ通告ス

右ニ依リ每年獨逸國內ニ仕向ケ得ル各種生產品ノ數量ハ千九百十一年乃至千九百十三年ニ仕向ケラレタル每年ノ數量ノ平均額ヲ超過スヘカラス

第二百六十九條

本條約實施後最初ノ六月間ニ於テハ同盟及聯合國ヨリノ輸入品ニ對シ獨逸國ノ課スル稅金ハ千九百十四年七月三十一日ニ於テ獨逸國內ヘノ輸入品ニ對シ適用セラレタル最惠稅金ヨリ高カルヘカラス

前項ノ期間滿了後更ニ三十月ノ期間前項ノ規定ハ千九百二年十二月二十五日ノ獨逸國關稅定率表第一類甲款中ニ包含セラレ且前項ノ日（千九百

十四年七月三十一日）ニ於テ同盟及聯合國トノ條約ニ依ル協定稅率ノ適用ヲ受ケタル生產品竝千九百十四年七月三十一日前ニ特別協定品タリシト否トヲ問ハス各種ノ葡萄酒及植物油、人造絹絲及洗毛ニ關シ特ニ引續キ適用セラルヘシ

第二百七十條

同盟及聯合國ハ其ノ軍隊ノ占領スル獨逸國ノ版圖內ノ人民ノ經濟上ノ利益ヲ保障スル爲必要ナリト認メタル場合ニ於テハ輸出入品ニ關スル特別ノ關稅制度ヲ該占領地域內ニ施行スルノ權利ヲ留保ス

第二章　海運

第二百七十一條

同盟及聯合國ノ船舶ハ海上漁業、海上沿岸貿易及海上曳船ニ關シ獨逸國ノ領水內ニ於テ最惠國ノ船舶ニ許與セラルル待遇ヲ享受スヘシ

第二百七十二條

獨逸國ハ北海ニ於ケル漁業及火酒類販賣ニ關スル條約中ニ存スル反對ノ規定ニ拘ラス臨檢及警察上ノ一切ノ權利ハ同盟國ノ漁船ニ付テハ專ラ同盟國ノ船舶ヲ以テ之ヲ行フコトニ同意ス

第二百七十三條

同盟國又ハ聯合國ノ船舶ニ付テハ船舶ニ關スル各種ノ證明書及書類ニシテ戰前獨逸國ニ於テ有效ト認メラレ又ハ今後主要海運國ニ於テ有效ト認メラルヘキモノハ獨逸國之ヲ有效ト認メ且獨逸船舶ニ發給シタル同種ノ證明書ト同等ノ效力ヲ有スルモノト認ムヘシ

新國ノ政府カ自國ノ船舶ニ發給シタル證明書及書類ニ付テモ其ノ書類カ主要海運國ノ選由スル一般ノ慣行ニ從ヒ發給セラルル限リ其ノ國カ海岸ヲ有スルト否トヲ問ハス前項ト同樣ノ承認ヲ與ヘラルヘシ

締約國ハ海岸ヲ有セサル同盟國又ハ聯合國ノ船舶ニシテ其ノ版圖內ノ或一定ノ地ニ於テ登錄セラレタルモノノ揭揚スル國旗ヲ承認スルコトニ同意ス其ノ地ハ之ヲ其ノ船舶ノ船籍港ト看做ス

第三章　不正競爭

第二百七十四條

獨逸國ハ商業取引上ノ一切ノ形式ノ不正競爭ニ對シ同盟及聯合國ノ一國ノ生產又ハ製造ニ係ル貨物ヲ保護スルニ必要ナル一切ノ立法上及行政上ノ措置ヲ執ルヘキコトヲ約ス

獨逸國ハ貨物ノ原產地、標型、性質又ハ特徵ニ付直接又ハ間接ニ虛僞ノ表示ヲ爲サムカ爲ニ貨物自體又ハ其ノ外觀若ハ包裝上ニ附シタル標章、名稱、意匠又ハ記載ヲ有スル一切ノ貨物ノ獨逸國版圖內ニ於ケル輸入、輸出、製造、分配、販賣又ハ販賣ノ提供ヲ差押其ノ他適當ナル救濟方法ニ依リ禁止及防遏スヘキコトヲ約ス

第二百七十五條

獨逸國ハ同盟國又ハ聯合國ニ生產セラルル葡萄酒又ハ火酒ニ其ノ國ニ屬スル一地方ノ名稱ヲ附スルノ權利又ハ其ノ地方名ノ使用ヲ許スニ付テノ條件ヲ決定又ハ規定スル法令又ハ其ノ法令ニ依リ行フ行政上若ハ司法上ノ裁決ニシテ同盟國又ハ聯合國ニ於テ現ニ效力ヲ有シ且適當ノ官憲ヨリ正式ニ通告ヲ受ケタルモノハ此ノ事項ニ關シ相互待遇ヲ許與セラルルコトヲ條件トシテ之ヲ尊重スヘキコトヲ約ス其ノ法令又ハ裁決ニ違反シテ地方名ヲ附シタル生產品又ハ物品ノ輸入、輸出、製造、分配、販賣又ハ販賣ノ提供ハ獨逸國之ヲ禁止シ且前條ニ規定スル措置ニ依リ之ヲ防遏ス

第四章　同盟及聯合國ノ國民ノ待遇

第二百七十六條

獨逸國ハ左ノ事項ヲ約ス

（イ）生業、職業、商業及產業ニ從事スルコトニ關シ同盟及聯合國ノ國民ニ對シ一切ノ外國人ニ例外ナク均シク適用セラレサル何等ノ禁止ヲ加ヘサルコト

（ロ）前號ニ規定スル權利ニ關シ同盟及聯合國ノ國民ニ對シ前號ノ規定ニ直接又ハ間接ニ違反スル規定ヲ適用シ又ハ制限ヲ加ヘ又ハ最惠國國民ニ對シ適用スルト異ルカ若ハ之ヨリ不利益ナル規則ヲ適用シ又ハ制限ヲ加ヘサルコト

（ハ）同盟及聯合國ノ國民、其ノ財產、權利又ハ利益竝其ノ國民ノ利害關係ヲ有スル會社又ハ組合ニ對シ獨逸國民、其ノ財產、權利又ハ利益ニ對シ課シ又ハ課スルコトアルヘキ課金、租稅又ハ賦課ト異ルカ又ハ之ヨリ高キ課金、租稅又ハ賦課ヲ直接又ハ間接ニ課セサルコト

（ニ）千九百十四年七月一日ニ同盟及聯合國ノ國民ニ對シテ適用セラレサリシ制限ハ獨逸國民ニ對シ均シク之ヲ加フルニ非サレハ同盟及聯合國ノ一國ノ國民ニ對シ之ヲ加ヘサルコト

第二百七十七條

同盟及聯合國ノ國民ハ獨逸國版圖內ニ於テ其ノ身體、財產、權利及利益ニ對シテ常ニ保護ヲ受クヘク且自由ニ裁判所ニ出訴スルコトヲ得ヘシ

第二百七十八條

獨逸國ハ同盟及聯合國ノ法令ニ依リ及其ノ同盟及聯合國ノ常該官憲カ歸化法又ハ條約ノ規定ニ從ヒテ爲シタル裁決ニ依リ獨逸國民ノ取得シ又ハ取得スルコトアルヘキ新國籍ヲ承認シ且其ノ國民ハ之ヲ新國籍取得ノ結果一切ノ關係ニ於テ其ノ原國籍國ニ對スル忠誠ノ義務ヲ離脫シタルモノト認ムヘキコトヲ約ス

第二百七十九條

同盟及聯合國ハ獨逸國ノ都市及港ニ總領事、領事、副領事事務官ヲ駐在セシムルコトヲ得其ノ總領事、領事、副領事及領事事務官ノ氏名ハ之ヲ獨逸國ニ通知スヘク獨逸國ハ其ノ任命ヲ承認シ且通常ノ規則及慣例ニ依ル其ノ職務ノ執行ヲ許容スヘキコトヲ約ス

第五章　一般規定

第二百八十條

本款第一章竝第二章第二百七十一條及第二百七十二條ニ依リ獨逸國ニ課セラレタル義務ハ本條約實施後五年以後ニハ消滅スヘシ但シ本條約中別段ノ規定アルカ又ハ國際聯盟理事會カ前記期間滿了ノ時ヨリ小クトモ十二月前ニ其ノ義務ニ改正ヲ加ヘ又ハ加フルコトナクシテ更ニ一定ノ期間之ヲ存續セシムルコトヲ決シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第四章第二百七十六條ハ五年ノ期間滿了後更ニ五年ヲ超エサル一定ノ期間ヲ國際聯盟理事會ノ過半數ニ依リ決定スルコトアルトキハ其ノ期間改正ヲ加ヘ又ハ加フルコトナクシテ其ノ效力ヲ存續スヘシ

第二百八十一條

獨逸國政府カ國際貿易ニ從事ストモ之ニ付主權ニ屬スル何等ノ權利、特權又ハ免除ヲ有スルコトナク又有スト看做サルルコトナカルヘシ

第二款　條約

第二百八十二條

本條約ニ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外經濟上又ハ專門事項上ノ性質ヲ有スル數國間ノ條約及取極ハ本條以下數條ニ列記シタルモノニ限リ獨逸國ト同條約及取極ノ當事國タル同盟及聯合國トノ間ニ本條約實施ノ時ヨリ之ヲ適用ス

一　海底電信保護ニ關スル千八百八十四年三月十四日、千八百八十六年十二月一日及千八百八十七年三月二十三日ノ條約竝千八百八十七年七月七日ノ最終議定書

二　自動車ノ國際通行ニ關スル千九百九年十月十一日ノ條約

三　千八百八十六年五月十五日ノ稅關檢査ヲ受クヘキ鐵道貨物ノ封印ニ關スル取極及千九百七年五月十八日ノ議定書

四　鐵道ノ技術上ノ規格一定ニ關スル千八百八十六年五月十五日ノ取極

五　萬國關稅誌刊行及萬國關稅誌刊行ノ爲ノ萬國協會ノ組織ニ關スル千八百九十年七月五日ノ條約

六　國際貿易統計作成ニ關スル千九百十三年十二月三十一日ノ條約

七　土耳其國關稅率引上ニ關スル千九百七年四月二十五日ノ條約

八　「ズンド」海峽及「ベルト」海峽ノ通航稅ノ免除ニ關スル千八百五十七年三月十四日ノ條約

九　「エルベ」河通航稅ノ免除ニ關スル千八百六十一年六月二十二日ノ條約

十　「エスコー」河通航稅ノ免除ニ關スル千八百六十三年七月十六日ノ條約

十一　蘇士運河ノ自由使用ヲ保障スル確定制度ノ設定ニ關スル千八百八十八年十月二十九日ノ條約

十二　海上ニ於ケル船舶ノ衝突及海難ニ於ケル救援救助ニ付テノ規定ノ統一ニ關スル千九百十年九月二十三日ノ條約

十三　病院船ノ港內ニ於ケル租稅及課金免除ニ關スル千九百四年十二月二十一日ノ條約

十四　內地航行船舶ノ積量測度ニ關スル千八百九十八年二月四日ノ條約

十五　婦人ノ夜業禁止ニ關スル千九百六年九月二十六日ノ條約

十六　燐寸製造ニ於ケル黃燐使用ノ禁止ニ關スル千九百六年九月二十六日ノ條約

十七　醜業ヲ行ハシムル爲ノ婦女賣買禁止ニ關スル千九百四年五月十八日及千九百十年五月四日ノ條約

十八　猥褻出版物禁止ニ關スル千九百十年五月四日ノ條約

十九　千八百九十二年一月三十日、千八百九十三年四月十五日、千八百九十四年四月三日、千八百九十七年三月十四日及千九百三年十二月三日ノ衞生條約

二十　「メートル」法ノ統一及改良ニ關スル千八百七十五年五月二十日ノ條約

二十一　有效藥ノ藥局方統一ニ關スル千九百六年十一月二十九日ノ條約

二十二　模範音ノ制定ニ關スル千八百八十五年十一月十六日及十九日ノ條約

二十三　羅馬ニ於ケル萬國農事協會ノ設立ニ關スル千九百五年六月七日ノ條約

二十四　「フィロクセラ」驅除豫防ニ關スル千八百八十一年十一月三日及千八百八十九年四月十五日ノ條約

二十五　農業ニ有益ナル鳥類保護ニ關スル千九百二年三月十九日ノ條約

二十六　未成年者保護ニ關スル千九百二年六月十二日ノ條約

第二百八十三條

締約國ハ獨逸國カ本條中ノ特別規定ヲ履行スルコトヲ條件トシテ本條約實施ノ時ヨリ左記ノ條約及取極ヲ關係締約國ニ限リ更ニ適用スヘシ

郵便條約

千八百九十一年七月四日維納ニ於テ署名セラレタル萬國郵便聯合ノ條約及取極

千八百九十七年六月十五日華盛頓ニ於テ署名セラレタル萬國郵便聯合ノ條約取極

千九百六年五月二十六日羅馬ニ於テ署名セラレタル萬國郵便聯合ノ條約及取極

電信條約

千八百七十五年七月二十二日(露曆十日)聖彼得堡ニ於テ署名セラレタル萬國電信條約

千九百八年六月十一日里斯本ノ萬國電信會議ニ於テ改正セラレタル萬國電信條約書附屬國際業務規則及國際料金表

獨逸國カ新國カ加盟シ又ハ加盟スルコトアルヘキ萬國郵便聯合及萬國電信聯合ニ關スル條約及取極中ニ規定シタル特別協定ヲ新國ト締結スルヨトヲ拒マサルヘキコトヲ約ス

第二百八十四條

締約國ハ獨逸國カ同盟及聯合國ノ指示スヘキ暫定規則ヲ履行スルコトヲ條件トシテ本條約實施ノ時ヨリ千九百十二年七月五日ノ國際無線電信條約ヲ關係締約國ニ限リ更ニ適用スヘシ

本條約實施後五年以內ニ千九百十二年七月五日ノ條約ニ代ルヘキ國際無線電信ニ關スル新條約ノ締結アリタルトキハ其ノ新條約ハ獨逸國カ其ノ新條約制定ニ參加スルコト又ハ其ノ新條約ニ同意スルコトヲ拒ミタル場合ニ於テモ尙獨逸國ヲ拘束ス

前項ノ新條約ハ又第一項ノ暫定規則ニ代ルヘキモノトス

第二百八十五條

本條約實施ノ時ヨリ締約國ハ第二百七十二條ニ規定シタル條件ニ從ヒ左記ノ條約ヲ關係締約國ニ限リ適用スヘシ

一　北海ニ於ケル領海外ノ漁業ニ關スル千八百八十二年五月六日及千八百八十九年二月一日ノ條約

二　北海ニ於ケル火酒類販賣ニ關スル千八百八十七年十一月十六日、千八百九十三年二月十四日及千八百九十四年四月十一日ノ條約及議定書

第二百八十六條

千九百十一年六月二日華盛頓ニ於テ改正セラレタル工業所有權保護ニ關スル千八百八十三年三月二十日ノ巴里同盟條約及千九百八年十一月十三日伯林ニ於テ改正シ千九百十四年三月二十日「ベルヌ」ニ於テ署名ノ追加

議定書ニ依リ補足セラレタル文學的及美術的著作物保護ニ關スル千八百八十六年九月九日ノ「ベルヌ」條約ハ本條約ニ基ク例外及制限ニ依リ之ヲ妨ケラレ又ハ變更セラレサル範圍ニ於テ本條約實施ノ時ヨリ效力ヲ回復スヘシ

第二百八十七條

本條約實施ノ時ヨリ締約國ハ民事訴訟ニ關スル千九百五年七月十七日ノ海牙條約ヲ關係締約國ニ限リ適用スヘシ但シ佛蘭西國、葡萄牙國及羅馬尼亞國ニハ之ヲ適用セス

第二百八十八條

「サモア」ニ關スル千八百九十九年十二月二日ノ條約第三條ニ依リ獨逸國ニ付與セラレメル特殊ノ權利及特權ハ千九百十四年八月四日ヲ以テ消滅シタルモノト看做ス

第二百八十九條

各同盟國又ハ聯合國ハ本條約ノ一般原則又ハ特別規定ノ趣旨ニ從ヒ當該同盟及聯合國カ獨逸國トノ間ニ復活セシメムコトヲ欲スル二國條約ヲ獨逸國ニ通告スヘシ

本條ニ定ムル通告ハ直接ニ又ハ他國ノ仲介ニ由リ之ヲ行フヘク獨逸國ハ文書ニテ其ノ通告ノ接受ヲ認ムヘシ前項ノ條約ハ通告ノ日ヨリ其ノ效力ヲ復活スヘシ

同盟及聯合國ハ本條約ノ條項ト合致セサル條約ヲ獨逸國トノ間ニ復活セシメサルヘキコトヲ相互ニ約ス

前記ノ通告ニハ前記條約中ノ規定ニシテ本條約ノ條項ト合致セサル爲效力ヲ復活セスト看做サルルモノヲ記載スヘシ

意見ノ相違アル場合ニ於テハ國際聯盟ノ決定ヲ求ムヘシ

同盟及聯合國ハ本條約實施後六月ノ期間內ニ前記ノ通告ヲ爲スヘシ二國條約ハ前記ノ通告アリタルモノニ限リ同盟及聯合國ト獨逸國トノ間ニ其ノ效力ヲ復活スヘク其ノ他ノ一切ノ條約ハ消滅ス

前各項ノ規定ハ本條約ノ署名國タル一切ノ同盟及聯合國ト獨逸國トノ間ニ存在スル一切ノ二國條約ニ適用セラルルモノトス獨逸國ト交戰狀態ニ在リタルコトナキ同盟及聯合國ノ場合ト雖異ルコトナシ

第二百九十條

獨逸國ハ千九百十四年八月一日ヨリ本條約實施ニ至ル迄ノ間ニ獨逸國ト塲地利國、洪牙利國、勃爾牙利國又ハ土耳其國トノ間ニ締結シタル一切ノ條約又ハ取極ハ本條約ニ依リ消滅シタルコトヲ承認ス

第二百九十一條

獨逸國ハ千九百十四年八月一日前ニ締結セラレタル條約又ハ協定ニ依リ獨逸國カ塲地利國、洪牙利國、勃爾牙利國若ハ土耳其國ニ又ハ右諸國ノ官吏及國民ニ許與シタル一切ノ權利及便益ノ享有ヲ其ノ條約又ハ協定カ效力ヲ有スル限リ當然同盟及聯合國竝其ノ官吏及國民ニ保障スルコトヲ約ス

同盟及聯合國ハ右ノ權利及便益ノ享有ヲ承諾スルト否トノ權利ヲ留保ス

第二百九十二條

獨逸國ハ千九百十四年八月一日前ニ又ハ同日以後本條約實施迄ニ獨逸國カ露西亞國、從前ノ露西亞國ノ版圖ノ一部ヨリ成ル國若ハ政府又ハ羅馬尼亞國ト締結シタル一切ノ條約又ハ取極ノ消滅シタルコトヲ承認ス

第二百九十三條

同盟國、聯合國、露西亞國又ハ從前ノ露西亞國ノ版圖ノ一部ヨリ成ル國

若ハ政府カ千九百十四年八月一日以後軍事占領ノ理由ニ因リ又ハ其ノ他ノ方法若ハ事由ニ因リ獨逸國又ハ獨逸國民ニ許與スルコトヲ強要セラレ又ハ官憲ノ行爲ニ依ル許與ヲ認容ヲ認容スルコトヲ強要セラレタル利權、特權及恩典ハ其ノ種類ノ如何ヲ問ハス本條約ニ依リ當然失效シタルモノトス

前項ノ失效ヨリ生スルコトアルヘキ請求權又ハ賠償ノ要求ハ之ヲ同盟國、聯合國又ハ本條ニ依リ約定ノ解除ヲ得タル國、政府若ハ官憲ニ對シ之ヲ行フコトヲ得ス

第二百九十四條

獨逸國ハ千九百十四年八月一日ヨリ本條約實施ニ至ル迄ノ間ニ獨逸國カ本條約又ハ協定ニ依リ非交戰國又ハ其ノ國民ニ許與シタル一切ノ權利及便益ヲ其ノ條約又ハ協定カ效力ヲ有スル限リ本條約實施ノ時ヨリ當然同盟及聯合國竝其ノ國民ニ許與スルコトヲ約ス

第二百九十五條

締約國ニシテ千九百十二年一月二十三日海牙ニ於テ署名セラレタル阿片條約ニ未タ署名セサルモノ又ハ署名シタルモ未タ之ヲ批准セサルモノハ該條約ヲ實施スヘキコト及此ノ目的ノ爲運滯ナク且如何ナル場合ニ於テモ本條約實施後十二月ノ期間內ニ必要ナル法令ヲ制定スヘキコトニ同意ス

又締約國ハ本條約ノ批准ハ阿片條約ヲ批准セサル國ニ付テハ該條約ノ批准ニ及千九百十四年第三回阿片會議ノ決議ニ從ヒ該條約實施ノ爲海牙ニテ設ケラレタル特別議定書ノ署名ニ一切ノ點ニ於テ均シキモノト看做スコトニ同意ス

〔外務省〕

此ノ目的ノ爲佛蘭西共和國政府ハ本條約ノ批准書寄託ニ關スル調書ノ認證謄本ヲ和蘭國政府ニ遂致シ且和蘭國政府ニ對シ該認證謄本ヲ阿片條約ノ批准書寄託及千九百十四年ノ追加議定書ノ署名トシテ承認シ且寄託スルコトヲ依賴スヘシ

第三款　金錢債務

第二百九十六條

左ノ種類ノ金錢上ノ債務ハ本條第三項(ホ)號ニ規定スル通告後三月以內ニ各締約國ノ設置スヘキ清算所ノ仲介ニ由リ之ヲ決濟ス

一　締約國ノ一國ノ版圖內ニ居住スル其ノ締約國ノ國民カ其ノ國ニ敵對スル一國ノ版圖內ニ居住スル其ノ敵對國　國民ニ對シテ負擔スル金錢債務ニシテ戰前辨濟期限到來シタルモノ

二　締約國ノ一國ノ版圖內ニ居住スル其ノ締約國　國民ニ對スル辨濟ノ期限戰時中到來シタル金錢債務ニシテ其ノ締約國ノ敵對スル一國ノ版圖內ニ居住スル其ノ敵對國ノ國民トノ取引又ハ契約ヨリ生シ其ノ全部又ハ一部ノ履行カ宣戰ノ爲停止セラレタルモノ

三　締約國ノ一國ニ敵對スル一國ノ發行シタル有價證券ノ利息ニシテ其ノ締約國ノ國民ニ對シテ戰前又ハ戰時中支拂期限到來シタルモノ尤モ戰時中其ノ敵對國　國民又ハ中立國ノ國民ニ其ノ證券ノ利息ノ支拂カ停止セラレサリシモノニ限ル

四　締約國ニ敵對スル一國ノ發行シタル有價證券ノ元本ニシテ其ノ締約國ノ國民ニ對スル償還ノ期限戰前又ハ戰時中ニ到來シタルモノ尤モ戰時中其ノ敵對國ノ國民又ハ中立國ノ國民ニ其ノ元本ノ償還カ停止セラレサリシモノニ限ル

第四款及其ノ附屬書ニ掲クル敵人ノ財産、權利及利益ニ關シ本條ニ定ムル決濟ハ左ノ原則ニ準據シ且本款附屬書ニ從ヒテ之ヲ行フヘシ

第三項(二)號ニ規定スル通貨及爲替相場ヲ以テ清算所ニ於ケル清算ノ爲メ計算スヘキ金額ハ債務者所屬國ノ清算所ノ借方ニ計上スヘシ

(イ)　各締約國ハ本條約實施ノ時ヨリ前記金錢債務ノ辨濟及前記金錢債務ノ決濟ニ關スル利害關係人間ニ於ケル一切ノ通信禁止ニ關スル法令ニ現在規定スル(イ)號ノ規定ノ遵反ニ對シ各自國ノ締約國ハ第二百九十六條第三項(ロ)號ニ規定スル政府ノ保證ハ理由ノ如何ニ拘ラス

第二百九十六條第三項(ロ)號ニ規定スル政府ノ保證ハ理由ノ如何ニ拘ラス

第一類　一般共通條約　　第二編　平和條約

本號ニ規定スル戰前ノ爲替相場ハ戰爭開始ノ直前ノ月内ニ當該同盟國又ハ聯合國内ニ行ハレタル其ノ國ト獨逸國トノ間ノ平均電信爲替相場ヲ謂フ

金錢債務ヲ指定スル通貨ヲ當該同盟國又ハ聯合國ノ通貨ニ換算スル場合ニ於テハ爲替相場ニ付一定ノ爲替相場ヲ契約中ニ規定シタル場合ニ於テハ爲替相場ニ關スル前記ノ規定ハ之ヲ適用セス

新國ニ關シテハ金錢債務ヲ辨濟シ又ハ貸方ニ之ヲ計上スル爲メ通貨及爲替相場ハ第八編(賠償)ニ規定シタル賠償委員會ニ於テ之ヲ定ムヘシ

(ホ)　本條及本條附屬書ノ規定ハ獨逸國ト同盟國若ハ聯合國、其ノ殖民地若ハ保護國又ハ英國自治領若ハ印度ノ一ト間ニ在リテハ當該英國自治領若ハ印度ノ爲ニ本條約ノ批准書ヲ寄託シタル後一月以内ニ各場合ニ應シ當該同盟國若ハ聯合國、獨逸國ノ政府ヨリ獨逸國政府ニ其ノ適用ノ通告アリタル場合ニ於テハ當該英國自治領若ハ印度ノ爲ニ本條約ノ批准書ヲ寄託シタル後一月以内ニ各場合ニ應シ當該同盟國若ハ聯合國又ハ英國自治領若ハ印度ノ爲ニ本條約ノ批准書ヲ寄託シタル後一月以内ニ各締約國ハ第二百九十六條第三項(ホ)號ニ規定スル通告後三月以内ニ敵國ニ於テ保證ノ爲ニ敵對スル國ノ國民カ貸擔シタル金錢債務ニ關シ其ノ國ニ敵對スル國ノ國民ニ對シ其ノ一國ノ國民カ貸擔シタル金錢債務ニ關シテハ該地域所屬國ニ於テ保證ノ爲ニ敵對スル

債務ハ全部承認セラレタルモノト看做サルヘク該金額ハ直ニ貸方清算所ノ貸方ニ計上セラルヘシ

八

金錢債務ノ全部又ハ一部カ承認セラレサル場合ニ於テハ兩清算所ハ共同ニ當該事件ヲ審査シ且當事者ヲシテ協定セシムルニ力ムヘシ

九

貸方清算所ハ其ノ貸方ニ計上セラレタル金額ヲ同清算所所屬國政府カ同清算所ノ處分ニ供シタル資金中ヨリ其ノ政府ノ定メタル條件ニ從ヒ各個ノ債權者ニ支拂フヘシ但シ危險負擔、費用又ハ手數料ニ充ツル爲必要ト認ムル金額ヲ保留ス

十

敵金錢債務ノ全部又ハ一部カ承認セラレサルトキハ其ノ辨濟ヲ請求シタル者ハ過料トシテ其ノ承認ヲ不當ニ拒絶シタル者ハ過料トシテ其ノ拒絶ノ認メラレサリシ額ニ付五分ノ利息ヲ支拂フヘシ前記ノ利息ハ七ニ規定シタル期間滿了ノ日ヨリ起算シ請求カ却下セラレタル日又ハ金錢債務カ辨濟セラレタル日ニ至ル迄之ヲ附ス各清算所ハ其ノ關スル前記過料ノ徵收ニ必要ナル手段ヲ執ルヘク若シ其ノ過料ヲ徵收スルコト能ハサル場合ニ於テハ其ノ責ニ任ス過料ハ相手方ノ清算所ノ貸方ニ計上シ其ノ清算所ハ本諸規定ヲ施行スルノ費用ニ充ツル爲之ヲ保留スヘシ

十一

清算所間ノ貸借勘定ハ每月之ヲ行ヒ債務國ハ一週間以內ニ現金ヲ以テ差額ノ支拂ヲ爲スヘシ

尤モ該差額カ同盟及聯合國ノ一國又ハ數國ノ金錢債務ニ屬スル場合ニ於テハ其ノ差額ハ戰爭ニ基ク同盟國若ハ聯合國又ハ其ノ國民ノ金錢債權ノ金額ノ完全ナル辨濟アル迄之ヲ保留スヘシ

十二

清算所間ノ協議ヲ容易ナラシムル爲各一方ノ清算所ハ他方ノ清算所所在地ニ一名ノ代表者ヲ置クヘシ

十三

特別ノ理由アル場合ヲ除クノ外請求ニ關スル一切ノ協議ハ成ルヘク借方清算所ニ於テ之ヲ行フヘシ

十四

第二百九十六條第三項(ロ)號ニ準據シ締約國ハ其ノ國民ノ負擔スル敵金錢債務ノ辨濟ニ付其ノ責ニ任ス

從テ借方清算所ハ承認セラレタル一切ノ金錢債務ヲ貸方清算所ノ貸方ニ計上スヘシ各個ノ債務者ヨリ金錢債務ヲ取立ツルコト能ハサル場合ト雖異ルコトナシ右ノ場合ニ於テモ關係政府ハ承認アリタル金錢債務ノ回收ヲ行フニ付必要ナル一切ノ權能ヲ其ノ政府ノ清算所ニ付與スヘシ尤モ戰爭行爲ニ因リ損害ヲ受ケタル者ノ負擔スル承認アリタル金錢債務ハ其ノ損害ニ付債務者ニ補償ノ支拂アリタルトキニ限リ貸方清算所ノ貸方ニ之ヲ計上ス

十五

各政府ハ其ノ版圖內ニ設置シタル清算所ノ費用ハ(職員ノ俸給ヲ含ム)ヲ支辨スヘシ

十六

關係二清算所間ノ意見カ請求ニ係ル金錢債務ノ正當ナリヤ否ヤニ關シ一致セサルトキ又ハ敵債務者ト敵債權者トノ間若ハ清算所間ニ意見ノ相違アルトキハ其ノ爭議ハ之ヲ當事者間ノ合意ニ依リ定メラルル條件ノ下ニ仲裁ニ付シ又ハ之ヲ本編第六款ニ定ムル混合仲裁裁判所ノ審理ニ付スヘシ

尤モ貸方清算所ノ請求アルトキハ右ノ爭議ヲ債務者住所地ノ通常裁判所ノ管轄ニ付スルコトヲ得

十七

混合仲裁裁判所、通常裁判所又ハ仲裁裁判所カ正當ト認メタル金額ハ之ヲ借方清算所ノ承認シタル金錢債務ト看做シ其ノ回收ハ清算所ヲ經由シ之ヲ行フヘシ

十八

關係各政府ハ混合仲裁裁判所ニ清算所ノ爲ニ事件ヲ提起スル任務ヲ有スル代理人ヲ任命スヘシ代理人ハ其ノ國民ノ用ヰル代表者又ハ辯護人ノ一般監督ニ任ス

判定ハ書證ニ依リテ之ヲ爲スヘシ但シ混合仲裁裁判所ハ當事者本人ノ陳述又ハ當事者ノ希望ニ依リ關係兩政府ノ承認スル代表者若ハ前項ノ代理人ノ陳述ヲ聽取スルコトヲ得其ノ代理人ハ當事者ト共ニ事件ニ參加シ又ハ當事者カ拋棄シタル請求ヲ復活シ且主張スルノ權限ヲ有ス

十九

關係清算所ハ混合仲裁裁判所ニ提起セラルル事件ノ審理ヲ迅速ナラシムル爲其ノ有スル一切ノ參考資料及文書ヲ同裁判行所ニ提出スヘシ

二十

當事者ノ一方カ二箇ノ清算所ノ合同判定ニ對シ上訴ヲ爲ストキハ手續費用ニ對シテ供託金ヲ爲スヘシ其ノ供託金ハ原判定カ上訴人ニ有利ニ變更セラルル場合ニ限リ且其ノ勝訴ノ程度ニ應シ返還セラルヘク供託金カ返還セラルル場合ニ於テハ相手方ハ之ニ相當スル額ノ手續諸費用ヲ支拂フヘシ供託金ハ混合仲裁裁判所ノ承認スル保證ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得

混合仲裁裁判所ニ提起セラルル一切ノ事件ニ付テハ係爭金額ノ百分ノ五ノ手數料ヲ課ス此ノ手數料ハ該裁判所カ別段ノ指示ヲ爲ス場合ヲ除クノ外敗訴シタル當事者ノ負擔タルヘシ此ノ手數料ハ之ヲ前記供託金ト併セ課セラルヘク又保證トモ關係ナキモノトス

混合仲裁裁判所ハ手續上ノ諸費用ニ關スル金額ヲ當事者ノ一方ニ對シ其ノ受クヘキモノトシテ判定スルコトヲ得

本規定ノ適用ニ依リ支拂ヲ要スル金額ハ別目トシテ勝訴者ノ屬スル清算所ノ貸方ニ之ヲ計上ス

二十一

事件ノ終結ヲ迅速ナラシムル爲清算所又ハ混合仲裁裁判所ノ一切ノ職員ノ任命ニ當リ其ノ者ノ關係相手國ノ言語ノ智識ニ付相當ノ考慮ヲ爲スヘシ

各清算所ハ他ノ清算所ト通信シ且自國言語ノ文書ヲ送付スルノ自由ヲ有ス

二十二

關係政府間ニ反對ノ特別取極ノ存スル場合ヲ除クノ外金錢債務ニハ左ノ

規定ニ準據シ利息ヲ附ス

配當、利息其ノ他元本ノ利息タル性質ノ定期支拂金額ニ對シテハ利息ヲ支拂ハス

利率ハ年五分トス但シ契約、法令又ハ慣習ニ依リ債權者カ別段ノ率ニ依ル利息ノ支拂ヲ受クヘキ權利ヲ有スル場合ハ此ノ限ニ在ラス此ノ但書ノ場合ニ於テハ右ノ利率ヲ適用ス

利息ハ戰爭開始ノ日（又ハ辨濟ヲ受クヘキ金錢債務ノ辨濟期限カ戰時中到來シタルトキハ其ノ期限到來ノ日）ヨリ元本カ債權者ノ清算所ノ貸方ニ計上セラルル日ニ至ル迄之ヲ附ス

利息トシテ支拂ヲ要スル金額ハ清算所ノ承認シタル金錢債務トシテ之ヲ取扱ヒ承認金錢債務ト同シク貸方清算所ノ貸方ニ之ヲ計上ス

二十三

清算所又ハ混合仲裁裁判所カ請求ヲ第二百九十六條ニ該當セサルモノト判定シタルトキハ債權者ハ通常裁判所ニ訴訟ヲ提起シ又ハ其ノ執リ得ル其ノ他ノ法律上ノ手續ニ依リ其ノ請求ヲ主張スルコトヲ得

清算所ニ請求ノ申立アリタルトキハ時效ハ其ノ進行ヲ停止ス

二十四

締約國ハ混合仲裁裁判所ノ判定ヲ終結且確定ノモノト認メ且其ノ國民ニ對シ拘束力ヲ有セシムヘキコトニ同意ス

二十五

貸方清算所カ借方清算所ニ請求ヲ通告スルコトヲ拒ミ又ハ正當ノ申告ヲ受ケタル請求ノ全部又ハ一部ヲ有效ナラシムル本附屬書ニ規定スル手續ヲ執ルコトヲ拒ミタル場合ニ於テハ敵債權者ハ請求金額ヲ記載スル證明書ヲ清算所ヨリ受領スルノ權利ヲ有スヘク且通常裁判所ニ訴訟ヲ提起シ又ハ其ノ執リ得ル其ノ他ノ法律上ノ手續ニ依リ其ノ請求ヲ主張スルノ權利ヲ有ス

第四款　財產、權利及利益

第二百九十七條

敵國內ニ在ル私人ノ財產、權利及利益ニ關シテハ本款ニ定ムル原則及本款附屬書ノ規定ニ準據シテ處理スヘシ

（イ）獨逸國カ同盟國又ハ聯合國ノ國民（其ノ國民ノ利害關係ヲ有スル會社及組合ヲ含ム）ノ財產、權利及利益ニ關シ本款附屬書三ニ定ムル戰時非常措置及移轉措置ヲ爲シ其ノ清算ノ未タ完了セサル場合ニ於テハ直ニ其ノ措置ヲ中止シ又ハ停止シ前記ノ財產、權利及利益ヲ其ノ所有者ニ返還スヘク所有者ハ第二百九十八條ノ規定ニ從ヒ之ニ對スル完全ナル權利ヲ享有スヘシ

（ロ）本條約中反對ノ規定アル場合ヲ除クノ外同盟及聯合國ハ其ノ版圖、殖民地、屬地及保護國竝本條約ニ依リ讓受ケタル地域內ニ在ル獨逸國民又ハ其ノ管理スル會社ニ本條約實施ノ日ニ於テ屬スル一切ノ財產、權利及利益ヲ留置シ及清算スルノ權利ヲ留保ス

右清算ハ當該同盟國又ハ聯合國ノ法令ニ從ヒ之ヲ執行スヘシ且右獨逸ノ所有者ハ其ノ國ノ同意ナクシテ此等ノ財產、權利及利益ヲ處分シ又ハ其ノ上ニ何等ノ負擔ヲ設定スルコトヲ得ス

本條約ノ規定ニ依リ當然同盟國又ハ聯合國ノ國籍ヲ取得スル獨逸國民ハ之ヲ本號ノ獨逸國民ト看做ササルヘシ

（ハ）前號ニ規定シタル權利ノ行使ニ關シ生スル代金又ハ賠償額ハ該財產ノ留置又ハ清算カ行ハレタル國ノ法令ノ定ムル賣却及評價ノ方法ニ依リ決定セラルヘシ

（ニ）同盟及聯合國又ハ其ノ國民ト獨逸國又ハ其ノ國民トノ間ノ關係ニ於テハ本款附屬書ノ一及三ニ定ムル一切ノ戰時非常措置又ハ移轉措置又ハ此ノ措置ノ實行ノ爲執リ又ハ執ルヘキ行爲ハ本條約ニ規定スル留保ノ場合ヲ除クノ外最終ニシテ且何人ヲモ拘束ス

（ホ）同盟及聯合國ノ國民（其ノ國民ノ利害關係ヲ有スル會社又ハ組合ヲ含ム）ハ本款附屬書ノ一及三ニ定ムル戰時非常措置又ハ移轉措置ノ適用ニ因リ千九百十四年八月一日現在ノ獨逸國版圖內ニ在ル各自ノ財產、權利又ハ利益ニ付受ケタル損害ニ關シ賠償請求ノ權利ヲ有ス此ノ國民ノ之カ爲ニ行フ請求ハ第六款ニ定ムル混合仲裁裁判所又ハ該裁判所ノ任命スル仲裁人之ヲ審査シ且其ノ賠償額ヲ決定ス此ノ賠償額ハ獨逸國之ヲ負擔スヘク且之ヲ賠償請求者所屬國ノ版圖內ニ存シ又ハ其ノ國ノ管理ノ下ニ在ル獨逸國民ノ財產上ノ負擔ニ歸セシムルコトヲ得此ノ財產ハ本款附屬書四ニ定ムル條件ニ從ヒ敵ノ債務ノ擔保トシ爲スコトヲ得前記賠償額ハ同盟國又ハ聯合國ニ於テ之ヲ支拂フコトヲ得ヘク其ノ金額ハ獨逸國ノ借方ニ之ヲ計上ス

（ヘ）獨逸國ノ版圖內ニ於テ移轉措置ノ適用ヲ受ケタル財產ノ所有者タル同盟國又ハ聯合國ノ國民カ其ノ財產ノ回收ノ希望ヲ表示スル場合ニ於テハ財產カ現物ノ儘存在スルトキハ其ノ財產ノ回收ニ依リ前號ニ依ル賠償ノ請求ノ目的ヲ達セシムヘシ

前記ノ場合ニ獨逸國ハ其ノ財產ノ原所有者ヲシテ其ノ財產上ニ清算後設定セラレタルコトアルヘキ一切ノ役權又ハ負擔ヲ負ハシメスシテ其ノ財產ノ占有ヲ回復セシムル爲且其ノ現物回收ニ依リ損害ヲ受ケタル一切ノ第三者ニ對シ賠償スル爲必要ナル一切ノ手段ヲ執ルヘシ

（ト）本號ニ規定スル現物回收ノ實行不能ナル場合ニ於テハ同盟國又ハ聯合國ノ國民カ其ノ喪失シタル財產、權利又ハ利益ニ代ヘテ設クルコトヲ同意スル便益又ハ之ニ相當スルモノヲ其ノ國民ニ許與シ以テ其ノ國民カ前號ニ定ムル損害賠償ヲ確保スルコトヲ得ル爲關係諸國又ハ第三款附屬書ニ定ムル清算所ノ仲介ニ依リ私ノ取極ヲ爲スコトヲ得

本條ニ依リ現物回收ノ行ハレタルトキハ前號ノ適用ニ依リ定メラレタル代金又ハ賠償額中ヨリ其ノ回收財產ノ實價額ヲ控除スヘシ尤モ其ノ財產ノ使用ヲ妨ケラレタルニ因ル損害又ハ減損ノ賠償ヲ斟酌スヘシ

（チ）前號ニ規定シタル權利ハ休戰條約署名前ニ敵人ノ財產、權利又ハ利益ノ一般的清算ヲ規定スル立法的手段ヲ版圖內ニ採用スルニ至ラサリシ同盟國又ハ聯合國ノ國民タル所有者ニ限リ之ヲ有ス

（リ）號ノ適用ニ依リ現物回收行ハレタル場合ヲ除クノ外戰時法令ニ依リ又ハ本條ノ適用ニ依リ行ハレタル敵人ノ財產、權利又ハ利益ノ清算純殘高及敵人ニ屬スル一切ノ現金資產ハ一般ニ左ノ方法ニ依リ之ヲ處理ス

（一）第三款及其ノ附屬書ヲ採用スル諸國ニ付テハ前記ノ清算純殘高及現金資產ハ同款及附屬書ニ依リ設置セラルル清算所ヲ通シ其ノ所有者ノ屬スル國ノ貸方ニ之ヲ計上ス但シ之カ爲生スル獨逸國ニ

（外務版）

有利ナル貸方勘定ハ第二百四十三條ニ從ヒ之ヲ處理ス

(二)　第三款及其ノ附屬書ヲ採用セサル諸國ニ付テハ獨逸國ニ依リ留置セラレタル同盟國又ハ聯合國ノ國民ノ財産、權利及利益ノ清算殘高及現金資産ハ直ニ其ノ權利者又ハ其ノ權利者ノ屬スル政府ニ支拂フヘク同盟國又ハ聯合國ノ差押ヘタル獨逸國民ノ財産、權利及利益ノ清算殘高及現金資産ハ當該國其ノ法令ニ依リ之ヲ處分シ且本條又ハ本款附屬書四ニ定ムル請求及金錢債務ノ辨濟ニ之ヲ充當スルコトヲ得上記ノ方法ニ依リ處分セラレサリシ財産、權利及利益又ハ其ノ清算殘高若ハ現金資産ハ該同盟國又ハ聯合國ニ於テ留置スルコトヲ得ヘク之ヲ留置シタル場合ニ於テハ其ノ現金價額ハ第二百四十三條ノ規定ニ從ヒ之ヲ處理ス

同盟及聯合國トシテ本條約ニ署名スル諸新國ニ於テ又ハ獨逸國ノ行フヘキ賠償金ノ支拂ノ分配ニ與ル權利ヲ有セサル諸國ニ於テ清算ヲ行ヒタル場合ニ於テハ此等ノ諸國ハ本條約特ニ第二百三十五條及第二百六十條ニ依リ賠償委員會カ權利ヲ有スル場合ヲ除クノ外其ノ清算ノ殘高ヲ直接所有者ニ支拂フヘシ前記所有者カ本編第六款ニ規定スル混合仲裁裁判所又ハ同裁判所ノ任命スル仲裁人ニ對シ當該國政府ノ一般法令ノ規定ニ反リテ執リタル措置又ハ賣却條件カ清算代金ニ付所有者ニ不當ニ損害ヲ與ヘタルモノナルコトヲ證明スルトキハ同裁判所又ハ仲裁人ハ當該國ヲシテ所有者ニ公平ナル賠償ヲ爲サシムルノ判斷ヲ與フルノ裁量ヲ有ス

(ト)　獨逸國ハ同盟國又ハ聯合國內ニ在ル獨逸國民ノ財産、權利又ハ利益ノ清算又ハ留置ニ對シ其ノ國民ニ賠償ヲ爲スコトヲ約ス

(ヌ)　同盟國又ハ聯合國ノ國民ノ財産、權利及利益ニ對シ千九百十八年十一月十一日以後本條約實施後三月ヲ經ルニ至ル迄ノ間ニ又ハ戰時非常措置ノ適用ヲ受ケタル財産、權利及利益ノ場合ニ於テハ本條約ニ依ル現物回收ノ行ハルル迄ノ間ニ獨逸國カ賦課シ又ハ賦課スルコトアルヘキ元本上ノ租稅及賦課ハ之ヲ所有者ニ還付ス

第二百九十八條

獨逸國ハ同盟及聯合國ノ國民（其ノ國民ノ利害關係ヲ有スル會社及組合ヲ含ム）ノ財産、權利及利益ニシテ前條ノ(イ)號又ハ(ヘ)號ニ依リ回收セラレタルモノニ關シ左ノ措置ヲ爲スコトヲ約ス

(イ)　本條約ニ明文アル場合ヲ除クノ外同盟國又ハ聯合國ノ國民ニ屬スル財産、權利及利益ハ戰前施行ノ法令ノ下ニ獨逸國民カ其ノ財産、權利及利益ニ關シ有スル其ノ法律上ノ地位ニ於テ之ヲ囘復維持スヘキコト

(ロ)　同盟國又ハ聯合國ノ國民ノ財産、權利又ハ利益ニ對シテハ獨逸國民ノ財産、權利及利益ニ對シ均シク適用スルニ非サレハ財産權ヲ侵害スヘキ措置ヲ執ラサルヘキコト及此ノ種ノ措置ヲ執ル場合ニ於テハ適當ノ賠償ヲ爲スヘキコト

附屬書

一

締約國ノ裁判所又ハ行政官廳カ敵人ノ財産、權利及利益ニ關シ戰時法令ニ基キ發シ又ハ爲シタル（發シ又ハ爲シタルモノトセラルルモノヲ含ム）權利移轉命令、事業若ハ會社ノ清算ニ關スル命令其ノ他ノ命令、指令、決定又ハ訓令ノ效力ハ第二百九十七條(ニ)號ノ規定ニ依リ之ヲ確認ス各人

利益ハ其ノ利益カ命令、指令、決定又ハ訓令中ニ特ニ明記セラルルト否トヲ問ハス各人ノ利害關係ヲ有スル財産ニ關スル一切ノ命令、指令決定又ハ訓令ニ依リテ有效ニ處理セラレタルモノト看做サルヘク其ノ命令、指令、決定又ハ訓令ニ基キ行ハレタル財産、權利又ハ利益ノ移轉カ適法ナリヤ否ヤニ關シ爭議ヲ提起スルヲ許サス戰時法令ニ依リ敵人ノ財産、權利又ハ利益ニ關シ締約國ノ裁判所又ハ行政官廳ノ發シ又ハ爲シタル（發シ又ハ爲シタルモノトセラルルモノヲ含ム）命令、指令、決定又ハ訓令ニ基キ財産、事業又ハ會社ニ付行ハレタル一切ノ措置ハ財産、事業又ハ會社ノ調査、保管、强制管理、利用、徵發、監理又ハ清算ニ關スルト財産、權利又ハ利益ノ清算、賣却又ハ管理、金錢債務ノ取立又ハ辨濟、訴訟費用、諸掛其ノ他ノ諸費用ノ支拂ニ關スルト又其ノ他如何ナルモノニ關スルトヲ問ハス其ノ有效ナルコトヲ確認ス但シ本項ノ規定ハ同盟及聯合國ノ國民カ善意及有償ニテ且財産所在地ノ法令ニ從ヒ既ニ取得シタル財産上ノ權原ニ影響ナキモノトス

獨逸國官憲カ侵入地域內又ハ占領地域內ニ於テ執リタル前記ノ措置及千九百十八年十一月十一日以後獨逸國又ハ獨逸國官憲ノ執リタル前記ノ措置ハ一切ヲ無效トシ前項ノ規定ヲ適用セス

二

獨逸國民ノ財産、權利又ハ利益ニ關シ戰時中又ハ戰時準備ノ爲行ハレタル一切ノ作爲又ハ不作爲ニ付獨逸國又ハ獨逸國民ハ其ノ何レノ地ニ居住スルヲ問ハス同盟國若ハ聯合國ヲ相手方トシ又ハ其ノ行政官廳若ハ司法官憲ノ爲ニ又ハ其ノ命令ノ下ニ行動シタル者ヲ相手方トシテ請求又ハ訴訟ヲ提起スルコトヲ得ス又ハ同盟國又ハ聯合國ノ戰時非常措置、法令若ハ規則ノ下ニ又ハ之ニ從ヒ爲シタル一切ノ作爲及不作爲ニ付何人ニ對シテモ請求又ハ訴訟ヲ提起スルコトヲ得ス

三

第二百九十七條及本附屬書ニ於テ「戰時非常措置」ト稱スルハ敵人ノ財産ニ關シテ執リ又ハ將來執ルコトアルヘキ立法上、行政上、司法上其ノ他ノ一切ノ措置ニシテ所有權ニ變更ヲ加フルコトナキモ其ノ財産ニ關スル所有者ノ處分權ヲ奪フノ結果ヲ生シ又ハ生セシムヘキモノ例ヘハ監理、强制管理及保管ノ如キ措置竝動機、形式又ハ場所ノ如何ヲ問ハス敵人ノ財産ノ差押、利用又ハ侵害ヲ目的トシ又ハ目的トスヘキ措置ヲ謂ヒ此等ノ措置ノ實行行爲トハ敵人ノ財産ニ對シ此等ノ措置ヲ適用スル行政官廳又ハ裁判所ノ抑留、訓令又ハ命令及敵人ノ財産ノ管理又ハ監理ニ關シ個人ノ爲シタル行爲例ヘハ金錢債務ノ辨濟、金錢債權ノ取立、訴訟費用、諸掛其ノ他ノ諸費用ノ支拂、手數料ノ取立ノ如キ行爲ヲ謂フ

「移轉措置」トハ敵人ノ財産ノ全部又ハ一部ヲ敵人タル所有者ノ同意ナクシテ敵人タル所有者以外ノ者ニ移轉スルニ因リテ敵人ノ財産ノ所有權ニ影響ヲ及ホシ又ハ及ホスヘキ措置例ヘハ敵ノ財産ノ所有權ノ移轉賣却若ハ清算又ハ權利證書若ハ有價證券ヲ無效ト爲スカ如キ措置ヲ謂フ

四

同盟國又ハ聯合國ノ版圖內ニ在ル獨逸國民ノ一切ノ財産、權利及利益竝其ノ賣却、清算其ノ他ノ處分ヨリ生シタル純殘高ニ付テハ當該同盟國又ハ聯合國ハ第一次ニ其ノ國民（其ノ國民ノ利害關係ヲ有スル會社及組合ヲ含ム）ノ獨逸國ノ版圖內ニ在ル財産、權利及利益ニ關スル請求ニ基ク賠償額ノ支拂又ハ其ノ國民ニ對スル獨逸國民ノ金錢債務ノ支拂及千九百十

（外務版）

四年七月三十一日以後當該同盟國又ハ聯合國カ戰爭ニ參加セル以前ニ獨逸國政府又ハ獨逸國官憲ノ行爲ニ因リ生シタル請求ノ支拂ニ充當スルコトヲ得前記ノ請求ノ額ハ「ギュスターヴ、アドール」氏ニシテ承諾スルニ於テハ同氏ノ任命スル仲裁人若シ同氏ニ於テ任命ヲ爲ササル場合ニ於テハ第六款ニ規定スル混合仲裁裁判所ノ任命スル仲裁人ヲシテ之ヲ査定セシムルコトヲ得前記ノ財産、權利及利益竝純殘高ハ第二次ニ當該同盟國又ハ聯合國ノ國民ノ獨逸國以外ノ敵國ノ版圖内ニ在ル財産、權利及利益ニ關スル請求ニ基ク賠償額ニシテ他ノ方法ニ依リ支拂ハレサルモノノ支拂ニ充當スルコトヲ得

五

第二百九十七條ノ規定ニ拘ラス同盟國又ハ聯合國内ニ於テ設立セラレタル甲會社カ其ノ勢力ノ下ニ置カルル獨逸國内ニテ設立ノ乙會社ト共同ニ第三國ニ於テ商標使用ノ權利ヲ戰爭開始ノ直前ニ有シタルトキ又ハ第三國ニ於テ販賣スヘキ貨物又ハ物品ノ特別複製方法ヲ乙會社ト共同ニ利用スルノ權利ヲ戰爭開始ノ直前ニ享有シタルトキハ甲會社ハ乙會社ヲ排除シテ單獨ニ第三國内ニ於テ商標ヲ使用スルノ權利ヲ專有スヘク且此ノ特別複製方法ハ乙會社ニ對シ又ハ其ノ事業、營業財産又ハ株式ニ對シ獨逸國戰時法令ノ適用ニ依ル措置ノ如何ニ拘ラス甲會社ニ之ヲ引渡スヘシ但シ甲會社ハ請求ヲ受ケタルトキハ乙會社ニ對シ獨逸國内ニ於テ使用セラルヘキ物品ノ複製ノ繼續ヲ許容シ離形ヲ交付スヘキモノトス

六

第二百九十七條ニ依リ現物回收ノ實行セラルル時間ニ至ル迄獨逸國ハ其ノ戰時非常措置ノ目的物タリシ同盟國又ハ聯合國ノ國民（其ノ國民ノ利害關係ヲ有スル會社及組合ヲ含ム）ノ財産、權利及利益ヲ保全スルノ責ニ任ス

七

同盟國又ハ聯合國ハ本條約實施後一年以内ニ第二百九十七條（ヘ）號ニ規定スル權利ヲ行使セムトスル財産、權利及利益ヲ指定スヘシ

八

第二百九十七條ニ定ムル現物回收ハ獨逸國政府又ハ之ニ代ル官憲ノ命令ニ依リ實行セラルヘシ獨逸國官憲ハ請求ニ因リ管理人ノ管理行爲ニ關スル詳細ノ報告ヲ利害關係人ニ付與スヘシ此ノ請求ハ本條約實施後何時タルリトモ之ヲ爲スコトヲ得

九

獨逸國民ノ財産、權利及利益ハ第二百九十七條（ロ）號ニ定ムル清算ノ結了ニ至ル迄其ノ財産、權利及利益ニ關シテ執ラレタル又ハ執ラルルコトアルヘキ戰時非常措置ニ引續キ服スヘシ

十

獨逸國ハ本條約實施後六月以内ニ其ノ國民ノ有スル一切ノ有價證券、證明書、捺印證書其ノ他ノ權原證書ニシテ且同盟國又ハ聯合國ノ版圖内ニ在ル財産、權利又ハ利益ニ關スルモノ（其ノ同盟國又ハ聯合國ノ法令ニ依リ設立セラレタル會社ノ株券、持分、社債券、社債持分證券其ノ他ノ債務證券ヲ含ム）ヲ各當該同盟國又ハ聯合國ニ引渡スヘシ

獨逸國ハ同盟國又ハ聯合國ノ要求アルトキハ何時タリトモ其ノ同盟國又ハ聯合國ノ版圖内ニ在ル獨逸國民ノ財産、權利及利益ニ關シ又ハ其ノ財産、權利及利益ニ付千九百十四年七月一日以後ニ行ハレタル取引ニ關スル必要ナル參考資料ヲ提供スヘシ

十一

「現金資産」トハ宣戰前又ハ宣戰後ニ設ケタル一切ノ預金及基金竝預金、收入金及管理人、保管人其ノ他ノ者カ預入其ノ他ノ投資ノ基金ヨリ取立テタル利潤ヨリ生シタル一切ノ資産ヲ包含ス但シ同盟國若ハ聯合國又ハ同盟國若ハ聯合國内ノ各邦、州若ハ郡市ニ屬スル金額ハ之ヲ包含セサルモノトス

十二

敵人ノ財産管理ノ責ニ任シ若ハ其ノ管理ヲ監督スル者ニ依リ又ハ此等ノ者若ハ總テノ官憲ノ命令ニ依リ締約國ノ國民（其ノ國民ノ利害關係ヲ有スル會社及組合ヲ含ム）ニ屬スル現金資産ヲ以テ爲サレタル一切ノ投資ハ何レノ地ニ於テ爲サレタルヲ問ハス之ヲ無效トス其ノ現金資産ハ此ノ種ノ投資ニ拘ラス計算セラルヘシ

十三

本條約實施後一月以内ニ又ハ請求ニ因リ何時タリトモ獨逸國ハ其ノ版圖内又ハ獨逸國若ハ其ノ同盟國ノ占領地域内ニ於テ戰時非常措置又ハ移轉措置ニ付セラレタル同盟及聯合國ノ國民（其ノ國民ノ利害關係ヲ有スル會社及組合ヲ含ム）ノ財産、權利及利益ニ關スル一切ノ勘定書、證書、記錄、書類其ノ他ノ參考資料ニシテ獨逸國ノ版圖内ニ存在スルモノヲ同盟及聯合國ニ引渡スヘシ

監督人、監理人、支配人、管理人、保管人、清算人及管財人ハ前記勘定書及書類ノ即時且全部ノ引渡ニ付及此等書類ノ正確ナルコトニ付獨逸國政府ノ保證ノ下ニ各自其ノ責ニ任ス

十四

敵國内ニ在ル財産、權利及利益竝此等ノ財産、權利及利益ノ清算殘高ニ關スル第二百九十七條及本附屬書ノ規定ハ金錢債務、金錢債權及勘定ニ適用セラル第三款ノ規定ハ單ニ支拂ノ方法ヲ規定スルニ止マル

同盟國若ハ聯合國、其ノ殖民地若ハ保護國又ハ英國ノ一自治領若ハ印度ニ於テ第三款ヲ採用スルコトノ宣言ヲ爲ササリシ場合ニ於テハ其ノ同盟國若ハ聯合國、其ノ殖民地若ハ保護國又ハ其ノ英國自治領若ハ印度ト獨逸國トノ間及雙方ノ國民相互間ニ於テ第二百九十七條ニ規定スル事項ノ處理ニ當リ支拂ニ用ウヘキ通貨竝爲替相場及利率ニ關スル第三款ノ規定ハ當該同盟國又ハ聯合國ノ政府カ本條約實施後六月以内ニ此ノ規定ノ適用ナキ旨ヲ獨逸國ニ通告スルニ非サレハ之ヲ適用ス

十五

第二百九十七條及本附屬書ノ規定ハ同盟國又ハ聯合國ニ於ケル戰時特別法令ニ依リ又ハ第二百九十七條（ロ）號ノ規定ニ依リ財産、權利、利益、會社又ハ事業ノ清算中ニ處理セラレ又ハ處理セラルヘキ工業所有權竝文學的及美術的著作物ニ關スル權利ニ之ヲ適用ス

第五款　契約、時效、判決

第二百九十九條

（イ）本條及本款附屬書ニ掲クル特定ノ契約又ハ特定ノ種類ノ契約ニシテ除外例又ハ特別ノ定アルモノヲ除クノ外敵人間ノ契約ハ當事者中ノ何レカノ二人カ敵人ト爲リタル時ヨリ效力ヲ失ヒタルモノト看做ス但シ其ノ契約ニ基キ金錢ノ支拂ヲ爲シ又ハ行爲ヲ爲シタルニ因リ生スル金錢債務其ノ他ノ金錢上ノ債務ニ關シテハ此ノ限ニ在ラス

(ロ) 當事者ノ一方ノ屬スル同盟國又ハ聯合國ノ政府カ公益ノ爲本條約實施後六月以内ニ履行ヲ必要トスル契約ハ本條ニ依リ效力ヲ失フコトナシ

前記ノ規定ニ依リ效力ヲ保存セラレタル契約ヲ履行スルニ因リ當事者ノ一方カ通商狀態ノ變更ノ結果重大ナル損害ヲ受クル場合ニ於テハ第六款ニ規定スル混合仲裁裁判所ハ被害當事者ニ對シ衡平ナル賠償ヲ與フルノ權限ヲ有ス

(ハ) 亞米利加合衆國、伯剌西爾國及日本國ノ憲法及法律ノ規定ニ顧ミ本條、第三百條及本款附屬書ノ規定ハ此等諸國ノ國民ト獨逸國民トノ間ニ締結セラレタル契約ニハ之ヲ適用セス又第三百五條ハ亞米利加合衆國又ハ其ノ國民ニハ之ヲ適用セス

(ニ) 當事者ノ一方カ一地域ノ住民タル故ヲ以テ當事者カ敵人タリシ契約ニ付テハ其ノ地域ノ主權カ移轉セラレ其ノ當事者ノ一方カ本條約ニ依リ同盟國又ハ聯合國ノ國籍ヲ取得スルトキハ本條及本款附屬書ノ規定ハ之ヲ適用セス

當事者ノ一方カ敵ノ占領ニ係ル同盟國又ハ聯合國ノ地域内ニ居住シタル故ヲ以テ相互間ノ取引ヲ禁止セラレタリシ場合ニ於ケル同盟及聯合國　國民間ノ契約ニ付テハ右規定ハ亦之ヲ適用セス

(ホ) 敵人間ノ契約ニ從ヒ適法ニ行ハレタル取引カ交戰國ノ一方ノ認許ノ下ニ行ハレタル場合ニ於テハ其ノ取引ハ本條又ハ本款附屬書ノ規定ニ依リ無效ト爲ルコトナシ

第三百條

(イ) 一切ノ時效期間又ハ出訴期間ハ其ノ進行ノ開始カ開戰前ナルト開戰後ナルトヲ問ハス敵人間ノ關係ニ付テハ各締約國ノ版圖内ニ於テ戰時中其ノ進行ヲ停止シタルモノト看做ス其ノ期間ハ本條約實施後少クトモ三月ヲ經過シタル時ヨリ更ニ其ノ進行ヲ始ム本號ノ規定ハ利札若ハ配當證ノ呈示ニ付又ハ當該其ノ他ノ事由ニ因リ償還セラルヘキ有價證券ノ拂戻ヲ受クル爲ノ呈示ニ付定メラレタル期間ニ之ヲ適用ス

(ロ) 戰時中或行爲ヲ爲スコト又ハ或形式ヲ履ムコトヲ怠リタルカ爲獨逸國ノ版圖内ニ於テ執行處分行ハレ同盟國又ハ聯合國ノ國民カ損害ヲ受ケタル場合ニ若シ其ノ事件カ同盟國又ハ聯合國ノ通常裁判所ノ管轄ニ屬セサルトキハ該國民ハ其ノ請求ニ付第六款ニ定ムル混合仲裁裁判所ノ審理ヲ求ムルコトヲ得

(ハ) 同盟國又ハ聯合國ノ國民タル利害關係人ノ請求ニ因リ混合仲裁裁判所ハ當該事件ノ特殊ノ事情ヲ斟酌シ原狀回復カ衡平ニシテ可能ナリト認メタルトキハ前號ニ規定スル執行處分ニ因リ侵害セラレタル權利ノ原狀回復ヲ命スヘシ

若シ原狀回復カ不衡平ナルカ又ハ不可能ナルトキハ混合仲裁裁判所ハ被害當事者ニ對シ獨逸國政府ヨリ支拂ハルヘキ賠償ヲ與フルコトヲ命スルコトヲ得

(ニ) 敵人間ノ契約ノ當事者ノ一方カ其ノ契約ノ條項ヲ履行セス又ハ契約中ニ定ムル權利ヲ行使シタル爲其ノ契約解除セラレタル場合ニ於テハ損害ヲ受ケタル當事者ハ混合仲裁裁判所ニ其ノ救濟ヲ求ムルコトヲ得

此ノ場合ニ於テハ混合仲裁裁判所ハ前號ニ定ムル權能ヲ有ス

(ホ) 前各號ノ規定ハ侵入地域内又ハ占領地域内ニ於テ獨逸國カ行ヒタル前記ノ措置ニ因リ損害ヲ受ケタル同盟及聯合國ノ國民カ他ノ方法ニ依リ賠償ヲ受クル場合ニ之ヲ準用ス

(ヘ) 獨逸國ハ前各號ノ規定ニ依リ混合仲裁裁判所ノ命シタル現物回收又ハ原狀回復ニ因リ損害ヲ受ケタル第三者ニ賠償ヲ爲スコトヲ要ス

(ト) 流通證券ニ付テハ(イ)號ニ定ムル三月ノ期間ハ流通證券ニ關シ關係國ノ版圖内ニ於テ施行セラレタル戰時特別法カ確定的ニ其ノ效力ヲ失フ日ヨリ始マル

第三百一條

敵人間ニ於テハ戰前ニ作成シタル流通證券ハ所要ノ期間内ニ引受又ハ支拂ノ爲ニスル證券ノ呈示ヲ爲サス振出人若ハ裏書人ニ對スル引受拒絶若ハ支拂拒絶ノ通知ヲ爲サス又ハ拒絶證書ノ作成ヲ爲サス其ノ他戰時中或形式ヲ履行セサリシ故ノミヲ以テ失效シタルモノト看做サルルコトナシ

引受又ハ支拂ノ爲ニスル流通證券ノ呈示、振出人若ハ裏書人ニ對スル引受拒絶若ハ支拂拒絶ノ通知又ハ拒絶證書ノ作成ヲ爲スヘキ期間カ戰時中經過シ且證券ノ呈示、拒絶證書ノ作成又ハ引受拒絶若ハ支拂ノ拒絶ノ通知ヲ爲スヘキ當事者カ戰時中之ヲ爲ササリシ場合ニ於テハ證券ノ呈示、引受拒絶若ハ支拂拒絶ノ通知又ハ拒絶證書ノ作成ヲ爲ス爲本條約實施後三月ヲ下ラサル期間ノ猶豫ヲ與フヘシ

第三百二條

同盟國又ハ聯合國ノ通常裁判所カ本條約ニ依リ管轄權ヲ有スル事件ニ付爲シタル判決ハ獨逸國内ニ於テ確定ノモノトシテ之ヲ承認シ且執行判決ヲ須ヰスシテ之ヲ執行スヘシ

獨逸國裁判所カ同盟國又ハ聯合國ノ國民カ防禦ヲ爲スコト能ハサリシ事件ニ於テ爭議ニ關シ戰時中其ノ國民ニ不利益ノ判決ヲ爲シタルトキハ其ノ判決ニ因リ損害ヲ受ケタル同盟及聯合國ノ國民ハ之ニ對シ第六款ニ規定スル混合仲裁裁判所ノ定ムル賠償ヲ受クルノ權利ヲ有ス

同盟國又ハ聯合國ノ國民ノ請求ニ因リ前項ノ賠償ハ混合仲裁裁判所ノ發スル命令ニ基キ實行可能ナル限リ各當事者ニ獨逸國裁判所ノ判決前ノ地位ヲ回復セシムルニ依リテ之ヲ行フコトヲ得

前記ノ賠償ハ侵入地域内又ハ占領地域内ニ於ケル司法上ノ措置ニ因リ損害ヲ受ケタル同盟國又ハ聯合國ノ國民カ他ノ方法ニ依ル賠償ヲ受ケサリシ場合ニ其ノ國民ハ混合仲裁裁判所ニ出訴シテ之ヲ受クルコトヲ得

第三百三條

本編第三款乃至第五款及第七款ニ「戰時中」ト稱スルハ各同盟國又ハ聯合國ニ付其ノ國ト獨逸國トノ間ニ戰爭狀態開始ヨリ本條約實施ニ至ル迄ノ期間ヲ謂フ

附屬書

第一　一般規定

一

契約當事者間ノ取引カ其ノ當事者ノ一方ノ服從スル法律、命令又ハ規則ニ依リ禁止セラレ其ノ他不法ト爲リタルトキハ其ノ契約當事者ハ第二百九十九條乃至第三百一條ニ謂フ敵人ニシテ其ノ間ノ取引カ禁止セラレ其ノ他不法ト爲リタル日ヨリ敵人ト爲リタルモノト看做ス

二

左ニ揭クル契約ハ第二百九十九條ノ規定ニ拘ラス戰時中同盟及聯合國ノ制定シタル國内ノ法律、命令又ハ規則及契約ノ條項ニ從ヒテ其ノ效力ヲ

存續ス但シ第四款第二百九十七條(ロ)號ニ規定スル權利ニ影響スルコトナシ

(イ) 動產、不動產其ノ他ノ財產權ノ讓渡ヲ目的トスル契約ニシテ當事者カ敵人ト爲ルニ先チ權利ノ移轉又ハ目的物ノ引渡ヲ了シタルモノ

(ロ) 土地及家屋ノ賃貸借及賃貸借ヲ目的トスル契約

(ハ)(ニ) 抵當權、質權其ノ他ノ擔保ノ契約

鑛山、採石場又ハ埋藏鑛物ニ關スル特設契約

(ホ) 個人又ハ會社ト國、州、都市其ノ他之ト類似ノ法人ニシテ行政上ノ職能ヲ有スルモノトノ間ノ契約及國、州、都市其ノ他之ト類似ノ法人ニシテ行政上ノ職能ヲ有スルモノノ許與シタル特許

三

契約ノ條項ノ一部カ二百九十九條ニ依リ無效ト爲リタル場合ニ若シ其ノ契約ノ條項カ分割シ得ヘキモノナルトキハ殘餘ノ條項ハ二ト同シク國內ノ法令ニ從ヒテ其ノ效力ヲ存續ス若シ其ノ契約ノ條項カ分割シ得サルモノナルトキハ其ノ契約ハ全部無效ト爲リタルモノト看做ス

第二　特種ノ契約ニ關スル規定

株式取引所及商品取引所ノ契約

四

(イ) 公認ノ取引所又ハ商事組合カ戰時中制定シタル規則ニシテ戰前ニ敵人ノ締結シタル契約ノ清算ヲ規定スルモノ及其ノ規則ニ從ヒ執リタル措置ハ締約國ノ一ヲ確認ス尤モ左ノ條件ヲ具備スルコトヲ要ス

(一) 其ノ契約ハ當該取引所又ハ組合ノ規則ニ從ヒ締結スルコトヲ明示シタルモノナルコト

(二) 當該規則カ一切ノ關係者ニ適用セラレタルモノナルコト

(三) 契約清算ニ關スル條件カ公平且妥當ナリシコト

(ロ) 前號ノ規定ハ敵ノ占領シタル地域內ノ取引所又ハ商事組合カ占領期間內ニ執リタル措置ニ之ヲ適用セス

(ハ) 「リヴアプール」棉花協會ノ決議ニ依リ千九百十四年七月三十一日ニ行ハレタル棉花先物契約ノ清算モ亦之ヲ確認ス

擔保物

五

敵人ノ未拂金錢債務ノ擔保物ノ賣却ハ債權者カ善意ニ且相當ノ注意ヲ以テ之ヲ行ヒタルモノナルトキハ所有者ニ其ノ賣却ヲ通知シタルト否トニ拘ラス之ヲ有效ナリシモノト看做シ其ノ賣却ヲ理由トスル債務者ノ要求ハ之ヲ認メス

右ノ規定ハ敵ノ侵入又ハ占領ニ係ル地域內ニ於テ占領期間內ニ敵ノ行ヒタル擔保物ノ賣却ニハ之ヲ適用セス

流通證券

六

流通證券ノ發行ニ因リテ生シ敵人間ニ存スル金錢上ノ債務ハ本編第三款及其ノ附屬書ヲ採用シタル諸國ニ付テハ該附屬書ニ從ヒ清算所ノ仲介ニ依リテ之ヲ處理ス清算所ハ所持人ノ爲ニ存スル諸種ノ救濟ニ關シ所持人ノ權利ヲ行使ス

七

戰前又ハ戰時中流通證券上ノ債務ヲ負擔シタル者カ後ニ至リ敵人ト爲リタル者ノ擔保約束ニ因リテ其ノ債務ヲ負擔シタルモノナルトキハ其ノ債務負擔者ニ對スル擔保者ノ賠償ノ責任ハ戰爭開始ニ拘ラス存續ス

第三　保險契約

八

當事者ノ一方カ後ニ至リ敵人ト爲リタル保險契約ハ左ノ規定ニ依リ之ヲ處理ス

火災保險

九

當該財產ノ利害關係人ト後ニ至リ敵人ト爲リタル者トノ間ニ成立シタル火災保險契約ハ戰爭ノ開始ニ因リ又ハ當事者カ敵人ト爲リタルニ因リ又ハ戰時中及戰後三月ノ期間內ニ於ケル契約上ノ義務ノ不履行ニ因リ失效シタルモノト看做サルルコトナシ但シ本條約實施後三月ノ期間滿了後ニ於ケル最初ノ年掛保險料ノ支拂期日カ到來シタルトキハ該契約ハ失效スルモノトス

戰時中ニ支拂期日ノ到來シタル未拂保險料又ハ戰時中ニ生シタル損害塡補請求權ハ之ヲ決濟スヘシ

十

戰前ニ成立シタル火災保險カ戰時中行政行爲又ハ立法行爲ニ依リ原保險者ヨリ他ノ保險者ニ移轉シタル場合ニ於テハ其ノ移轉ハ之ヲ有效トシテ原保險者ノ義務ハ移轉ノ日ヨリ消滅シタルモノト看做ス此ノ場合ニ於テモ原保險者ハ要求ニ因リ移轉ノ條件ニ關シ詳細ナル報告ヲ受クルコトヲ得ヘク且其ノ條件衡平ナラスト認メラルル場合ニ於テハ之ヲ衡平ナラシムルニ必要ナル限度ニ於テ其ノ條件ヲ修正スルコトヲ得

又被保險者ハ原保險者ノ同意ヲ得テ請求ノ日ヨリ原保險者ニ契約ノ再移轉ヲ爲サシムルコトヲ得

生命保險

十一

保險者ト後ニ至リ敵人ト爲リタル者トノ間ニ成立シタル生命保險契約ハ戰爭ノ開始又ハ該保險契約者カ敵人ト爲リタルコトニ因リ失效シタルモノト看做サルルコトナシ

右ノ規定ニ基キ失效セサルモノト看做サルル契約上ノ金額ニシテ戰時中支拂ヲ要スルニ至リタルモノハ支拂ヲ要スルニ至リタル日ヨリ支拂當日ニ至ル迄年五分ノ利息ヲ附シテ戰爭終了後之ヲ取立ツルコトヲ得

契約カ戰時中保險料不拂ノ爲消滅シ又ハ契約條件違反ノ爲失效シタル場合ニ於テハ被保險者、其ノ代理人又ハ權利者ハ本條約實施後十二月以內ニ於テ何時ニテモ保險者ニ對シ契約ノ消滅又ハ失效ノ日ニ於ケル保險證券ノ解約償額ヲ請求スルコトヲ得

戰時措置ノ施行ニ依リ保險料ノ支拂ヲ禁止セラレタル爲保險料ノ不拂ヲ生シ戰時中契約ノ消滅シタル場合ニ於テハ被保險者、其ノ代理人又ハ權利者ハ本條約實施後三月以內ニ保險料ニ年五分ノ利息ヲ附シタル金額ヲ支拂ヒテ契約ヲ復活スル權利ヲ有ス

十二

各同盟國又ハ聯合國ハ本條約實施後三月以內ニ獨逸保險會社ト自國民トノ間ニ存スル一切ノ生命保險契約ヲ自國民ニ何等損害ヲ生セシメサル條件ニテ取消スコトヲ得

此ノ目的ノ爲ニ獨逸保險會社ハ關係同盟國又ハ聯合國ノ政府ニ前記取消保險證券ニ歸屬セシムヘキ部分ノ資產ヲ交付シテ其ノ保險證券ニ關スル一切ノ責任ヲ免ルルコトヲ得交付セラルヘキ資產ハ混合仲裁裁判所ノ任命スル保險技師之ヲ決定スヘシ

十三

後ニ至リ敵國ト爲リタル國ニ設立セラレタル保險會社ノ支店ノ締結シタル生命保險契約ノ效力ハ契約ニ反對ノ規定アル場合ヲ除クノ外其ノ支店所在地ノ法令ニ依ル但シ保險者ハ若シ戰時中執リタル措置ニ基キ爲サレ又ハ强制セラレタル請求カ契約ノ條項ニ適合セス又ハ契約締結當時ニ於ケル法令又ハ條約ニ違反スルトキハ被保險者又ハ其ノ代理人ニ對シ其ノ請求ニ基キ支拂ヒタル金額ノ拂戻ヲ請求スルノ權利ヲ有ス

十四

當該契約ニ適用スヘキ法令ノ規定上保險料ノ不拂ニ拘ラス被保險者ニ契約解除ノ通知ヲ爲ス迄ハ保險者カ引續キ契約ニ依リ拘束セラルヘキ場合ニ戰爭ノ爲其ノ通知ヲ爲スコト能ハサリシモノナルトキハ保險者ハ被保險者ニ對シ未拂保險料ニ年五分ノ利息ヲ附シテ支拂ヲ爲スヘキコトヲ請求スルノ權利ヲ有ス

十五

人命ノ推算ト利率トヲ當事者相互間ノ約定ノ基礎トスル保險契約ハ本附屬書十一乃至十四ノ適用ニ付テハ之ヲ生命保險契約ト看做ス

海上保險

十六

保險者ト後ニ至リ敵人ト爲リタル者トノ間ニ成立シタル海上保險契約（定期保險及航海保險ヲ含ム）ハ保險契約者カ敵人ト爲リタルニ因リ失效シタルモノト看做ス但シ契約ニ定メタル保險者ノ責任カ保險契約者ノ敵人ト爲リタル前ニ始マリタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

保險者ノ責任カ始マラサリシ場合ニ於テハ支拂ヒタル保險料其ノ他ノ金額ハ保險者之ヲ拂戻スコトヲ要ス

保險者ノ責任カ始マリタル場合ニ於テハ保險契約者カ敵人ト爲リタルニ拘ラス契約ハ之ヲ有效トシ其ノ契約ニ從ヒ保險料又ハ損害塡補トシテ支拂ハルヘキ金額ハ本條約實施後之ヲ取立ツルコトヲ得

交戰國國民ニ對シ又ハ交戰國ノ國民カ戰前支拂ヲ要シタル金額ニシテ戰後支拂行ハレタルモノニ對シ利息ヲ支拂フヘキ合意成立シタルトキハ該利息ハ海上保險契約ニ依リ損害ノ塡補ヲ受クル場合ニ於テハ其ノ損害發生以後一年ノ期間滿了シタル時ヨリ之ヲ附スヘシ

十七

後ニ至リ敵人ト爲リタル被保險者トノ海上保險契約ハ保險者ノ屬スル國又ハ其ノ國ノ同盟國若ハ聯合國ノ戰爭行爲ニ基ク損害ヲ擔保スルモノト看做スコトヲ得ス

十八

後ニ至リ敵人ト爲リタル保險者ト戰前ニ於テ海上保險契約ヲ締結シタル者カ戰爭開始後敵人ニ非サル保險者ト同一ノ危險ヲ目的トスル新契約ヲ締結シタル場合ニ於テハ其ノ新契約ハ成立ノ日ヨリ原契約ニ代リタルモノト看做サルヘク且保險料ノ支拂ハ原保險者カ新契約成立ノ時ニ至ル迄契約上ノ義務ヲ有シタルコトヲ基礎トシテ精算セラルヘシ

其ノ他ノ保險

保險者ト後ニ至リ敵人ト爲リタル者トノ間ニ戰前成立シタル保險契約ニシテ本附屬書九乃至十八ニ規定シタル以外ノモノハ一切ノ關係ニ付同一ノ當事者間ノ火災保險カ前記ノ規定ニ依リ取扱ハルルト同一ノ基礎ニ於テ取扱ハルヘシ

再保險

二十

後ニ至リ敵人ト爲リタル者ト爲シタル一切ノ再保險契約ハ其ノ者カ敵人ト爲リタルニ因リテ失效シタルモノト看做ス但シ生命又ハ海上ノ危險ノ責任カ戰前始マリタル場合ニ於テハ戰後其ノ危險ニ關シ支拂ハルヘキ金額ノ支拂ヲ受クルノ權利ニ影響スルコトナシ

敵軍侵入ノ爲再保險契約者カ他ノ再保險者ヲ得ルコト能ハサリシ場合ニ於テハ右ノ規定ニ拘ラス再保險契約ハ本條約實施後三月間引續キ其ノ效力ヲ有ス

再保險契約カ本規定ニ依リ效力ヲ失ヒタル場合ニ於テハ生命又ハ海上ノ危險ノ責任カ戰前始マリタルトキノ其ノ危險ニ關スル損害塡補ノ債務竝既拂及未拂ノ再保險料ニ付當事者相互間ニ計算ノ決濟ヲ爲スコトヲ要ス

本附屬書十一乃至十八ニ規定スル以外ノ危險ニ付テハ當事者カ敵人ト爲リタル日ノ計算ヲ以テ計算ノ決濟ヲ爲スヘク其ノ日以後ニ生スルコトアルヘキ損害ニ對スル請求ハ之ヲ加算スルコトヲ要セス

二十一

本附屬書二十ノ規定ハ當事者カ敵人ト爲リタル日ニ存在シタル再保險ニシテ生命又ハ海上ノ危險ニ非サル危險ヲ目的トシタル保險契約ニ因リテ保險者カ負擔シタル特定ノ危險ニ關スルモノニ均シク之ヲ準用ス

二十二

特別契約ニ依リテ成立シ一般契約ニ依ラサル生命再保險ハ引續キ效力ヲ有ス

本附屬書十二ノ規定ハ敵國會社カ再保險者タル生命保險ノ再保險契約ニ之ヲ準用ス

二十三

海上保險契約ノ再保險カ戰前ニ成立シタル場合ニ再保險者ニ移轉セラレタル責任カ戰爭ノ開始前ニ始マリタルトキハ其ノ責任ノ移轉ハ有效ニシテ且戰爭ノ開始ニ拘ラス契約ハ其ノ效力ヲ有ス又再保險契約ニ依ル再保險料又ハ損害塡補トシテ支拂フヘキ金額ハ戰後之ヲ取立ツルコトヲ得

二十四

本附屬書十七、十八及十六末段ノ規定ハ海上再保險契約ニ之ヲ準用ス

第六款　混合仲裁裁判所

第三百四條

（イ）本條約實施後三月以內ニ同盟國又ハ聯合國ノ各一國ト獨逸國トノ間ニ各一箇ノ混合仲裁裁判所ヲ設置ス該裁判所ハ三名ノ審判員ヲ以テ之ヲ構成ス關係國政府ハ各右三名ノ審判員中一名ヲ任命シ審判長ハ兩關係國政府ノ合意ニ依リ之ヲ選任ス

前記ノ合意成立セサルトキハ國際聯盟理事會ニ於テ審判長及必要ノ場合ニ之ニ代ルヘキ者二名ヲ選任ス同理事會ノ設立セラルル迄ハ「ギュスターヴ、アドール」氏ニシテ承諾スルニ於テハ同氏之ヲ選任ス上記ノ審判長及之ニ代ルヘキ者ハ本戰爭中ノ中立國國民タルコトヲ要ス

審判員ノ闕員アル場合ニ關係國政府カ一月ノ期間内ニ之ヲ任命スル手續ヲ爲ササルトキハ他ノ關係國政府審判長ニ代ルヘキ前記ノ二名中ヨリ其ノ審判員ヲ選任ス

混合仲裁裁判所ノ判定ハ審判員ノ過半數ノ決定ニ依ル

(ロ) 前號ノ規定ニ依リ設置シタル混合仲裁裁判所ハ本編第三款乃至第五款及第七款ノ規定ニ依リ其ノ權限ニ屬スル一切ノ事件ヲ審判ス

前記ノ外同盟國又ハ聯合國ノ國民ト獨逸國民トノ間ニ本條約實施前ニ成立シタル契約ニ關スル一切ノ事件ハ其ノ性質ノ如何ヲ問ハス混合仲裁裁判所之ヲ審判ス但シ同盟國、聯合國又ハ中立國ノ法令ニ依リ此等ノ國ノ通常裁判所ノ管轄ニ屬スル事件ハ之ヲ審判スルノ限ニ在ラス此ノ場合ニ於テハ混合仲裁裁判所ヲ排除シテ當該通常裁判所之ヲ管轄ス尤モ同盟國又ハ聯合國ノ國民タル當事者ハ其ノ國ノ法令ニ依リ禁止セラレサル限リ混合仲裁裁判所ニ事件ヲ提起スルコトヲ得

(ハ) 事件數ニ應シ必要ナル場合ニ於テハ審判員ノ增員ヲ行ヒ且各混合仲裁裁判所ヲ數部ニ分ツコトヲ得各部ノ構成ハ前記ノ規定ニ依ル

(ニ) 各混合仲裁裁判所ハ本條附屬書ニ規定スル場合ヲ除キ各其ノ手續ノ準則ヲ定メ且手續ノ費用ニ付敗訴者ノ支拂フヘキ額ヲ決定スルノ權能ヲ有ス

(ホ) 各國政府ハ其ノ任命ニ係ル混合仲裁裁判所審判員及該裁判所ニ於テ各自國政府ヲ代表セシムル爲任命スル代理人ノ報酬ヲ支辨ス審判長ノ報酬ハ關係國政府間ノ特別取極ニ依リテ之ヲ決定シ且此ノ報酬及各混合仲裁裁判所共同ノ費用ハ兩國政府ニ於テ折半シテ之ヲ支辨ス

(ヘ) 締約國ハ各自ノ通常裁判所及官憲ヲシテ直接ニ混合仲裁裁判所ニ對シ通知書ノ送達及證據ノ蒐集其ノ他權能ノ範圍内ニ於テ一切ノ助力ヲ爲サシムルコトヲ約ス

(ト) 締約國ハ混合仲裁裁判所ノ判定ヲ終結且確定ノモノト認メ各自ノ國民ニ對シ拘束力ヲ有セシムルコトヲ約ス

附屬書

一

混合仲裁裁判所ノ審判員カ死亡シ退職シ又ハ其ノ他ノ理由ニ因リ執務不能ト爲リタルトキハ其ノ審判員ノ任命ニ付執リタルト同一ノ手續ニ依リ之カ補闕ヲ爲スヘシ

二

混合仲裁裁判所ハ正義衡平ニ適合スル手續ノ準用ヲ採用シ各當事者ノ辯論ノ順序及時間ヲ定メ且證據調ニ必要ナル一切ノ手續ヲ定ムルコトヲ得

三

各當事者ノ代理人及辯護人ハ各事件ニ付請求ヲ維持シ又ハ防禦ヲ爲ス爲口頭及書面ニ依リ混合仲裁裁判所ニ陳述ヲ爲スノ權利ヲ有ス

四

混合仲裁裁判所ハ同裁判所ニ提起セラレタル爭議及事件竝日附アルノ之ニ關スル審理手續ノ記錄ヲ保存スヘシ

五

關係國ハ各自事務官一名ヲ任命スルコトヲ得各關係國ノ任命シタル事務官ハ混合仲裁裁判所ノ混合書記局ヲ構成シ裁判所ノ指揮ヲ受クヘシ混合仲裁裁判所ハ職務ノ執行ヲ補助セシムルカ爲必要ナル他ノ一名又ハ數名ノ職員ヲ任命使用スルコトヲ得

六

混合仲裁裁判所ハ當事者ノ提出スル證據及參考資料ニ依リ同裁判所ニ提起セラレタル一切ノ爭議及事項ニ付判定ヲ爲ス

七

獨逸國ハ混合仲裁裁判所ニ其ノ審理ニ必要ナル一切ノ便宜及參考資料ヲ供與スルコトヲ約ス

八

別段ノ合意アル場合ヲ除クノ外混合仲裁裁判所ニ於ケル用語ハ關係同盟國又ハ聯合國ノ定ムル所ニ從ヒ英吉利語、佛蘭西語、伊太利語又ハ日本語トス

九

各混合仲裁裁判所開廷ノ場所及日時ハ當該混合仲裁裁判所審判長之ヲ定ム

第三百五條

本編第三款乃至第五款又ハ第七款ニ依ル事件ニ關シ管轄權ヲ有スル通常裁判所カ判決ヲ與ヘタル又ハ與フル場合ニ於テ其ノ判決カ右諸款ノ規定ト牴觸スルトキハ其ノ判決ニ因リ損害ヲ受ケタル當事者ハ混合仲裁裁判所ノ定ムル救濟ヲ受クルノ權利ヲ有ス同盟國又ハ聯合國ノ國民ノ請求アルトキハ混合仲裁裁判所ハ獨逸國裁判所ノ下シタル判決以前ノ各當事者ノ地位ヲ同復セシムルコトニ依リ成ルヘク右救濟ヲ行フヘシ

第七款　工業所有權

第三百六條

第二百八十六條記載ノ巴里同盟條約及「ベルヌ」條約ニ規定シタル工業所有權竝文學的及美術的著作物ニ關スル權利ハ戰爭狀態開始當時ノ受益者又ハ其ノ承繼人ノ爲ニ本條約實施ノ時ヨリ各締約國ノ版圖内ニ於テ之ヲ同復ス但シ本條約ニ別段ノ規定アルモノニ付テハ此ノ限ニ在ラス戰爭ナカリセハ工業所有權保護ノ出願ニ依リ又ハ文學的若ハ美術的著作物出版ノ結果戰時中ニ於テ取得シ得ヘカリシ權利モ亦其ノ權利ヲ有シタルヘキ者ノ爲ニ本條約實施ノ時ヨリ之ヲ承認設定スヘシ

尤モ獨逸國民ノ有スル工業所有權又ハ文學的若ハ美術的著作物ニ關スル權利ニ付戰時中同盟國又ハ聯合國ノ立法機關又ハ行政官廳ノ執リタル特別ノ措置ニ基ク一切ノ行爲ハ依然有效ニシテ且其ノ完全ナル效果ヲ保有スヘシ

獨逸國又ハ獨逸國民ハ戰時中同盟國若ハ聯合國ノ政府ニ於テ行ヒ又ハ該政府以外ノ者カ政府ノ爲ニ若ハ其ノ同意ヲ得テ行ヒタル工業所有權又ハ文學的若ハ美術的著作物ニ關スル權利ノ利用ニ付何等ノ請求ヲ爲シ又ハ訴訟ヲ提起スルコトヲ得ス該權利ノ實施ニ因リ生シタル一切ノ生產品、裝置、物品又ハ作品ノ販賣、販賣ノ提供又ハ使用ニ付亦同シ

同盟國又ハ聯合國ノ一國ニ於テ本條約署名當時ノ法令ニ別段ノ規定ナキトキハ本條第一項ニ定メタル特別ノ措置ノ實行ニ因ル一切ノ行爲ニ基キテ支拂ハルヘキ又ハ支拂ハレタル金額ハ獨逸國民ニ支拂ハルヘキ他ノ債權ニ付本條約ノ規定スル所ト同樣ニ之ヲ處理スヘク又同盟國若ハ聯合國ノ國民ノ有スル工業所有權又ハ文學的若ハ美術的著作物ニ關スル權利ニ付獨逸國政府ノ執リタル特別ノ措置ニ依リ生シタル金額ハ獨逸國民ヨリ支拂ハルヘキ他ノ一切ノ金錢債務ト同視シ之ト同樣ノ取扱ヲ爲スヘシ

同盟國又ハ聯合國ハ國防上若ハ公益上ノ必要ノ爲又ハ同盟國若ハ聯合國

(外務版)

ノ國民カ獨逸國ノ版圖内ニ於テ有スル工業所有權又ハ文學的若ハ美術的著作物ニ關スル權利ニ付獨逸國ノ公正ナル取扱ヲ確保スル爲又ハ本條約ニ依リ獨逸國ノ約定シタル一切ノ義務ノ完全ナル履行ヲ保障スル爲其ノ國ノ法令ニ從ヒ獨逸國民カ戰前若ハ戰時中ニ取得シ又ハ戰後ニ取得スルコトアルヘキ工業所有權（製造標若ハ商標ニ關スルモノヲ除ク）又ハ文學的若ハ美術的著作物ニ關スル權利ヲ實施シ其ノ實施ヲ免許シ又ハ其ノ實施ニ對シ監督權ヲ行使シ及其ノ他必要ナリト認ムル期限條件又ハ制限等ヲ附スルノ權利ヲ留保ス本條約實施後取得セラルヘキ工業所有權竝文學的及美術的著作物ニ關スル權利ニ付テハ同盟國又ハ聯合國ノ留保シタル上記ノ權利ハ國防上又ハ公益上期限、條件若ハ制限ヲ附スルコトヲ必要ナリト認ムル場合ニ限リ之ヲ行使スルコトヲ得

同盟國又ハ聯合國カ前項ノ規定ヲ適用スル場合ニ於テハ之カ爲相當ノ補償金又ハ使用料ヲ支拂フコトヲ要ス右補償金又ハ使用料ハ本條約ノ規定ニ依リ獨逸國民ニ支拂ハルヘキ他ノ金額ト同樣ニ之ヲ處理スヘシ

同盟國又ハ聯合國ハ千九百十四年八月一日以後ニ行ハレ又ハ將來行ハルルコトアルヘキ工業所有權又ハ文學的若ハ美術的著作物ニ關スル權利ノ全部若ハ一部ノ移轉其ノ他ノ處置ニシテ本條ノ目的ヲ阻礙スヘキモノハ之ヲ無效トスルノ權利ヲ留保ス

本條ノ規定ハ同盟國又ハ聯合國ノ戰時特別法令ニ依リ清算セラレタル又ハ第二百九十七條（ロ）號ニ依リ清算ヲ行フコトアルヘキ會社又ハ企業ニ屬スル工業所有權又ハ文學的若ハ美術的著作物ニ關スル權利ニ之ヲ適用セス

第三百七條

締約國國民ハ千九百十四年八月一日前ニ於テ取得シ又ハ戰爭ナカリセハ戰前若ハ戰時中ノ出願ニ依リ同日以後ニ於テ取得シ得ヘカリシ工業所有權ノ取得、保存又ハ之ニ關スル異議ノ申立ニ付本條約實施ノ時ヨリ一年ヲ下ラサル期間内ニ於テハ何等ノ附加金又ハ過怠金ヲ徵收セラルルコトナク一切ノ行爲ヲ追完シ、手續ヲ履行シ、料金ヲ納付シ其ノ他當該國法令ノ定ムル一切ノ義務ヲ履行スルコトヲ得但シ本條ノ規定ハ亞米利加合衆國ニ於テ最終ノ審問ヲ終リタル牴觸審判ノ再開ヲ請求スルノ權利ヲ與フルコトナシ

工業所有權ニシテ其ノ行爲ノ追完、手續ノ履行又ハ料金ノ納付ヲ怠リタルノ事由ニ因リ一旦失效シタルモノハ其ノ效力ヲ回復スヘシ但シ特許及意匠ニ關スルモノニ付テハ其ノ失効シタリシ期間内ニ該特許又ハ意匠ヲ實施シ又ハ使用シタル者ノ權利ヲ保護スル爲同盟國又ハ聯合國ニ於テ公正ノ見地ヨリ必要ト認ムル措置ヲ執ルコトヲ得ヘク又獨逸國民ノ有スル特許權又ハ意匠ニシテ本條ノ規定ニ依リ回復シタルモノハ實施ノ許諾ニ付テハ戰時中之ニ適用スヘカリシ規定及本條約ノ一切ノ規定ニ從フヘシ

千九百十四年八月一日ヨリ本條約實施ニ至ル迄ノ期間ハ特許ノ實施又ハ製造標若ハ商標又ハ意匠ノ使用ニ付定メラレタル期間中ニ之ヲ算入セス

千九百十四年八月一日ニ於テ有效ナリシ特許、製造標若ハ商標又ハ意匠ハ本條約實施後二年ノ期間滿了ニ至ル迄單ニ其ノ不實施又ハ不使用ノ事由ノミニ依リ取消サレ又ハ失效スルコトナシ

第三百八條

發明ノ特許出願又ハ實用新案、製造標若ハ商標及意匠及雜形ノ登錄出願

ニ關シ千九百十一年華盛頓ニ於テ改正セラレタル千八百八十三年三月二十日ノ工業所有權保護ニ關スル巴里同盟條約第四條其ノ他ノ條約又ハ法律ニ於テ規定シタル優先期間ニシテ千九百十四年八月一日ニ於テ滿了ニ至ラサリシモノ及戰時中ニ於テ開始シタルモノ又ハ戰爭ナカリセハ開始シ得ヘカリシモノハ各締約國ニ於テ他ノ締約國ノ一切ノ國民ノ爲本條約實施後六月ノ期間滿了ニ至ル迄之ヲ延長ス

尤モ前項期間ノ延長ニ因リ右優先期間ヲ援用シテ其ノ權利ヲ主張スル者アル場合ニ於テモ本條約實施ノ時善意ニ工業所有權ヲ占有シタル各締約國又ハ其ノ國民カ自己又ハ本條約實施前ニ其ノ權利ヲ取得シタル代理人若ハ實施權者ニ依リ其ノ權利ヲ行使スルコトヲ妨ケス且侵害ノ訴追ヲ受ケ其ノ他ノ手續ニ服スルコトナシ

第三百九條

獨逸國ノ國民又ハ其ノ版圖内ニ於テ居住シ若ハ營業ニ從事スル者及同盟國若ハ聯合國ノ國民又ハ其ノ版圖内ニ於テ居住シ若ハ營業ニ從事スル者竝戰時中其ノ權利ヲ取得シタル者ハ宣戰ノ日ヨリ本條約實施ノ日ニ至ル迄ノ間ニ於テ相互ノ版圖内ニ生シタル事實ニシテ戰時中或時期ニ於テ存在シ又ハ前二條ノ規定ニ依リ回復セラレタル工業所有權又ハ文學的若ハ美術的著作物ニ關スル權利ノ侵害ト看做サルヘキコトヲ理由トシテ何等ノ訴訟又ハ請求ヲ爲スコトヲ得ス

宣戰ヨリ本條約署名ニ至ル迄ノ間ニ於ケル生產品若ハ製造シタル物品又ハ公ニシタル文學的若ハ美術的著作物ノ本條約署名後一年ノ期間内ニ於ケル一方ニ於テハ同盟國又ハ聯合國ノ版圖内ノ、他方ニ於テハ獨逸國ノ版圖内ノ販賣若ハ販賣ノ提供ニ付如何ナル場合ニ於テモ工業所有權又ハ文學的若ハ美術的著作物ニ關スル權利ノ侵害ト看做サルヘキコトヲ理由トシテ何等ノ訴訟又ハ請求ヲ爲スコトヲ得ス

【外初版】

同盟國若ハ聯合國ノ國民又ハ其ノ版圖内ニ於テ居住シ若ハ營業ニ從事スル者ト獨逸國民トノ間ニ於テ工業所有權ノ實施許諾又ハ文學的若ハ美術的著作物ノ複製許諾ニ關シ宣戰前ニ締結シタル契約ハ獨逸國及同盟國又ハ聯合國間ニ於ケル宣戰ノ日ニ溯リ其ノ解除アリタルモノト看做ス但シ何レノ場合ニ於テモ前記契約ニ依ル從前ノ受益者ハ本條約實施後六月以内ニ於テ當該權利者ニ對シ右ノ實施又ハ複製ニ付新ナル許諾ヲ請求スルノ權利ヲ有ス當事者間ニ於テ右契約ノ條件ニ關スル協議調ハサルトキハ上記ノ權利ヲ取得シタル場合ニ於テ準據シタル法令ノ屬スル國ノ管轄裁判所之ヲ決定ス尤モ獨逸法令ニ基キ取得シタル權利ノ許諾ニ關スル契約ニ付テハ本編第六款ニ規定シタル混合仲裁裁判所ニ於テ其ノ條件ヲ決定スヘシ該裁判所ハ場合ニ依リ戰時中ニ於ケル右權利ノ使用ニ基ク補償金ニ付其ノ公正ト認ムル金額ヲモ定ムルコトヲ得

同盟國又ハ聯合國ノ戰時特別法令ニ依リ與ヘラレタル工業所有權又ハ文學的若ハ美術的著作物ニ關スル權利ノ實施ノ免許ハ戰前ノ許諾ノ繼續ニ依リ其ノ效力ヲ妨ケラルルコトナク有效ニ存續シ且完全ナル效果ヲ保有スヘシ戰前ニ締結セラレタル許諾契約ニ依ル從前ノ受益者ニ對シ與ヘラレタル免許ハ戰前ノ許諾契約ニ代リタルモノト看做ス

工業所有權ノ實施又ハ文學的美術的著作物若ハ演劇脚本ノ複製若ハ興行ニ關スル戰前ノ契約又ハ許諾ニ付戰時中支拂ヒタル金額アルトキハ該金額ハ本條約ノ規定ニ從ヒ獨逸國民ノ他ノ金錢債務又ハ金錢債權ト同樣ニ之ヲ處理スヘシ

本條ハ亞米利加合衆國ト獨逸國トノ間ニ之ヲ適用セス

第三百十一條

本條約ニ依リ獨逸國ヨリ分離シタル地域內ノ住民ハ該分離及之ニ基ク國籍ノ變更ニ拘ラス分離ノ當時獨逸國ノ法令ニ依リ有シタル一切ノ工業所有權竝文學的及美術的著作物ニ關スル權利ニ付引續キ獨逸國內ニ於テ完全ナル權利ヲ享有スヘシ

工業所有權竝文學的及美術的著作物ニ關スル權利ニシテ本條約ニ依リ獨逸國ヨリ分離シタル地域內ニ於テ分離ノ當時有效ナルカ又ハ第三百六條ノ規定ニ依リ回復シタルモノハ分離地域ヲ讓受ケタル國ニ於テ之ヲ承認スヘク且該地域內ニ於テ獨逸法令ニ依リ認メラレタルト同一期間其ノ效力ヲ保有スヘシ

第八款　讓渡地域內ニ於ケル社會保險及官營保險

第三百十二條

本條約ノ他ノ條項ニ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外獨逸國政府ハ獨逸國ノ歐羅巴內ノ版圖ノ讓渡ヲ受ケタル國及第一編(國際聯盟)第二十二條ニ依リ受任國トシテ獨逸國ノ從前ノ版圖ニ於テ施政ヲ行フ國ニ對シ獨逸帝國政府又ハ獨逸各邦政府若ハ其ノ管理ノ下ニ在ル公私ノ機關カ該地域內ニ於テ社會保險又ハ官營保險ヲ經營スル爲積立テタル部分ノ準備金ヲ引渡スコトヲ約ス

此等基金ノ引渡ヲ受ケタル國ハ其ノ基金ヲ該保險ヨリ生スル義務履行ノ爲ニ使用スヘシ

引渡ノ條件ハ獨逸國政府トノ間ニ締結セラルヘキ特別條約ニ依リ之ヲ定ムヘシ

本條約實施後三月以內ニ前項ノ規定ニ基キ前記ノ特別條約締結セラレサル場合ニ於テハ引渡ノ條件ハ各場合ニ付五名ノ委員ヨリ成ル委員會ノ議ニ付スヘシ右委員會ノ委員ハ獨逸國政府ニ於テ一名ヲ、利害關係アル他方ノ政府ニ於テ一名ヲ、國際勞働事務局勞働理事會ニ於テ其ノ他ノ國ノ國民中ヨリ三名ヲ任命スヘシ同委員會ハ國際聯盟理事會ノ議ニ付スヘキ勸告ヲ委員任命後三月以內ニ過半數ニ依リ決定スヘク聯盟理事會ノ決定ハ終結トシ獨逸國又關係國政府ハ直ニ之ニ服從スヘシ

第十一編　航空

第三百十三條

同盟及聯合國ノ航空機ハ獨逸國ノ領土及領水ヲ航空シ又之ニ著陸スルノ完全ナル自由ヲ有スヘシ且獨逸國ノ航空機ト同一ノ特權ヲ享有スヘク陸上ニ於ケル遭難ノ場合ニ於テ殊ニ然リトス

第三百十四條

同盟及聯合國ノ航空機ハ他ノ何レノ國ニ向ヒテノ通過中ノ場合ニ於テモ獨逸國ノ領土及領水ノ上空ヲ著陸スルコトナク飛行スルノ權利ヲ享有ス尤モ獨逸國ノ制定スル法規ニシテ獨逸國ノ航空機竝同盟及聯合國ノ航空機ニ對シ均シク適用セラルヘキモノニ常ニ準據スルヲ要スルモノトス

第三百十五條

獨逸國國內公共交通ノ爲開放セラレタル一切ノ獨逸國飛行場ハ同盟及聯合國ノ航空機ノ爲之ヲ開放スヘシ同盟及聯合國ノ航空機ハ右飛行場ニ於テ著陸手數料、設備使用料其ノ他一切ノ料金ニ關シ獨逸國ノ航空機ト同等ノ待遇ヲ受クヘシ

第三百十六條

第三百十三條乃至第三百十五條ニ規定スル航空、通過及著陸ノ權利ニ付テハ本諸規定ニ依ルノ外獨逸國ノ必要ト認メテ制定スル法規ニ準據スルヲ要ス尤モ右ノ法規ハ獨逸國ノ航空機竝同盟及聯合國ノ航空機ニ對シ何等ノ差別ナク適用セラルヘキモノナルコトヲ要ス

第三百十七條

同盟及聯合國ノ一國カ下付シ又ハ有效ト認ムル國籍證明書、堪航證明書、技倆證明書及諸免狀ハ獨逸國ニ於テ有效ト認メラレ且獨逸國ノ下付スル證明書及免狀ト均シキモノト認メラルヘシ

第三百十八條

國內ニ於ケル通商上ノ空中交通ニ關シ同盟及聯合國ノ航空機ハ獨逸國ニ於テ最惠國ノ待遇ヲ受クヘシ

第三百十九條

獨逸國ハ其ノ領土ノ上空ヲ飛行スル一切ノ獨逸航空機カ同盟及聯合國間ニ締結セラルル航空條約中ニ規定スル燈火及信號ニ關スル規則、飛行ニ關スル規則竝飛行場及其ノ近傍ニ於ケル空中交通ニ關スル規則ヲ遵守スヘキコトヲ保障スル爲必要ノ措置ヲ執ルコトヲ約ス

第三百二十條

前諸規定ニ依リ負フ義務ハ千九百二十三年一月一日迄存續スヘシ但シ該期日ニ先チ獨逸國カ國際聯盟ニ加入スルコトヲ許容セラレ又ハ同盟及聯合國ノ同意ニ依リ右諸國間締結ノ航空條約ニ加入スルコトヲ認許セラレタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第十二編　港、水路及鐵道

第一款　總則

第三百二十一條

獨逸國ハ鐵道、航行可能水路又ハ運河ノ何レカニ由ル國際交通上最便利ナル通路ヲ經テ其ノ版圖ヲ通過スルノ自由ヲ同盟及聯合國(其ノ獨逸國ニ隣接スルト否トヲ問ハス)ノ版圖ヨリ來リ又ハ其ノ版圖ニ向フ人、貨物、船舶、客車、貨車及郵便物ニ許與スルコトヲ約ス此ノ目的ノ爲ニハ領水ノ通過ヲ許與スヘシ上記ノ人、貨物、船舶、客車、貨車及郵便物ハ通過稅ヲ課セラレ又ハ不當ニ遲延若ハ制限セラルルコトナカルヘク且料金、便益其ノ他一切ノ事項ニ關シ獨逸國ニ於テ國民待遇ヲ享受スヘシ

通過貨物ハ一切ノ關稅其ノ他類似ノ課稅ヲ免除セラルヘシ

通過運送ニ課スル一切ノ料金ハ運送ノ條件ニ應シ相當ノモノタルヘシ運送中ニ於テ使用セラレ又ハ使用セラルヘキ船舶其ノ他ノ運輸機關ノ所有者又ハ國籍ノ如何ニ依リ直接又ハ間接ニ料金、便益又ハ制限ノ差別ヲ設クルコトヲカルヘシ

第三百二十二條

獨逸國ハ其ノ版圖ヲ通過スル移住者ノ運送ニ對シ旅客ノ通過カ善意ナルコトヲ確保スル爲必要ナル措置ヲ講スル外何等ノ取締ヲ設ケス又之ヲ持續セサルコトヲ約ス獨逸國ハ又運送ニ關係アル船舶會社其ノ他ノ私團體、私法人又ハ私人ナシテ右目的ノ爲必要ナルヘキ行政事務ニ一切關與セシメス又直接又ハ間接ニ該事務ノ上ニ勢力ヲ及ホサシメサルコトヲ約ス

第三百二十三條

〔外務省版〕

獨逸國ハ其ノ版圖ヘノ輸入若ハ其ノ版圖ヨリノ輸出ニ關スル關稅、料金及禁止ニ付又ハ本條約中ニ特別ノ約定ナキ限リ其ノ版圖ニ入リ若ハ其ノ版圖ヨリ出ツル貨物若ハ人ノ運途ニ對スル料金及條件ニ付通過シタル國境ノ如何、運途ニ用ヰラレタル運輸機關（航空機ヲ含ム）ノ種類所有者又ハ國旗ノ如何、運途ニ用ヰラレタル船舶、車輛、航空機其ノ他ノ運輸機關ノ最初若ハ最後ノ出發地又ハ其ノ最後若ハ中間ノ到著地ノ如何、運途ノ道筋又ハ途中積換ノ場所ノ如何、貨物ノ輸入港若ハ輸出港カ獨逸港ナルカ外國港ナルカノ如何又ハ貨物ノ輸入若ハ輸出カ海路ニ由ルカ陸路ニ由ルカ又ハ空中路ニ由ルカノ如何ニ依リ直接又ハ間接ニ差別的又ハ優先的取扱ヲ爲ササルコトヲ約ス

獨逸國ハ殊ニ同盟及聯合國ノ一國ノ港及船舶ニ對シ不利益ナル何等ノ附加稅及獨逸國又ハ別國ノ港又ハ船舶ニ依ル輸出又ハ輸入ニ對シ直接又ハ間接ノ何等ノ奬勵金（例ヘハ聯絡賃率）ヲ設ケサルコトヲ約ス獨逸國ハ又同盟及聯合國ノ港ヲ通過シ又ハ同盟及聯合國ノ船舶ニ依ル人又ハ貨物ニ對シ其ノ人又ハ貨物カ獨逸國ノ港若ハ別國ノ港ヲ通過シ又ハ獨逸船舶若ハ別國船舶ニ依ル場合ニ於テハ必要トセサルヘキ何等ノ手續ヲ履マシメス又何等ノ遲延ヲ生セシメサルコトヲ約ス

第三百二十四條

貨物ノ獨逸國境通過ヲ成ルヘク簡便ナラシメ且其ノ獨逸國境ヨリ發送及運送セラルルコトヲ確保スル爲一切ノ必要ナル行政上及專門事項上ノ措置ヲ執ルヘシ此ノ措置ヲ執ルニ當リテハ其ノ貨物ノ同盟及聯合國ノ版圖ヨリ獨逸國ニ來リ又ハ獨逸國ヨリ同盟及聯盟國ノ版圖ニ向フモノナルト同盟及聯合國ノ版圖ヨリ來リテ獨逸國ヲ通過シ又ハ同盟及聯合國ノ版圖ニ向ヒテ獨逸國ヲ通過スルモノナルトヲ問ハサルヘク且其ノ途中ニ於ケル注意及運送ノ速度等ニ付テハ同樣ノ運送條件ノ下ニ獨逸國版圖內ヲ運送セラルル同種類ノ他ノ貨物ト實質上同一ノ條件ニ依ル就中損敗シ易キ貨物ノ運送ハ迅速ニ且規則正シク行ハルヘク又關稅手續ハ聯絡列車ニ依ル貨物ノ直送ヲ妨クルコトナク爲サルヘシ

第三百二十五條

同盟及聯合國ノ海港ハ獨逸國ノ港又ハ他國ノ港ノ利益ノ爲許與セラルル獨逸國ノ鐵道又ハ航行可能水路ニ於ケル一切ノ恩典及低減賃率ノ適用ヲ受クルノ權利ヲ有ス

第三百二十六條

獨逸國ハ獨逸國ノ港又ハ別國ノ港ニ對シ許與スルト同樣ノ利益ヲ同盟及聯合國ノ港ニ許與スヘキ賃率又ハ聯絡賃率ノ適用ヲ拒絕スルコトヲ得ス

第二款　航行

第一章　航行ノ自由

第三百二十七條

同盟及聯合國ノ一國ノ國民竝其ノ船舶及財產ハ獨逸國ノ一切ノ港及獨逸國ノ內地水路ニ於テ獨逸國ノ國民、船舶及財產ト同一ノ待遇ヲ享受スヘシ

同盟國又ハ聯合國ノ一國ノ船舶ハ獨逸船舶ノ到ルコトヲ得ヘキ獨逸國版圖內ノ何レノ港若ハ何レノ地ニモ又ハ其ノ港若ハ其ノ地ヨリ獨逸船舶ノ場合ニ適用セラルル條件ヨリ重カラサル條件ノ下ニ各種ノ貨物及旅客ヲ運送スルノ權利ヲ有スヘシ同盟國又ハ聯合國ノ船舶ハ港及碇泊所ニ於ケル各種ノ便益及料金（碇泊及貨物ノ積卸ニ對スル便益竝政府、公務員、私人又ハ各種ノ社團若ハ財團ノ名義ヲ以テ又ハ其ノ利益ノ爲ニ課セラルル噸稅、港稅、水先案內料、燈臺稅、檢疫費其ノ他之ニ類似スル一切ノ各種ノ稅金及料金ヲ含ム）ニ關シテ內國船舶ト同等ノ待遇ヲ受クヘシ

獨逸國カ同盟國又ハ聯合國ノ一國ニ對シ又ハ別國ニ對シテ特惠制度ヲ許與スル場合ニ於テハ其ノ制度ハ卽時且無條件ニテ一切ノ同盟及聯合國ニ適用セラルヘシ

人又ハ船舶ノ移動ニ付テハ稅關、警察、衞生、移出民及移入民竝禁制品ヘ輸出入ニ關スル規則ニ基ク場合ヲ除クノ外之ニ何等ノ障礙ヲ加フルコトヲ得ス此等ノ規則ハ相當ニシテ劃一ナルヘク且濫ニ交通ヲ阻礙セサルモノナルコトヲ要ス

第二章　港內自由地域

第三百二十八條

千九百十四年八月一日獨逸國諸港ニ存在シタル自由地域ハ之ヲ存續スヘシ右自由地域其ノ他本條約ニ依リ獨逸國版圖內ニ設定セラルルコトアルヘキ自由地域ハ次條以下ニ規定スル制度ニ從フヘシ

自由地域ニ出入スル貨物ハ第三百三十條ニ規定スル場合ヲ除クノ外何等輸入稅又ハ輸出稅ヲ課セラルルコトナカルヘシ

自由地域ニ入ル船舶及貨物ハ港ノ行政費及維持改良費用ニ充當スル爲定メタル料金及諸種ノ設備ノ使用ニ對スル料金ヲ納付セシメラルルコトアルヘシ但シ此等ノ料金ハ費用ニ對シ相當ノモノニシテ且第三百二十七條ニ定ムル同等待遇ノ條件ニ依リ取立テラルルモノナルコトヲ要ス

第三百二十九條

貨物ハ專ラ當該港ニ於ケル貿易計數調錄費用ノ支辨ニ充ツヘキ從價予分ノ一ヲ超エサル統計稅ヲ除クノ外何等ノ他ノ料金ヲ課セラルルコトナカルヘシ

第三百三十條

倉庫ノ建設又ハ貨物ノ荷造若ハ解裝ノ爲許與セラルル便益ハ其ノ時時ノ貿易ノ必要ニ適應スルモノタルヘシ自由地域內ニ消費セラルル一切ノ貨物ハ前記第三百二十八條ニ規定スル統計稅ヲ除クノ外內國消費稅タルト其ノ他ノ種類ノモノタルトヲ問ハス一切ノ稅金ヲ免除セラルヘシ

本條中ノ何レノ規定ニ關シテモ國籍ヲ異ニスル人ノ間又ハ原產地若ハ仕向地ヲ異ニスル貨物ノ間ニ何等ノ差別ヲ設クルコトヲ得ス

第三百三十一條

港所在地ノ屬スル國ニ於ケル消費ノ爲自由地域ヨリ搬出スル貨物ニ對シテハ輸入稅ヲ課スルコトヲ得又反對ニ當該國ヨリ自由地域內ニ搬入スル貨物ニ對シテハ輸出稅ヲ課スルコトヲ得此ノ輸入稅及輸出稅ハ當該國ノ他ノ關稅境界ニ於テ徵收セラルル同樣ノ稅ト同一ノ基礎ニ於テ且同一ノ率ヲ以テ徵收セラルヘシ他方獨逸國ハ如何ナル名義ヲ以テスルヲ問ハス他ノ國ヨリ自由地域ニ又ハ自由地域ヨリ他ノ國ニ仕向クル爲陸路又ハ水路ニ由リ獨逸國版圖ヲ通過スル貨物ニ對シ一切ノ輸入稅、輸出稅又ハ通過稅ヲ課スルコトナカルヘシ

獨逸國ハ自由地域ニ到ルノ順路タル自國版圖內ノ鐵道及水路ニ由ル通過ノ自由ヲ確保シ且保障スル爲必要ナル規則ヲ制定スヘシ

第三章　「エルベ」河、「オーデル」河、「ニーメン」河

（「ルス」河－「メーメル」河）－「ニーメン」河）及「ダニューブ」河ニ關スル條項

一　一般條項

第三百三十一條

左記ノ河川ハ之ヲ國際河川ト聲明ス

「ヴルタヴァ」河（「モルダウ」河）トノ合流點ヨリ下流ノ「エルベ」河（「ラーベ」河）及「プラーグ」ヨリ下流ノ「ヴルタヴァ」河（「モルダウ」河）

「オッパ」河トノ合流點ヨリ下流ノ「オーデル」河（「オードラ」河）

「グロドノ」ヨリ下流ノ「ニーメン」河（「ルス」河－「メーメル」河－「ニーメン」河）

「ウルム」ヨリ下流ノ「ダニューブ」河

及前記河系中ノ航行可能ナル部分ニシテ一ノ船舶ヨリ他ノ船舶ヘ積換ヲ行フト否トヲ問ハス海洋ニ到ル自然的通路ヲ二箇以上ノ國家ニ供スルモノ及前記河系ノ自然的ニ航行可能ナル區域ヲ重複ニシ若ハ改良スル爲又ハ同一河

川ノ自然的ニ航行可能ナル二區域ヲ連絡スル爲ニ開鑿シタル傍系ノ運河及水道

第三百五十三條ニ規定シタル條件ノ下ニ萊因河、「ダニューブ」河間ニ航行可能ナル水路開鑿セラレタル場合ニ於テハ其ノ水路ハ亦國際河川タルヘシ

第三百三十二條

前條ニ依リ國際河川ト聲明セラレタル水路ニ於テハ一切ノ國ノ國民、財產又ハ船舶ハ完全ナル均等待遇ヲ受クヘク何レノ國ノ國民、財產又ハ船舶ニ對シテモ沿河國自身ノ又ハ最惠國ノ國民、財產又ハ船舶ニ比シ不利益ナル何等ノ差別ヲ設クルコトヲ得ス

但シ獨逸船舶ハ同盟國又ハ聯合國ノ一國ノ特許ナキ限リ其ノ國ノ數港間ノ定期航海ニ依リ旅客又ハ貨物ノ運送ニ從事スルコトヲ得ス

第三百三十三條

現行條約ニ反對ノ規定アル場合ヲ除クノ外航行可能ナル水道又ハ其ノ入口ヲ使用スル船舶ニ付テハ河川ノ區域ヲ異ニスルニ依リテ其ノ額ヲ異ニスル料金ヲ取立ツルコトヲ得但シ其ノ料金ハ河川及其ノ入口ノ航行可能ナル狀態ヲ維持シ若ハ河川及其ノ入口ヲ改良スル爲ノ費用ヲ衡平ニ支辨スルカ又ハ航行上ノ利益ノ爲ニ要シタル費用ニ充當スルノ外他ニ何等ノ目的ヲ有セサルモノナルコトヲ要ス其ノ料金表ハ右費用ヲ基礎トシテ算出シ且之ヲ各港ニ揭示スヘシ此ノ料金ハ詐欺又ハ反則ノ嫌疑アル場合ヲ除クノ外積貨ノ綿密ナル檢査ヲ要セサル樣之ヲ取立ツヘシ

第三百三十四條

前記水路ニ於ケル船舶旅客及貨物ノ通過ハ本編第一款ニ規定スル通過ニ關スル一般的條件ニ從ヒ行ハルヘシ

國際河川ノ兩岸カ同一國ニ屬スル場合ニ於テハ通過貨物ハ之ニ封印ヲ施シ又ハ稅關吏員ヲシテ之ヲ監視セシムルコトヲ得河川カ國境ヲ形成スル場合ニ於テハ通過ノ貨物及旅客ハ一切ノ稅關手續ヲ免除セラルヘク貨物ノ積卸及旅客ノ乘降ハ沿河國ノ特ニ定ムル港ニ於テノミ之ヲ行フヘシ

第三百三十五條

前記河川ノ河流又ハ河口ニ於テハ本編ニ規定スルモノヲ除クノ外何等ノ負擔ヲ課スルコトヲ得ス

前項ノ規定ハ沿河國カ關稅、地方入市稅又ハ消費稅ヲ定メ又ハ起重機、昇降機、陸揚場、倉庫等ノ使用ニ對シ各港ニ於テ公表料金率ニ依リ取立ツル相當ニシテ劃一ナル料金ヲ設定スルコトヲ妨ケス

第三百三十六條

航行可能水系ノ國際的部分ノ保全及改良ニ關聯スル工事ヲ遂行スル爲ノ特別機關存在セサル場合ニ於テハ各沿河國ハ航行ニ對スル障礙又ハ危險ヲ除去シ且航行ニ適當ナル狀態ノ維持ヲ確保スル爲適當ノ措置ヲ講スルノ義務ヲ有ス

前項ノ義務ヲ遵守セサル國アル場合ニ於テハ沿河國ノ何レカヨリ又國際委員會ノ設アルトキハ其ノ委員會ニ代表セラルル國ノ何レカヨリ國際聯盟ノ之カ爲設定スル裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第三百三十七條

沿河國カ國際的區域ニ於ケル航行ヲ阻礙スヘキ性質ノ工事ヲ企畫スル場合ニ於テモ同一ノ手續ヲ爲スコトヲ得前條ニ規定スル裁判所ハ其ノ工事ノ中止又ハ廢止ヲ命スル權利ヲ有スヘシ尤モ同裁判所カ判定ヲ爲スニ當リテハ灌漑、水力、漁獵其ノ他內國ノ利害關係事項ニ關スル一切ノ權利ニ對シ相當ノ斟酌ヲ加フヘキモノトス此等ノ權利ハ沿河國全部ノ同意アルトキハ航行上ノ必要ニ優先スルコトヲ得國際委員會ノ設アル場合ニ於テ其ノ委員會ニ代表セラルル一切ノ國ノ同意アルトキ亦同シ

國際聯盟ノ裁判所ニ對スル出訴ノ爲工事ヲ中止セシムルコトナシ

第三百三十八條

前記第三百三十二條乃至第三百三十七條ニ規定スル制度ハ同盟及聯合國ニ於テ作成シ且國際聯盟ニ於テ承認スル國際水路一般條約中ニ規定セラルヘキ他ノ制度ヲ以テ之ニ代フヘシ右一般條約ハ特ニ前記「エルベ」河（「ラーベ」河）、「オードラ」河（「オードラ」河）、「ニーメン」河（「ルス」河－「メーメル」河－「ニーメン」河）及「ダニューブ」河ノ河系ノ全部又ハ一部並一般定義ニ包括セラルヘキ此等河系ノ他ノ部分ニ付適用セラルヘシ

獨逸國ハ第三百七十九條ノ規定ニ依リ前項ノ一般條約ニ加入スルコト竝現行國際取極及規則ノ修正ニ關シ下記第三百四十三條ニ依リ作成セラルヘキ一切ノ條約案ニ加入スルコトヲ約ス

第三百三十九條

獨逸國ハ第三百三十一條ニ揭クル河系內ノ港ニ於テ登記セラレタル曳船及船舶ノ中ヨリ還付又ハ賠償ノ爲引渡ヲ了シタルモノヲ除キ其ノ一部ヲ通告アリタル日ヨリ三月以內ニ關係アル同盟及聯合諸國ニ引渡スヘシ獨逸國ハ又前記河系ノ利用ニ關シ必要ナル各種ノ材料ヲ該關係諸國ニ引渡スヘシ

引渡ノ目的タル曳船及舟艇ノ數、材料ノ數量竝此等ノ分配ハ亞米利加合衆國ノ指名スル一名又ハ數名ノ仲裁委員之ヲ決定スヘシ尤モ關係當事國ノ正當ナル要求殊ニ戰前五年間ノ航運狀態ニ對シテハ相當ノ斟酌ヲ加フルモノトス

引渡サルヘキ一切ノ船舶ハ其ノ設備及附屬具ヲ備ヘ、適當ナル修繕ヲ加ヘラレ且貨物ヲ運搬シ得ヘキ狀態ニ在ルコトヲ要ス此等ノ船舶ハ最近ノ建造ニ係ルモノノ中ヨリ之ヲ選擇スヘシ

本條ニ規定セラルル引渡ハ貸方ニ之ヲ計上シ其ノ總額ハ前記ノ一名又ハ數名ノ仲裁委員ニ於テ總金額トシテ之ヲ決定スヘク如何ナル場合ト雖引渡サレタル材料ノ設定當初ノ金額ヲ超過スルコトヲ得ス此ノ總額ハ獨逸國ノ支拂フヘキ金額總計中ヨリ之ヲ相殺スヘシ從テ所有者ニ對スル賠償

ハ獨逸國之カ處理ノ責ニ任ス

二　「エルベ」河、「オーデル」河及「ニーメン」河（「ルス」河ニ「メーメル」河ニ「ニーメン」河）ニ關スル特別條項

第三百四十條

「エルベ」河（「ラーベ」河）ハ左ノ代表者ヨリ成ル國際委員會ノ管理ニ屬スヘシ

沿河獨逸諸邦代表者四名
「チェッコ、スロヴァキア」國代表者二名
大不列顛國代表者一名
佛蘭西國代表者一名
伊太利國代表者一名
白耳義國代表者一名

代表者ヲ出シタル各國ハ出席人員數ノ如何ニ拘ラス自國ニ割當テラレタル代表者數ト同數ノ表決權ヲ有ス

前項ノ代表者中本條約實施ノ時ニ任命スルコトヲ得サル者アル場合ト雖委員會ノ決定ハ尚有效タルヘシ

第三百四十一條

「オーデル」河（「オードラ」河）ハ左ノ代表者ヨリ成ル國際委員會ノ管理ニ屬スヘシ

波蘭國代表者一名
普魯西代表者三名
「チェッコ、スロヴァキア」國代表者一名
大不列顛國代表者一名
佛蘭西國代表者一名
丁抹國代表者一名
瑞典國代表者一名

前項ノ代表者中本條約實施ノ時ニ任命スルコトヲ得サル者アル場合ト雖委員會ノ決定ハ尚有效タルヘシ

第三百四十二條

國際聯盟ニ對シ何レカノ沿河國ヨリ請求アリタルトキハ「ニーメン」河（「ルス」河ニ「メーメル」河ニ「ニーメン」河）ハ沿河國代表者各一名及國際聯盟ニ於テ特定スル他ノ代表者三名ヨリ成ル國際委員會ノ管理ニ屬スヘシ

第三百四十三條

第三百四十條及第三百四十一條ニ規定スル國際委員會ハ本條約實施後三月以內ニ、第三百四十二條ニ規定スル國際委員會ハ沿河國ノ一國ノ請求アリタル日ヨリ三月以內ニ會合スヘシ此等ノ各委員會ハ第三百三十八條ニ揭クル一般條約ニシテ既ニ締結セラレタル場合ニ於テハ其ノ一般條約ニ準據シ現行ノ國際取極及規則ヲ改訂スル條約案ノ起草ニ即時ニ著手スヘシ該一般條約未タ成立ニ至ラサル場合ニ於テハ改訂條約案ハ前記第三百三十二條乃至第三百三十七條ノ趣旨ニ準據スヘシ

第三百四十四條

前條ニ規定シタル條約案中ニハ左ノ事項ヲ包含スヘシ

(イ)　國際委員會ノ本部所在地ヲ指定シ且其ノ會長ヲ任命スル方法ヲ規定スルコト

(ロ)　委員會ノ權能ノ範圍殊ニ河系ノ維持、取締及改良ニ關スル工事ノ執行、計理制度、料金ノ決定及取立竝航行規則ニ關スル權能ノ範圍ヲ特定スルコト

(ハ)　國際的制度ヲ適用スヘキ河川又ハ其ノ支流ノ區域ヲ劃定スルコト

第三百四十五條

現在「エルベ」河（「ラーベ」河）、「オーデル」河（「オードラ」河）及「ニーメン」河（「ルス」河「メーメル」河ニ「ニーメン」河）ノ航行ニ適用スル國際取極及規則ハ前記條約案ノ批准ヲ見ルニ至ル迄假ニ其ノ效力ヲ存續スヘシ尤モ此等效力ヲ存續スル取極及規則カ前記第三百三十二條乃至第三百三十七條ノ規定又ハ今後締結セラルヘキ一般條約ノ規定ト牴觸スル場合ニ於テハ總テ後者ニ準據スヘキモノトス

三　「ダニューブ」河ニ關スル特別條項

第三百四十六條

「ダニューブ」河歐羅巴委員會ハ其ノ戰前ニ有シタル權能ヲ回復ス但シ臨時ノ措置トシテ同委員會ハ大不列顛國、佛蘭西國、伊太利國及羅馬尼亞國ノ代表者ノミヲ以テ之ヲ組織スヘシ

第三百四十七條

歐羅巴委員會ノ權限ノ終止スル地點ヨリ上流ノ第三百三十一條ニ揭クル「ダニューブ」河系ハ左記各代表者ヨリ成立スル國際委員會ノ管理ニ屬スヘシ

沿河獨逸諸邦代表者二名
其ノ他ノ沿河國代表者各一名
將來「ダニューブ」河歐羅巴委員會ニ代表セラルヘキ非沿河國代表者各一名
前項ノ代表者中本條約實施ノ時ニ任命スルコトヲ得サル者アル場合ト雖委員會ノ決定ハ尚有效タルヘシ

第三百四十八條

前條ニ規定スル國際委員會ハ本條約實施後成ルヘク速ニ會合シ同盟及聯合國ノ指定スル諸國カ「ダニューブ」河ニ關スル確定規則ヲ制定スルニ至ル迄ノ間第三百三十二條乃至第三百三十七條ノ規定ニ準據シテ臨時同河ノ管理ニ任スヘシ

第三百四十九條

獨逸國ハ同盟及聯合國ノ指定ニ係ル諸國ノ會議ニ於テ制定セラルヘキ「ダニューブ」河ニ關スル制度ヲ承認スルコトニ同意ス右會議ハ本條約實施後一年以內ニ開催セラルヘク獨逸國代表者ハ之ニ出席スルコトヲ得

第三百五十條

千八百七十八年七月十三日ノ伯林條約第五十七條ニ依リ墺地利洪牙利國ニ與ヘラレ更ニ同國ヨリ洪牙利國ニ移サレタル「アイアン、ゲーツ」ニ於ケル工事ノ執行ニ關スル委任ハ之ヲ廢棄ス此ノ部分ノ同河ノ管理ヲ委任セラレタル委員會ハ本條約財政上ノ規定ニ從ヒ收支決算ノ規定ヲ制定スヘシ料金ハ必要ナルヘキモノト雖一切ノ場合ニ於テ洪牙利國之ヲ取立ツルコトヲ得ス

第三百五十一條

國際委員會ヨリノ授權又ハ委任ニ依リ「チェッコ、スロヴァキア」國、「セルブ、クロアート、スロヴェーヌ」國又ハ羅馬尼亞國カ「ダニューブ」河系

中此等諸國ノ國境ヲ形成スル部分ニ於テ維持、改良、堰ノ築造其ノ他ノ工事ヲ執行スルトキハ此等諸國ハ同河ノ對岸及此等諸國ノ版圖外ニ屬スル河床ノ部分ニ於テ前記工事ノ測量、執行及維持ノ爲必要ナル一切ノ便益ヲ享受スヘシ

第三百五十二條

獨逸國ハ「ダニューブ」河歐羅巴委員會カ戰時中受ケタル損害ニ付一切ノ原狀回復、賠償及補償ヲ同委員會ニ爲スノ義務ヲ有ス

第三百五十三條

萊因河及「ダニューブ」河ヲ連結スル深吃水船航行可能水路ノ築造セラレタル場合ニ於テハ獨逸國ハ第三百三十二條乃至第三百三十八條ニ規定シタル制度ヲ之ニ適用スルコトヲ約ス

第四章　萊因河及「モーゼル」河ニ關スル條項

第三百五十四條

千八百六十八年十月十七日ノ「マンハイム」條約及同條約最終議定書ハ本條約實施後引續キ萊因河航行ノ準則タルヘシ但シ左ニ規定スル條件ニ從フコトヲ要ス

前記條約ノ規定ニシテ第三百三十八條ニ規定シタル一般條約（本條約ハ萊因河ニ適用セラル）ノ規定ト牴觸スル場合ニ於テハ右一般條約ノ規定ニ準據スヘシ

本條約實施後六月以内ニ第三百五十五條ニ規定スル中央委員會ヲ開キ「マンハイム」條約ノ改正案ヲ作成セシムヘシ此ノ改正案ハ上記ノ一般條約カ其ノ當時既ニ締結セラレタル場合ニ於テハ該一般條約ノ規定ニ準シテ之ヲ作成シ中央委員會ニ代表セラルル各國ニ提出スヘシ此ノ手續ニ依リ作成シタル改正案ハ獨逸國之ニ加入スヘキコトヲ約ス

又次條以下ニ規定シタル變更ハ即時ニ「マンハイム」條約中ニ之ヲ加フヘシ

同盟及聯合國ハ此ノ事項ニ關聯シ和蘭國ト了解ヲ遂クルノ權利ヲ留保ス

獨逸國ハ右ノ了解ニ加ハルコトヲ要セラレタル場合ニ於テハ之ニ加ハルヘキコトヲ約ス

第三百五十五條

「マンハイム」條約ニ規定シタル中央委員會ハ左記十九名ノ委員ヲ以テ之ヲ組織スヘシ

和蘭國代表者	二名
瑞西國代表者	二名
沿河獨逸諸邦代表者	四名
佛蘭西國代表者	四名
倫佛蘭西國ハ右ノ外委員長一名ヲ任命ス	
大不列顛國代表者	二名
伊太利國代表者	二名
白耳義國代表者	二名

中央委員會ノ本部ハ「ストラスブルグ」ニ之ヲ置ク

代表者ヲ出シタル各國ハ出席人員數ノ如何ニ拘ラス自國ニ割當テラレタル代表者數ト同數ノ表決權ヲ有ス

前項ノ代表者中條約實施ノ時ニ任命スルコトヲ得サル者アル場合ト雖委員會ノ議決ハ尚有效タルヘシ

第三百五十六條

一切ノ國ノ船舶及其ノ積荷ハ萊因河ヲ航行スル船舶及其ノ積荷ニ許與セラルル權利及特典ト同一ノ權利及特典ヲ享有スヘシ

前記「マンハイム」條約第十五條乃至第二十條及第二十六條、同條約最終議定書第四條又ハ爾後ノ諸條約ノ規定ハ萊因河及此等諸條約ノ適用ヲ享クル水路ニ於テ總テノ國ノ船舶及乘組員ノ自由航行ヲ妨クルコトナカルヘシ尤モ中央委員會ニ於テ作成スル水先案內規則其ノ他ノ警察諸規則ニ從フヘキモノトス

「マンハイム」條約第二十二條及同條約最終議定書第五條ノ規定ハ萊因河ニ付登錄セラレタル船舶ニ對シテノミ之ヲ適用ス中央委員會ハ其ノ他ノ船舶カ萊因河航行ニ適用セラルル一般規則ノ諸條件ヲ充タスコトヲ確保スル爲執ルヘキ手段ヲ決定スヘシ

第三百五十七條

獨逸國ハ獨逸萊因河諸港ニ登錄セラレタル曳船及船舶中ヨリ還付又ハ賠償ノ爲引渡ヲ了シタルモノヲ除キタル殘部ノ一部ヲ又ハ萊因河ニ於テ航運業ヲ營ム獨逸諸會社ニ對スル持分ヲ之カ爲通告アリタル日ヨリ三月以內ニ佛蘭西國ニ引渡スヘシ

船舶及曳船ヲ引渡ス場合ニ此ノ船舶及曳船ハ其ノ設備及附屬具ヲ備ヘ適當ナル修繕ヲ加ヘラレ且萊因河ニ於ケル運送ヲ營ミ得ル狀態ニ在ルコトヲ要ス此等ノ船舶ハ最近ノ建造ニ係ルモノノ中ヨリ之ヲ選擇スヘシ

獨逸國カ左記諸物件ヲ佛蘭西國ニ引渡スニモ亦同一ノ手續ニ依ルヘシ

一　獨逸國臣民又ハ獨逸國會社カ千九百十四年八月一日ニ「ロッテルダム」港ニ於テ所有シタル設備、繫留及碇泊ノ設備、乘降場、船渠、倉庫、工作所等

二　獨逸國又ハ獨逸國臣民カ同日ニ前記ノ設備ニ付有シタル持分又ハ利益

上記ノ引渡ノ金額及明細書ハ本條約實施後一年以內ニ亞米利加合衆國ノ指名スル一名又ハ數名ノ仲裁委員之ヲ決定スヘシ尤モ關係當事者ノ正當ナル需要ニ付テハ相當斟酌スヘキモノトス

本條ニ規定シタル引渡ハ貸方ニ之ヲ計上シ其ノ總額ハ前記ノ一名又ハ數名ノ仲裁委員ニ於テ總金額トシテ決定スヘク如何ナル場合ト雖引渡サレタル材料及設備ノ設定當初ノ金額ヲ超過スルコトヲ得ス此ノ總額ハ獨逸國ノ支拂フヘキ金額總計中ヨリ之ヲ相殺スヘシ從テ所有者ニ對スル賠償ハ獨逸國之カ處理ノ責ニ任ス

第三百五十八條

佛蘭西國ハ「マンハイム」條約又ハ之ニ代ルコトアルヘキ條約ノ規定及本條約ノ條項ニ從ヒ萊因河、佛蘭西國境上ノ二極點ノ間ニ含マルル全河流ニ於テ左ノ權利ヲ有ス

（イ）航行用及灌漑用ノ運河（既ニ開鑿セラレ又ハ今後開鑿セラルヘキモノ）ニ給水スル爲又ハ其ノ他ノ一切ノ目的ノ爲萊因河ヨリ河水ヲ引用スルノ權利及獨逸國沿岸ニ於テ此ノ權利ヲ行使スルニ必要ナル總テノ工事ヲ執行スルノ權利

（ロ）萊因河ノ調整工事ニ依リ生シタル動力ニ對スル獨占ノ權利但シ現實ニ生シタル動力ノ價格ノ半額ヲ獨逸國ニ支拂フコトヲ要ス此ノ支拂ハ動力ノ發生ニ必要ナル工事費ヲ斟酌シ金錢又ハ動力ヲ以テ之ヲ爲スヘク支拂ニ付協議調ハサルトキハ之ヲ仲裁ニ付ス此ノ目的ノ爲佛蘭西國ハ萊因河ノ前記ノ部分ニ於テ其ノ動力ノ發生上必要ナリト

認ムル總テノ調整工事（堰又ハ其ノ他ノ工事）ヲ執行スルノ權利ヲ專有ス尙萊因河ヨリ河水ヲ引用スルノ權利ハ後ニ規定スル萊因「ムーズ」兩河ヲ連結スル航行可能水路ニ給水スル爲白耳義國ニモ之ヲ付與ス

前項(イ)號及(ロ)號ニ規定シタル權利ノ行使ハ萊因河河床又ハ之ニ代ルヘキ誘導水路內ニ於ケル航行可能狀態ヲ阻礙シ又ハ其ノ航行上ノ便益ヲ減殺スヘカラス又現行條約ノ下ニ從前取立テラレタル通行料ハ右權利ノ行使ニ因リ增額セラルルコトナカルヘシ一切ノ計畫ハ中央委員會ヲシテ其ノ上記ノ要件ニ適合スルモノタルコトヲ確認セシメムカ爲之ヲ同委員會ニ提出スヘシ

前記(イ)號及(ロ)號ノ規定ノ適切且誠實ナル實行ヲ確保スル爲獨逸國ハ左ノ義務ヲ負フ

一　佛蘭西國境ノ對岸ナル萊因河右岸ニ於テ傍系ノ運河又ハ誘導水路ヲ開鑿シ又ハ開鑿セシメサルコト

二　佛蘭西國カ今後中央委員會ノ同意ヲ得テ築造ヲ決定スルコトアルヘキ堰ノ測量、建設及作業上必要ナルヘキ萊因河右岸ニ在ル一切ノ土地ニ關シ同國カ支持權及通行權ヲ有スルコトヲ認ムルコト　佛蘭西國ハ前記中央委員會ノ同意ニ從ヒ必要ナル敷地ノ限界ヲ決定スルノ權利ヲ有シ且單純ナル通告ヨリ二月ノ期間經過後ハ該土地ヲ占有スルコトヲ得ヘシ此ノ場合ニ於テ佛蘭西國ハ獨逸國ニ對シ賠償ヲ支拂フヘク其ノ總額ハ中央委員會ニ於テ之ヲ決定ス前記ノ地役ヲ課セラレ又ハ右工作物ニ依リ永久ニ占據セラルヘキ不動產ノ所有者ニ對シ賠償ヲ爲スハ獨逸國ノ責務タルヘシ

瑞西國ヨリ請求アリ中央委員會之ヲ承認シタルトキハ他ノ沿河諸國ト瑞西國トノ國境ヲ形成スル萊因河ノ部分ニ關シ右ト同樣ノ權利ヲ有スル爲萊因河ヨリ河水ヲ引用スルノ權利ハ後ニ規定スル萊因「ムーズ」兩河ヲ連結スル航行可能水路ニ給水スル爲白耳義國ニモ之ヲ付與ス

三　「アルザス、ロレーヌ」政廳又ハ「バーデン」大公國政府ノ作成シ又ハ受理シタル萊因河調整ニ關スル總テノ計畫、考案、特許及明細書ハ其ノ目的ノ如何ニ拘ラス本條約實施ノ翌月中ニ佛蘭西國政府ニ之ヲ交付スルコト

第三百五十九條

佛蘭西國又獨逸國ノ境界ヲ形成スル萊因河ノ區間ニ於テハ前數條ノ場合ヲ除クノ外豫メ中央委員會又ハ其ノ代理者ノ承認ヲ得ルニ非サレハ河床又ハ兩岸ニ於テ何等ノ工事ヲ執行スルコトヲ得ス

第三百六十條

佛蘭西國ハ萊因河ニ於テ執行セラルヘキ工事ニ關シ「アルザス、ロレーヌ」政廳及「バーデン」大公國ノ間ニ成立セル取極ヨリ生スル權利及義務ニ付代位スルノ選擇權ヲ留保ス佛蘭西國ハ又本條約實施後五年ノ期間內ニ此等ノ取極ヲ廢棄スルコトヲ得

佛蘭西國ハ又「マンハイム」ヨリ上流ノ萊因河ノ航行可能狀態ヲ維持シ又ハ改良スル爲中央委員會ノ必要ト認ムルコトアルヘキ工事ヲ執行セシムルノ選擇權ヲ有ス

第三百六十一條

白耳義國カ本條約實施後二十五年ノ期間內ニ「ルーロルト」迄方ニ於テ萊因「ムーズ」兩河ヲ連結スル深吃水船航行可能水路ノ開鑿ヲ決定シタルトキハ獨逸國ハ白耳義國政府カ中央委員會ノ同意ヲ經テ通牒シ來レル設計書所載ノ通獨逸國版圖內ニ在ル該航行可能水路ノ部分ヲ開鑿スルノ義務

ヲ有ス

白耳義國政府ハ此ノ目的ノ爲實地ニ於テ一切ノ必要ナル測量ヲ行フノ權利ヲ有ス

獨逸國カ此ノ工事ノ全部又ハ一部ヲ執行セサル場合ニ於テハ中央委員會ハ之ニ代リテ該工事ヲ執行スルノ權利ヲ有ス該委員會ハ此ノ目的ノ爲必要ナル敷地ノ限界ヲ決定シ單純ナル通知ヨリ二月ノ期間經過後ハ其ノ地域ヲ占有スルコトヲ得但シ之ニ對シ該委員會ニ於テ其ノ額ヲ決定シ獨逸國ニ於テ支拂フヘキ補償金ノ支拂ヲ爲スヘキモノトス

本條ノ航行可能水路ハ萊因河ト同一ノ管理制度ノ下ニ置カルヘク且創築費（前項ノ補償金ヲ含ム）ハ該水路ノ通過スル諸國ニ於テ分擔スヘク其ノ分擔額ハ中央委員會之ヲ決定スヘシ

第三百六十二條

獨逸國ハ萊因河中央委員會カ其ノ管轄權ヲ左記地方ニ擴張スル爲ノ一切ノ提議ニ對シ何等ノ異議ヲ申立テサルコトヲ約ス

一　佛蘭西國ヶ摩森堡國ト、國境ヨリ下流萊因河ニ至ル「モーゼル」河但シ庸森堡國ノ同意ヲ得ルコトヲ要ス

二　「バール」ヨリ上流「コンスタンス」湖ニ至ル萊因河但シ瑞西國ノ同意ヲ得ルコトヲ要ス

三　萊因河又ハ「モーゼル」河ノ自然的ニ航行可能ナル區域ヲ重複ニシ若ハ改良シ之ハ此等河川ノ自然的ニ航行可能ナル二區域ヲ連結スル爲ニ開鑿セラルルコトアルヘキ傍系ノ運河及水道竝前記第三百三十八條ニ規定スル一般條約ノ適用セラルヘキ萊因河系ノ他ノ部分

第五章　「チェッコ、スロヴァキア」國ノ北部諸港使用ニ關スル條項

第三百六十三條

獨逸國ハ漢堡港及「ステッティン」港ニ於テ一定地域ヲ九十九年間「チェッコ、スロヴァキア」國ニ貸與スヘク該地域ハ一般ノ自由地域制度ノ下ニ置キ「チェッコ、スロヴァキア」國ヨリ來リ又ハ同國ニ仕向ケラルル貨物ノ直接通過ニ使用セラルヘシ

第三百六十四條

前條ノ地域ノ境界劃定及設備、經營其ノ他一般ニ其ノ利用ニ關スル一切ノ條件（借料ノ額ヲ含ム）ハ獨逸國代表者一名、「チェッコ、スロヴァキア」國代表者一名及大不列顚國代表者一名ヨリ成ル委員會之ヲ決定スヘシ此等ノ條件ハ同樣ノ方法ニ依リ十年毎ニ修正スルコトヲ得

獨逸國ハ右ニ依リ定メラルヘキ決定ニ從フヘキコトヲ豫メ聲明ス

第三款　鐵道

第一章　國際運送ニ關スル條項

第三百六十五條

同盟又ハ聯合國ノ版圖ヨリ獨逸國ニ仕向ケラルル貨物竝同盟又ハ聯合國ノ版圖ヨリ發送セラレ又ハ同盟及聯合國ノ版圖ニ仕向ケラルル貨物ニシテ獨逸國ヲ通過スルモノハ獨逸國內ノ鐵道ニ於テ運賃及料金（割引及割戻ヲ含ム）、便益其ノ他一切ノ事項ニ付其ノ國內運送ナルト輸出輸入又ハ通過ノ爲ナルトヲ問ハス運送條件（例ヘハ運送線路ノ距離ノ如キ）同樣ナル場合ニ於テ獨逸國內ノ鐵道ニ由リ運送セラルル同種貨物ニ適用セラルル最惠待遇ヲ當然享受スヘシ同盟及聯合國ノ一國又ハ數國ノ請求アルトキハ獨逸國ヨリ其ノ請求國版圖ニ仕向ケラルル貨物ニシテ其ノ國ノ特ニ指定ス

（外務版）

ルモノニ對シテモ前記ノ規定ヲ適用ス

獨逸國ハ同盟及聯合國ノ一國ノ請求アルトキハ前項規定ノ實施ニ基キヌル及直通運送狀ニ依リ運送ヲ含ミタル國際賃率表ヲ定ムヘシ

第三百六十六條

本條約實施後締約國ハ關係締約國ニ限リ本條第二項ニ規定シタル留保ノ下ニ千八百九十年十月十四日、千八百九十三年九日二十日、千八百九十五年七月十六日、千八百九十八年六月十六日及千九百六年九月十九日「ベルヌ」ニ於テ署名セラレタル貨物ノ鐵道運送ニ關スル諸條約及諸協定ヲ復活セシムヘシ

本條約實施後五年以內ニ旅客、手荷物及貨物ノ鐵道運送ニ關シ前記千八百九十年十月十四日ノ「ベルヌ」條約竝其ノ後ノ追加ニ代ルヘキ新條約締結セラルル場合ニ於テハ其ノ新條約及之ニ基キテ規定セラルヘキ國際鐵道運送ニ關スル補足條款ハ獨逸國カ同條約ノ審議ニ參加スルコト又ハ同條約ニ加入スルコトヲ拒ム場合ニ於テモ尙同國ヲ拘束スヘシ新條約ノ締結ニ至ル迄ハ獨逸國ハ前記「ベルヌ」條約ノ規定、其ノ後ノ追加竝補足條款ニ從フヘシ

第三百六十七條

獨逸國ノ版圖ヲ通過シテ行ハルル同盟及聯合國相互間及此等諸國ト他ノ一切ノ諸國トノ間ノ鐵道交通ヲ確實ナラシムル爲同盟及聯合國ノ一國若ハ數國ノ請求アルトキハ獨逸國ハ旅客及手荷物ノ直通運送ヲ設クルコトニ協力スル義務ヲ有ス殊ニ獨逸國ハ此ノ目的ノ爲同盟及聯合國ノ版圖ヨリ來ル列車及車輛ヲ繼承シ且當該線路上ニ於ケル自國ノ最良長距離列車ト少クトモ同等ノ速力ヲ以テ之ヲ運轉スヘキモノトス此ノ種ノ直通運送ニ適用セラルヘキ運賃ハ如何ナル場合ニ於テモ同一速力及同種設備ノ下ニ於ケル同一距離ノ運送ニ對シ獨逸國ノ國內運送ニ付取立テラルル運賃ヨリ高カラサルコトヲ要ス

同盟及聯合國ノ港ニ赴キ又ハ同盟及聯合國ノ港ヨリ來ル移出民ヲ獨逸國內ノ鐵道ニテ運送スル場合ニ適用セラルヘキ運賃ハ他ノ諸港ニ赴キ又ハ他ノ諸港ヨリ來ル移出民カ同一速力及同種設備ノ下ニ同國鐵道ニ於テ享受スル最惠運賃率（割引及割戻ヲ含ム）ヨリ高キ吉米率ナルコトヲ得ス

第三百六十八條

獨逸國ハ前條ノ直通運送又ハ同盟及聯合國ノ港ニ赴キ若ハ同盟及聯合國ノ港ヨリ來ル移出民ノ運送ニ對シ右運送ヲ阻礙シ又ハ遲延セシムヘキ技術上、財政上又ハ行政上ノ措置例ヘハ稅關檢查、一般警察、衞生警察及取締ノ如キ特別ノ措置ヲ執ラサルコトヲ約ス

第三百六十九條

一部ハ鐵道ニ由リ一部ハ內地水路ニ由ル運送ナルトキハ直通運送狀ニ依ルモノタルト否トニ拘ラス其ノ鐵道ニ由ル部分ニ付テハ前數條ノ規定ヲ適用ス

第二章　車輛

第三百七十條

獨逸國ハ其ノ車輛ニ左記ノ取扱ニ適スル裝置ヲ備付クルコトヲ約ス

一　千八百八十六年五月十五日締結千九百七年五月十八日改正ノ「ベルヌ」條約ノ當事國タル同盟及聯合國ノ鐵道ニ運轉スル貨物列車ニ連結シ得ヘキモノト爲スコト但シ本條約實施後十年以內ニ此等ノ國內ノ鐵道ニ付採用スルコトアルヘキ貫通制動機ノ作用ヲ妨ケサルモノナルコトヲ要ス

二　獨逸國ノ鐵道ニ運轉スル一切ノ貨物列車ニ前號ノ同盟及聯合國ニ屬スル車輛ヲ連結シ得ヘキモノト爲スコト

同盟及聯合國ノ車輛ハ運轉、保存及修繕ニ關シ獨逸國ノ鐵道ニ於テ獨逸ノ車輛ト同一ノ取扱ヲ受クヘシ

第三章　鐵道線路ノ讓渡

第三百七十一條

鐵道ノ讓渡ハ獨逸國カ主權ヲ拋棄スル地域內ニ在ル港、水路及鐵道ノ讓渡ニ關スル特別規定竝職員ニ對スル退職年金ノ支給及特許權者ニ關スル財政上ノ條件ニ從フノ外左ノ條件ニ從ヒ之ヲ行フヘシ

一　一切ノ鐵道ノ工作物及設備ハ良好ノ狀態ニテ全部之ヲ引渡スヘシ

二　自線所屬ノ車輛ヲ有スル一鐵道系統全體カ獨逸國ヨリ同盟及聯合國ノ一國ニ引渡サルル場合ニ於テハ其ノ車輛ハ千九百十八年十一月十一日以前ノ最終財產目錄ニ從ヒ正常ノ保存狀態ニテ全部之ヲ引渡スヘシ

三　特ニ所屬車輛ヲ有セサル鐵道ニ付テハ同盟及聯合國ノ指名ニ係ル專門家ノ委員會ニ於テ獨逸國代表者ヲモ加ヘ其ノ鐵道ノ屬スル鐵道系統上ニ存在スル車輛中引渡サルヘキモノノ割合ヲ決定ス此等ノ委員會ハ千九百十八年十一月十一日以前ノ最終財產目錄ニ當該鐵道所屬トシテ記入セラレタル車輛ノ數量、軌道ノ延長（側線ヲ含ム）竝運送ノ性質及數量ヲ考量シ前記ノ割合ヲ決定スヘシ又同委員會ハ各個ノ場合ニ付引渡サルヘキ機關車、客車及貨車ヲ指定スヘク又車輛受領ニ關スル條件ヲ決定シ且獨逸工場ニ於テ車輛ノ修繕ヲ爲シ得ルノナルコトヲ要ス

四　備品、附屬品及機械類ハ車輛ト同一ノ條件ノ下ニ引渡スヘシ

前露領波蘭ノ鐵道ニシテ獨逸國カ之ヲ獨逸式軌間ニ改築シタルモノハ之ヲ普魯西國有鐵道系統ノ支派ト看做シ前記第三號及第四號ノ規定ヲ準用ス

第四章　特定ノ鐵道線ニ關スル規定

第三百七十二條

本條約ニ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外新國境劃定ノ結果同一國內ノ二地間ヲ連絡スル鐵道カ他國ヲ過ルコトヲ爲ルカ又ハ一國ヨリノ支線カ他國內ニ其ノ終點ヲ有スルコトヲ爲ル場合ニ於テハ其ノ作業條件ハ當該鐵道間ノ取極ニ依リ之ヲ定ムヘシ前記取極ノ條項ニ付當該鐵道間ノ協議調ハサルトキハ前條ノ規定ニ依リ組織シタル專門家委員會之ヲ決裁スヘシ

第三百七十三條

本條約實施後五年以內ニ「チェッコ、スロヴァキア」國ハ獨逸國版圖內ニ於テ「シュラウナイ」停車場ト「ナホッド」停車場トノ間ノ鐵道敷設ヲ請求スルコトヲ得其ノ敷設費用ハ「チェッコ、スロヴァキア」國之ヲ負擔スヘシ

第三百七十四條

伊太利國政府ノ同意ヲ得テ瑞西國政府ヨリ「サン、ゴタール」鐵道ニ關スル千九百九年十月十三日ノ國際條約ヲ廢棄スヘキ旨請求アルトキハ獨逸國ハ本條約實施後十年以內ニ之ヲ承諾スルコトヲ約ス廢棄ノ條件ニ關シ協議調ハサルトキハ獨逸國ハ亞米利加合衆國ノ指名スル一名ノ仲裁委員ノ判定ニ服スヘキコトヲ約ス

第五章　經過規定

第三百七十五條

獨逸國ハ同盟及聯合國ヲ代表スル官憲カ左記運送上ノ事項ニ付獨逸國ニ與フヘキ指令ヲ實行スヘシ

一　本條約ノ規定ニ依ル軍隊ノ運送竝軍用材料、彈藥及糧秣等ノ運搬

二　一時的ノ措置トシテ特定地方ヘノ供給品ノ運送、成ルヘク迅速ナル平時運送狀態ノ回復及郵便電信事務ノ整備

第四款　紛爭及永久條項ノ改正

第三百七十六條

前各條ノ解釋及適用ニ關シ關係國間ニ生スルコトアルヘキ紛爭ハ國際聯盟ノ定ムル所ニ依ル

第三百七十七條

國際聯盟ハ何時タリトモ前記諸條中永久的管理制度ニ關スル規定ノ改正ヲ提議スルコトヲ得

第三百七十八條

第三百二十一條乃至第三百三十條、第三百三十二條、第三百六十五條及第三百六十七條乃至第三百六十九條ノ規定ハ本條約實施後五年以後ハ何時タリトモ國際聯盟理事會ニ依リ改正セラルヘシ

前項ノ改正ナキ場合ニ於テハ同盟國又ハ聯合國ハ前記五年ノ期間滿了ノ後前項列記ノ各條ニ規定シタル事項ニ付相互待遇ヲ與ヘサル其ノ版圖內ノ地方ノ爲ニ該各條ノ規定シタル利益ヲ主張スルコトヲ得ス獨逸國カ相互待遇ヲ要求スルコト能ハサル前記五年ノ期間ハ國際聯盟理事會ニ於テ之ヲ延長スルコトヲ得

第五款　特別規定

第三百七十九條

獨逸國ハ本條約實施後五年以內ニ國際聯盟ノ承認ヲ得テ同盟及聯合國間ニ締結セラルヘキ通過、水路、港又ハ鐵道ノ國際制度ニ關スル何レノ一般條約ニモ加入スヘキコトヲ約ス但シ同盟及聯合國ノ利益ノ爲ニ本條約ノ定メタル獨逸國ノ特殊義務ニ影響ヲ及ホスコトナシ

第六款　「キール」運河ニ關スル條項

第三百八十條

「キール」運河及其ノ入口ハ獨逸國ト和親ノ一切ノ國ノ商船及軍艦ノ爲ニ全然均等ノ條件ニテ開放セラレ且常ニ自由タルヘシ

第三百八十一條

一切ノ國ノ國民、財產及船舶ハ運河ノ使用ニ付料金、便益其ノ他一切ノ事項ニ關シ完全ナル均等待遇ヲ受クヘク其ノ國民、財產及船舶ニ對シ獨逸國又ハ最惠國ノ國民、財產又ハ船舶ニ比シ不利益ナル何等ノ差別ヲ設クルコトヲ得サルモノトス

人又ハ船舶ノ移動ニ付テハ警察、關稅、衞生、移出民及移入民諸規則竝禁制品ノ輸出入ニ關スル規則ニ基ク場合ヲ除クノ外之ニ何等ノ障礙ヲ加フルコトヲ得ス此等ノ規則ハ相當ニシテ劃一ナルヘク且滯ニ交通ヲ阻礙セサルモノナルコトヲ要ス

第三百八十二條

運河又ハ其ノ入口ヲ使用スル船舶ニ對シ課スルコトヲ得ヘキ料金ハ運河又ハ其ノ入口ノ航行可能ナル狀態ヲ維持シ若ハ運河又ハ其ノ入口ヲ改良スル爲ノ費用ヲ衡平ニ支辨スルカ又ハ航行上ノ利益ノ爲ニ要シタル經費ニ充當スル總旨ノモノナルコトヲ要ス其ノ料金表ハ右諸費用ヲ基礎トシ

テ算出シ且之ヲ各港ニ揭示スヘシ

前項ノ料金ハ詐欺又ハ反則ノ嫌疑アル場合ヲ除クノ外積荷ノ細密ナル檢查ヲ要セサル標之ヲ取立ツヘシ

第三百八十三條

通過貨物ハ之ニ封印ヲ施又ハ稅關吏員ヲシテ之ヲ監視セシムルコトヲ得ヘク貨物ノ積卸及旅客ノ乘降ハ獨逸國ニ於テ特ニ定ムル港ニ於テノミ之ヲ行フヘシ

第三百八十四條

「キール」運河內又ハ其ノ入口ニ於テハ本條約ニ規定スルモノヲ除クノ外何等ノ料金ヲ課スルコトヲ得ス

第三百八十五條

獨逸國ハ航行ニ對スル障礙又ハ危險ヲ除去シ且航行ニ適當ナル狀態ノ維持ヲ確保スル爲適當ナル措置ヲ講スルノ義務ヲ有ス獨逸國ハ又本運河又ハ其ノ入口ニ於テ航行ヲ妨礙スヘキ性質ヲ有スル何等ノ工事ヲ企ツルコトナカルヘシ

第三百八十六條

第三百八十六條乃至第三百八十六條ノ規定ニ對スル違反ノ場合又ハ該數條ノ解釋ニ關シ紛爭ヲ生シタル場合ニハ關係國ハ國際聯盟カ之カ爲設立スル裁判所ニ出訴スルヲ得

小問題ヲ國際聯盟ノ議ニ付スルコトヲ避ケムカ爲獨逸國ハ紛爭ヲ第一審トシテ處理スルニ足リ且關係國領事官ヲ經由シ提起セラルヘキ異議ニ對シ能フ限リ滿足ヲ與フルニ適スル一ノ地方官廳ヲ「キール」ニ設クヘシ

第十三編　勞働

第一類　一般共通條約　第二編　平和條約

第一款　勞働機關

國際聯盟ハ世界平和ノ確立ヲ目的トシ而シテ世界平和ハ社會正義ヲ基礎トスル場合ニ於テノミ之ヲ確立シ得ヘキモノナルニ因リ

多數ノ人民ニ對スル不正、困苦及窮乏ヲ伴フ現今ノ勞働狀態ハ大ナル不安ヲ釀生シ惹テ世界ノ平和協調ヲ危殆ナラシムヘキニ因リ彼ノ勞働時間ノ制定殊ニ一日又ハ一週ノ最長勞働時間ノ限定、勞働供給ノ調節、失業ノ防止、相應ノ生活ヲ支フルニ足ル賃銀ノ制定、勞務傷害及疾病ニ對スル勞働者ノ保護、兒童年少者及婦人ノ保護、老年及癈疾ニ對スル施設、自國外ニ於テ使用セラルル勞働者ノ利益ノ保護、結社自由ノ原則ノ承認、職業及技術敎育ノ組織等ノ如キ手段ヲ以テ前記勞働狀態ヲ改善スルコトハ刻下ノ急務ナルニ因リ

一國ニ於テ人道的勞働條件ヲ採用セサルトキハ他ノ諸國ノ之カ改善ヲ企圖スルモノニ對シ障礙ト爲ルヘキニ因リ

玆ニ締約國ハ正義人道ヲ旨トシ世界恆久ノ平和ヲ確保スルノ冀望ヲ以テ左ノ諸條ヲ協定ス

第一章　機關

第三百八十七條

前文記載ノ目的ヲ達セムカ爲玆ニ常設機關ヲ設置ス

國際聯盟ノ原聯盟國ハ右常設機關ノ原締盟國タルヘク今後國際聯盟ノ聯盟國ト爲ルモノハ同時ニ右常設機關ノ締盟國タルヘキモノトス

第三百八十八條

常設機關ハ(一)締盟國代表者ノ勞働總會及(二)第三百九十三條ニ規定スル勞働理事會ノ管理ニ屬スル國際勞働事務局ヨリ成ル

〔外務版〕

第三百八十九條

締盟國代表者ノ勞働總會ノ會議ハ必要ニ應シ隨時ニ且少クトモ毎年一回之ヲ開クヘシ勞働總會ハ各締盟國四名ツツノ代表者ヲ以テ之ヲ組織ス內二名ハ政府ノ代表委員、他ノ二名ハ當該國ニ於ケル使用者及勞働者ヲ各代表スル代表委員タルヘシ

各代表委員ハ顧問ヲ同伴スルコトヲ得但シ會議事項ノ各項目ニ付二名ヲ超ェルコトヲ得ス勞働總會ニ於テ特ニ婦人ニ關スル問題ヲ議スル場合ニ於テハ顧問中少クトモ一名ハ婦人タルコトヲ要ス

締盟國ハ其ノ國ニ於テ使用者又ハ勞働者ヲ最能ク代表スル產業上ノ團體カ存在スル場合ニ於テハ該團體トノ協調ニ依リ各民間代表委員及其ノ顧問ヲ任命スルコトヲ約ス

顧問ハ之ヲ同伴スル代表委員ノ請求及總會ノ議長ノ特別ノ許可アル場合ヲ除クノ外發言スルコトヲ得ス又顧問ハ表決ヲ爲スコトヲ得ス

代表委員ハ議長宛ノ通告書ニ依リ其ノ顧問ノ一名ヲ自己ノ代理者トシテ指名スルコトヲ得顧問ハ右代理中發言シ及表決ヲ爲スコトヲ得

代表委員及其ノ顧問ノ氏名ハ各締盟國政府之ヲ國際勞働事務局ニ通知スヘシ

代表委員及其ノ顧問ノ委任狀ハ之ヲ勞働總會ノ審査ニ付スヘシ勞働總會ハ出席代表委員ノ爲シタル表決ノ三分ノ二ノ多數ヲ以テ本條ニ依リ任命セラレタル者ニ非スト認ムル代表委員又ハ顧問ノ列席ヲ拒絕スルコトヲ得

第三百九十條

各代表委員ハ勞働總會ニ付議セラレタル一切ノ事項ニ付各別ニ表決ヲ爲スノ權利ヲ有ス

締盟國任命權ヲ有スルニ拘ラス民間代表委員中ノ一名ヲ任命セサルトキハ他ノ民間代表委員ハ勞働總會ニ出席シ發言スルコトヲ得ルモ表決ヲ爲スコトヲ得ス

第三百八十九條ニ依リ勞働總會カ締盟國ノ一代表委員ノ列席ヲ拒絕シタルトキハ該代表委員ノ任命ナカリシモノト看做シ本條ノ規定ノ適用ス

第三百九十一條

勞働總會ノ會議ハ國際聯盟本部所在地又ハ前會議ニ於テ出席代表委員ノ爲シタル表決ノ三分ノ二ノ多數ヲ以テ總會カ議決シタル他ノ地ニ於テ之ヲ開ク

第三百九十二條

國際勞働事務局ハ聯盟機關ノ一部トシテ國際聯盟本部所在地ニ之ヲ設置ス

第三百九十三條

國際勞働事務局ハ左ノ規定ニ依リ選任シタル二十四名ヲ以テ組織スル勞働理事會ノ管理ニ屬ス

勞働理事會ノ組織ハ左ノ如シ

政府ヲ代表スル者十二名

使用者ヲ代表スル勞働總會代表委員ノ選擧シタル者六名

勞働者ヲ代表スル勞働總會代表委員ノ選擧シタル者六名

政府ヲ代表スル十二名ノ中八名ハ主要產業國タル締盟國之ヲ任命シ他ノ四名ハ右八國以外ノ締盟國ノ勞働總會政府代表委員ニ於テ之カ爲選定シタル締盟國之ヲ任命スヘシ

主要產業國カ何レナルカノ問題ハ國際聯盟ノ聯盟理事會之ヲ決定スヘシ」

勞働理事會員ノ任期ハ三年トス闕員ノ補充方法其ノ他之ニ類スル事項ハ勞働總會ノ承認ヲ條件トシテ勞働理事會之ヲ定ムルコトヲ得

勞働理事會ハ會員中ノ一名ヲ隨時ニ會長ニ選擧シ議事規則ヲ設ケ及其ノ會議ノ期日ヲ定ムル臨時會議ハ會員十名以上ノ書面請求アリタルトキハ之ヲ開クヘシ

第三百九十四條

國際勞働事務局ニ局長ヲ置キ勞働理事會之ヲ任命ス局長ハ勞働理事會ノ指揮ヲ受ケ國際勞働事務局ノ事務及他ノ委託事務ノ遂行ニ付其ノ責ニ任ス

局長又ハ其ノ代理者ハ勞働理事會ノ一切ノ會議ニ列席スヘシ

第三百九十五條

國際勞働事務局ノ職員ハ局長之ヲ任命ス右職員ハ國際勞働事務局事務ノ成績ヲ擧クルニ差支ナキ限リ成ルヘク國籍ヲ異ニスル諸國人中ヨリ之ヲ選任スヘク且其ノ若干名ハ婦人タルコトヲ要ス

第三百九十六條

國際勞働事務局ノ職能ニハ勞働者ノ生活狀態及勞働條件ノ國際的調節ニ關スル一切ノ情報ノ蒐集配布、殊ニ國際條約締結ノ目的ヲ以テ勞働總會ニ提出セムトスル事項ノ審査竝勞働總會ノ命ニ依ル特別調査ノ遂行ヲ含ムモノトス

國際勞働事務局ハ勞働總會ノ會議事項ヲ準備ス

國際勞働事務局ハ國際紛爭ニ關シ本編ノ規定ニ依リ其ノ任務ヲ行フ

國際勞働事務局ハ國際利害關係アル產業及勞務ノ問題ニ付佛文、英文其ノ他勞働理事會カ適當ト認ムル言語ヲ以テ定期刊行物ヲ編輯發行スヘシ」

本條ニ定メタル職能外尙ノ國際勞働事務局ハ勞働總會ノ委託ニ係ル一切ノ權能及任務ヲ有スルモノトス

第三百九十七條

產業及勞務ノ問題ヲ管掌スル締盟國政府ノ各省ハ勞働理事會ニ於ケル當該政府ノ代表者、代表者ナキ場合ニ於テハ之カ爲政府ノ任命シタル當該官吏ヲ經由シテ直接ニ局長ト通信スルコトヲ得

第三百九十八條

國際勞働事務局ハ國際聯盟事務總長ノ助力ヲ受クルコトヲ得ヘキ事項ニ付右助力ヲ請求スルコトヲ得

第三百九十九條

勞働總會又ハ勞働理事會ノ會議ニ出席スル代表者、代表委員及其ノ顧問ノ旅費及手當ハ各締盟國之ヲ支辨ス

國際勞働事務局竝勞働總會及勞働理事會ノ會議ニ關スル他ノ一切ノ費用ハ國際聯盟事務總長聯盟ノ一般資金中ヨリ之ヲ局長ニ交付ス

局長ハ本條ニ依リ交付ヲ受ケタル金錢ノ支出ニ付國際聯盟事務總長ニ對シ其ノ責ニ任スヘシ

第二章　手續

第四百條

勞働總會ノ一切ノ會議ノ會議事項ハ勞働理事會之ヲ決定ス勞働理事會ハ締盟國ノ政府又ハ第三百八十九條ノ目的ノ爲承認セラレタル代表團體ノ提出スル會議事項ノ案ヲ審議スヘシ

第四百一條

局長ハ勞働總會ノ幹事トシテ行動ス會議事項ハ勞働總會ノ開催前四月迄

ニ之ヲ各締盟國ニ送達スヘシ民間代表委員ノ選任アリタル場合ニ於テハ當該締盟國ヲ經由シテ之ニ送達スヘシ

第四百二條

締盟國政府ハ勞働總會ノ會議事項中或項目ノ存置ニ對シ反對ヲ述フルノ權ヲ有ス右反對ノ理由ハ局長宛ノ說明書ニ之ヲ記載スヘク局長ハ之ヲ本當設機關ノ各締盟國ニ送付スヘシ

尤モ前記ノ反對アリタル項目ト雖勞働總會ニ於テ出席代表委員ノ爲シタル表決ノ三分ノ二ノ多數ヲ以テ審議スヘキモノト議決シタルトキハ之ヲ會議事項中ヨリ削除スルコトヲ得ス

前項ノ外勞働總會ニ於テ出席代表委員ノ爲シタル表決ノ三分ノ二ノ多數ヲ以テ或事項ヲ審議スヘキ旨ヲ議決シタルトキハ該事項ハ之ヲ次期會議ノ事項中ニ加フヘシ

第四百三條

勞働總會ハ自ラ會議手續ヲ定メ及議長ヲ選擧スヘシ又各種ノ事項ニ付審査報告ヲ爲サシムル爲委員會ヲ組織スルコトヲ得

本編ニ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外一切ノ事項ハ出席代表委員ノ爲シタル表決ノ單純多數ニ依リ之ヲ決ス

爲サレタル表決ノ總數カ勞働總會出席代表委員ノ半數ニ達セサルトキハ採決ハ之ヲ無效トス

第四百四條

勞働總會ハ其ノ組織シタル各委員會ニ專門委員ヲ附屬セシムルコトヲ得專門委員ハ審議ニ參加シ表決權ヲ有セス

第四百五條

勞働總會ニ於テ會議事項中ノ或項目ニ關シ提案ヲ可決シタルトキハ勞働總會ハ該提案ニ付(イ)締盟國ヲシテ立法其ノ他ノ方法ニ依リ之カ實現ヲ爲サシムル目的ヲ以テ考慮セシムル爲該締盟國ニ送付スル勸告又ハ(ロ)締盟國ニ依リ批准セラルヘキ國際條約案ノ孰レノ形式ニ依ルヘキカヲ決定ス」

勞働總會ニ於テ前項ノ勸告又ハ條約案ヲ可決確定スル爲ニハ孰レノ場合ニ於テモ出席代表委員ノ爲シタル表決ノ三分ノ二ノ多數ヲ要ス

締盟國一般ニ適用スヘキ勸告又ハ條約案ヲ立案スル場合ニ於テハ勞働總會ハ氣候ノ狀態、產業組織ノ不充分ナル發達其ノ他特殊ノ事情ニ因リ產業狀態著シキ差異アル國ニ關シ相當斟酌ヲ加フヘク且斯ノ如キ國ノ事情ニ適應セシムル爲必要ト認ムルモノアルトキハ右勸告又ハ條約案ニ加フヘキ變更ヲ揭示スヘシ

勸告又ハ條約案ハ勞働總會ノ議長及局長其ノ一通ニ署名シテ之ヲ確認シ國際聯盟事務總長ニ寄託スヘク事務總長ハ其ノ勸告又ハ條約案ノ認證謄本ヲ各締盟國ニ送付スヘシ

締盟各國ハ勞働總會閉會後一年以內ニ立法其ノ他ノ措置ヲ執ルカ爲右ノ勸告又ハ條約案ヲ其ノ事情ニ付權限アル機關ノ議ニ付スヘキコトヲ約ス但シ已ムヲ得サル事情ノ爲右期間內ニ其ノ議ニ付スルコト能ハサルトキハ成ルヘク速ニ且如何ナル場合ニ於テモ勞働總會閉會後十八月ヲ超エサル期間內ニ之ヲ爲スコトヲ要ス

勸告ニ付テハ締盟國ハ之ニ關シ執リタル措置ヲ事務總長ニ通知スヘシ

條約案ニ付テハ締盟國ニ於テ其ノ事情ニ關シ權限アル機關ノ同意ヲ得タル場合ニ於テハ右條約ノ正式批准ヲ事務總長ニ通告シ且右條約ノ規定ノ實施ニ必要ナル措置ヲ執ルヘシ

勸告ニ付其ノ實現ニ必要ナル立法其ノ他ノ措置ヲ執ルコトナカリシ場合又ハ條約案ニ付其ノ事項ニ關シ權限アル機關ノ同意ヲ得サリシ場合ニ於テハ締盟國ハ他ノ何等ノ義務ヲ負フコトナシ

勞働事項ニ關スル條約ニ加盟スルノ權能ニ制限アル聯邦國ニ在リテハ當該國政府ハ其ノ裁量ニ依リ右制限ノ適用アル條約案ヲ單ニ勸告ト謀ムルコトヲ得此ノ場合ニハ勸告ニ關スル本條ノ規定ヲ準用ス

本條ハ左ノ原則ニ從ヒ之ヲ解釋スヘシ

締盟國ハ如何ナル場合ニ於テモ勞働總會カ或勸告又ハ條約案ヲ採用シタル結果トシテ其ノ國ノ現行法制上當該勞働者ニ與ヘタル保護ノ減殺ヲ要求セラルルコトナカルヘシ

第四百六條

右ニ依リ批准セラレタル一切ノ條約ハ國際聯盟事務總長之ヲ登錄スヘシ該條約ハ之ヲ批准シタル締盟國ノミヲ拘束スヘシ

第四百七條

條約案カ勞働總會ノ最終審議ニ付セラレタル場合ニ於テ出席代表委員ノ爲シタル表決ノ三分ノ二ノ同意ヲ得サリシトキト雖本當該機關ノ締盟國ハ右條約案ヲ希望スル各國間ニ於テノミ之ヲ採用スルノ權ヲ有ス

右ニ依リ採用シタル條約ハ當該國政府國際聯盟事務總長ニ之ヲ通知シ事務總長ハ之ヲ登錄スヘシ

第四百八條

各締盟國ハ其ノ締結シタル條約ノ規定實施ノ爲執リタル措置ニ關スル年報ヲ國際勞働事務局ニ提出スルコトヲ約ス該年報ノ樣式及記載事項ハ勞働理事會ノ指定スル所ニ依ル局長ハ該年報ノ要領ヲ勞働總會ノ次期會議ニ報告スヘシ

第四百九條

使用者又ハ勞働者ノ組織スル產業上ノ團體ヨリ國際勞働事務局ニ對シ締盟國ノ一國カ其ノ締結シタル條約ニ付其ノ管轄內ニ於テ確實ナル履行ヲ爲ササルコトヲ申告シタル場合ニ於テハ勞働理事會ハ其ノ申告ヲ當該國政府ニ移牒シ且右ニ付其ノ相當ト認ムル辯明書ノ提出ヲ勸誘スルコトヲ得

第四百十條

勞働理事會ハ當該國政府ヨリ相當期間內ニ辯明書ヲ接受セス又ハ其ノ接受シタル辯明書ヲ不充分ト認ムル場合ニ於テハ右申告書及之ニ對スル辯明書アルトキハ其ノ辯明書ヲ公表スルノ權利ヲ有ス

第四百十一條

各締盟國ハ他ノ締盟國カ前數條ニ依リ共ニ批准シタル條約ノ確實ナル履行ヲ爲サスト認ムル場合ニ於テハ國際勞働事務局ニ對シ異議ヲ提起スルノ權ヲ有ス

勞働理事會ハ以下規定スル所ニ從ヒテ右ノ異議ヲ勞働審理委員會ニ付スルニ先チ其ノ裁量ニ依リ第四百九條ノ定ムル方法ニ準シ右異議ノ相手國政府ニ之ヲ移牒スルコトヲ得

勞働理事會ハ右異議ヲ相手國政府ニ移牒スルノ必要ヲ認メサルトキ又ハ右移牒ヲ爲シタル場合ニ於テ其ノ充分ト認ムル辯明書ヲ相當期間內ニ接受セサルトキハ該異議ノ審査及之ニ關スル報告ヲ爲サシムル爲勞働審理委員會ノ設置ヲ求ムルコトヲ得

勞働理事會ハ其ノ發意ニ依リ又ハ勞働總會ノ代表委員ノ異議ニ基キ同一

(外務版)

ノ手續ヲ爲スコトヲ得

勞働理事會第四百十條又ハ第四百十一條ノ適用ヨリ生スル問題ヲ審議スルニ當リ申告又ハ異議ノ相手國政府カ勞働理事會ニ其ノ代表者ヲ有セサル場合ニ於テハ該政府ハ其ノ審議中勞働理事會ノ議事ニ參加セシムル爲代表者ヲ出スノ權ヲ有ス審議ノ期日ハ該國政府ニ對シ適當ノ時期ニ之ヲ通知スヘシ

第四百十二條

勞働審理委員會ハ左ノ規定ニ依リ之ヲ組織ス

各締盟國ハ本條約實施後六月以內ニ產業上ノ經驗アル者三名ヲ任命スルコトヲ約ス內一名ハ使用者ノ代表者、一名ハ勞働者ノ代表者、他ノ一名ハ中立ノ地位ニ在ル者タルヘシ勞働審理委員會ノ委員ハ右任命セラレタル者ノ名簿中ヨリ之ヲ選定スヘシ

右任命セラレタル者ノ資格ハ勞働理事會之ヲ審査ス勞働理事會ハ資格カ本條ノ要件ニ適合セスト認ムル者ノ任命ニ對シ出席代表者ノ爲シタル表決ノ三分ノ二ノ多數ヲ以テ承認ヲ拒ムコトヲ得

勞働理事會ノ請求アリタルトキハ國際聯盟事務總長ハ勞働審理委員會ヲ組織セシムル爲前記名簿ノ各部ヨリ一名ツツ三名ヲ選定シ內一名ヲシテ之カ議長タラシムヘシ右三名ハ何レモ直接ニ異議ニ關係アル聯盟國ノ任命シタル者ナラサルコトヲ要ス

第四百十三條

第四百十一條ニ依リ異議カ勞働審理委員會ニ付セラレタル場合ニ於テハ各締盟國ハ直接之ニ關係アルト否トニ拘ラス該異議事項ニ付其ノ有スル一切ノ資料ヲ勞働審理委員會ニ提供スルコトヲ約ス

第四百十四條

勞働審理委員會異議ニ付充分ナル審査ヲ了シタルトキハ之ニ關スル報告書ヲ作成スヘシ報告書ニハ係爭問題ノ決定ニ關係アル一切ノ事實ノ認定竝該異議ニ對シ執ルヘキ處置及之カ實行期限ニ關シ適當ト認ムル勸告ヲ記載スルモノトス

勞働審理委員會ハ又勸告ヲ實行セサル政府ニ對スル適當ナル經濟的制裁手段ニシテ他ノ諸政府之ヲ採用シテ可ナリト認ムルモノアル場合ニ於テハ之ヲ其ノ報告書中ニ指示スヘシ

第四百十五條

國際聯盟事務總長ハ勞働審理委員會ノ報告書ヲ異議ニ關係アル各國政府ニ送付シ又之ヲ公表セシムヘシ

前項ノ送付ヲ受ケタル各國政府ハ勞働審理委員會ノ報告書ニ記載スル勸告ヲ採用スルヤ否ヤ、若シ之ヲ採用セストセハ當該異議ニ付國際聯盟ノ常設國際司法裁判所ノ裁判ヲ求ムルノ意思アリヤ否ヤヲ一月以內ニ國際聯盟事務總長ニ通告スヘシ

第四百十六條

締盟國中勸告又ハ條約案ニ關シ第四百五條ニ依ル措置ヲ執ラサル者アル場合ニ於テハ他ノ締盟國ハ右ニ付常設國際司法裁判所ノ裁判ヲ求ムルノ權ヲ有ス

第四百十七條

第四百十五條又ハ第四百十六條ニ依リ常設國際司法裁判所カ裁判ヲ求メラレタル異議又ハ他ノ事項ニ付其ノ爲シタル判決ハ終結トス

第四百十八條

常設國際司法裁判所ハ勞働審理委員會ノ爲シタル事實ノ認定又ハ勸告アル場合ニ於テハ之ヲ確認シ、變更シ又ハ廢棄スルコトヲ得勸告ヲ實行セサル政府ニ對スル適當ナル經濟的制裁手段ニシテ他ノ諸政府之ヲ採用シテ可ナリト認ムルモノアル場合ニ於テハ之ヲ該判決中ニ指示スヘシ

第四百十九條

勞働審理委員會ノ報告書又ハ常設國際司法裁判所ノ判決中ニ勸告ノ記載アル場合ニ於テ締盟國カ其ノ勸告ヲ所定ノ期間內ニ實行セサルトキハ他ノ各締盟國ハ右勸告ヲ實行セサル國ニ對シ前記ノ報告書又ハ判決中ニ適當ナリトシテ指示シタル經濟的制裁手段ヲ執ルコトヲ得

第四百二十條

勸告ヲ實行セサル政府ハ勞働審理委員會ノ勸告又ハ常設國際司法裁判所判決中ノ勸告ニ遵由スルニ必要ナル處置ヲ執リタル旨何時タリトモ勞働理事會ニ通知シ且其ノ通知ノ內容ヲ確ムル爲勞働審理委員會ノ開設ヲ國際聯盟事務總長ニ申立ツルコトヲ勞働理事會ニ請求スルコトヲ得第四百十二條乃至第四百十五條、第四百十七條及第四百十八條ノ規定ハ右ノ場合ニ之ヲ適用ス勞働審理委員會又ハ常設國際司法裁判所カ當該政府ニ對シ有利ナル報告又ハ判決ヲ爲シタル場合ニ於テハ他ノ諸政府ハ直ニ之ニ對スル經濟的制裁手段ヲ停止スヘシ

第三章　一般規定

第四百二十一條

締盟國ハ本編ノ規定ニ依リ批准シタル諸條約ヲ其ノ殖民地、保護國及屬地ニシテ完全ナル自治ヲ有セサルモノニ左ノ條件ノ下ニ適用スルコトヲ約ス

一　條約カ土地ノ狀況ニ照シ適用不可能ニ非サルコト

二　土地ノ狀況ニ適應セシムル爲條約ニ必要ナル變更ヲ加フルコト

締盟國ハ其ノ殖民地、保護國及屬地ニシテ完全ナル自治ヲ有セサルモノニ付其ノ執リタル措置ヲ國際勞働事務局ニ通告スヘシ

第四百二十二條

本編ノ改正ハ勞働總會ニ於テ出席代表委員ノ爲シタル表決ノ三分ノ二ノ多數ヲ以テ之ヲ可決シ國際聯盟理事會ヲ組織スル代表者ノ屬スル各國及總數四分ノ三ノ締盟國之ヲ批准シタル場合ニ於テ其ノ效力ヲ生スルモノトス

第四百二十三條

本編ノ解釋又ハ締盟國間ニ於テ將來本編ノ規定ニ基キ締結スル條約ノ解釋ニ關スル疑義又ハ紛爭ハ之ヲ常設國際司法裁判所ノ裁判ニ付スヘキモノトス

第四章　經過規定

第四百二十四條

勞働總會ノ第一回會議ハ千九百十九年十月之ヲ開クヘシ會議ノ地及會議事項ハ附屬書ニ之ヲ定ム

第一回會議ノ招集及組織ハ右附屬書ニ指定スル政府之ヲ準備ス該政府ハ勞働總會ニ提出スヘキ書類ノ作成ニ付同附屬書ニ依リ組織シタル國際準備委員會ノ助力ヲ受クヘシ

第一回會議ノ經費及國際聯盟カ一般資金ヲ設定シ得ルニ至ル迄ニ開催スル爾後ノ會議ノ經費ハ代表委員及其ノ顧問ノ經費ヲ除クノ外萬國郵便聯合總理局ノ經費分擔ノ割合ニ從ヒ締盟國之ヲ負擔ス

第四百二十五條

本款ノ規定ニ依リ國際聯盟事務總長ニ提出スヘキ一切ノ書類ハ國際聯盟ノ組織セラルル迄ノ間國際勞働事務局長之ヲ保管シ追テ國際聯盟事務總長ニ之ヲ引繼クヘシ

第四百二十六條

本編ノ規定ニ依リ常設國際司法裁判所ノ裁判ヲ求ムヘキ紛爭ハ該裁判所ノ開設ニ至ル迄ノ間國際聯盟理事會選定ノ三名ヲ以テ組織スル裁判所之ヲ付託スヘシ

附屬書

千九百十九年第一回勞働總會會議

會議ノ地ハ華盛頓トス

會議ノ招集ハ亞米利加合衆國政府ニ之ヲ委囑ス

國際準備委員會ハ亞米利加合衆國、大不列顛國、佛蘭西國、伊太利國、日本國、白耳義國及瑞西國ノ任命スル七名ノ委員ヲ以テ之ヲ組織ス右委員會ハ必要ト認ムルトキハ前記以外ノ締盟國ニ對シ代表者ノ任命ヲ求ムルコトヲ得

會議事項

一　一日八時間又ハ一週四十八時間ノ原則ノ適用ノ件

二　失業ニ對スル豫防又ハ救濟ノ件

三　婦人使用ノ件

(イ)　産前産後（産婦ニ對スル手當問題ヲ含ム）

(ロ)　夜間

(ハ)　健康上有害ナル作業

四　兒童使用ノ件

(イ)　使用ノ最低年齢

(ロ)　夜間

(ハ)　健康上有害ナル作業

五　產業ニ使用セラルル婦人ノ夜業ノ禁止及燐寸製造ニ於ケル黃燐使用ノ禁止ニ關スル千九百六年「ベルヌ」國際條約ノ擴張及適用ノ件

第二款　一般原則

第四百二十七條

締約國ハ產業ニ從事スル賃銀生活者ノ身體上道德上及智能上ノ福祉ハ最重要ナル國際事項ナリト認メ此ノ大ナル目的ノ爲竝ニ國際聯盟ノ機關ト相待チテ第一款ニ規定スル常設機關ヲ組織シタリ

締約國ハ氣候、慣行及習俗、經濟上ノ機會竝產業上ノ困襲ノ相異ハ勞働條件ノ劃一ヲ急速ニ實現スルコトヲ困難ナラシムルモノト認ムト雖然レトモ締約國ハ現ニ勞働カ單ナル商品ト看做サルヘキモノニ非スト認ムルカ故ニ勞働條件ヲ規律スル方法及原則ニシテ一切ノ產業國カ各自ノ特殊事情ノ許ス限リ之カ適用ヲ力ムヘキモノノ存スルヲ認ム

締約國ニ於テハ右方法及原則中左ニ揭クルモノヲ以テ特別且緊急ノ必要アルモノト認ム

一　勞働ハ單ニ貨物又ハ商品ト認ムヘキモノニ非ストノ前記ノ基本原則

二　使用者又ハ被用者カ一切ノ適法ナル目的ノ爲結社スルノ權利

三　其ノ時及其ノ國ニ於テ相當ト認メラルル生活程度ヲ維持スルニ足ル賃銀ヲ被用者ニ支拂フヘキコト

四　一日八時間又ハ一週四十八時間ノ制ヲ實行スルニ至ラサル諸國ニ於テハ之ヲ其ノ到達ノ目標トシテ採用スヘキコト

五　日曜日ヲ成ルヘク包含シ二十四時間ヲ下ラサル每週一回ノ休息ヲ與フルノ制ヲ採用スヘキコト

六　兒童勞働ヲ廢止スヘキコト及年少者ノ勞働ニ對シ其ノ教育ヲ繼續スルコトヲ得且身體ノ正當ナル發達ヲ確保スヘキ制限ヲ設クヘキコト

七　同一價值ノ勞働ニ對シテハ男女同額ノ報酬ヲ受クヘキ原則

八　各國カ其ノ法令ニ使リ定ムル勞働條件ニ關スル標準ハ適法ニ其ノ國ニ居住スル一切ノ勞働者ニ對スル衡平ナル經濟上ノ待遇ヲ確保スヘキコト

九　各國ハ被用者ノ保護ヲ目的トスル法令ヲ勵行スル爲監督ノ制度ヲ設ケ婦人ヲシテ之ニ參加セシムヘキコト

締約國ハ前記ノ方法及原則ヲ以テ完全不易ノモノト主張セスト雖右ハ國際聯盟ノ政策ヲ指導スルニ適切ナルコトヲ信シ若シ國際聯盟國タル各產業國ニシテ之ヲ採用シ且妥當ナル監督ノ制度ニ依リテ其ノ實行ヲ保障スルニ於テハ必ス世界ノ賃銀生活者ノ上ニ恆久ノ福利ヲ齎スヘキコトヲ疑ハス

第十四編　保障

第一款　西歐羅巴

第四百二十八條

獨逸國ノ本條約履行ニ對スル保障トシテ同盟及聯合國ノ軍隊ハ本條約實施後十五年間萊因河ノ西方ニ位スル獨逸國領土及萊因河橋頭地域ヲ占領

第四百二十九條

獨逸國カ本條約ノ各條項ヲ誠實ニ履行シタル場合ニ於テハ第四百二十八條ニ規定スル占領ハ左ノ如ク順次之ヲ限定スヘシ

一　五年後ニ於テ「コローニュ」橋頭地域及「ルール」河ニ從ヒ次テ「ユーリッヒ」―「デューレン」―「オイスキルヒェン」―「ラインバッハ」鐵道ニ依リ更ニ「ラインバッハ」―「ジンチッヒ」街道ヲ經テ「アール」河ト萊因河トノ合流點ニ於テ萊因河ニ達スル線ノ北方ノ地域ヨリ撤兵

二　十年後ニ於テ「コブレンツ」橋頭地域竝白耳義國、獨逸國及和蘭國國境ノ交叉點ヨリ「エークス、ラ、シャペル」ノ南方約四吉米ヲ走リ「フォルスト、ゲミュンド」山頂ニ至リ峯ヲ傳ヒ次テ「ウルフト」河谷鐵道ノ東方ヲ進ミ「プランケンハイム」―「ワルドルフ」―「ドライス」「サルメン」ヲ經テ「モーゼル」河ニ達シ「プレンム」ヨリ「ネーレン」ニ至ル迄ノ間同河ニ從ヒ更ニ「カッペル」及「ジンメルン」ヲ經次テ「ジンメルン」ト萊因河トノ間ノ高地ノ分水線ニ從ヒ「バッハラッハ」ニ於テ萊因河ニ達スル線ノ北方ノ地域ヨリ撤兵ス但シ前記一切ノ場所、河谷、道路及鐵道ハ撤兵地域外トス

三　十五年後ニ於テ「マインツ」橋頭地域、「ケール」橋頭地域及占領獨逸國地域ノ殘部ヨリ撤兵ス

右十五年後ニ至リ同盟及聯合國政府カ挑發ニ基カサル獨逸國ノ侵略ニ對スル保障ヲ以テ充分ナラスト認ムルトキハ所要ノ保障ヲ得ルカ爲必要ノ期間占領軍隊ノ撤退ヲ延期スルコトヲ得

〔外務版〕

第四百三十條

賠償委員會ニ於テ獨逸國カ本條約ニ依リ負擔スル賠償上ノ義務ヲ全部又ハ一部履行セスト認ムルトキハ前記占領中タルト十五年ノ期間滿了後タルトヲ問ハス第四百二十九條ニ定ムル地域ノ全部又ハ一部ハ同盟及聯合國ノ兵力ヲ以テ直ニ之ヲ再占領スヘシ

第四百三十一條

十五年ノ期間滿了前ニ於テ獨逸國カ本條約上ノ一切ノ約定ヲ履行シ終リタルトキハ占領軍ハ直ニ撤退スヘシ

第四百三十二條

占領ニ關スル事項ニシテ本條約ニ規定セサルモノハ總テ後日ノ取極ヲ以テ之ヲ規定スヘク獨逸國ハ該取極ヲ履行スヘキコトヲ約ス

第二款　東歐羅巴

第四百三十三條

獨逸國カ「ブレスト、リトウスク」條約竝其ノ露國過激派政府ト締結シタル一切ノ條約及取極ノ失效ヲ確實ニ承認シタル本條約ノ諸條項ノ履行ノ保障トシテ又波羅的諸州及「リアニア」ニ於ケル平和及善政ノ回復ヲ確保セムカ爲現ニ該地方ニ在ル一切ノ獨逸國軍隊ハ主タル同盟及聯合國政府カ上記地方ニ於ケル內部ノ情勢ニ照シ適當ト認ムル時期ノ到達スルト同時ニ獨逸國境內ニ歸還スヘキモノトス同軍隊ハ獨逸國ノ爲補給品ヲ得ルノ目的ヲ以テ徵發、押收其ノ他一切ノ强制手段ヲ執ルコトナカルヘク又「エストニア」「ラトウィア」及「リアニア」諸假政府ノ執ルヘキ國防上ノ措置ニ對シ一切干涉スルコトヲ得ス

撤兵中又ハ撤兵完了後ニ於テハ他ノ獨逸國軍隊ノ前記地域內ニ入ルコトヲ許サス

第十五編　雜則

第四百三十四條

獨逸國ハ同盟及聯合國ト獨逸國ニ與シテ戰ヒタル諸國トノ間ニ締結セラルヘキ平和條約及附帶條約ノ完全ナル效力ヲ承認シ前壤地利洪牙利國、勃爾牙利王國及土耳其帝國ノ領土ニ關シ行ハルヘキ如何ナル處分ヲモ承認シ且右條約ノ定ムル國境ヲ有スル諸新國ヲ承認スルコトヲ約ス

第四百三十五條

締約國ハ千八百十五年ノ諸條約殊ニ千八百十五年十一月二十日ノ議定書ニ依リ瑞西國ノ爲ニ規定セラレタル保障ニシテ平和維持ニ關スル國際義務ヲ設定シタルモノヲ承認スト雖維納會議最終議定書第九十二條第一項及千八百十五年十一月二十日ノ巴里條約第三條第二項ニ定メタル「サヴォア」縣ノ中立地帶ニ關スル條約、宣言其ノ他追加議定書ノ規定ハ現時ノ狀態ニ適合セサルニ至レルコトヲ聲明ス因テ締約國ハ該地帶ニ關スル規定ノ現在及將來ニ對スル失效ニ付佛蘭西瑞西兩國政府間ニ成立シタル取極ヲ領承ス

締約國ハ又上「サヴォア」縣及「ジェックス」郡ノ自由地帶ニ關スル千八百十五年ノ諸條約其ノ他追加議定書ノ條款カ現時ノ狀態ニ適合セサルニ至レルコトヲ承認シ且佛蘭西、又瑞西兩國間ニ於テ其ノ適當ト認ムル條件ニ依リ前記地域ノ狀態ヲ決定スル爲取極ヲ爲スヘキコトヲ承認ス

附屬書

第一

瑞西聯邦政府ハ佛蘭西國政府ト同樣友好ノ精神ヲ以テ第四百三十五條ノ

規定ヲ審査シ其ノ條件及保留ノ下ニ之ニ同意シ得ルコトニ決定シタルヲ欣幸トスル旨千九百十九年五月五日佛蘭西國政府ニ通告シタリ

一　上「サヴォア」縣中立地帶

（イ）「サヴォア」縣中立地帶ニ關スル條款ノ失效ニ關シ兩國政府間ニ成立シタル取極ヲ聯邦議會ニ於テ批准セサル間ハ本件ニ關シテハ當事國ノ執レノ一方ニ於テモ何等確定セサルモノト認メラルヘシ

（ロ）瑞西國政府カ前記條款ノ失效ニ對シ同意ヲ與フルハ千八百十五年ノ諸條約殊ニ千八百十五年十一月二十日ノ宣言書ニ依リ瑞西國ノ爲ニ設ケラレタル保障ヲ所定正文ニ從ヒ承認スルコトヲ條件トス

（ハ）前記條款ノ失效ニ關スル佛蘭西國及瑞西國兩政府間ノ取極ハ本條カ其ノ字句通平和條約中ニ挿入セラルルトキニ於テノミ之ヲ有效ト認ム尙平和條約締結國ハ千八百十五年ノ諸條約及千八百十五年十一月二十日ノ宣言書ノ署名國ニシテ本平和條約ノ署名國ニ非サル諸國ノ同意ヲ得ルコトニ力ムヘキモノトス

二　上「サヴォア」縣及「ジュックス」郡ノ自由地帶

（イ）聯邦政府ハ平和條約中ニ挿入スヘキ上「サヴォア」縣及「ジェックス」郡ノ自由地帶ニ關スル千八百十五年ノ諸條約其ノ他追加議定書ノ條款カ現時ノ狀態ニ適合セサルニ至レルコト』ヲ規定スル前記條文末項ノ記述ノ解釋ニ關シ最明確ナル留保ヲ爲ス聯邦政府ハ前記ノ條句ヲ承諾シタル爲隣接地域ニ對シ地理上及經濟上ノ位置ニ適應スル特殊制度ノ便益ヲ供與スヘキ組織ニシテ既ニ試練ヲ經タルモノノ廢止ヲ承諾シタルモノト推斷セラルルコトヲ欲セス」

聯邦政府ノ意見ニ依レハ問題ハ前記諸條約ニ依リ設定セラレタル同地帶關稅制度ノ修正ニハ非スシテ單ニ該地方間ノ貨物交易ノ條件ニ付今日ノ經濟狀態ニ一層適應スル樣規定ヲ設ケムトスルニ在リ聯邦政府ハ佛蘭西國政府ノ四月二十六日附公文ニ附屬スル該地帶將來ノ組織ニ關スル條約案ヲ詳閱シタル結果以上ノ觀察ヲ爲スニ至レリ尤モ聯邦政府ハ前記ノ留保ヲ爲スト同時ニ佛蘭西國政府ニ於テ本問題ニ關シ發議スルヲ便宜ト認ムル提案アラハ最友好ノ精神ヲ以テ之ヲ考査スルニ躊躇セサルコトヲ聲明ス

（ロ）本自由地帶ニ關スル千八百十五年ノ諸條約其ノ他追加議定書ノ條款ハ該地域ニ關スル事項ヲ規定スル佛蘭西及瑞西兩國間新協定ノ成立スル迄引續キ效力ヲ有スルコトヲ承認ス

第二

佛蘭西國政府ハ前項ノ通告ニ對スル回答トシテ千九百十九年五月十八日瑞西國政府ニ對シ左ノ公文ヲ送付シタリ

在巴里瑞西國公使館ハ五月五日附公文ヲ以テ佛蘭西共和國政府ニ對シ聯邦政府ハ提案セラレタル條項ヲ同盟及聯合國政府ト獨逸國トノ間ノ平和條約中ニ挿入スルコトニ同意シタル旨ヲ通告シタリ

佛蘭西國政府ハ斯ク成立シタル取極ヲ欣然領承シタリ而シテ該提案條項ハ同盟及聯合國政府ニ於テ既ニ承諾濟ナリシヲ以テ獨逸國全權委員ニ提示シタル平和條件中ニ第四百三十五條トシテ之ヲ挿入シタリ

本問題ニ關スル瑞西國政府ノ五月五日附公文ハ種種ノ意見及留保ヲ表明シタリ

上「サヴォア」縣及「ジェックス」郡ノ自由地帶ニ關スル見解ニ付佛蘭西國政

府ハ第四百三十五條末項規定ノ趣旨ハ明瞭ニシテ誤解ノ餘地ナク殊ニ佛蘭西國及瑞西國以外ノ諸國カ該問題ニ將來利害關係ヲ有セサルヘキコトヲ暗示スルニ於テ然ルモノアルコトヲ言明スルノ光榮ヲ有ス

佛蘭西國政府ハ當該佛蘭西國領域ノ利益保護ヲ切望シ此等領域ノ特殊地位ニ鑑ミ前記ノ目的上此等領域ノ爲ニ適當ナル關稅制度ヲ確立シ且此等領域ト隣接瑞西國領域トノ兩地方ノ相互的利益ヲ斟酌シテ現時ノ狀態ニ一層適合スル樣交易ニ關スル制度ヲ決定スルノ望マシキコトニ留意ス

以上ハ佛蘭西國政治上ノ國境ニ從ヒ此ノ地方ニ於テ其ノ關稅線ヲ修正スヘキ佛蘭西國ノ權利ヲ何等妨ケサルヘキモノトス此ノ如キ修正ハ佛蘭西國ニ於テハ其ノ境界ノ他ノ部分ニ付之ヲ現行シ又瑞西國モ久シキ以前ニ此ノ地方ニ於ケル自國境界ニ付行ヒタル所ナリ

佛蘭西國政府ハ本問題ニ關シ瑞西國政府カ前記自由地帶ニ於ケル現行制度ニ代フヘキ制度ニ關スル佛蘭西國ノ何レノ提案ヲモ友好ノ態度ヲ以テ欣然考慮スヘキコトヲ茲ニ聲明シタルヲ本懷トシ佛蘭西國政府モ亦同樣友好ノ精神ヲ以テ右提案ヲ作成セムト欲ス

尙五月五日附瑞西國公使館ノ公文中ノ前記條項ニ記述シタル自由地帶ニ關スル千八百十五年ノ制度ノ一時的維持ハ現行制度ヨリ協定制度ニ至ル道程ニシテ之カ爲兩國政府ノ必要ト認メタル新地位ノ設定ヲ遲滯セシメサルヘキハ佛蘭西國政府ノ信シテ疑ハサル所ナリ以上ノ注意ハ五月五日附瑞西國公文第一項(イ)號『上「サヴォア」縣中立地帶』ナル標題ノ下ニ記載セラレタル聯邦議會ノ批准ニ亦之ヲ適用ス

第四百三十六條

締約國ハ千九百十八年七月十七日佛蘭西共和國政府及「モナコ」公殿下ノ署名シタル佛蘭西國及「モナコ」公國間ノ關係ヲ定ムル條約ヲ領承シタルコトヲ聲明シ且之ヲ記錄ニ留ム

第四百三十七條

締約國ハ反對ノ追加取極ナキ限リ本條約ノ設定スル委員會ノ議長カ可否同數ノ場合ニ於テ第二ノ表決權ヲ有スルコトニ同意ス

第四百三十八條

同盟及聯合國ニ屬シ又ハ本條約ニ依リ統治ヲ之ニ委任セラレタル地域ニ於テ獨逸ノ會社又ハ個人カ基督教傳道會ヲ維持シタル場合ニ於テハ該同盟及聯合國ハ此等傳道會ノ財產(傳道事業支持ノ爲其ノ收益ヲ提供スル營利會社ノ財產ヲ含ム)ノ依然傳道ノ目的ニ使用セラルヘキコトヲ約ス

右約定ノ實行ヲ確保スル爲同盟及聯合國政府ハ其ノ任命又ハ承認ニ係リ且前記財產ヲ所有スル傳道會ノ宗派ニ屬スル者ヨリ成ル管財委員會ニ右財產ヲ引渡スヘシ

同盟及聯合國政府ハ傳道ニ從事スル各個人ニ對シ完全ナル監督權ヲ保有スルト同時ニ該傳道會ノ利益ヲ保護スヘシ

獨逸國ハ右約定ニ鑑ミ前記傳道會又ハ營利會社ノ事業遂行ニ關シ關係同盟及聯合國政府ノ爲シ又ハ爲スヘキ一切ノ協定ヲ受諾スルコトヲ約シ且前記傳道會又ハ營利會社ノ爲一切ノ請求權ヲ拋棄ス

第四百三十九條

本條約ノ規定ニ依ルノ外獨逸國ハ本條約ノ署名國タル同盟國又ハ聯合國(宣戰セスシテ獨逸帝國トノ外交關係ヲ斷絕シタル國ヲ含ム)ニ對シ本條約實施前ノ事件ニ基ク金錢上ノ請求權ヲ直接又ハ間接ニ提出セサルコトヲ約ス

此ノ種一切ノ請求權ハ本條ノ規定ニ依リ完全且決定的ニ除却セラレタルモノナルニ付其ノ利害關係人ノ何人タルヲ問ハス爾後消滅スヘシ

第四百四十條

獨逸國ハ同盟國又ハ聯合國ノ捕獲審檢所ノ決定シタル獨逸船舶及貨物ニ關スル一切ノ判決及命令竝訴訟費用ノ支拂ニ關スル一切ノ判決及命令カ有效ニシテ且拘束力アルコトヲ認諾ス獨逸國ハ又自國民ノ爲ニ前記判決又ハ命令ヨリ生スル請求權ヲ提出セサルコトヲ約ス

同盟及聯合國ハ獨逸國捕獲審檢所ノ一切ノ判決及命令ニシテ自國民又ハ中立國國民ノ財產權ニ關係アルモノハ其ノ自ラ決定スル方法ニ依リ之ヲ審查スルノ權利ヲ留保ス獨逸國ハ事件ノ一件記錄ヲ構成スル一切ノ文書(判決及命令ヲ含ム)ノ謄本ヲ提出スルコト竝該事件ノ審查後與フヘキ勸告ヲ承諾シ且之ヲ實行スルコトヲ約ス

本條約ハ佛蘭西語及英吉利語ノ本文ヲ以テ共ニ正文トシ批准ヲ要ス

批准書ノ寄託ハ成ルヘク速ニ巴里ニ於テ之ヲ爲スヘシ

政府カ歐羅巴以外ノ地ニ在ル國ハ巴里ニ於ケル自國ノ外交代表者ニ由リ佛蘭西共和國政府ニ對シ單ニ其ノ批准濟ノ旨ヲ通報スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ成ルヘク速ニ批准書ヲ送付スルコトヲ要ス

批准書寄託ノ第一回調書ハ一方ニ於テ獨逸國、他ノ一方ニ於テ主タル同盟及聯合國中ノ三國カ本條約ヲ批准シタル後直ニ之ヲ作成スヘシ

本條約ハ之ヲ批准シタル締約國間ニ於テハ前記第一回調書ノ日ヨリ之ヲ實施ス本條約ニ規定スル期間ノ算定ニ付テハ總テ此ノ日ヲ以テ本條約實施ノ日トス

他ノ一切ノ關係ニ於テハ本條約ハ各締約國ノ批准書寄託ノ日ヨリ該國ニ對シ之ヲ實施ス

佛蘭西國政府ハ批准書寄託調書ノ認證謄本ヲ各署名國ニ送付スヘシ

右證據トシテ前記各全權委員ハ本條約ニ署名ス

千九百十九年六月二十八日「ヴェルサイユ」ニ於テ本書一通ヲ作成シ之ヲ佛蘭西共和國ノ記錄ニ寄託保存ス本書ノ認證謄本ハ之ヲ各署名國ニ交付スヘシ

ウードロー、ウィルソン	(印)
ロバート、ランシング	(印)
ヘンリー、ホワイト	(印)
イー、エム、ハウス	(印)
タスカー、エッチ、ブリス	(印)
ディー、ロイド、ジョージ	(印)
エー、ボナ、ロー	(印)
ミルナー	(印)
アーサー、ジェームス、バルフォア	(印)
ジョージ、エヌ、バーンス	(印)
チャールス、ジェー、ドハティー	(印)
アーサー、エル、シフトン	(印)
ダブリュー、エム、ヒュース	(印)
ジョーゼフ、クック	(印)
ルイ、ボータ	(印)
ジェー、クリスチアーン、スマッツ	(印)

ダブリュー、エフ、マッセー　(印)
エドウィン、エス、モンタギュー　(印)
ビカネール王ガンガ、シン　(印)
ジェー、クレマンソー　(印)
エス、ピション　(印)
エル、エル、クロッツ　(印)
アンドレ、タルデュー　(印)
ジュール、カムボン　(印)
シドニー、ソンニノ　(印)
イムペリアリ　(印)
シルヴィオ、クレスピ　(印)
西園寺公望　(印)
牧野伸顯　(印)
珍田捨巳　(印)
松井慶四郎　(印)
伊集院彦吉　(印)
イーマンス　(印)
ジェー、ヴァン、デン、ユーヴェル　(印)
エミル、ヴァンデルヴェルド　(印)
イスマエル、モンテス　(印)
カロジェラス　(印)
ロドリゴ、オクタヴィオ　(印)
アントニオ、エス、デ、ブスタマンテ　(印)

エー、ドルン、イ、デ、アルスーア　(印)
エレフテリオス、ヴェニゼロス　(印)
ニコラス、ポリティス　(印)
ホアキン、メンデス　(印)
テルテュリアン、ギルボー　(印)
エム、ルステム、ヘイダール　(印)
アブダル、ハディ、アウーニ　(印)
ペー、ボニーヤ　(印)
シー、ディー、ピー、キング　(印)
サルヴァドル、チアモーロ　(印)
アントニオ、ブルゴス　(印)
セー、ゲー、カンダモ　(印)
イー、ジェー、パデレフスキー　(印)
ロマン、ドウモフスキー　(印)
アフオンソ、コスタ　(印)
アウグスト、ソアレス　(印)
イオン、ヨダ、カパ、ブラティアノ　(印)
陸軍大將カパ、コアンダ　(印)
ニコラス、ピー、パチッチ　(印)
ドクトル、アント、トルンビック　(印)
ミレンコ、ロー、ヴェスニッチ　(印)
シアルレン　(印)
トライドス、ブラバンドウ　(印)

カーレル、クラマール　(印)
ドクトル、エドウアルド、ベネシュ　(印)
ホタ、ア、プエロ　(印)
ヘルマン、ミュルレル　(印)
ドクトル、ベル　(印)

議定書

本日附ヲ以テ署名ノ條約中或條項ノ履行條件ヲ明確ナラシムル爲締約國ハ左ノ通約定ス

一　主タル同盟及聯合國ハ平和條約ニ基ク「ヘリゴランド」築城ノ破壞ヲ監視セシムル爲委員會ヲ任命ス該委員會ハ防波護岸工作物中何レノ部分ヲ保存シ何レノ部分ヲ破壞スヘキカヲ決定スルノ權ヲ有ス

二　獨逸國カ第百五十六條第二項ニ掲クル鐵道及鑛山ニ付獨逸國民ノ有スルコトアルヘキ利益ニ對スル補償トシテ之ニ支拂フヘキ金額ハ賠償ノ名義ノ下ニ獨逸國ノ負擔スル金額ト相殺スル爲同國ノ貸方ニ之ヲ記入ス

三　獨逸國カ第二百二十八條第二項ニ依リ同盟及聯合國ニ引渡ヲ要スル人員ノ名簿ハ平和條約實施後一月以内ニ之ヲ獨逸國政府ニ送付スヘシ

四　第二百四十條竝第四附屬書中ノ二乃至四ニ掲クル賠償委員會ハ製造上ノ祕密及他ノ祕密事項ノ公示ヲ求ムルコトヲ得ス

五　平和條約署名後直ニ且四月以内ニ獨逸國ハ賠償ニ關スル事務ノ進捗ニ資シ以テ調査ノ簡捷及決定ノ迅速ヲ期スル爲書類及提案ヲ同盟及聯合國ノ審査ニ付スルコトヲ得

六　獨逸財產ノ清算ニ關シ犯罪行爲ヲ爲ス者ハ之ヲ訴追スヘシ同盟及聯合國ハ右犯罪行爲ニ關シ獨逸國政府ノ提供シ得ヘキ資料及證據ヲ受領スヘシ

千九百十九年六月二十八日「ヴェルサイユ」ニ於テ本書ヲ作成ス

ウードロー、ウィルソン
ロバート、ランシング
ヘンリー、ホワイト
イー、エム、ハウス
タスカー、エッチ、プリス
ディー、ロイド、ジョージ
エー、ボナ、ロー
ミルナー
アーサー、ジェームス、バルフオア
ジョージ、エヌ、バーンス
チャールス、ジェー、ドハティー
アーサー、エル、シフトン
ダブリュー、エム、ヒューズ
ジョーゼフ、クック
ルイ、ボータ
ジェー、シー、スマッツ
ダブリュー、エフ、マッセー
エドウィン、エス、モンタギュー
ビカネール王ガンガ、シン

ジェー、クレマンソー
エス、ピション
エル、エル、クロッツ
アンドレ、タルデュー
ジュール、カムボン
シドニー、ソンニノ
イムペリアリ
シルヴィオ、クレスピ
西園寺公望
牧野伸顯
珍田捨巳
松井慶四郎
伊集院彦吉
イーマンス
ジェー、ヴァン、デン、ユーヴェル
エミル、ヴァンデルヴェルド
イスマエル、モンテス
カロジェラス
ロドリゴ、オクタヴィオ
アントニオ、エス、デ、ブスタマンテ
エー、ドルン、イ、デ、アルスーア
エレフテリオス、ヴェニゼロス
ニコラス、ポリティス

ホアキン、メンデス
テルテュリアン、ギルボー
エム、ルステム、ヘイダール
アブダル、ハディ、アウーニ
ベー、ボニーヤ
シー、ディー、ビー、キング
サルヴァドル、チアモーロ
アントニオ、ブルゴス
セー、ゲー、カンダモ
イー、ジェー、パデレフスキー
ロマン、ドゥモフスキー
アフォンソ、コスタ
アウグスト、ソアレス
イカン、ヨダ、カバ、プラティアノ
陸軍大將カパ、コアンダ
ニコラス、ピー、パチッチ
ドクトル、アント、トルンビック
ミレンコ、ロー、ヴェスニッチ
シアルーン
トライドス、プラバンドウ
カーレル、クラマール
ドクトル、エドゥアルド、ベネシュ
ホダ、ア、ブエヨ

ヘルマン、ミュルレル
ドクトル、ベル

天佑ヲ保有シ萬世一系ノ帝祚ヲ踐メル日本國皇帝（御名）此ノ書ヲ見ル有衆ニ宣示ス

朕大正八年六月二十八日佛蘭西國「ヴェルサイユ」ニ於テ帝國全權委員ノ同盟及聯合國全權委員竝獨逸國全權委員ト共ニ署名調印シタル平和條約及附屬議定書ヲ閱覽點檢シ之ヲ嘉納批准ス

神武天皇即位紀元二千五百七十九年大正八年十一月七日東京宮城ニ於テ親ラ名ヲ署シ璽ヲ鈐セシム

御名　國璽

外務大臣　子爵內田康哉

●同盟及聯合國ト獨逸國トノ平和條約ニ依ル國際聯盟規約批准書寄託通告及同規約加入國

（大正九年一月十日外務省告示第二號）

大正八年十二月二十六日在佛松井大使ハ大正八年六月二十八日調印ノ對獨平和條約及附屬議定書御批准濟ノ旨ヲ佛蘭西國政府ニ通報シ又大正九年一月十日同大使ハ英帝國、佛蘭西國、伊太利國、白耳義國、「ポリヴィア」國、伯剌西爾國、「グアテマラ」國、祕露國、波蘭國、暹羅國、「チエッコ、スロヴァキア」國、「ウルグアイ」國及獨逸國ノ代表者ト共ニ巴里ニ於テ同條約及同附屬議定書ノ第一回批准書寄託調書ヲ作成シタリ

（大正九年三月三十一日外務省告示第十七號）

大正九年三月十九日在佛松井大使ハ同盟及聯合國ト獨逸國トノ平和條約末文第三項後段ノ規定ニ基キ同條約及附屬議定書竝波蘭國ニ關スル條約ノ御批准書ヲ佛蘭西共和國政府ニ寄託シタル旨今般同大使ヨリ通報アリタリ

（大正九年三月二十二日外務省告示第十四號）

玖馬共和國ハ本月八日同盟及聯合國ト獨逸國トノ平和條約ノ批准書ヲ寄託シタル旨本月九日附ヲ以テ佛蘭西國外務省ヨリ在佛松井大使ニ通告アリタリ

（大正九年三月二十四日外務省告示第十五號）

「セルブ、クロアート、スロヴェーヌ」國ハ客月十日同盟及聯合國ト獨逸國トノ平和條約ノ批准書ヲ寄託シタル旨本月十五日附ヲ以テ佛蘭西國外務省ヨリ在佛松井大使ニ通告アリタリ

（大正九年四月二十七日外務省告示第十九號）

希臘國ハ客月七日葡萄牙國ハ本月八日同盟及聯合國ト獨逸國トノ平和條約竝議定書ノ批准書ヲ夫々寄託シタル旨今般佛國外務省ヨリ在佛松井大使ニ通告アリタリ

（大正九年七月十六日外務省告示第二十二號）

「リベリア」共和國及「ハイチ」共和國ハ何レモ客月三十日同盟及聯合國ト獨逸國トノ平和條約及附屬議定書ノ批准書ヲ寄託シタル旨佛國外務省ヨリ在佛松井大使ニ通告アリタリ

〔外務省版〕

（大正十年一月十三日）
（外務省告示第一號）

羅馬尼亞國ハ客年九月十四日對獨平和條約及同附屬議定書ノ批准書ヲ寄託シ又玖馬共和國ハ同八月十六日、羅馬尼亞國ハ同九月四日對墺平和條約及同附屬議定書ノ批准書ヲ寄託シ又「セルブ、クロアート、スロヴエーヌ」國ハ同八月十六日、希臘國及羅馬尼亞國ハ同九月四日對勃平和條約及同附屬議定書ノ批准書ヲ寄託シタル旨今般佛國外務省ヨリ通告アリタリ

（大正十年二月二日）
（外務省告示第四號）

大正九年十二月九日附佛國官報告示ニ依レハ「ホンヂュラス」共和國、「ニカラグア」共和國、巴奈馬共和國及羅馬尼亞國ハ對獨平和條約ニ、白耳義國、玖馬共和國及羅馬尼亞國ハ對墺平和條約ニ、希臘國、羅馬尼亞國及「セルブ、クロアート、スロヴエーヌ」國ハ對勃平和條約ニ關シ夫々批准寄託手續ヲ了シタル旨在佛松田臨時代理大使ヨリ電報アリタリ

（大正九年三月十八日）
（外務省告示第十二號）

智利國、亞爾然丁國、波斯國及「パラグアイ」國ハ同盟及聯合國ト獨逸國トノ平和條約第一條第一項ニ依リ國際聯盟規約ニ加盟シタル旨本年一月十日附ヲ以テ國際聯盟事務總長「ドラモンド」氏ヨリ在英珍田大使ニ通告アリタリ又西班牙國モ同シク國際聯盟規約ニ加盟シタル旨本年一月二十八日附ヲ以テ同樣通告アリタリ

（大正九年三月二十五日）
（外務省告示第十六號）

和蘭國、諾威國、端典國及「サルヴアドル」國ハ同盟及聯合國ト獨逸國トノ平和條約第一條第一項ニ依リ國際聯盟規約ニ加盟シタル旨本月十六日附ヲ以テ國際聯盟事務總長ヨリ在英珍田大使ニ通告アリタリ

（大正九年四月七日）
（外務省告示第十八號）

哥倫比亞國ハ同盟及聯合國ト獨逸國トノ平和條約第一條第一項ニ依リ國際聯盟規約ニ加盟シタル旨本年三月三日附ヲ以テ國際聯盟事務總長ヨリ在英珍田大使ニ通告アリタリ又丁抹國、瑞西國及「ヴェネズエラ」國モ同シク國際聯盟規約ニ加盟シタル旨本年三月九日附ヲ以テ同樣通告アリタリ

●同盟及聯合國ト獨逸國トノ平和條約第八編第二附屬書中改正

（大正十年八月二日）
（外務省告示第二十六號）

同盟及聯合國ト獨逸國トノ平和條約第八編（賠償）第二附屬書中改正ニ關シ帝國代表者ハ白耳義國、佛蘭西國、大不列顛國、伊太利國及日本國ノ各政府ハ「ヴェルサイユ」條約第八編第二附屬書二十二ニ依リ右附屬書中ニ掲クル諸項ヲ左ノ通修正スルコトヲ全會一致ヲ以テ決議ス

本決議ハ同條約署名國及賠償委員會ニ之ヲ通告スヘシ

平和條約第八編第二附屬書中改正

十二ノ二

（イ）第八編第二附屬書十二ノ（ハ）號ノ規定ニ拘ラス賠償委員會ハ同號（一）及（二）ニ依リ發行セラレタル又ハ發行セラルヘキ債券ニ付千九百二十一年五月一日ヨリ千九百二十六年五月一日ニ至ルノ間利率ヲ二分五厘ヨリ五分ニ引上ケ且千九百二十一年五月一日以後右債券ニ對スル減債基金ノ積立ヲ開始スルノ權限ヲ有ス但シ前記ノ利息ノ增加及減債基金ノ積立ノ爲ニ要スル追加額ハ債券ヲ以テ辨濟セラレサル債務ニ關シ第二附屬書十六ニ從ヒ千九百二十一年五月一日以後獨逸國ノ借方ニ計上セラルヘキ利息ノ率ヲ五分以下ニ減少スルコトニ依リ之ヲ塡補スヘキモノトス

（ハ）號ノ（一）及（二）ニ依リ既ニ發行セラレタル債券ノ交付ヲ賠償委員會ヨリ受クルト引換ニ千九百二十一年五月一日ヨリ五分ノ利息ノ外一分ノ減債基金ヲ附シタル新債券ヲ發行スルコトヲ獨逸國ニ要求スルノ權限ヲ同委員會ニ付與ス

（ハ）號ノ（一）及（二）ニ依リ發行セラレタル債券ト引換ニ發行セラルヘキ新債券ノ全部又ハ一部ニ對スル利息支拂及減債基金積立ノ開始期ヲ千九百二十一年五月一日ヨリ十一月一日迄延期スルノ權限ヲ賠償委員會ニ付與ス

白耳義國ノ債務ニ關シ條約第二百三十二條ニ規定シタル特別ノ債券發行ヲ一般ノ債券發行ニ合併スルノ權限ヲ賠償委員會ニ付與ス

債券ノ總額ヲ優先權ノ順位ノ異ル數種ニ分割スルノ權限ヲ賠償委員會ニ付與ス

（ロ）特定セラルヘキ收入及資產ヲ全債券又ハ箇々ノ種類ノ債券ノ利拂及償還ニ充當スルコトヲ獨逸國ニ要求スルノ權限ヲ賠償委員會ニ付與ス

（ハ）特別ノ收入及資產ノ右充當ヲ十二ノ（ハ）號ニ依リ發行セラルヘキ債券ノ條件中ニ明記スルコトヲ要求スルノ權限ヲ賠償委員會ニ付與ス右充當ヲ明記シタル債券ハ獨逸國ノ原賠償債務ヲ發生セシメタル諸政府以外ノ者ニ完全ニ讓渡サレタル場合ニ於テモ十二ノ（ニ）號ノ規定ニ拘ラス獨逸國ノ賠償債務ノ一部トシテ殘存スルモノト看做サルヘシ

（ニ）充當セラレタル收入ノ使用ヲ監督スルノ權限竝債券ノ利拂及償還ニ付負擔スル金額ノ支拂又ハ獨逸國ノ債務ニ關スル他ノ支拂ノ時期及方法ヲ定ムルノ權限ヲ賠償委員會カ第二附屬書ノ七ニ依リ任命スヘキ保障委員會ニ付與ス

獨逸國政府ニ依リ充當セラルヘキ收入ハ左ノ如シ

（一）獨逸國ノ一切ノ海陸關稅ノ收入及特ニ一切ノ輸出入稅ノ收入

（二）獨逸國ノ一切ノ輸出品ノ價格ニ對スル二割五分ノ賦金ノ收入但シ何レカノ同盟國ノ法律ニ依リ二割五分ヲ下ラサル賦金ヲ課セラル、輸出品ハ之ヲ除ク

（三）直接稅、間接稅又ハ他ノ財源ニシテ前記（一）及（二）ニ定メタル財源ノ追加又ハ之ニ代ルモノトシテ獨逸國政府ニ依リ提議セラレ且保障委員會ニ於テ承諾スルコトアルヘキモノノ收入

保障委員會ハ獨逸國ノ行政ニ干涉スルコトヲ得サルヘシ

（ホ）修正セラレタル十二ノ（ハ）號ニ從ヒ發行シタル債券ニ依リテ差當リ辨濟セラレサル債務ノ部分ニ關シ無利札債券ノ發行ヲ要求スルノ權限ヲ賠償委員會ニ付與ス獨逸國政府カ利息及減債基金ノ債務ヲ履行シ得ルコトヲ賠償委員會ニ於テ確認スルニ至リタルトキハ同委員會ノ定ムヘキ期日ヨリ前記債券ニ關シ利札ヲ發行スルコトヲ獨逸國政府ニ要求スヘシ減債基金ノ積立ハ右期日ヨリ之ヲ開始スヘシ

利札ヲ發行セサル債券ハ修正セラレタル第二附屬書十六ニ依リ利息ヲ借

方ニ計上スル關係ニ於テハ債券ニ依リテ辨濟セラレサル債務ト看做サルヘシ

十九ノ第二項

獨逸國ハ何レカノ同盟國カ其ノ荒廢地回復ノ爲又ハ其ノ產業及經濟生活ヲ回復シ若ハ發達セシムル爲賠償委員會ノ事前ノ承認ヲ以テ要求スルコトアルヘキ物資又ハ勞力ヲ請求次第直ニ供給スヘシ右物資及勞力ノ價格ハ獨逸國ノ任命スル一名ノ評價人及當該國ノ任命スル一名ノ評價人之ヲ決定ス兩者ノ意見一致セサルトキハ賠償委員會ノ指名スル一名ノ審判人之ヲ決定スヘシ

千九百二十一年五月五日倫敦ニ於テ

アンリー、ジアスパール
アリスティード、プリアン
ディー、ロイド、ジョージ
チ、ス　フォル　ツア
林　權　助

第二款　墺地利

●同盟及聯合國ト墺地利國トノ平和條約及附屬議定書

（大正九年十月十四日條約第三號）

朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ同盟及聯合國ト墺地利國トノ平和條約及附屬議定書ヲ批准シ茲ニ同平和條約附屬ノ宣言書、伊太利國ノ賠償勘定ニ關スル同盟及聯合國間ノ協定竝其ノ修正宣言書、舊墺地利洪牙利君主國ノ諸地方ノ解放費醵出ニ關スル同盟及聯合國間ノ協定竝其ノ修正宣言書、羅馬尼亞國ノ加入宣言書ト共ニ之ヲ公布セシム

亞米利加合衆國、英帝國、佛蘭西國、伊太利國及日本國

右諸國ヲ以テ本條約ニ謂フ主タル同盟及聯合國トス

白耳義國、支那國、玖馬國、希臘國、「ニカラグア」國、巴奈馬國、渡蘭國、葡萄牙國、羅馬尼亞國、「セルブ、クロアート、スロヴェーヌ」國、暹羅國及「チェッコ、スロヴァキア」國

右諸國ハ前記ノ主タル諸國ト共ニ同盟及聯合國ヲ構成ス

以上ヲ一方トシ

墺地利國

之ヲ他ノ一方トス

此等諸國ハ主タル同盟及聯合國カ舊墺地利帝國洪牙利王國政府ノ請求ニ基キ平和條約ヲ締結セムカ爲千九百十八年十一月三日墺地利洪牙利國ニ對シ休戰ヲ許諾シタルコトヲ思ヒ

同盟及聯合國ハ其ノ或モノカ墺地利洪牙利國ニ對シ相次キテ直接又ハ間接ニ參加スルニ至リタル戰爭卽チ千九百十四年七月二十八日塞爾比亞國ニ對スル舊墺地利帝國洪牙利王國政府ノ宣戰及墺地利洪牙利國ノ同盟國タル獨獨國ノ敵對行爲ニ依リ開始セラレタル戰爭ニ代フルニ鞏固公正且恒久ノ平和ヲ以テセムコトヲ均シク希望シ

舊墺地利洪牙利君主國政府ハ今ヤ存在セサルニ至リ墺地利國ニ於テハ共和政府之ニ代リタルコトヲ思ヒ

主タル同盟及聯合國ハ該君主國領土ノ一部分ヲ併セタル「チェッコ、スロヴァキア」國ヲ自由獨立及同盟ノ國トシテ既ニ承認シ

前記諸國ハ該君主國領土ノ或部分ト塞爾比亞王國領土ト結合シタルモノヲ「セルブ、クロアート、スロヴェーヌ」國ナル名稱ノ下ニ自由獨立及同盟ノ國トシテ均シク承認シ

且平和克復ニ際シ該君主國ノ瓦解及前記諸國ノ成立ヨリ生シタル事態ヲ整理シ竝此等諸國ノ政府ニ對シ正義及衡平ニ合致スル永續的基礎ヲ與フルノ必要アルコトヲ思ヒ

之カ爲締約國ハ左ノ如ク代表セラレ

亞米利加合衆國大統領

國務次官「フランク、ライオン、ポーク」

前伊太利國及佛蘭西國駐劄亞米利加合衆國特命全權大使「ヘンリー、ホワイト」

最高軍事會議亞米利加合衆國軍事代表者陸軍大將「タスカー、エッチ、プリス」

大不列顛愛蘭聯合王國及大不列顛海外領土皇帝印度皇帝陛下

外務大臣國會議員「アーサー、ジェームス、バルフォア」

國璽尙書國會議員「アンドリュー、ボナ、ロー」

殖民大臣子爵「ミルナー」

無任所大臣國會議員「ジョージ、ニコル、バーンス」

加奈陀

海外派遣軍大臣「サー、アルバート、エドワード、ケムプ」

濠太利聯邦

第一類　一般共通條約　第二編　平和條約

國防大臣「ジョージ、フォスター、ピアス」

南阿弗利加聯邦

子爵「ミルナー」

新西蘭

聯合王國駐在新西蘭辨務長官「サー、トーマス、マッケンジー」

印度

印度次官男爵「シンハ」

佛蘭西共和國大統領

內閣議長陸軍大臣「ジョルジ、クレマンソー」

外務大臣「ステファン、ピション」

大藏大臣「ルイ、リュシアン、クロッツ」

佛米軍事辨務長官「アンドレ、タルデュー」

特命全權大臣「ジュール、カムボン」

伊太利國皇帝陛下

外務大臣參議院議員「トムマソ、ティットーニ」

參議院議員「ヴィットリオ、シァローヤ」

參議院議員「マッジョリーノ、フェラーリス」

參議院議員「グイエルモ、マルコーニ」

衆議員議員「シルヴィオ、クレスピ」

日本國皇帝陛下

英國駐劄日本國特命全權大使子爵珍田捨巳

佛蘭西國駐劄日本國特命全權大使松井慶四郎

伊太利國駐劄日本國特命全權大使伊集院彥吉

白耳義國皇帝陛下
　外務大臣國務大臣「ポール、イーマンス」
　特命全權公使國務大臣「シュール、ヴァン、デン、ユーヴェル」
　司法大臣國務大臣「エミル、ヴァンデルヴェルド」
支那共和國大總統
　外交總長陸徵祥
　前農商總長王正廷
玖馬共和國大統領
　「ハヴァナ」大學法學部長玖馬國際法學會會長「アントニオ、サンチェズ、デ、ブスタマンテ」
希臘國皇帝陛下
　外務大臣「ニコラス、ポリティス」
　佛蘭西共和國駐劄特命全權公使「アトス、ロマノス」
「ニカグア」共和國大統領
　衆議院議長「サルヴァドル、チァモーロ」
巴奈馬共和國大統領
　西班牙國駐劄巴奈馬共和國特命全權公使「アントニオ、アルゴス」
波蘭共和國大統領
　內閣議長外務大臣「イグナス、ジェー、パデレフスキー」
　波蘭國民委員會議長「ロマン、ドゥモフスキー」
葡萄牙共和國大統領
　前內閣議長「ドクトル、アフォンソ、ダ、コスタ」
　前外務大臣「ドクトル、アウグスト、ルイス、ヴィエイラ、ソアレス」
羅馬尼亞國皇帝陛下
　英國駐劄羅馬尼亞國特命全權公使「ニコラス、ミスー」
　無任所大臣「アレクサンデル、ヴァイダ、ヴォエヴォード」
「セルブ、クロアート、スロヴェーヌ」國皇帝陛下
　前內閣議長「エス、ピー、パチッチ」
　外務大臣「アント、トルンビック」
　法學博士「イヴァン、ゾルゲル」
暹羅國皇帝陛下
　佛蘭西國駐劄暹羅國特命全權公使公爵「シァルーン」
　外務次官公爵「トライドス、プラバンドゥ」
「チェッコ、スロヴァキア」共和國大統領
　內閣議長「カーレル、クラマール」
　外務大臣「エドゥアルド、ベネシェ」
塊地利共和國
　塊地利共和國內閣議長「シアルル、レンネル」

右各員ハ其ノ全權委任狀ヲ示シ之カ良好妥當ナルヲ認メタル後左ノ如ク協定セリ

戰爭狀態ハ本條約實施ノ時ヨリ終了スヘシ

同盟及聯合國ト塊地利共和國トノ公關係ハ其ノ時以後且本條約ノ規定ニ依リ恢復セラルヘシ

第一編　國際聯盟規約

締約國ハ

戰爭ニ訴ヘサルノ義務ヲ受諾シ
各國間ニ於ケル公明正大ナル關係ヲ規律シ
各國政府間ノ行爲ヲ律スル現實ノ規準トシテ國際法ノ原則ヲ確立シ
組織アル人民ノ相互ノ交渉ニ於テ正義ヲ保持シ且嚴ニ一切ノ條約上ノ義務ヲ尊重シ
以テ國際協力ヲ促進シ且各國間ノ平和安寧ヲ完成セムカ爲
茲ニ國際聯盟規約ヲ協定ス

第一條

本規約附屬書列記ノ署名國及留保ナクシテ本規約ニ加盟スル該附屬書列記ノ爾餘諸國ヲ以テ國際聯盟ノ原聯盟國トス右加盟ハ本規約實施後二月以內ニ宣言書ヲ聯盟事務局ニ寄託シテ之ヲ爲スヘシ右ニ關シテハ一切ノ他ノ聯盟國ニ通告スヘキモノトス

附屬書ニ列記セサル國、領地又ハ殖民地ニシテ完全ナル自治ヲ有スルモノハ其ノ加入ニ付聯盟總會三分ノ二ノ同意ヲ得ルニ於テハ總テ聯盟國トシテ爲ルコトヲ得但シ其ノ國際義務遵守ノ誠意アルコトニ付有效ナル保障ヲ與ヘ且其ノ陸海及空軍ノ兵力其ノ他ノ軍備ニ關シ聯盟ノ定ムルコトアルヘキ準則ヲ受諾スルコトヲ要ス

聯盟國ハ二年ノ豫告ヲ以テ聯盟ヲ脫退スルコトヲ得但シ脫退ノ時迄ニ其ノ一切ノ國際上及本規約上ノ義務ハ履行セラレタルコトヲ要ス

第二條

本規約ニ依ル聯盟ノ行動ハ聯盟總會及聯盟理事會竝附屬ノ常設聯盟事務局ニ依リテ之ヲ爲スヘキモノトス

第三條

第一類　一般共通條約　第二編　平和條約

聯盟總會ハ聯盟國ノ代表者ヲ以テ之ヲ組織ス
聯盟總會ハ聯盟本部所在地又ハ別ニ定ムルコトアルヘキ地ニ於テ定期ニ及必要ニ應シ隨時ニ之ヲ開ク
聯盟總會ハ聯盟ノ行動範圍ニ屬シ又ハ世界ノ平和ニ影響スル一切ノ事項ヲ其ノ會議ニ於テ處理ス
聯盟國ハ聯盟總會ノ會議ニ於テ各一箇ノ表決權ヲ有スヘク且三名ヲ超エサル代表者ヲ出スコトヲ得

第四條

聯盟理事會ハ主タル同盟及聯合國ノ代表者竝他ノ四聯盟國ノ代表者ヲ以テ之ヲ組織ス該四聯盟國ハ聯盟總會其ノ裁量ニ依リ隨時之ヲ選定ス聯盟總會カ第一次ニ選定スル四聯盟國ニ於テ其ノ代表者ヲ任命スル迄ハ白耳義國、伯剌西爾國、西班牙國及希臘國ノ代表者ヲ以テ聯盟理事會員トス

聯盟理事會ハ聯盟總會ノ過半數ノ同意アルトキハ聯盟理事會ニ常ニ代表者ヲ出スヘキ聯盟國ヲ追加指定スルコトヲ得聯盟理事會ハ同會ニ代表セシムル爲聯盟總會ノ選定スヘキ聯盟國ノ數ヲ前同樣ノ同意ヲ以テ增加スルコトヲ得

聯盟理事會ハ聯盟本部所在地又ハ別ニ定ムルコトアルヘキ地ニ於テ必要ニ應シ隨時ニ且少クトモ每年一回之ヲ開ク

聯盟理事會ハ聯盟ノ行動範圍ニ屬シ又ハ世界ノ平和ニ影響スル一切ノ事項ヲ其ノ會議ニ於テ處理ス

聯盟理事會ニ代表セラレサル聯盟各國ハ特ニ其ノ利益ニ影響スル事項ノ審議中聯盟理事會會議ニ理事會員トシテ列席スル代表者一名ノ派遣ヲ招請セラルヘシ

聯盟理事會ニ代表セラルル聯盟各國ハ聯盟理事會會議ニ於テ一箇ノ表決權ヲ有スヘク且一名ノ代表者ヲ出スコトヲ得

第五條

本規約中又ハ本條約ノ條項中別段ノ明文アル場合ヲ除クノ外聯盟總會又ハ聯盟理事會ノ會議ノ議決ハ其ノ會議ニ代表セラルル聯盟國全部ノ同意ヲ要ス

聯盟總會又ハ聯盟理事會ノ會議ニ於ケル手續ニ關スル一切ノ事項ハ特殊事項調査委員ノ任命ト共ニ聯盟總會又ハ聯盟理事會之ヲ定ムル此ノ場合ニ於テハ其ノ會議ニ代表セラルル聯盟國ノ過半數ニ依リテ之ヲ決定スルコトヲ得

聯盟總會ノ第一回會議及聯盟理事會ノ第一回會議ハ亞米利加合衆國大統領之ヲ招集スヘシ

第六條

常設聯盟事務局ハ聯盟本部所在地ニ之ヲ設置ス聯盟事務局ニハ事務總長一名竝必要ナル事務官及屬員ヲ置ク

第一次ノ事務總長ハ附屬書ニ之ヲ指定シ爾後ノ事務總長ハ聯盟總會過半數ノ同意ヲ以テ聯盟理事會之ヲ任命ス

聯盟事務局ノ事務官及屬員ハ聯盟理事會ノ同意ヲ以テ事務總長之ヲ任命ス

事務總長ハ聯盟總會及聯盟理事會ノ一切ノ會議ニ於テ其ノ資格ニテ行動ス

聯盟事務局ノ經費ハ萬國郵便聯合總理局ノ經費分擔ノ割合ニ從ヒ聯盟國之ヲ負擔ス

第七條

聯盟本部所在地ハ「ジュネーヴ」トス

聯盟理事會ハ何時タリトモ其ノ議決ニ依リ他ノ地ヲ以テ聯盟本部所在地ト爲スコトヲ得

聯盟ニ關シ又ハ之ニ附帶スル一切ノ地位ハ聯盟事務局ノ地位ト共ニ男女均シク之ニ就クコトヲ得

聯盟國代表者及聯盟職員ハ聯盟ノ事務ニ從事スル間外交官ノ特權及免除ヲ享有ス

聯盟ノ、聯盟職員又ハ聯盟會議參列代表者ノ使用スル建物其ノ他ノ財產ハ之ヲ不可侵トス

第八條

聯盟國ハ平和維持ノ爲ニハ其ノ軍備ヲ國ノ安全及國際義務ヲ協同動作ヲ以テスル強制ニ支障ナキ最低限度迄縮少スルノ必要アルコトヲ承認ス

聯盟理事會ハ各國政府ノ審議及決定ニ資スル爲各國ノ地理的地位及諸般ノ事情ヲ參酌シテ軍備縮少ニ關スル案ヲ作成スヘシ

該案ハ少クトモ十年毎ニ再審議ニ付セラルヘク且更正セラルヘキモノトス

各國政府前記ノ案ヲ採用シタルトキハ聯盟理事會ノ同意アルニ非サレハ該案所定ノ軍備ノ限度ヲ超ユルコトヲ得ス

聯盟國ハ民業ニ依ル兵器彈藥及軍用器材ノ製造カ重大ナル非議ヲ免レサルモノナルコトヲ認ムル仍テ聯盟理事會ハ該製造ニ伴フ弊害ヲ防遏シ得ヘキ方法ヲ具申スヘシ尤モ聯盟國中其ノ安全ニ必要ナル兵器彈藥及軍用器材ヲ製造シ得サルモノノ需要ニ關シテハ相當斟酌スヘキモノトス

聯盟國ハ其ノ軍備ノ規模、陸海軍及空軍ノ企畫竝軍事上ノ目的ニ供用シ得ヘキ工業ノ狀況ニ關シ充分ニシテ隔意ナキ報道ヲ交換スヘキコトヲ約ス

第九條

第一條及第八條ノ規定ノ實行竝陸海及空軍問題全般ニ關シテハ聯盟理事會ニ意見ヲ具申スヘキ常設委員會ヲ設置スヘシ

第十條

聯盟國ハ聯盟各國ノ領土保全及現在ノ政治的獨立ヲ尊重シ且外部ノ侵略ニ對シ之ヲ擁護スルコトヲ約ス右侵略ノ場合又ハ其ノ脅威若ハ危險アル場合ニ於テハ聯盟理事會ハ本條ノ業務ヲ履行スヘキ手段ヲ具申スヘシ

第十一條

戰爭又ハ戰爭ノ脅威ハ聯盟國ノ何レカニ直接ノ影響アルト否トヲ問ハス總テ聯盟全體ノ利害關係事項タルコトヲ茲ニ聲明ス仍テ聯盟ハ國際ノ平和ヲ擁護スル爲適當且有效ト認ムル措置ヲ執ルヘキモノトス此ノ種ノ事變發生シタルトキハ事務總長ハ何レカノ聯盟國ノ請求ニ基キ直ニ聯盟理事會ノ會議ヲ招集スヘシ

國際關係ニ影響スル一切ノ事態ニシテ國際ノ平和又ハ其ノ基礎ダル各國間ノ良好ナル了解ヲ擾亂セムトスル虞アルモノニ付聯盟總會又ハ聯盟理事會ノ注意ヲ喚起スルハ聯盟各國ノ友誼的權利ナルコトヲ併セテ茲ニ聲明ス

第十二條

聯盟國ハ聯盟國間ニ國交斷絕ニ至ルノ虞アル紛爭發生スルトキハ當該事件ヲ仲裁裁判又ハ聯盟理事會ノ審査ニ付スヘク且仲裁裁判官ノ判決後又ハ聯盟理事會ノ報告ノ紛爭事件付託後六月ノ內ニ之ヲ爲スヘシ

本條ニ依ル一切ノ場合ニ於テ仲裁裁判官ノ判決ハ相當期間內ニ、聯盟理事會ノ報告ハ紛爭事件付託後六月ノ內ニ之ヲ爲スヘシ

第十三條

聯盟國ハ聯盟國間ニ仲裁裁判ニ付シ得ト認ムル紛爭ヲ生シ其ノ紛爭カ外交手段ニ依リテ滿足ナル解決ヲ得ルコト能ハサルトキハ當該事件全部ヲ仲裁裁判ニ付スヘキコトヲ約ス

條約ノ解釋、國際法上ノ問題、國際義務ノ違反ト爲ルヘキ事實ノ存否竝該違反ニ對スル賠償ノ範圍及性質ニ關スル紛爭ハ一般ニ仲裁裁判ニ付シ得ル事項ニ屬スルモノナルコトヲ聲明ス

審理ノ爲紛爭事件ヲ付託スヘキ仲裁裁判所ハ當事國ノ合意ヲ以テ定メ又ハ當事國間ニ現存スル條約ノ規定ノ定ムル所ニ依ル

聯盟國ハ一切ノ仲裁判決ヲ誠實ニ履行スヘク且判決ニ服スル聯盟國ニ對シテハ戰爭ニ訴ヘサルコトヲ約ス判決ヲ履行セサルモノアルトキハ聯盟理事會ハ其ノ履行ヲ期スル爲必要ナル處置ヲ提議スヘシ

第十四條

聯盟理事會ハ常設國際司法裁判所設置案ヲ作成シ之ヲ聯盟國ノ採擇ニ付スヘシ該裁判所ハ國際的性質ヲ有スル一切ノ紛爭ニシテ其ノ當事國ノ付託ニ係ルモノヲ裁判スルノ權限ヲ有ス倘該裁判所ハ聯盟理事會又ハ聯盟總會ノ諮問スル一切ノ紛爭又ハ問題ニ關シ意見ヲ提出スルコトヲ得

第十五條

聯盟國間ニ國交斷絕ニ至ルノ虞アル紛爭發生シ第十三條ニ依ル仲裁裁判

ニ付セラレサルトキハ聯盟國ハ當該事件ヲ聯盟理事會ニ付託スヘキコトヲ約ス何レノ紛爭當事國モ紛爭ノ存在ヲ事務總長ニ通告シ以テ前記ノ付託ヲ爲スコトヲ得事務總長ハ之カ充分ナル取調及審理ニ必要ナル一切ノ準備ヲ爲スモノトス

此ノ目的ノ爲紛爭當事國ハ成ルヘク速ニ當該事件ニ關スル陳述書ヲ一切ノ關係事實及書類ト共ニ事務總長ニ提出スヘク聯盟理事會ハ直ニ其ノ公表ヲ命スルコトヲ得

聯盟理事會ハ紛爭ノ解決ニ力ムヘク其ノ努力效ヲ奏シタルトキハ其ノ適當ト認ムル所ニ依リ當該紛爭ニ關スル事實及說明竝其ノ解決條件ヲ記載セル調書ヲ公表スヘシ

紛爭解決ニ至ラサルトキハ聯盟理事會ハ全會一致又ハ過半數ノ表決ニ基キ當該紛爭ノ事實ヲ述ヘ公正且適當ト認ムル勸告ヲ載セタル報告書ヲ作成シ之ヲ公表スヘシ

聯盟理事會ニ代表セラルル聯盟國ハ何レモ當該紛爭ノ事實及之ニ關スル自國ノ決定ニ付陳述書ヲ公表スルコトヲ得

聯盟理事會ノ報告書カ紛爭當事國ノ代表者ヲ除キ他ノ聯盟理事會員全部ノ同意ヲ得タルモノナルトキハ聯盟國ハ該報告書ノ勸告ニ應スル紛爭當事國ニ對シ戰爭ニ訴ヘサルヘキコトヲ約ス

聯盟理事會ニ於テ紛爭當事國ノ代表者ヲ除キ他ノ聯盟理事會員全部ノ同意アル報告書ヲ得ルニ至ラサルトキハ聯盟國ハ正義公道ヲ維持スル爲必要ト認ムル處置ヲ執ルノ權利ヲ留保ス

紛爭當事國ノ一國ニ於テ紛爭カ國際法上專ラ該當事國ノ管轄ニ屬スル事項ニ付生シタルモノナルコトヲ主張シ聯盟理事會之ヲ是認シタルトキハ聯盟理事會ハ其ノ旨ヲ報告シ且之カ解決ニ關シ何等ノ勸告ヲモ爲ササルモノトス

聯盟理事會ハ本條ニ依ル一切ノ場合ニ於テ紛爭ヲ聯盟總會ニ移スコトヲ得紛爭當事國一方ノ請求アリタルトキハ亦之ヲ聯盟總會ニ移スヘシ但シ右請求ハ紛爭ヲ聯盟理事會ニ付託シタル後十四日以內ニ之ヲ爲スコトヲ要ス

聯盟理事會ノ行動及權限ニ關スル本條及第十二條ノ規定ハ聯盟總會ニ移シタル事件ニ關シ總テ之ヲ聯盟總會ノ行動及權能ニ適用ス但シ紛爭當事國ノ代表者ヲ除キ聯盟理事會ニ代表セラルル聯盟各國代表者及爾餘過半數聯盟國ノ代表者ノ同意ヲ得タル聯盟總會ノ報告書ハ紛爭當事國ノ代表者ヲ除キ他ノ聯盟理事會員全部ノ同意ヲ得タル聯盟理事會ノ報告書ト同一ノ效力ヲ有スヘキモノトス

第十六條

第十二條、第十三條又ハ第十五條ニ依ル約束ヲ無視シテ戰爭ニ訴ヘタル聯盟國ハ當然他ノ總テノ聯盟國ニ對シ戰爭行爲ヲ爲シタルモノト看做ス他ノ總テノ聯盟國ハ之ニ對シ直ニ一切ノ通商上又ハ金融上ノ關係ヲ斷絕シ自國民ト違約國國民トノ一切ノ交通ヲ禁止シ且聯盟國タルト否トヲ問ハス他ノ總テノ國ノ國民ト違約國國民トノ間ノ一切ノ金融上通商上又ハ個人的交通ヲ防遏スヘキコトヲ約ス

聯盟理事會ハ前項ノ場合ニ於テ聯盟ノ約束擁護ノ爲使用スヘキ兵力ニ對スル聯盟各國ノ陸海又ハ空軍ノ分擔程度ヲ關係各國政府ニ提案スルノ義務アルモノトス

聯盟國ハ本條ニ依リ金融上及經濟上ノ措置ヲ執リタル場合ニ於テ之ニ基ク損失及不便ヲ最少限度ニ止ムル爲相互ニ支持スヘキコト、聯盟ノ一國ニ對スル違約國ノ特殊ノ措置ヲ抗拒スル爲相互ニ支持スヘキコト竝聯盟ノ約束擁護ノ爲協力スル聯盟國軍隊ノ版圖內通過ニ付必要ナル處置ヲ執ルヘキコトヲ約ス

聯盟ノ約束ニ違反シタル聯盟國ニ付テハ聯盟理事會ニ代表セラルル他ノ一切ノ聯盟國代表者ノ聯盟理事會ニ於ケル一致ノ表決ヲ以テ聯盟ヨリ之ヲ除名スル旨ヲ聲明スルコトヲ得

第十七條

聯盟國ト非聯盟國トノ間又ハ非聯盟國相互ノ間ニ紛爭ヲ生シタルトキハ此ノ種紛爭解決ノ爲聯盟國ノ負フヘキ義務ヲ該非聯盟國カ聯盟理事會ノ正當ト認ムル條件ヲ以テ受諾スルコトヲ之ニ勸誘スヘシ勸誘ノ受諾アリタル場合ニ於テハ第十二條乃至第十六條ノ規定ハ聯盟理事會ニ於テ必要ト認ムル修正ヲ加ヘテ之ヲ適用ス

前項ノ勸誘ヲ爲シタルトキハ聯盟理事會ハ直ニ紛爭事情ノ審査ヲ開始シ當該事情ノ下ニ於テ最善且最有效ト認ムル行動ヲ勸告スヘシ

勸誘ヲ受ケタル國カ此ノ種紛爭解決ノ爲聯盟國ノ負フヘキ義務ノ受諾ヲ拒ミ聯盟國ニ對シ戰爭ニ訴フル場合ニ於テハ第十六條ノ規定ハ該行動ヲ執ル國ニ之ヲ適用ス

勸誘ヲ受ケタル紛爭當事國ノ雙方カ此ノ種紛爭解決ノ爲聯盟國ノ負フヘキ義務ノ受諾ヲ拒ム場合ニ於テハ聯盟理事會ハ敵對行爲ヲ防止シ紛爭ヲ解決スヘキ措置及勸告ヲ爲スコトヲ得

第十八條

聯盟國カ將來締結スヘキ一切ノ條約又ハ國際約定ハ直ニ之ヲ聯盟事務局ニ登錄シ聯盟事務局ハ成ルヘク速ニ之ヲ公表スヘシ右條約又ハ國際約定ハ前記ノ登錄ヲ了スル迄其ノ拘束力ヲ生スルコトナカルヘシ

第十九條

聯盟總會ハ適用不能ト爲リタル條約ノ再審議又ハ繼續ノ結果世界ノ平和ヲ危殆ナラシムヘキ國際狀態ノ審議ヲ隨時聯盟國ニ慫慂スルコトヲ得

第二十條

聯盟國ハ本規約ノ條項ト兩立セサル聯盟國相互間ノ義務又ハ了解カ各自國ノ關スル限リ總テ本條約ニ依リ廢棄セラルヘキモノナルコトヲ承認シ且今後本規約ノ條項ト兩立セサル一切ノ約定ヲ締結セサルヘキコトヲ誓約ス

聯盟國ト爲ル以前本規約ノ條項ト兩立セサル義務ヲ負擔シタル聯盟國ハ直ニ該義務ノ解除ヲ得ルノ處置ヲ執ルコトヲ要ス

第二十一條

本規約ハ仲裁裁判條約ノ如キ國際約定又ハ「モンロー」主義ノ如キ一定ノ地域ニ關スル了解ニシテ平和ノ確保ヲ目的トスルモノノ效力ニ何等ノ影響ナキモノトス

第二十二條

今次ノ戰爭ノ結果從前支配シタル國ノ統治ヲ離レタル殖民地及領土ニシテ近代世界ノ激甚ナル生存競爭狀態ノ下ニ未タ自立シ得サル人民ノ居住スルモノニ對シテハ該人民ノ福祉及發達ヲ計ルハ文明ノ神聖ナル使命ナルコト及其使命遂行ノ保障ハ本規約中ニ之ヲ包容スルコトノ主義ヲ適用ス

此ノ主義ヲ實現スル最善ノ方法ハ該人民ニ對スル後見ノ任務ヲ先進國ニ

〔外初版〕

附屬書

一　國際聯盟原聯盟國

亞米利加合衆國
白耳義國
「ボリヴィア」國
伯剌西爾國
「ブリティッシュ」帝國
加奈陀
「セルブ、クロアート、スロヴェーヌ」國
羅馬尼亞國
葡萄牙國
波蘭國
祕露國
巴奈馬國
「ニカラグア」國
「リベリア」國
日本國
伊太利國
「ホンヂュラス」國
「ヘヂアーズ」國
「ハイチ」國
「ヴァテマラ」國
希臘國
佛蘭西國
「エクアドル」國
玖馬國
支那國
印度
暹羅
南阿聯邦
新西蘭
加拿大

ニ於テ當該國ハ聯盟國タラサルニ至ルヘシ

右改正ハ之ニ不同意ヲ表シタル聯盟國ヲ拘束スルコトナシ但シ此ノ場合ニ於テ右改正ハ聯盟國ニ對シ其ノ效力ヲ生スルモノトス

第二十六條

本規約ノ改正ハ聯盟理事會ニ於テ佛成スル代表者ヲ出ス過半數聯盟國之ヲ批准シタル時ニ於テ聯盟各國及聯盟機關ノ大多數ノ代表者ヲ出ス聯盟國ニ對シテノミ效力ヲ生ス

第二十五條

聯盟國ハ全世界ニ亙リ健康ノ增進、疾病ノ豫防及苦痛ノ輕減ヲ目的トスル公認ノ國民赤十字爲志機關ノ設立及協力ヲ奬勵促進スルコトヲ約ス

第二十四條

聯盟國ハ現行又ハ將來協定セラルヘキ國際條約ノ規定ニ從ヒ左ノ事項ニ關シ聯盟事務局ノ爲ニ必要ナル國際機關ヲ設立維持スヘシ

（イ）自國ノ監理ニ屬スル地域內ノ土著住民ニ對シ公正ナル待遇ヲ確保スルニ力メ且之カ爲

（ロ）必要ナル國際機關ヲ設立維持スヘシ

（ハ）婦人及兒童ノ賣買並阿片其ノ他ノ有害藥物ノ取引ニ關スル取極ノ

（ニ）武器及彈藥ノ取引ヲ共通ノ利益上取締ルノ必要アル諸國トノ間ニ於テ武器ノ取引ヲ聯盟ニ委託スヘシ

（ホ）交通及通過ノ自由並一切ノ聯盟國ノ通商ニ對スル衡平ナル待遇ヲ確保スル爲方法ヲ講スヘシ右ニ關シテハ千九百十四年乃至千九百十八年ノ戰役中荒廢ニ歸シタル地方ノ特殊ノ事情ヲ考慮スヘシ

（ヘ）疾病ノ豫防及撲滅ノ爲國際利害關係事項ニ付措置ヲ執ルニ力ムヘシ

第二十三條

聯盟國ハ現行又ハ將來協定セラルヘキ國際條約ノ規定ニ從ヒ左ノ事項ニ關シ聯盟事務局ノ爲ニ公平ニシテ且實行ノ出來ル一切ノ手段ヲ講スヘキコトヲ聯盟國ニ代リ受任ス

（イ）自國內ニ於テ及其ノ通商產業關係ノ及フ一切ノ國ニ於テ男女及兒童ノ爲ニ公平ニシテ且實行ノ出來ル一切ノ手段ヲ講スヘキコトヲ聯盟國ニ代リ受任ス

第二十二條

聯盟國ハ現行又ハ將來協定セラルヘキ國際條約ノ規定ニ從ヒ左ノ事項ニ關シ聯盟事務局ノ爲ニ公平ニシテ且實行ノ出來ル一切ノ手段ヲ講スヘキコトヲ聯盟國ニ代リ受任ス

（イ）自國內ニ於テ及其ノ通商產業關係ノ及フ一切ノ國ニ於テ男女及兒童ノ爲ニ公平ニシテ且實行ノ出來ル一切ノ手段ヲ講スヘキコトヲ聯盟國ニ代リ受任ス

（ロ）必要ナル國際機關ヲ設立維持スヘシ

（ハ）婦人及兒童ノ賣買並阿片其ノ他ノ有害藥物ノ取引ニ關スル取極ノ

（ニ）武器及彈藥ノ取引ヲ共通ノ利益上取締ルノ必要アル諸國トノ間ニ於テ武器ノ取引ヲ聯盟ニ委託スヘシ

（ホ）交通及通過ノ自由並一切ノ聯盟國ノ通商ニ對スル衡平ナル待遇ヲ確保スル爲方法ヲ講スヘシ右ニ關シテハ千九百十四年乃至千九百十八年ノ戰役中荒廢ニ歸シタル地方ノ特殊ノ事情ヲ考慮スヘシ

（ヘ）疾病ノ豫防及撲滅ノ爲國際利害關係事項ニ付措置ヲ執ルニ力ムヘシ

第二十四條

一般條約ニ依リ既設ノ國際事務局ハ當該條約當事國ノ承諾アルニ於テハ總テノ聯盟ノ指揮下ニ屬セシムヘシ國際利害關係事項ノ爲今後設ケラルヘキ國際事務局及委員會ハ總テノ聯盟ノ指揮下ニ屬セシムヘキコトヲ聯盟國ニ代リ受任ス

一般條約ニ依リ既設ノ國際事務局ハ當該條約當事國ノ承諾アルニ於テハ總テノ聯盟ノ指揮下ニ屬セシムルモノトス

聯盟理事會ハ各委任ノ場合ニ於テ受任國ハ其ノ委託地域ニ關スル年報ヲ聯盟理事會ニ提出スヘシ

各委任ノ場合ニ於テ受任國ハ土著人民ノ利益ノ爲ニ保障ト與フルコトヲ要ス

トス但シ受任國ハ聯盟ニ代リ受任國領土ノ構成部分トシテ其ノ國法ノ下ニ施政ヲ行フヲ以テ最善ノ方法ト認ムル場合ニ於テハ其ノ領土ヲ右條件ニ從ヒ且本規約ノ條項ノ下ニ於テ其ノ國ノ一部トシテ之ヲ管理スルコトヲ得

其ノ他ノ人民未タ自ラ立ツコトヲ得サル地方ノ施政ノ責任ハ文明ノ神聖ナル信託ナルコトヲ玆ニ確認シ且此ノ信託ノ履行ニ付テハ保障ヲ確立スルニ最モ適當ナル方法ハ其ノ人民ノ擔任者トシテ之ヲ先進國ニ委任スルニアルコトヲ宣言ス

其ノ他ノ人民殊ニ中央阿弗利加ノ人民ハ其ノ福祉及發展ニ對シ神聖ナル信託ヲ爲シ居ルモノニシテ此ノ信託ノ實行ヲ確保スルハ文明國ノ神聖ナル任務ナルコトヲ茲

遲羅國
「チェッコ、スロヴァキア」國
「ウルグァイ」國
聯盟規約ニ加盟ヲ招請セラレタル國
亞爾然丁國
智利國
哥倫比亞國
丁抹國
和蘭國
諾威國
「パラグァイ」國
波斯國
「サルヴァドル」國
西班牙國
瑞典國
瑞西國
「ヴェネズエラ」國

二　國際聯盟第一次事務總長
「サー、ジェームス、イーリック、ドラモンド」

第二編　墺地利國ノ境界

第二十七條

墺地利國ノ境界ハ左ノ通之ヲ決定ス（附屬地圖參照）

一　瑞西國及「リヒテンスタイン」國トノ境界

現在ノ國境ニ依ル

二　伊太利國トノ境界

標高二六四五（「グルーベン、ヨッポ」）ヨリ東方ニ向ヒ標高二九一五（クロバイエル、スピッツ）ニ至ルノ間
「レッシェン」ヨリ「ナウデルス」ニ至ル街道上ノ標高一四八三ヲ過ルモノトシ實査ノ上境界線ヲ定ム
次テ東方ニ向ヒ「ドライヘルン、スピッツ」山頂（標高三五〇五）ニ至ルノ間
北方ニ於テ「イン」、南方ニ於テ「アディージェ」兩河流域間ノ分水線ニ依ル
次テ略南南東方ニ向ヒ標高二五四五（マルヒキンケレ）ニ至ルノ間
東方ニ於テ「ドラーヴ」、西方ニ於テ「アディージェ」兩河流域間ノ分水線ニ依ル
次テ南東方ニ向ヒ標高二四八三（ヘルム、スピッツ）ニ至ルノ間
「ウィンバッハ」及「アルンバッハ」兩村落ノ間ニ於テ「ドーヴ」河ヲ橫斷スルモノトシ實査ノ上境界線ヲ定ム
次テ東南東方ニ向ヒ「タルヴィス」ノ北西方約九吉米ニ於ケル標高二〇五〇（ガステルニッヒ）ニ至ルノ間
北方ニ於テ「ドラーヴ」河流域ト南方ニ於テ順次ニ「ゼクステンバッハ」、「ピアーヴェ」及「タリアメント」諸河流域トノ間ノ分水線ニ依ル
次テ東南東方ニ向ヒ標高一四九二（トゥール）ノ西方約二吉米）ニ至ルノ間

北方ニ於テ「ガイル」、南方ニ於テ「ガイリッツ」兩河間ノ分水線ニ依ル
次テ東方ニ向ヒ標高一五〇九（ペック）ニ至ルノ間
「トゥール」ノ市街及停車場ノ南方ニ於テ「ガイリッツ」河ヲ橫斷シ標高一二七〇（カビン、ベルグ）ヲ過ルモノトシ實査ノ上境界線ヲ定ム

三　南方ノ境界及「クラーゲンフルト」地方トノ境界尙第三編（歐洲政治條項）第二款ノ規定ニ從フ

「ペック」ヨリ東方ニ向ヒ標高一八一七（マレスティーゲル）ニ至ルノ間
「カラヴァンケン」ノ分水嶺ニ依ル
標高一八一七（マレスティーゲル）ヨリ北東方ニ向ヒ「ヴィーラッハ」ノ東方約六吉米ニ於ケル「ドラーヴ」河ノ彎曲部ノ東方河流ニ架シタル鐵道橋ノ南東方約一吉米ニ位スル地點ニ於ケル「ドラーヴ」河ニ至ルノ間
「マレスティッヒ」及「ファーク」間ノ鐵道線路ヲ橫斷シ且標高六六六（ポラーナ）ヲ過ルモノトシ實査ノ上境界線ヲ定ム
次テ南東方ニ向ヒ標高八四二（カスパルスタイン）ノ西方一吉米）ニ至ルノ間
「ドラーヴ」河ノ河流ニ依ル
次テ北方ニ向ヒ「ヴィーラッハ」ノ東北東方約十吉米ニ於ケル標高八七一ニ至ルノ間
略南北ヲ連ヌル線トシ實査ノ上境界線ヲ定ム

四　「セルブ、クロアート、スロヴェーヌ」國トノ境界尙第三編（歐洲政治條項）第二款ノ規定ニ從フ

次テ東北東方ニ向ヒ「サント、ファイト」及「クラーゲンフルト」兩區間ノ行政境界上ニ於テ「クラーゲンフルト」ノ北西方約十吉米ニ於ケル標高七二五ニ近ク選定スヘキ地點ニ至ルノ間
標高一〇六九（タウベンビューヘル）、標高一〇四五（ガリンベルグ）及標高八一五（フロイデンベルゲ）ヲ過ルモノトシ實査ノ上境界線ヲ定ム
次テ東方ニ向ヒ標高一〇七五（スタインプルッフ、コーゲル）ノ西方ニ於テ實査ノ上選定スヘキ地點ニ至ルノ間
「サント、ファイト」及「クラーゲンフルト」兩區間ノ行政境界ニ依ル
次テ北東方ニ向ヒ「フェルケルマルクト」區ノ行政境界カ「グルク」河ヲ離ルル地點ニ於テ同河ニ至ルノ間
標高一〇七六ヲ過ルモノトシ實査ノ上境界線ヲ定ム
次テ北東方ニ向ヒ標高一八九九（スパイクコーゲル）ニ至ルノ間
「サント、ファイト」及「フェルケルマルクト」兩區間ノ行政境界ニ依ル
次テ南東方ニ向ヒ標高八四二（カスパルスタイン）ノ西方一吉米）ニ至ルノ間
「フェルケルマルクト」區ノ北東方行政境界ニ依ル
次テ東方ニ向ヒ標高一五二二（ヒューオル、コーゲル）ニ至ルノ間
「ラファーミュント」ノ北方ヲ過ルモノトシ實査ノ上境界線ヲ定ム

標高一五二二（ヒューネル、コーゲル）ヨリ東方ニ向ヒ標高九一七（サント、ローレンツェン）ニ至ルノ間

標高一三三〇ヲ過ルモノトシ實査ノ上境界線ヲ定ム

次テ東方ニ向ヒ「マールブルグ」及「ライプニッツ」兩區間ノ行政境界ト「ムール」河トノ接合點ニ至ルノ間

右行政境界ニ依ル

次テ「ラドケルスブルグ」ノ南東方約五吉米ニ於テ墺地利及洪牙利兩國間ノ千八百六十七年ノ舊國境トノ接合點ニ至ルノ間

「ムール」河ノ本流ヲ下ル

次テ北方ニ向ヒ「ラドケルスブルグ」ノ北方約十六吉米ニ位スル標高四〇〇ノ東方ニ於テ定ムヘキ地點ニ至ルノ間

墺地利及洪牙利兩國間ノ千八百六十七年ノ舊國境ニ依ル

次テ北東方ニ向ヒ「トカ」ノ東方約二吉米ニ於ケル「ラーブ」及「ムール」兩河流域間ノ分水線上ニ定ムヘキ墺地利、洪牙利及「セルブ、クロアート、スロヴェーヌ」三國國境ノ交會點ニ至ルノ間

「ボニスファルヴァ」及「ゲドゥードゥヴァール」兩村落ノ間ヲ過ルモノトシ實査ノ上境界線ヲ定ム

五　洪牙利國トノ境界

前記ノ交會點ヨリ北東方ニ向ヒ「セントゴットハルト」ノ北北東方約六吉米ニ於ケル標高三五三（ヤンケ、ベルグ）ヲ過キ次ニ「ラドケルスブルグ」ト「セントゴットハルト」街道ノ西方及「ナジュファルヴァ」「ネメトラク」「ラバケレストゥール」諸村落ノ東方ニ於テ實査ノ上境界線ヲ定ム

次テ略北東方ニ進ミ「ピンカミントセント」ノ北北東方約七吉米ニ於ケル標高二三四ニ至ルノ間

標高三二二（ホッホコーゲル）ヲ過キ更ニ「ジァマント」「ネメトビュクェーシュ」「カラチュファ」諸村落ノ南方及「ナジュシァロシュラック」ト「ピンカミントセント」トノ間ニ於テ實査ノ上境界線ヲ定ム」

次テ北方ニ向ヒ「ケセッグ」ノ南西方約九吉米ニ於ケル標高八八三（トロット、ケー）ニ至ルノ間

標高二四一、二六〇及二七三ヲ過キ更ニ「ナジュナルダ」「ロホンツ」ノ東方及「ドズマット」「ブッチング」ノ西方ニ於テ實査ノ上境界線ヲ定ム

次テ北東方ニ向ヒ「ニキッチュ」ノ南東方約二吉米ニ於ケル標高二六五（カメニエ）ニ至ルノ間

「リービング」「オルモト」「ロチュマント」ノ南東方、「ケセッグ」及「ケセッグ」ト「サラモンファ」街道ノ北西方ヲ過ルモノトシ實査ノ上境界線ヲ定ム

次テ北方ニ進ミ「ノイジードレル、ゼー」ノ南岸ニ於テ「ホーリング」ト「ヒデグシェッグ」トノ間ニ選定スヘキ地點ニ至ルノ間

「ニキッチュ」及「チンケンドルフ」ノ東方、「クヴェシュト」及「ネメト、ペレステッグ」ノ西方ヲ過ルモノトシ實査ノ上境界線ヲ定ム」

次テ東方ニ向ヒ「サント、ヨハン」ノ南西方約八吉米ニ位スル標高一一五ニ至ルノ間

「ノイジードレル、ゼー」ヲ横斷シ標高一一七ノ存在スル島ノ南方ヲ過キ「メキシコ」停車場ヨリ北西方ニ通スル鐵道支線及「アインゼール」運河ノ全部ヲ洪牙利國ニ屬セシメ「パムハーゲン」ノ南方ヲ過ルモノトシ實査ノ上境界線ヲ定ム

次テ北方ニ向ヒ「アントニエンホーフ」（キットゼー）ノ東方）ノ西方約一吉米ニ於テ選定スヘキ墺地利、洪牙利及「チェッコ、スロヴァキア」三國國境ノ交會點ニ至ルノ間

「チォルナ」ト「カールブルグ」鐵道ヲ全然洪牙利國ノ版圖ニ屬セシメ「ウェスト、ツムメライン」及「リロアティッシュ、ヤールンドルフ」ノ西方、「アンダウ」「ニッケルスドルフ」「ドイッチュ、ヤールンドルフ」及「キットゼー」ノ東方ヲ過ルモノトシ實査ノ上境界線ヲ定ム

六　「チェッコ、スロヴァキア」國トノ境界

前記地點ヨリ「ベルグ」ノ北東方約二吉米半ニ於ケル墺地利及洪牙利兩國間ノ千八百六十七年ノ舊國境ノ彎曲部ニ至ルノ間

「キットゼー」ノ北方約二吉米ニ於テ「キットゼー」ト「プレスブール（プレスブルグ）」街道ヲ橫斷スルモノトシ實査ノ上境界線ヲ定ム

次テ北方ニ向ヒ「プレスブール（プレスブルグ）」橋ノ上流約四吉米半ニ於テ「ダニューブ」河ノ主要航行水道上ニ選定スヘキ地點ニ至ル

ノ間

成ルヘク墺地利及洪牙利兩國間ノ千八百六十七年ノ舊國境ニ依ルモノトシ實査ノ上境界線ヲ定ム

次テ西方ニ向ヒ「モラーヴァ」（マルヒ）及「ダニューブ」兩河ノ會流點ニ至ルノ間

「ダニューブ」河ノ主要航行水道ニ依ル

次テ「モラーヴァ」河ノ河流ヲ溯リ更ニ「タヤ」河ノ河流ヲ溯リ「ラーベンスブルグ」ト「テメナウ」街道ト「ラーベンスブルグ」ト「ルンデンブルグ」鐵道トノ交叉點ノ南東方約二吉米ニ於テ選定スヘキ地點ニ至ル

次テ西北西方ニ向ヒ下部墺地利及「モラヴィア」間ノ舊行政境界、「ニコルスブルグ」ト「フェルズベルグ」鐵道トノ交叉點ノ南方約四百米ニ位スル右行政境界上ノ地點ニ至ルノ間

標高一八七（ドゥロウヒーヴェルヒ）、標高二二一（ローゼンベルゲン）、標高二二三（ウォルフスベルグ）、標高二九一（ライステンベルグ）、標高二四九及二七九（カルレルハイデ）ヲ過ルモノトシ實査ノ上境界線ヲ定ム

次テ西北西方ニ向ヒ前記行政境界ヲ進ミ

次ニ西方ニ向ヒ「フランツェンスタール」村落ノ東方約三吉米ニ於テ選定スヘキ地點ニ至ル間

下部墺地利及「ポヘミア」間ノ舊境界ニ依ル

次テ南方ニ向ヒ「グミュント」ノ北北西方約五吉米ニ於ケル標高四九八（ゲルセンベルグ）ニ至ルノ間

「ロッテンシァッヒェン」ト「ツッゲルス」街道ノ東方竝標高五三七及

〔外初版〕

五二二(「グロス、ナーゲル、ベルグ」)ヲ過ルモノトシ實査ノ上境界線ヲ定ム

次テ南方ニ向ヒ更ニ西北西方ニ向ヒ下部墺地利及「ボヘミア」間ノ舊行政境界ト「グラッツェン」―「ヴァイトラ」街道トノ交叉點ノ北東方約二百米ニ位スル右行政境界上ノ地點ニ至ルノ間

「ツッゲルス」ト「プライテンゼー」トノ間次ニ「ラインジッツ」河上ノ鐵道橋ノ南東端ヲ過キ「グミュント」ノ市街ヲ墺地利國ニ、「グミュント」(「ウォルフスホーフ」)ノ停車場及鐵道工場竝「グミュント」―「プドヴァイス」及「グミュント」―「ウイッティンガウ」兩鐵道ノ分岐點ヲ「チェツコ、スロヴァキア」國ニ屬セシメ更ニ標高五二四(「グルントビューヘル」)、標高五七七(「ホーヘンベルグ」ノ北方)及標高六八一(「ラーゲルベルグ」)ヲ過ルモノトシ實査ノ上境界線ヲ定ム

次テ南西方ニ向ヒ前記行政境界ヲ進ミ

次ニ北西方ニ向ヒ「ボヘミア」及上部墺地利ノ舊行政境界ヲ進ミ其ノ獨逸國境トノ接合點ニ至ル

七　獨逸國トノ境界

千九百十四年八月三日ノ國境ニ依ル

第二十八條

本條約ニ記載セル境界ハ其ノ決定シタル部分ヲ本條約附屬百萬分一地圖上ニ表示ス本條約ノ本文ト地圖トノ間ニ相違アル場合ニ於テハ本文ニ從フモノトス

第二十九條

本條約ニ依リ其ノ組織ヲ定ムル境界委員會又ハ主タル同盟及聯合國ト關係諸國若ハ其ノ一國トノ條約ニ依リ其ノ組織ヲ定メラルヘキ境界委員會ハ前記境界ヲ實査劃定スヘシ

右委員會ハ「實査ノ上境界線ヲ定ム」ト規定セル部分ヲ確定スルノ外關係諸國中ノ一國ノ請求アリ且委員會カ適當ト認ムル場合ニ於テハ行政境界ニ依リ決定シタル部分ヲ更正スルノ權能ヲ有スヘシ(但シ千九百十四年八月ニ存在シタル國際境界ニ關シテハ此ノ限ニ在ラス右ニ關シテハ委員會ノ任務ハ單ニ道標又ハ境界標ノ點檢ニ限定セラルヘキモノトス)右兩種ノ場合ニ於テ委員會ハ行政境界及當該地方ノ經濟上ノ利害ヲ能フ限リ斟酌シ成ルヘク條約ノ決定スル所ニ從フコトニ力ムヘシ

委員會ノ決議ハ表決ノ過半數ニ依リ且當事國ヲ拘束スヘシ

境界委員會ノ經費ハ關係二國折半シテ之ヲ負擔ス

第三十條

水路ヲ以テ境界ヲ決定スル場合ニ於テ本條約ニ使用スル「河流」及「水道」ナル語ハ航行不能河川ニ在リテハ水路ノ又ハ其ノ本流ノ中央線、航行可能河川ニ在リテハ主要航行水道ノ中央線ヲ謂フ河流又ハ水道ノ移動ニ從ヒ國境線ノ變更ヲ生スヘキヤ或ハ本條約實施當時ニ於ケル河流又ハ水道ノ位置ニ依リ國境線ヲ確定スヘキヤハ本條約ニ定ムル境界委員會ニ於テ各場合ニ付之ヲ決定ス

第三十一條

關係諸國ハ委員會ニ對シ其ノ事業ニ必要ナル一切ノ書類殊ニ現境界又ハ舊境界ノ劃定調書ノ認證謄本、一切ノ現存大梯尺地圖、測地諸元、未公表完成測量圖及國境水流ノ移動ニ關スル參考資料ヲ提供スルコトヲ約ス

右關係諸國ハ又委員會ニ一切ノ書類殊ニ圖面、土地臺帳及土地帳簿ヲ交付シ且委員會ノ請求アルトキハ財產及地方經濟事情ニ關スル一切ノ參考資料竝其ノ他ノ必要ナル情報ヲ之ニ提供スヘキ旨ヲ地方官憲ニ命スルコトヲ約ス

第三十二條

關係諸國ハ境界委員會ノ任務遂行上必要ナル運送、宿舍、勞力、材料(道標、境界標)ニ關スル一切ノ事項ニ付直接又ハ地方官憲ヲ經テ同委員會ヲ援助スルコトヲ約ス

第三十三條

關係諸國ハ委員會ノ建設セル三角點覘標、標識、道標又ハ境界標ヲ保護スルコトヲ約ス

第三十四條

境界標ハ互ニ望見シ得ル距離ニ之ヲ建設スヘシ右境界標ニハ番號ヲ附シ其ノ位置及番號ハ製圖書類ニ之ヲ記載スヘシ

第三十五條

境界劃定ノ確定調書、附屬ノ地圖及書類ハ其ノ原本三通ヲ作成シ內二通ハ之ヲ接境國政府ニ、一通ハ之ヲ佛蘭西共和國政府ニ送付スヘシ佛蘭西共和國政府ハ其ノ認證謄本ヲ本條約署名國ニ交付スヘシ

第三編　歐洲政治條項

第一款　伊太利國

第三十六條

墺地利國ハ第二編(墺地利國ノ境界)第二十七條第二號ニ定メタル墺地利國境ノ外ニ位シ且右ノ國境、墺地利洪牙利國ト伊太利國トノ舊國境、「アドリアティック」海及後日定メラルヘキ伊太利國ノ東方國境ノ間ニ包括セラルル舊墺地利洪牙利君主國ノ諸地方ニ對スル一切ノ權利及權原ヲ自國ノ關スル限リ伊太利國ノ爲ニ拋棄ス

墺地利國ハ目下ノ問題ヲ解決スル目的ヲ以テ締結セラルル一切ノ條約ニ依リテ伊太利國ノ一部分ヲ爲スモノト認メラルヘキ舊墺地利洪牙利君主國ノ他ノ諸地方ニ對スル一切ノ權利及權原ヲ自國ノ關スル限リ均シク伊太利國ノ爲ニ拋棄ス

伊太利國ト墺地利國トノ國境線ヲ實査劃定スル爲伊太利國ノ任命スル一名、他ノ主タル同盟及聯合國ノ任命スル三名及墺地利國ノ任命スル一名計五名ノ委員ヨリ成ル委員會ヲ本條約實施後十五日以內ニ設置スヘシ

委員會ノ決議ハ表決ノ過半數ニ依リ且當事國ヲ拘束スヘシ

第三十七條

伊太利國ニ讓渡シタル舊墺地利洪牙利君主國領土內ニ定住シタル者ニシテ戰時中舊墺地利洪牙利君主國領土外ニ在リ又ハ拘禁、抑留若ハ追放セラレタルモノハ第十編(經濟條項)第二百六十九條ノ規定ニ拘ラス同編第二百五十二條及第二百五十三條ノ規定ノ利益ヲ完全ニ享受スヘシ

第三十八條

伊太利國ニ讓渡セラルル舊墺地利洪牙利君主國ノ地方又ハ該地方ニ於ケル公共團體カ舊墺地利洪牙利君主國ノ爲該君主國ノ法令ニ從ヒ戰時中支拂ヒタル特別戰時費例ヘハ動員者ノ家族手當、徵發、軍隊宿舍料、追放民救助費等ニ對シ墺地利國貨幣ヲ以テスル辨償ノ條件ハ特別條約ヲ以テ之ヲ定ムヘシ

前記金額ヲ決定スルニ當リ該地方カ墺地利洪牙利國ニ貢納スヘカリシ金

(外初版)

額ハ千九百十三年ニ於テ該地方ノ歲入ヨリ褒墺地利洪牙利君主國ノ歲入ニ貢納シタル割合ニ依リ墺地利國ノ貸方ニ之ヲ計上スヘシ

第三十九條

伊太利國ニ讓渡セラルル地域ニ於テ賦課シ得ヘキ各種ノ稅金及料金ニシテ千九百十八年十一月三日收納未濟ノモノハ伊太利國自國ノ爲ニ之ヲ徵收スヘシ

第四十條

伊太利國ハ羅馬ニ於ケル「バラッツオ、ヴェネツィア」領有ノ件ニ關シ何等金錢上ノ債務ヲ負フコトナカルヘシ

第四十一條

伊太利國政府ハ伊太利國ニ讓渡セラルル地域內ニ存在シ墺地利國鐵道廳ノ管理ニ屬シ且現ニ事業ヲ行ヒ又ハ建設中ニ在ル一切ノ鐵道ニ對スル墺地利國ノ一切ノ權利ニ付代位ス但シ國有ノ財產及所有物ノ取得竝代償支拂ニ關スル第九編（財政條項）第二百八條ノ規定ノ適用ヲ妨ケス

右ノ規定ハ該地域ニ於ケル鐵道及軌道ノ特許ニ關スル舊墺地利洪牙利君主國ノ權利ニ付亦之ヲ適用スヘシ

國境鐵道停車場ハ後日ノ取極ニ依リ之ヲ定ムヘシ

第四十二條

墺地利國ハ戰爭開始前ニ自國內ニ入込ミ未タ伊太利國ニ歸著セサル伊太利ノ鐵道ニ屬スル一切ノ車輛ヲ三月以內ニ伊太利國ニ還付スヘシ

第四十三條

墺地利國ハ伊太利國ニ讓渡スル地域ニ關スル限リ該地域ノ生產品ニ付自國ノ利益ノ爲ニ存在スルコトアルヘキ「トラスト」「カルテル」其ノ他類似ノ團體ノ設立ニ關スル一切ノ取極、規定又ハ法令ヲ千九百十八年十一月三日以後援用スルノ權利ヲ自國及其ノ國民ノ名ニ於テ拋棄ス

第四十四條

伊太利國ニ讓渡セラルル地域又ハ伊太利國ニ經營ヲ移シタル各種ノ施設ニ對シ從來電氣ヲ供給シタル墺地利國版圖內ノ電氣供給中央作業場ハ千九百十八年十一月三日現在ノ諸契約ニ相當スル消費高以內ノ供給ヲ本條約實施後十年間繼續スルノ義務アルモノトス

墺地利國ハ又「ライブル」湖及其ノ疏水ノ水ヲ身由ニ使用シ且該水ヲ「コリニッツア」河ノ流域ニ轉向セシムル伊太利國ノ權利ヲ承認ス

第四十五條

一　伊太利國ニ讓渡セラルル地域內ノ裁判所カ該地域ノ住民ト舊墺地利帝國ノ他ノ國民トノ間又ハ該住民ト墺地利洪牙利君主國ノ同盟國ノ臣民トノ間ノ民事及商事事件ニ付千九百十四年八月四日以後下シタル判決ハ該地域ニ於ケル當該新裁判所ノ執行ノ命令カ發セラレタル場合ニ於テノミ之ヲ執行スルコトヲ得

二　伊太利國民（本條約ニ依リ伊太利國國籍ヲ取得スヘキ者ヲ含ム）ニ對シ政治犯罪ニ付千九百十四年八月四日以後褒墺地利洪牙利君主國司法官憲ノ下シタル一切ノ裁判ハ無效タルヘシ

三　伊太利國及墺地利國ノ官憲ハ伊太利國ニ讓渡セラルル地域ノ當該官憲ニ對シ本條約實施前開始セラレタル訴訟手續上ノ一切ノ事項ニ付本件ニ關スル特別條約ノ實施迄互ニ兩者間ノ直接通信ヲ爲スコトヲ得右ニ關スル請求ヲ受ケタル官憲ハ其ノ國ノ公ノ秩序ニ關スル法令ノ許ス限リ之ニ應スヘシ

四　伊太利國ニ讓渡セラルル地域內ノ司法又ハ行政官憲ノ決定ニ對シ該地域以外ニ在ル墺地利國ノ司法又ハ行政上級官憲ニ爲シタル一切ノ上訴ハ之ヲ停止スヘシ其ノ關係記錄ハ上訴ノ原因タル決定ヲ與ヘタル官憲ニ之ヲ返還スヘク該官憲ハ遲滯ナク之ヲ伊太利國當該官憲ニ移送スヘシ

五　裁判上ノ權限、手續又ハ處理ニ關スル他ノ一切ノ問題ハ伊太利國及墺地利國間ノ特別條約ニ依リ之ヲ決定スヘシ

第二款「セルブ、クロアート、スロヴェーヌ」國

第四十六條

墺地利國ハ同盟及聯合國ノ既ニ執リタル措置ニ從ヒ「セルブ、クロアート、スロヴェーヌ」國ノ完全ナル獨立ヲ承認ス

第四十七條

墺地利國ハ第二編（墺地利國ノ境界）第二十七條ニ揭ケル墺地利國境ノ外ニ位シ本條約ニ依リ又ハ目下ノ問題ヲ解決スル目的ヲ以テ締結スル他ノ一切ノ條約ニ依リ「セルブ、クロアート、スロヴェーヌ」國ノ一部分ヲ爲スモノト認メラルル舊墺地利洪牙利君主國ノ諸地方ニ對スル一切ノ權利及權原ヲ自國ノ關スル限リ「セルブ、クロアート、スロヴェーヌ」國ノ爲ニ拋棄ス

第四十八條

第二編（墺地利國ノ境界）第二十七條第四號ニ揭ケル國境線ヲ實査劃定スル爲主タル同盟及聯合國ノ任命スル五名、「セルブ、クロアート、スロヴェーヌ」國ノ任命スル一名及墺地利國ノ任命スル一名計七名ノ委員ヨリ成ル委員會ヲ本條約實施後十五日以內ニ設置スヘシ

委員會ノ決議ハ表決ノ過半數ニ依リ且當事國ヲ拘束スヘシ

第四十九條

「クラーゲンフルト」地方ノ住民ハ投票ニ依リ該地方ノ所屬ヲ希望スル國ヲ次ニ揭ケル範圍內ニテ指示スルコトヲ求メラルヘシ

「クラーゲンフルト」地方ノ境界ハ左ノ如シ

「ヴィーラッハ」ノ東北東方約十吉米ニ於ケル標高八七一ヨリ南方ニ向ヒ「サント、マルティン」ノ上流約二吉米ニ於ケル「ドラーヴ」河上ノ一點ニ至ルノ間

略南北ヲ連ヌル線トシ實査ノ上境界線ヲ定ム

次テ北南方ニ向ヒ「ヴィーラッハ」ノ東方約六吉米ニ於ケル「ドラーヴ」河ノ彎曲部ノ東方河流ニ架シタル鐵道橋ノ南東方約一吉米ニ位スル地點ニ至ルノ間

「ドラーヴ」河ノ河流ニ依ル

次テ南西方ニ向ヒ標高一八一七（「マレスティーゲル」）ニ至ルノ間

標高六六六六（「ポラーナ」）ヲ過キ且「マレスティッヒ」及「ファーク」間ノ鐵道線路ヲ橫斷スルモノトシ實査ノ上境界線ヲ定ム

次テ東南東方ニ向ヒ更ニ北東方ニ進ミ標高一九二九（「グッショヴァ」）ニ至ルノ間

北方ニ於テ「ドラーヴ」、南方ニ於テ「サーヴ」兩河流域間ノ分水線ニ依ル

次テ北東方ニ向ヒ標高一〇五四（「ストロイナ」）ニ至ルノ間

標高一五五八、二一二四及一一八五ヲ過キ大體ニ於テ「ミース」河流域ノ西方境界ニ依ルモノトシ實査ノ上境界線ヲ定ム

次テ北東方ニ向ヒ標高一五二二(ヒューネル、コーゲル)ニ至ルノ間
「ラファーミュント」ノ南方ニ於テ「ドラーヴ」河ヲ橫斷スルモノトシ實
査ノ上境界線ヲ定ム
次テ西方ニ向ヒ「カスパルスタイン」ノ西方一吉米ニ於ケル標高八四二ニ
至ルノ間
「ラファーミュント」ノ北方ヲ過ルモノトシ實査ノ上境界線ヲ定ム
次テ標高一八九九(スパイクコーグル)ニ至ルノ間
「フェルケルマルクト」區ノ北東方行政境界ニ依ル
次テ南西方ニ向ヒ「グルク」河ニ至ルノ間
「フェルケルマルクト」區ノ北西方行政境界ニ依ル
次テ南西方ニ向ヒ標高一〇七五(スタインプルッフ、コーゲル)ノ西方
ニ於ケル行政境界上ノ地點ニ至ルノ間
標高一〇七六ヲ過ルモノトシ實査ノ上境界線ヲ定ム
次テ西方ニ向ヒ「クラーゲンフルト」ノ北西方約十吉米ニ於ケル標高七二
五ニ近ク選定スヘキ地點ニ至ルノ間
「サント、ファイト」及「クラーゲンフルド」兩區間ノ行政境界ニ依ル
次テ前記ノ起點タル標高八七一ニ至ルノ間
標高八一五(フロイデンベルグ)ト標高一〇四五(ガリンベルグ)ト交
高一〇六九(タウベンビューヘル)ヲ過ルモノトシ實査ノ上境界線ヲ
定ム

第五十條

「クラーゲンフルト」地方ハ人民一般投票ヲ準備スル目的ヲ以テ左記ノ橫
斷線ニ依リ之ヲ南方ノ第一區域及北方ノ第二區域ノ兩區域ニ分ツヘシ
該地方ノ西方境界カ「ドラーヴ」河ヲ離ルル地點ヨリ北方ニ向ヒ「ロゼッ

グ」(セント、ミハエル)ノ東方約一吉米ノ地點ニ至ルノ間
「ドラーヴ」河ノ河流ヲ下ル
次テ北東方ニ向ヒ「ヴェルデン」ノ南方ニ在ル「ヴェールト」湖ノ西端ニ至
ルノ間
實査ノ上境界線ヲ定ム
次テ東方ニ向ヒ「グランフルト」河カ「ヴェールト」湖ヨリ流出スル地點ニ
至ルノ間
該湖ノ中央線ニ依ル
次テ東方ニ向ヒ同河ト「グラン」河トノ會流點ニ至ルノ間
「グランフルト」河ノ河流ヲ下ル
次テ東方ニ向ヒ同河ト「グルク」河トノ會流點ニ至ルノ間
「グラン」河ノ河流ヲ下ル
次テ北東方ニ向ヒ「クラーゲンフルト」地方ノ北方境界カ「グルク」河ヲ橫
斷スル地點ニ至ルノ間
「グルク」河ノ河流ニ依ル
「クラーゲンフルト」地方ハ之ヲ該地方ニ於ケル人民一般投票ヲ準備シ且
其ノ公平ナル施行ヲ確保スルノ任務ヲ有スル委員會ノ管理ニ付スヘシ該
委員會ハ亞米利加合衆國、大不列顛國、佛蘭西國及伊太利國ノ夫々任命
スル四名、墺地利國ノ任命スル一名及「セルブ、クロアート、スロヴェー
ヌ」國ノ任命スル一名ノ委員ヲ以テ之ヲ組織ス但シ墺地利國委員ハ第二
區域ニ關スル委員會ノ討議ニ限リ之ニ參與シ「セルブ、クロアート、ス
ロヴェーヌ」國委員ハ第一區域ニ關スル其ノ討議ニ限リ之ニ參與スル
ノトス委員會ノ決議ハ表決ノ過半數ニ依ル

第二區域ハ墺地利國軍隊之ヲ占領シ其ノ施政ハ墺地利國法令ノ一般原則
ニ依リ之ヲ行フヘシ
第一區域ハ「セルブ、クロアート、スロヴェーヌ」國軍隊之ヲ占領シ其ノ
施政ハ同國法令ノ一般原則ニ依リ之ヲ行フヘシ
右兩區域ニ於ケル軍隊ハ墺地利國軍隊タルト「セルブ、クロアート、ス
ロヴェーヌ」國軍隊タルトヲ問ハス委員會カ秩序維持ノ爲必要ト認ムル
人員數ニ之ヲ減少スヘク且該委員會ノ監督ノ下ニ其ノ任務ヲ遂行スヘシ
右軍隊ハ該地方ヨリ募集シタル警察隊ヲシテ成ルヘク速ニ之ニ代ラシム
ヘシ
委員會ハ投票ノ準備ヲ爲シ且其ノ自由公正及祕密ヲ確保スルニ必要ト認
ムル一切ノ措置ヲ執ルノ任務ヲ有スヘシ
第一區域ノ人民一般投票ハ本條約實施後三月以內ニ於ケル委員會ノ定ム
ル日ニ之ヲ施行スヘシ
第一區域ノ人民一般投票カ「セルブ、クロアート、スロヴェーヌ」國ニ有
利ナルトキハ其ノ結果公表後三週間以內ニ於ケル委員會ノ定ムル日ニ第
二區域ノ人民一般投票ヲ施行スヘシ
右ニ反シ第一區域ノ投票カ墺地利國ニ有利ナルトキハ第二區域ニ於テハ
人民一般投票ヲ施行セサルヘク該地方ノ全部ハ確定的ニ墺地利國主權ノ
下ニ殘留スヘシ
投票權ハ男女ノ別ナク左記ニ該當スル一切ノ者ニ之ヲ付與スヘシ
(イ)　千九百十九年一月一日ニ於テ滿二十歲以上ニシテ
(ロ)　人民一般投票ヲ施行スヘキ區域內ニ千九百十九年一月一日ニ於テ
定住シ且
(ハ)　該區域內ニ出生シタル者ナルカ又ハ該區域內ニ千九百十二年一月
一日以前ヨリ定住シ若ハ住民資格(ペルティネンザ)ヲ有スル者
投票ノ結果ハ各區域ノ全部ニ付表決ノ過半數ニ依リ之ヲ決定スヘシ
各投票ノ終了シタルトキハ委員會ハ投票施行ニ關スル詳細ナル報告ト共
ニ投票ノ結果ヲ主タル同盟及聯合國ニ通告シ且之ヲ公表スヘシ
投票カ第一區域又ハ兩區域ヲ「セルブ、クロアート、スロヴェーヌ」國ニ
合併スルコトヲ可トスルトキハ墺地利國ハ該地域ニ對スル一切ノ權利及
權原ヲ「セルブ、クロアート、スロヴェーヌ」國ノ爲ニ且投票ノ結果ニ相
當スル範圍內ニテ茲ニ自國ノ關スル限リ拋棄スヘキ旨聲明ス「セルブ、
クロアート、スロヴェーヌ」國政府ハ委員會ニ協議ノ上該地域ノ上ニ確
定的ニ其ノ權力ヲ樹立スルコトヲ得ヘシ
第一區域又ハ第二區域ノ投票カ墺地利國ニ有利ナルトキハ墺地利國政府
ハ委員會ニ協議ノ上各場合ニ應シ「クラーゲンフルト」地方ノ全地域又ハ
第二區域ニ於テ確定的ニ其ノ權力ヲ同復スルコトヲ得ヘシ
委員會ノ權能ハ各場合ニ應シ「セルブ、クロアート、スロヴェーヌ」國又
ハ墺地利國カ斯ノ當該地域ニ於ケル施政ニ任スル時ヲ以テ終了ス
委員會ノ經費ハ墺地利國及「セルブ、クロアート、スロヴェーヌ」國ニ於
テ各其ノ半額ヲ負擔スヘシ

第五十一條

「セルブ、クロアート、スロヴェーヌ」國ハ其ノ人口ノ多數ト種族、言語
又ハ宗教ヲ異ニスル住民ノ利益ヲ同國內ニ於テ保護スル爲主タル同盟及
聯合國カ必要ト認ムル規定ヲ該諸國トノ條約中ニ設クルコトヲ約諾ス

(外務部)

「セルブ、クロアート、スロヴェーヌ」國ハ他國民ノ通商ニ關シ通過ノ自由ト制度ノ衡平トヲ保護スル爲主タル同盟及聯合國カ必要ト認ムル規定ヲ該諸國トノ條約中ニ設クルコトヲ約シク約諾ス

第五十二條

舊墺地利帝國ノ財政上ノ義務ニシテ「セルブ、クロアート、スロヴェーヌ」國カ其ノ主權ノ下ニ置キタル地域ニ關シ負擔スヘキモノノ割合及性質ハ第九編（財政條項）第二百三條ニ依リ之ヲ決定スヘシ

前記地域割讓ノ結果生スルコトアルヘキ一切ノ問題ニシテ本條約ニ依リ決定セラレサルモノハ後日ノ取極ヲ以テ之ヲ決定スヘシ

第三款　「チェッコ、スロヴァキア」國

第五十三條

墺地利國ハ同盟及聯合國ノ既ニ執リタル措置ニ從ヒ「カルパート」山脈ノ南方ニ於ケル「ルテーヌ」人ノ自治地域ヲ含ム「チェッコ、スロヴァキア」國ノ完全ナル獨立ヲ承認ス

第五十四條

墺地利國ハ第二編（墺地利國ノ境界）第二十七條ニ定ムル墺地利國境ノ外ニ位シ本條約ニ依リ「チェッコ、スロヴァキア」國ノ一部分ヲ爲スモノト認メラルル舊墺地利洪牙利君主國ノ諸地方ニ對スル一切ノ權利及權原ヲ自國ノ關スル限リ「チェッコ、スロヴァキア」國ノ爲ニ拋棄ス

第五十五條

第二編（墺地利國ノ境界）第二十七條第六號ニ掲クル國境線ヲ實査劃定スル爲主タル同盟及聯合國ノ任命スル五名、「チェッコ、スロヴァキア」國ノ任命スル一名及墺地利國ノ任命スル一名計七名ノ委員ヨリ成ル委員會ヲ本條約實施後十五日以內ニ設置スヘシ

委員會ノ決議ハ表決ノ過半數ニ依リ且當事國ヲ拘束スヘシ

第五十六條

「チェッコ、スロヴァキア」國ハ白國領土中「プラティ・スラヴァ」（「プレスブール」）ノ南方ニ位スル「ダニューブ」河右岸ノ部分ニ何等ノ軍事工作物ヲ構設セサルコトヲ約ス

第五十七條

「チェッコ、スロヴァキア」國カ其ノ人口ノ多數ト種族、言語又ハ宗教ヲ異ニスル住民ノ利益ヲ同國內ニ於テ保護スル爲主タル同盟及聯合國カ必要ト認ムル規定ヲ該諸國トノ條約中ニ設クルコトヲ約諾ス

「チェッコ、スロヴァキア」國ハ他國民ノ通商ニ關シ通過ノ自由ト制度ノ衡平トヲ保護スル爲主タル同盟及聯合國カ必要ト認ムル規定ヲ該諸國トノ條約中ニ設クルコトヲ均シク約諾ス

第五十八條

舊墺地利帝國ノ財政上ノ義務ニシテ「チェッコ、スロヴァキア」國カ其ノ主權ノ下ニ置キタル地域ニ關シ負擔スヘキモノノ割合及性質ハ第九編（財政條項）第二百三條ニ依リ之ヲ決定スヘシ

前記地域ノ割讓ノ結果生スルコトアルヘキ一切ノ問題ニシテ本條約ニ依リ決定セラレサルモノハ後日ノ取極ヲ以テ之ヲ決定スヘシ

第四款　羅馬尼亞國

第五十九條

墺地利國ハ舊「ブコヴィナ」公領中主タル同盟及聯合國ノ後日決定スヘキ羅馬尼亞國境ノ內ニ在ル部分ニ對スル一切ノ權利及權原ヲ自國ノ關スル限リ羅馬尼亞國ノ爲ニ拋棄ス

第六十條

羅馬尼亞國ハ其ノ人口ノ多數ト種族、言語又ハ宗教ヲ異ニスル住民ノ利益ヲ同國內ニ於テ保護スル爲主タル同盟及聯合國カ必要ト認ムル規定ヲ該諸國トノ條約中ニ設クルコトニ同意ス

羅馬尼亞國ハ他國民ノ通商ニ關シ通過ノ自由ト制度ノ衡平トヲ保護スル爲主タル同盟及聯合國カ必要ト認ムル規定ヲ該諸國トノ條約中ニ設クルコトニ均シク同意ス

第六十一條

舊墺地利帝國ノ財政上ノ義務ニシテ羅馬尼亞國カ其ノ主權ノ下ニ置キタル地域ニ關シ負擔スヘキモノノ割合及性質ハ第九編（財政條項）第二百三條ニ依リ之ヲ決定スヘシ

前記地域ノ割讓ノ結果生スルコトアルヘキ一切ノ問題ニシテ本條約ニ依リ決定セラレサルモノハ後日ノ取極ヲ以テ之ヲ決定スヘシ

第五款　少數民族ノ保護

第六十二條

墺地利國ハ本款ニ掲クル規定ヲ根本法ト爲スコトヲ承認シ自國ノ法令又ハ處分行爲カ右規定ニ牴觸又ハ背馳スルコト　カルヘク且右法令又ハ處分行爲ヲ以テ之カ效力ヲ左右スルコトナカルヘキコトヲ約ス

第六十三條

墺地利國ハ出生、國籍、言語、種族又ハ宗教ノ如何ヲ問ハス墺地利國內ノ一切ノ住民ニ對シ其ノ生命及自由ニ付充分且完全ナル保護ヲ與フルコトヲ約ス

墺地利國內ノ一切ノ住民ハ信仰、宗教又ハ信條ニシテ其ノ實行カ公ノ秩序及善良ノ風俗ニ反セサルモノニ限リ公タルト私タルトヲ問ハス自由ニ之ヲ行フコトヲ得ヘシ

第六十四條

墺地利國ハ本條約實施ノ際墺地利國版圖內ニ於テ住民資格（「ベルティネンザ」）ヲ有スル者ニシテ他國ノ國民ニ非サルモノカ總テ何等ノ方式ヲ要セス當然墺地利國民タルヘキコトヲ承認ス

第六十五條

墺地利國ノ版圖內ニ於テ生レタル者ハ生來ノ他國國籍ヲ主張シ得サル限リ總テ當然墺地利國國籍ヲ取得ス

第六十六條

墺地利國民ハ總テ法律ノ前ニ平等タルヘク且種族、言語又ハ宗教ノ如何ヲ問ハス同一ノ公權及私權ヲ享有スヘシ

宗教、信條又ハ歸依ノ如何ハ墺地利國民カ公職、公務及榮典ニ與リ又ハ種種ノ職業及產業ニ從事スルカ如キ公權及私權ノ享有ニ關シ何等ノ累ト爲ルコトナシ

墺地利國民ハ私交、商取引、宗教、新聞雜誌其ノ他各種ノ出版物又ハ公ノ集會ニ於テ如何ナル言語ヲ使用スルモ其ノ用語ノ自由ニ付テハ何等ノ制限ヲ課セラルルコトナカルヘシ

墺地利國政府カ公用語ヲ定メタル場合ト雖獨逸語ニ非サル言語ヲ用ヰル墺地利國民ハ口頭タルト書面タルトヲ問ハス法廷ニ於テ其ノ言語ヲ使用スルニ付相當ノ便宜ヲ供與セラルヘシ

第六十七條

種族、宗教又ハ言語上少數ニ屬スル墺地利國民ハ他ノ墺地利國民ト法律上及事實上同一ノ待遇及保障ヲ享クヘク殊ニ其ノ費用ヲ以テ慈善的、宗教的及社會的ノ施設竝學校其ノ他ノ教育設備ヲ開設、經營及管理シ且右ノ施設及設備ニ於テ自由ニ各自ノ言語ヲ用ヰ及宗教上ノ勤行ヲ爲スニ付均等ノ權利ヲ有スヘシ

第六十八條

學校教育ハ關シテハ墺地利國政府ハ獨逸語ニ非サル言語ヲ用ヰル墺地利國民ノ相當ニ多ク居住スル都市及地方ニ於テ右墺地利國民ノ兒童カ各自ノ言語ヲ以テ小學校ニ於ケル教育ヲ受クヘキコトヲ保障スル爲相當ノ便宜ヲ供與スヘシ但シ墺地利國政府カ右小學校ニ於テ獨逸語ヲ必須科目ト爲スコトヲ妨ケス

種族、宗教又ハ言語上少數ニ屬スル墺地利國民カ相當ニ多ク居住スル都市及地方ニ於テ右墺地利國民ハ國、都市其ノ他ノ豫算上公共基金中ヨリ教育、宗教又ハ慈善ノ目的ノ爲支出セラルルコトアルヘキ金額ノ支給又ハ割當ヲ受クルニ付衡平ナル配分ヲ保障セラルヘシ

第六十九條

墺地利國ノ種族、宗教又ハ言語上少數ニ屬スル者ニ關スル限リ本款前諸條ノ規定ヲ以テ國際的利害關係ヲ有スル義務ヲ設定スルモノトシ之ヲ國際聯盟ノ保障ノ下ニ置クヘキコトヲ約ス右規定ハ國際聯盟理事會ノ過半數ノ同意ヲ得ルニ非サレハ之ヲ變更スルコトヲ得ス國際聯盟理事會ニ代表セラルル同盟及聯合國ハ聯盟理事會カ過半數ヲ以テ正式ニ同意ヲ與ヘタル右諸條ノ變更ニ對シ何レモ同意ヲ拒マサルコトヲ約ス

墺地利國ハ前項義務中何レカ一ノ違反又ハ違反ノ虞アルコトヲ國際聯盟理事會ノ一員タル者カ聯盟理事會ニ注意スルノ權利ヲ有スルコト及聯盟理事會カ事宜ニ應シ適當ニシテ有效ナリト認ムル措置ヲ執リ且指示ヲ與ヘ得ヘキコトヲ約ス

墺地利國政府ト主タル同盟及聯合國中ノ一國又ハ國際聯盟理事會ノ一員タル其ノ他ノ國トノ間ニ於テ右諸條ヨリ生スル法律上又ハ事實上ノ問題ニ關シ意見ノ一致ヲ見サルトキハ墺地利國ハ之ヲ以テ國際聯盟規約第十四條ニ定ムル國際的性質ヲ有スル紛爭ト看做スヘキコトヲ約ス墺地利國政府ハ對手國ノ要求アルニ於テハ此ノ種ノ紛爭ヲ常設國際司法裁判所ニ付託スヘキコトヲ約ス常設國際司法裁判所ノ判決ハ終審タルヘキ該判決ハ右規約第十三條ニ據ル判決ト同一ノ效力ヲ有ス

第六款　國籍ニ關スル條項

第七十條

從前舊墺地利洪牙利君主國ノ領土ノ一部分タリシ地域内ニ住民資格（ペルテイネンザ）ヲ有スル一切ノ者ハ該地域ニ主權ヲ行使スル國ノ國籍ヲ當然取得シ墺地利國國籍ヲ喪失スヘシ

第七十一條

伊太利國ニ割讓セラルル地域ノ場合ニ於テハ左記ニ該當スル者ハ第七十條ノ規定ニ拘ラス當然ニハ伊太利國國籍ヲ取得スルコトナカルヘシ

一　該地域内ニ住民資格ヲ有スルモ該地域内ニ於テ出生セサリシ者

二　千九百十五年五月二十四日以後該地域内ニ住民資格ヲ取得シタル者又ハ公務上ノ地位ニ因リテノミ之ヲ取得シタル者

第七十二條

第七十一條ニ規定スル

（イ）伊太利國ニ割讓セラルル地域内ニ以前住民資格ヲ有セシ者又ハ父若ハ父知レサルトキハ母カ右地域内ニ住民資格ヲ有シタル者

（ロ）本戰爭中伊太利國軍隊ニ從軍セシ者及其ノ直系卑屬

ハ選擇權ニ關シ第七十八條ニ規定スル條件ニ從ヒ伊太利國國籍ヲ請求スルコトヲ得ヘシ

第七十三條

第七十二條ニ規定スル者ノ伊太利國國籍ノ請求ニ關シテハ個個ノ場合ニ付伊太利國當該官憲ニ於テ拒否ノ決定ヲ與フルコトアルヘシ

第七十四條

第七十二條ニ依ル伊太利國國籍ノ請求ナキトキ又ハ其ノ請求拒否セラレタルトキハ當事者ハ伊太利國ニ割讓セラルル地域内ニ住民資格ヲ取得スル前ニ住民資格ヲ有シタル地域ニ主權ヲ行使スル國ノ國籍ヲ當然取得スヘシ

第七十五條

伊太利國ニ割讓セラルル地域内ニ存在スル法人ニシテ伊太利國ノ行政官憲ニ依リ又ハ同國ノ司法上ノ決定ニ依リ其ノ資格ヲ認メラレタルモノハ之ヲ伊太利法人ト看做スヘシ

第七十六條

本條約ニ依リ「セルブ、クロアート、スロヴェーヌ」國又ハ「チエッコ、スロヴァキア」國ニ割讓セラルル地域内ニ千九百十年一月一日以後住民資格ヲ取得シタル者ハ第七十條ノ規定ニ拘ラス各場合ニ應シ「セルブ、クロアート、スロヴェーヌ」國又ハ「チエッコ、スロヴァキア」國ノ許可ヲ得ル

ニ非サレハ「セルブ、クロアート、スロヴェーヌ」國又ハ「チエッコ、スロヴァキア」國ノ國籍ヲ取得スルコトナカルヘシ

第七十七條

第七十六條ニ規定スル許可ノ申請ナキトキ又ハ其ノ許可拒否セラレタルトキハ當事者ハ從前其ノ住民資格ヲ有セシ地域ニ主權ヲ行使スル國ノ國籍ヲ當然取得スヘシ

第七十八條

第七十條ニ依リ墺地利國ノ國籍ヲ喪失シ當然新國籍ヲ取得スル十八歲以上ノ者ハ讓渡地域内ニ其ノ住民資格ヲ取得スル前ニ其ノ住民資格ヲ有シタル國ノ國籍ヲ本條約實施後一年以内ニ選擇スルノ權利ヲ有スヘシ

夫ノ國籍選擇ハ妻ニ、父母ノ國籍選擇ハ十八歲未滿ノ子ニ及フ

右選擇權ヲ行使シタル者ハ其ノ選擇シタル國ニ爾後十二月以内ニ其ノ住所ヲ移スコトヲ要ス

右ノ者ハ其ノ選擇權ノ行使前ニ住所ヲ有シタル他ノ國ノ領土内ニ其ノ不動產ヲ保有スルコトヲ得

各種ノ動產ハ之ヲ携帶スルコトヲ得ヘク之カ爲其ノ出入ニ對シ何等ノ稅金又ハ料金ヲ課セラルルコトナシ

第七十九條

本條約ニ規定スル人民一般投票ニ於テ投票スルコトヲ求メラルル住民ハ人民一般投票ヲ施行セシ地域ノ歸屬確定後六月以内ニ該地域カ歸屬セサリシ國ノ國籍ヲ選擇スルコトヲ得選擇權ニ關スル第七十八條ノ規定ハ本條ノ認ムル權利ノ行使ニ付之ヲ適用ス

第八十條

舊墺地利洪牙利君主國ノ一部分タル地域内ニ住民資格ヲ有スル者ニシテ該地域ノ人口ノ多數ト種族及言語ヲ異ニスルモノハ本條約實施後六月以内ニ墺地利國、伊太利國、波蘭國、羅馬尼亞國、「セルブ、クロアート、スロヴェーヌ」國又ハ「チェッコ、スロヴァキア」國ノ國籍ヲ選擇スルコトヲ得但シ當該國ノ人口ノ多數カ選擇權行使者ト同一ノ言語ヲ用ヰ且同一ノ種族ニ屬スル場合ニ得ルモノトス選擇權ノ行使ニ關スル第七十八條ノ規定ハ本條ノ認ムル權利ノ行使ニ付之ヲ適用ス

第八十一條

締約國ハ本條約又ハ同盟及聯合國ト獨逸國、洪牙利國若ハ露西亞國トノ間又ハ同盟及聯合國相互間ニ締結セラルル條約ニ依リ規定セラレ當事者ノ他國國籍ノ取得ヲ認容スル選擇權ノ行使ニ對シ何等ノ障礙ヲ加ヘサルコトヲ約ス

第八十二條

本款ノ規定ノ適用アル一切ノ場合ニ於テ妻ハ夫ノ身分ニ、十八歳未滿ノ子ハ父母ノ身分ニ從フ

第七款　歐羅巴諸國ニ關スル政治條項

一　白耳義國

第八十三條

墺地利國ハ戰前白耳義國ノ地位ヲ確立シタル千八百三十九年四月十九日ノ條約カ既ニ現時ノ事情ニ適合セサルニ至リタルコトヲ認メ自國ノ關スル限リ該條約ノ廢止ニ同意シ且前記千八百三十九年ノ條約ニ代フル爲主タル同盟及聯合國又ハ其ノ何レカノ國カ白耳義國政府又ハ和蘭政府ト締結スヘキ一切ノ條約ヲ竝ニ承認遵守スルコトヲ約ス該條約又ハ其ノ何レカノ規定ニ對シ墺地利國ノ正式加入ヲ求メラルル場合ニ於テハ墺地利國ハ玆ニ之ニ加入スヘキコトヲ約ス

二　盧森堡國

第八十四條

墺地利國ハ盧森堡大公國ノ中立ノ制度ノ廢止ニ自國ノ關スル限リ同意スルコトヲ聲明シ且同盟及聯合國カ大公國ニ關シテ締結スル一切ノ國際協定ヲ豫メ承認ス

三「シュレスウィヒ」

第八十五條

墺地利國ハ千八百六十四年十月三十日ノ條約ニ依リ丁抹國ナシテ拋棄セシメタル地域ニ關シ同盟及聯合國カ獨逸國ト締結スル一切ノ規定ヲ自國ノ關スル限リ承認スルコトヲ聲明ス

四　土耳其國及勃爾牙利國

第八十六條

墺地利國ハ土耳其國又ハ勃爾牙利國ニ於テ墺地利國又ハ其ノ國民ノ請求スルコトアルヘキ一切ノ權利、利益及特權ニシテ本條約ニ其ノ規定ヲ設ケサルモノニ關シ同盟及聯合國カ土耳其國及勃爾牙利國ト締結スルコトアルヘキ一切ノ協定ヲ自國ノ關スル限リ認諾スヘキコトヲ約ス

五　露西亞及露西亞諸國

第八十七條

一　墺地利國ハ千九百十四年八月一日ニ於テ前露西亞帝國ノ一部分タリシ一切ノ地域ノ獨立ヲ承認シ且永久動カスヘカラサルモノトシテ之ヲ尊重スヘキコトヲ約ス

墺地利國ハ第九編（財政條項）第二百十條及第十編（經濟條項）第二百四十四條ノ規定ニ從ヒ「ブレスト、リトウスク」條約竝舊墺地利洪牙利國政府ノ露西亞過激派政府ト締結シタル一切ノ條約及取極ノ失效ヲ自國ノ關スル限リ確認ス

同盟及聯合國ハ露西亞國カ本條約ノ原則ニ基ク回復及賠償ヲ墺地利國ヨリ取得スルノ權利ヲ明確ニ留保ス

二　墺地利國ハ同盟及聯合國カ千九百十四年八月一日ニ於ケル前露西亞帝國領土ノ全部又ハ一部ニ於テ既ニ成立シ又ハ將來成立スヘキ諸國ト締結スル一切ノ條約又ハ協定ノ完全ナル效力ヲ承認シ且右條約又ハ協定中ニ決定スル此等諸國ノ國境ヲ承認スルコトヲ約ス

第八款　一般規定

第八十八條

墺地利國ノ獨立ハ國際聯盟理事會ノ同意アル場合ヲ除クノ外動カスヘカラサルモノトス從テ墺地利國ハ該理事會ノ同意ナクシテ直接又ハ間接ニ且各種ノ手段（殊ニ其ノ國際聯盟ニ加入スルコトヲ許容セラルル迄他國ノ事項ニ干與スルコト）ニ依リ其ノ獨立ヲ危クスヘキ性質ヲ有スル何等ノ行爲ヲ爲ササルコトヲ約ス

第八十九條

墺地利國ハ主タル同盟及聯合國ノ決定スヘキ勃爾牙利國、希臘國、洪牙利國、波蘭國、羅馬尼亞國、「セルブ、クロアート、スロヴェーヌ」國及「チェッコ、スロヴァキア」國ノ國境ヲ認諾スルコトヲ玆ニ聲明ス

第九十條

墺地利國ハ同盟及聯合國ト舊墺地利洪牙利君主國ニ與シテ戰ヒタル諸國ノ間ニ既ニ締結セラレ又ハ將來締結セラルヘキ平和條約及追加條約ノ完全ナル效力ヲ承認シ、前獨逸帝國、洪牙利國、勃爾牙利王國及土耳其帝國ノ領土ニ關シ既ニ執ラレ又ハ將來執ラルヘキ如何ナル措置ヲモ承認シ且右條約ノ定ムル國境ヲ有スル諸新國ヲ承認スルコトヲ約ス

第九十一條

墺地利國ハ從前舊墺地利洪牙利君主國ニ屬セシ地域ニシテ第二編（墺地利國ノ境界）第二十七條ニ掲クル墺地利國ノ新國境外ニ位シ現ニ他ノ何國ニモ屬セサルモノノ上ニ有スル其ノ一切ノ權利及權原ヲ自國ノ關スル限リ主タル同盟及聯合國ノ爲ニ拋棄ス

墺地利國ハ主タル同盟及聯合國カ該地域ニ關シテ執ルヘキ措置殊ニ住民ノ國籍ニ關シテ執ルヘキ措置ヲ承認スルコトヲ約ス

第九十二條

舊墺地利洪牙利君主國領土ノ住民ハ何人ト雖千九百十四年七月二十八日ヨリ該地域ニ對スル主權ノ確定的承認ニ至ル間ノ其ノ政治上ノ態度ニ因リ又ハ本條約ニ依ル其ノ國籍ノ處理ニ因リ窘迫又ハ虐待ヲ受クルコトナシ

第九十三條

墺地利國ハ割讓地域ノ民政、軍政、財政、司法其ノ他ニ關スル各種ノ記錄、登錄簿、圖面、證書及文書ヲ遲滯ナク關係同盟國又ハ聯合國政府ニ引渡スヘシ若シ右ノ文書、記錄、登錄簿、證書又ハ圖面中他ニ移シタルモノアルトキハ墺地利國ハ關係同盟國又ハ聯合國政府ノ請求ニ應シ之ヲ引渡スヘシ

前項ニ掲クル記錄、登錄簿、圖面、證書又ハ文書ニシテ軍事的性質ヲ有

セサルモノノ中墺地利國ノ施政ニ均シク關係ヲ有シ從テ之カ引渡ニ因リ同國ノ施政ニ支障ヲ及ホスモノアル場合ニ於テハ同國ハ相互條件ノ下ニ關係同盟及聯合國政府ニ對シ該書類ニ付通告スヘキコトヲ約ス

第九十四條

住民ノ利益殊ニ其ノ私權、營業及職業ニ關シテハ墺地利國ト舊墺地利帝國ノ一地方ノ讓渡ヲ受ケタル各國又ハ舊墺地利洪牙利君主國ノ解體ニ因リ生シタル各國トノ間ニ別個ノ條約ヲ締結スヘシ

第四編　歐羅巴以外ニ於ケル墺地利國ノ利益

第九十五條

本條約ニ定ムル其ノ國境外ニ於テ墺地利國ハ舊墺地利洪牙利君主國又ハ其ノ同盟國ニ屬スルコトアルヘキ歐羅巴以外ノ總テノ地方ニ於ケル又ハ該地方ニ關スル一切ノ權利、權原又ハ特權竝墺地利國カ事由ノ如何ヲ問ハス同盟及聯合國ニ對シテ有スルコトアルヘキ一切ノ權利、權原又ハ特權ヲ自國ノ關スル限リ拋棄ス

墺地利國ハ前項ノ規定ヲ實行スル爲主タル同盟及聯合國カ必要ノ場合ニハ第三國ト協議シテ執リ又ハ執ルコトアルヘキ措置ヲ認諾スルコトヲ茲ニ約ス

第一款　摩洛哥國

第九十六條

墺地利國ハ千九百六年四月七日ノ「アルヘシラス」一般議定書竝千九百九年二月九日及千九百十一年十一月四日ノ佛蘭西獨逸兩國間ノ取極ニ依リ墺地利國ニ付與セラレタル一切ノ權利、權原又ハ特權ヲ自國ノ關スル限リ拋棄ス舊墺地利洪牙利君主國政府カ摩洛哥帝國ト締結シタル一切ノ條約、取極、協定又ハ契約ハ千九百十四年八月十二日以後廢止セラレタルモノト看做ス

墺地利國ハ如何ナル場合ニ於テモ前記ノ文書ヲ援用スルコトヲ得ス又佛蘭西國ト他ノ諸國トノ間ニ摩洛哥國ニ關シテ行ハルルコトアルヘキ商議ニ何等干渉セサルコトヲ約ス

第九十七條

墺地利國ハ舊墺地利洪牙利君主國政府ノ承認ニ係ル摩洛哥國ニ於ケル佛蘭西國ノ保護權確立ノ一切ノ結果ヲ容認シ且摩洛哥國ニ於ケル治外法權ヲ自國ノ關スル限リ拋棄スルコトヲ聲明ス

右拋棄ハ千九百十四年八月十二日ヨリ其ノ效力ヲ有スルモノトス

第九十八條

摩洛哥國政府ハ摩洛哥國ニ於ケル墺地利國民ノ地位及其ノ居住營業ノ條件ヲ定ムルコトニ付行動ノ完全ナル自由ヲ有スヘシ

墺地利ノ保護民、仲買人及農業組合員ハ千九百十四年八月十二日以後其ノ資格ニ伴フ特權ヲ享有セサルニ至リタルモノト看做シ普通法ノ適用ヲ受ケシムヘシ

第九十九條

摩洛哥帝國內ニ於ケル舊墺地利洪牙利君主國ノ動產及不動產ニ關スル一切ノ權利ハ無償ニテ摩洛哥國政府ニ當然歸屬ス

右ニ關シテハ舊墺地利洪牙利君主國ノ財產及所有物ニハ一切ノ帝室財產及舊墺地利洪牙利元首ノ一家ノ私財產ヲ包含スルモノト認ムヘシ

摩洛哥帝國內ニ於ケル墺地利國民所屬ノ動產及不動產ニ關スル一切ノ權利ハ第十編（經濟條項）第三款及第四款ニ依リ之ヲ處理スヘシ

摩洛哥國鑛業法令ニ依リ設置セル仲裁裁判所ニ於テ墺地利國民ニ屬スト認メラルヘキ鑛業權ハ摩洛哥國內ニ於ケル墺地利國民所屬ノ財產ト同樣ニ之ヲ取扱フヘシ

第百條

墺地利國政府ハ摩洛哥國立銀行ノ資本金中墺地利國ノ持分ニ相當スル株券ヲ佛蘭西國政府ノ指名スル者ニ讓渡スルコトヲ確保スヘシ右ノ者ハ國立銀行ノ指定スル該株券ノ價額ヲ其ノ權利者ニ辨償スヘシ

前記讓渡ハ墺地利國民カ摩洛哥國立銀行ニ對シ負擔シタル金錢債務ノ辨償ヲ害スルコトナクシテ行ハルヘシ

第百一條

摩洛哥國ノ貨物ハ墺地利國ニ輸入ノ際佛蘭西國ノ貨物ニ適用セラルル制度ノ利益ヲ享受スヘシ

第二款　埃及國

第百二條

墺地利國ハ千九百十四年十二月十八日大不列顛國カ宣言シタル埃及國ニ對スル保護權ヲ承認シ且埃及國ニ於ケル治外法權ヲ自國ノ關スル限リ拋棄スルコトヲ聲明ス

右拋棄ハ千九百十四年八月十二日ヨリ其ノ效力ヲ有スルモノトス

第百三條

舊墺地利洪牙利君主國政府カ埃及國ト締結シタル一切ノ條約、取極、協定又ハ契約ハ千九百十四年八月十二日以後廢止セラレタルモノト看做ス

墺地利國ハ如何ナル場合ニ於テモ前記ノ文書ヲ援用スルコトヲ得ス又不列顛國ト他ノ諸國トノ間ニ埃及國ニ關シテ行ハルルコトアルヘキ商議ニ何等干渉セサルコトヲ約ス

第百四條

一般管轄權ヲ有スル裁判所ノ設置ニ關スル埃及國裁判所構成法ノ施行ニ至ルニ迄ハ墺地利國民及其ノ財產ニ對スル裁判權ハ英國領事裁判所ニ於テ之ヲ行使シ得ルノ規定ヲ埃及國王殿下ノ命令ヲ以テ定ムヘシ

第百五條

埃及國政府ハ埃及國ニ於ケル墺地利國民ノ地位及其ノ居住營業ノ條件ヲ定ムルコトニ付行動ノ完全ナル自由ヲ有スヘシ

第百六條

墺地利國ハ埃及太守殿下カ埃及國公債委員會ニ關シ發布シタル千九百四年十一月二十八日ノ命令ヲ廢止シ又ハ埃及國政府ノ希望スル變更ヲ同命令ニ加フルコトニ自國ノ關スル限リ同意ス

第百七條

墺地利國ハ蘇士運河ノ自由航行ニ付千八百八十八年十月二十九日「コンスタンティノープル」ニ於テ署名シタル條約ニ依リ土耳其國皇帝陛下ニ付與セラレタル權能ヲ英國政府ニ移轉スルコトニ自國ノ關スル限リ同意ス

墺地利國ハ埃及國ノ衞生海事及檢疫委員會ニ干與スル一切ノ權利ヲ拋棄シ且右委員會ノ權能ヲ埃及國官憲ニ移轉スルコトニ自國ノ關スル限リ同意ス

第百八條

埃及國ニ於ケル舊墺地利洪牙利君主國ノ一切ノ財產及所有物ハ無償ニテ埃及國政府ニ當然歸屬ス

右ニ關シテハ舊墺地利洪牙利君主國ノ財産及所有物ニハ一切ノ帝室財産及舊墺地利洪牙利元首ノ一家ノ私財産ヲ包含スルモノト認ムヘシ

埃及國內ニ於ケル舊墺地利國民所屬ノ一切ノ動産及不動産ハ第十編（經濟條項）第三款及第四款ニ依リ之ヲ處理スヘシ

第百九條

埃及國ノ貨物ハ墺地利國ニ輸入ノ際英國ノ貨物ニ適用セラルル制度ノ利益ヲ享受スヘシ

第三款　暹羅國

第百十條

墺地利國ハ舊墺地利洪牙利君主國カ暹羅國ト締結シタル一切ノ條約又ハ取極及之ニ基ク一切ノ權利、權原又ハ特權ハ暹羅國ニ於ケル領事裁判ニ關スル一切ノ權利ト共ニ千九百十七年七月二十二日以後消滅シタルコトヲ自國ノ關スル限リ承認ス

第百十一條

墺地利國ハ暹羅國內ニ於ケル舊墺地利洪牙利君主國所屬ノ財產及所有物上ノ一切ノ權利ヲ暹羅國ニ自國ノ關スル限リ讓渡ス但シ外交官又ハ領事官ノ住宅又ハ事務所トシテ使用スル建物竝其ノ內ニ在ル所有品及家具ハ此ノ限ニ在ラス暹羅國政府ハ無償ニテ前記ノ財產及所有物ヲ當然取得スヘシ

暹羅國ニ於ケル墺地利國民ノ財產、所有物及私權ハ第十編（經濟條項）ノ規定ニ依リ之ヲ處理スヘシ

第百十二條

墺地利國ハ墺地利財產ノ清算又ハ暹羅國ニ於ケル墺地利國民ノ抑留ニ關

シ暹羅國政府ニ對シテ有スル一切ノ請求權ヲ自國又ハ其ノ國民ノ名ニ於テ拋棄ス但シ清算殘高ニ對スル利害關係人ノ權利ハ第十編（經濟條項）ノ規定ニ依リ處理セラルヘキモノニシテ本條ノ規定ハ其ノ權利ニ影響スルコトナカルヘシ

第四款　支那國

第百十三條

墺地利國ハ千九百一年九月七日北京ニ於テ署名シタル最終議定書ノ規定竝之ヲ補足スル一切ノ附屬書、公文及文書ヨリ生スル特權及利益ヲ自國ノ關スル限リ總テ支那國ノ爲ニ拋棄ス墺地利國ハ又該議定書ニ基ク償金請求權ヲ千九百十七年八月十四日以後支那國ノ爲ニ拋棄ス

第百十四條

本條約實施後各締約國ハ自國ノ關スル限リ左ノ協定ヲ適用スヘシ

一　支那新關稅率ニ關スル千九百二年八月二十九日ノ協定

二　黃浦江ニ關スル千九百五年九月二十七日ノ協定及千九百十二年四月四日ノ追加假協定

但シ支那國ハ前記協定ニ依リ舊墺地利洪牙利君主國ニ許與セシ利益又ハ特權ヲ墺地利國ニ認ムルノ義務ナカルヘシ

第百十五條

墺地利國ハ天津ニ在ル墺地利洪牙利專管居留地又ハ支那國領土ノ地ノ部分內ニ存在シ又ハ存在スルコトアルヘキ舊墺地利洪牙利君主國所屬ノ建築物、埠頭及艀船、兵器、堡壘及軍需品、各種艦船、無線電信設備其ノ他ノ公財產上ノ一切ノ權利ヲ支那國ニ自國ノ關スル限リ讓渡ス

外交官又ハ領事官ノ住宅又ハ事務所ニ使用シタル建物竝其ノ內ニ在ル所有品及家具ハ之ヲ前記讓渡物件中ニ包含セス又支那國政府ハ千九百一年九月七日ノ最終議定書ノ本條約實施當時ノ當事國タル列國ノ外交代表者ノ同意アルニ非サレハ所謂北京公使館區域內ニ在ル舊墺地利洪牙利君主國ノ公私財產ノ處分ニ付何等ノ處置ヲ執ルコトヲ得ス

第百十六條

墺地利國ハ天津ニ於テ墺地利洪牙利專管居留地ヲ現ニ保有スルノ基礎タル支那國政府トノ契約ノ失效ニ自國ノ關スル限リ同意ス

支那國ハ前記地域ニ於テ其ノ主權ノ完全ナル行使ヲ回復スルト共ニ各國人ノ居住及通商ノ爲該地域ヲ開放スルノ意思ヲ聲明ス尙支那國ハ前記專管居留地ヲ現ニ保有スルノ基礎タル契約ノ失效カ其ノ專管居留地內ニ於ケル地區ノ保有者タル同盟及聯合國國民ノ財產權ニ影響ナカルヘキコトヲ聲明ス

第百十七條

墺地利國ハ支那國ニ於ケル墺地利國民ノ抑留及送還ニ因リ生スル支那國政府又ハ同盟國若ハ聯合國政府ニ對スル一切ノ請求權ヲ拋棄ス墺地利國ハ千九百十七年八月十四日以後支那國ニ於ケル墺地利洪牙利船舶ノ抑留又ハ同國內ニ於ケル墺地利ノ財產、權利及利益ニ對スル清算、保管若ハ處分ニ因リ生スル一切ノ請求權ヲ自國ノ關スル限リ均シク拋棄ス但シ清算殘高ニ對スル利害關係人ノ權利ハ第十編（經濟條項）ノ規定ニ依リ處理セラルヘキモノニシテ本條ノ規定ハ其ノ權利ニ影響スルコトナカルヘシ

第五編　陸軍海軍及航空條項

各國軍備ノ一般的制限ノ企圖ヲ實現セシムル爲墺地利國ハ左ニ揭クル陸軍海軍及航空條項ヲ嚴ニ遵守スルコトヲ約ス

第一款　陸軍條項

第一章　一般條項

第百十八條

墺地利國陸軍ハ本條約實施後三月以內ニ次ニ揭クル範圍內ニ於テ之ヲ復員スヘシ

第百十九條

墺地利國ニ於ケル一般義務兵役制度ハ之ヲ廢止スヘシ墺地利國陸軍ハ將來志願兵制度ニ依ルニ非サレハ之ヲ組織シ且補充スルコトヲ得ス

第二章　墺地利國陸軍ノ兵力及幹部

第百二十條

墺地利國陸軍ノ總兵員數ハ將校及補充部隊要員ヲ含セテ三萬人ヲ超ユルコトヲ得ス

墺地利國陸軍ヲ組織スル部隊ノ編制ハ同國任意ニ之ヲ定ムヘシ但シ左記ノ制限ヲ受クヘキモノトス

一　各部隊ノ人員數ハ必ス本款第四附屬表ニ揭クル最大限及最小限ノ範圍內タルヘシ

二　將校ノ員數ハ司令部部員及特種勤務部部員ヲ含セテ現役總兵員數ノ二十分ノ一、下士ノ員數ハ現役總兵員數ノ十五分ノ一ヲ超ユルコトヲ得ス

三　機關銃、加農砲及榴彈砲ノ數ハ現役總兵員數ノ每千人ニ付本款第五附屬表ニ揭クル定數ヲ超過スヘカラス

墺地利國ノ陸軍ハ專ラ其ノ版圖內ノ秩序維持及國境ノ警備ニ之ヲ使用スヘシ

【外務版】

第百二十一條

塊地利國カ編成シ得ル司令部ノ人員及一切ノ部隊ノ人員ノ最大限ハ本款附屬表ニ之ヲ掲ク該數字ハ嚴守スルコトヲ要セサルモ超過スルコトヲ得ス

軍隊統率又ハ戰爭準備ノ爲ノ他ノ機關ノ設置ハ總テ之ヲ禁止ス

第百二十二條

動員又ハ之ニ關スル一切ノ措置ハ之ヲ禁止ス

如何ナル場合ト雖軍隊、官衙及司令部ハ定員外ノ幹部ヲ有スルコトヲ得ス

畜類又ハ他ノ軍用輸送機關ノ徵發ヲ目的トスル準備的措置ハ之ヲ行フコトヲ禁止ス

第百二十三條

憲兵、稅關吏、森林看守、地方若ハ都市ノ警察官吏又ハ之ニ類似スル他ノ官吏ノ數ハ本條約ニ定ムル塊地利國ノ版圖內ニ於テ千九百十三年ニ同樣ノ職務ヲ執行セシ者ニシテ現ニ服務スルモノノ數ヲ超ユヘカラス

右官吏ノ數ハ當該地方又ハ都市ニ於ケル人口增加率ニ相應スル割合內ニ於テスルニ非サレハ將來之ヲ增員スルコトヲ得ス

前記ノ傭員及官吏竝鐵道事務ニ從事スル傭員及官吏ハ軍事教育參加ノ爲之ヲ召集スルコトヲ得ス

第百二十四條

本款附屬表ニ掲載セサル部隊ノ編成ハ總テ之ヲ禁止ス承認セラレタル兵員數三萬人以外ニ存スルコトアルヘキ部隊ハ第百十八條ノ期間內ニ之ヲ解散スヘシ

第三章　募兵及軍事教育

第百二十五條

塊地利國陸軍ニ引續キ在職スル現ニ服役中ノ將校ハ少クトモ四十歲迄ノ服役ヲ約スルコトヲ要ス現ニ服役中ノ將校ニシテ新陸軍ニ入ラサルモノハ軍事上ノ一切ノ義務ヲ免除セラルヘク學理ト實地トヲ問ハス一切ノ軍事教育ニ參加スルコトヲ得ス

新ニ任命セラルル將校ハ少クトモ繼續二十年間ノ現役服務ヲ約スルコトヲ要ス

服役期間滿了前理由ノ如何ヲ問ハス服役ヲ免セラルル將校ノ數ハ每年第百二十條ノ將校總員定數ノ二十分ノ一ヲ超ユヘカラス不可抗力ニ因リ此ノ比率ヲ超過スル場合ト雖之カ爲生スル幹部ノ闕員ハ新ナル任命ニ依リ之ヲ補充スルコトヲ得ス

第百二十六條

下士及兵卒ノ全服役期間ハ繼續十二年ヲ下ルヲ得サルモノトシ內少クトモ六年ハ現役タルヘシ

服役期間滿了前健康上ノ理由又ハ軍紀上ノ措置其ノ他ノ理由ニ因リ服役ヲ免セラルル下士卒ノ數ハ每年第百二十條ノ總兵員定數ノ二十分ノ一ヲ超ユヘカラス不可抗力ニ因リ此ノ比率ヲ超過スル場合ト雖之カ爲生スル闕員ハ新志願兵ニ依リ之ヲ補充スルコトヲ得ス

第四章　學校、教育機關、陸軍ノ會及協會等

第百二十七條

陸軍學校ノ課程ヲ修ムルノ許可ヲ得タル學生ノ數ハ將校定員中充足スヘキ闕員ノ數ト嚴ニ比例スルコトヲ要ス此等學生及幹部ノ數ハ第百二十條ノ兵員定數中ニ算入スヘキモノトス

依テ右ノ必要ニ應セサル陸軍學校ハ總テ之ヲ廢止スヘシ

第百二十八條

第百二十七條ノ規定以外ノ教育機關及一切ノ競技會其ノ他ノ會ハ何等軍事上ノ事項ニ干與スヘカラサルモノトス

第五章　兵器、彈藥、材料及築城

第百二十九條

本條約實施後三月ノ期間滿了ノ日ニ於テ塊地利國陸軍ノ兵器ハ每千人ニ付本款第五附屬表ニ掲クル定數ヲ超過スヘカラス

兵員數トノ關係上過剩ノ兵器ハ補充ノ必要偶發シタル場合ニノミ之ヲ用ヰルヘキモノトス

第百三十條

塊地利國陸軍カ任意ニ處分シ得ヘキ彈藥ノ貯藏量ハ本款第五附屬表ノ定數ヲ超ユルコトヲ得ス

本條約實施後三月以內ニ塊地利國政府ハ兵器及彈藥ノ現存過剩額ヲ主タル同盟及聯合國ノ指定スル場所ニ集積スヘシ

右ノ外彈藥ノ貯藏所、補給廠又ハ豫備彈藥ハ之ヲ存置スルコトヲ得ス

第百三十一條

塊地利國ニ現存スル要塞ノ常置固定兵備ヲ構成スル火砲ノ數及口徑ハ直ニ主タル同盟及聯合國ニ通知セラルヘク且右ノ數及口徑ハ超過シ得サル最大限タルヘシ

前記火砲用ノ彈藥ノ最大貯藏量ハ本條約實施後三月以內ニ之ヲ左ノ定率ニ低減シ且之ヲ持續スヘシ

口徑百五密米以下ノ火砲　一門ニ付　千五百發

口徑百五密米ヲ超ユル火砲　一門ニ付　五百發

（外務省）

第百三十二條

塊地利國ノ兵器、彈藥及軍用材料ハ唯一ノ工場ニ於テノミ之ヲ製造スルコトヲ得右工場ハ之ヲ國有トシ國自ラ之ヲ管理スヘク其ノ製造高ハ第百二十條、第百二十三條及第百二十九條乃至第百三十一條ニ規定セル陸軍兵力及兵器ニ必要ナルモノニ嚴ニ制限セラルヘシ

獵銃ノ製造ハ之ヲ禁止セス但シ塊地利國ニ於テ製造セラレ且實彈ヲ使用スル獵銃ハ歐羅巴ニ於ケル如何ナル國ノ陸軍ノ軍用銃トモ同一ノ口徑ナラサルコトヲ要ス

兵器、彈藥其ノ他一切ノ軍用材料ノ製造、準備、貯藏又ハ研究ヲ目的トスル前記以外ノ一切ノ設備ハ本條約實施後三月以內ニ或ハ之ヲ閉鎖シ或ハ純然タル商業上ノ用途ニ供スル爲之ヲ變改スヘシ

承認セラレタル貯藏彈藥ノ補給廠トシテ使用スルモノヲ除クノ外一切ノ軍用工場ハ右同一ノ期間內ニ均シク之ヲ閉鎖シ其ノ人員ハ之ヲ解備スヘシ

諸設備又ハ諸軍用工場ノ裝置ニシテ承認セラレタル製造上ノ所要ヲ超ユルモノハ第百五十三條ノ同盟國國際陸軍監督委員會ノ決議ニ遵ヒ或ハ之ヲ廢棄シ或ハ純然タル商業上ノ用途ニ供スル爲之ヲ變改スヘシ

第百三十三條

塊地利國內ニ在ル一切ノ兵器、彈藥及軍用材料（總テノ對航空機材料ヲ含ム）ニシテ承認セラレタル數量ヲ超ユルモノハ其ノ原產地ノ如何ヲ問ハス本條約實施後三月以內ニ總テ主タル同盟及聯合國ニ之ヲ引渡スヘシ

前項ノ引渡ハ前記諸國ノ指定スル墺地利國版圖内ノ地點ニ於テ之ヲ實行スヘシ該諸國ハ又前記材料ノ處分ヲ決スヘキモノトス

第百三十四條

墺地利國ニ對スル兵器、彈藥及一切ノ軍用材料ノ輸入ハ明ニ之ヲ禁止ス」外國ニ仕向ケラルル兵器、彈藥及一切ノ軍用材料ノ製造及其ノ輸出ニ付亦同シ

第百三十五條

火焰發射器及窒息性、毒性又ハ類似ノ瓦斯竝之ニ類似スル一切ノ液體、材料又ハ考案ハ其ノ使用ヲ禁止セラレアルニ因リ墺地利國内ニ於テ其ノ製造又ハ輸入ヲ嚴禁ス

右物品又ハ考案ノ製造、保存又ハ使用ヲ特ニ目的トスル材料ニ付亦同シ」

裝甲車、裝甲戰車(タンク)又ハ軍用ニ供シ得ル之ニ類似スル他ノ一切ノ機械ノ墺地利國内ニ於ケル製造及輸入モ亦均シク之ヲ禁止ス

第一附屬表　歩兵師團ノ編制及最大人員

部隊	各部隊ノ最大人員 將校	下士卒
歩兵師團司令部	二五	七〇
師團歩兵司令部	五	五〇
師團砲兵司令部	四	三〇
歩兵聯隊三(註一)(各聯隊ノ人員ハ將校六五及下士卒二、〇〇〇トス)	一九五	六、〇〇〇
騎兵中隊 一	六	一六〇
迫撃砲大隊 一(中隊三)	一四	五〇〇
工兵大隊 一(註二)	一四	五〇〇
野戰砲兵聯隊 一(註三)	八〇	一、二〇〇
自轉車大隊 一(中隊三)	一八	四五〇
通信隊 一(註四)	一一	三三〇
師團衛生隊	二八	五五〇
諸廠及輜重隊	一四	九四〇
歩兵師團合計	四一四	一〇、七八〇

(註一)　各聯隊ハ歩兵大隊三ヨリ成リ各大隊ハ歩兵中隊三及機關銃中隊一ヨリ成ル

(註二)　各大隊ハ大隊本部一、工兵中隊二、橋艤班一及探照燈班一ヨリ成ル

(註三)　各聯隊ハ聯隊本部一、野砲兵又ハ山砲兵ノ大隊三(全中隊數八)ヨリ成リ各中隊ハ野戰用又ハ山地戰用ノ加農砲又ハ榴彈砲四ヲ有ス

(註四)　本通信隊ハ電話電信隊二、聽取班一及軍用鳩班一ヨリ成ル

第二附屬表　騎兵師團ノ編制及最大人員

部隊	同一師團内各部隊ノ最大數	各部隊ノ最大人員 將校	下士卒
騎兵師團司令部	一	一五	五〇
騎兵聯隊	三	七二〇	二〇
騎兵中隊	六	一六〇	三
騎兵聯隊	三	七二〇	二〇
騎兵中隊	六	一六〇	三
騎兵砲兵大隊	一	五	一五〇
野戰砲兵大隊(中隊三)	一	三〇	四三〇
自動車機關銃及自動車砲大隊(註三)	一	四	八〇
諸勤務部	一	三〇	五〇〇
騎兵師團(聯隊六)合計	一	二五九	五、三八〇

(註一)　各聯隊ハ中隊四ヨリ成ル

(註二)　各大隊ハ戰闘車九(各戰闘車ハ火砲一、機關銃一及豫備機關銃一ヲ有ス)、通信車四、補給用小自動貨車二、自動貨車七(工場車一ヲ含ム)、自動自轉車四ヲ有ス

備考―騎兵ノ大部隊ハ其ノ聯隊數ヲ不定數トシ爲スコトヲ得ルノミナラス上記兵員數ノ範圍内ニ於テ之ヲ獨立旅團ニ編成スルコトヲ得

第三附屬表　混成旅團ノ編制及最大人員

部隊	各部隊ノ最大人員 將校	下士卒
旅團司令部	一〇	五〇
歩兵聯隊 二(註一)	一三〇	四、〇〇〇
自轉車大隊 一	一八	四五〇
騎兵中隊 一	五	一〇〇
野戰砲兵大隊 一	二〇	四〇〇

部隊	最大人員(參考) 將校	下士卒	最少人員 將校	下士卒
歩兵師團	四一四	一〇、七八〇	三〇〇	八、〇〇〇
騎兵師團	二五九	五、三八〇	一八〇	三、六五〇
混成旅團	一九八	五、三五〇	一四〇	四、二五〇
歩兵聯隊	六五	二、〇〇〇	五二	一、六〇〇
歩兵大隊	一六	六五〇	一二	五〇〇
歩兵中隊又ハ機關銃中隊	三	一六〇	二	一二〇
自轉車大隊	一八	四五〇	一二	三〇〇
騎兵聯隊	三〇	七二〇	二〇	四五〇
騎兵中隊	六	一六〇	三	一〇〇

迫撃砲中隊 一	五	一五〇
諸勤務部	一〇	二〇〇
混成旅團合計	一九八	五、三五〇

(註一)　各聯隊ハ歩兵大隊三ヨリ成リ各大隊ハ歩兵中隊三及機關銃中隊一ヨリ成ル

第四附屬表　陸軍ノ採用スヘキ編制ノ如何ヲ問ハス部隊ノ有スヘキ最少人員(師團、混成旅團等)

砲兵聯隊	八〇	一、二〇〇	六〇	一、〇〇〇
野戰砲兵中隊	四	一五〇	二	一二〇
迫擊砲中隊	三	一五〇	二	一〇〇
工兵大隊	一四	五〇〇	八	三〇〇
山砲兵中隊	五	三二〇	三	二〇〇

第五附屬表　承認セラレタル兵器最大限數及彈藥最大貯藏量

品目	每千人ニ對スル數量	各兵器（步兵銃、火砲等）ニ對スル彈藥ノ數量
步兵銃又ハ騎銃（註一）	一、一五〇	五〇〇發
重機關銃又ハ輕機關銃	一五	一〇、〇〇〇發
輕迫擊砲	二	一、〇〇〇發
中迫擊砲		五〇〇發
野戰用又ハ山地戰用ノ加農砲又ハ榴彈砲	三	一、〇〇〇發

（註一）自動步兵銃又ハ自動騎銃ハ之ヲ輕機關銃トシテ計算ス
重砲卽チ口徑百五密米ヲ超ユルモノハ要塞ノ常置兵備ヲ構成スル重砲以外ニハ之ヲ承認セス

第二款　海軍條項

第百三十六條

本條約實施ノ日以後一切ノ墺地利洪牙利國艦艇（潛水艦ヲ含ム）ハ主タル同盟及聯合國ニ確定的ニ之ヲ引渡シタルモノト聲明ス

「ダニューブ」艦隊ノ「モニトル」艦、水雷艇及武裝船ハ總テ主タル同盟及聯合國ニ之ヲ引渡スヘシ

尤モ墺地利國ハ河上警察ノ爲第百五十四條ノ委員會ノ爲ス選定ヲ條件トシテ巡邏船三隻ヲ「ダニューブ」河上ニ保有スルノ權利ヲ有ス

第百三十七條

左ニ列記スル墺地利洪牙利國ノ補助巡洋艦及補助特務船ハ武裝ヲ解除シ商船トシテ之ヲ取扱フヘシ

「ボスニア」
「ガブロンツ」
「カロリナ」
「アフリカ」
「ティロール」
「ヘルキュールス」
「ポーラ」
「ナヤーデ」
「プルート」
「プレシデスト、ウィルソン」
（舊「カイゼル フランツ、ヨセフ」）
「アルヘンティーナ」
「ルッシン」
「テオド」
「ニクセ」
「ヒガンテ」
「ダルマート」
「ペルシア」
「プリンス、ホーヘンローヘ」
「ガスタイン」
「トリエスト」
「バロン、ブルック」
「エリザベート」
「メトカヴィッチ」
「バロン、カル」
「ゲーア」
「シクロップ」
「ヴェスタ」

「ヘルーアン」
「ニムフェ」
「グラーフ、ウールムブラント」「ビュッフエル」
「ペリカン」

第百三十八條

墺地利國又ハ舊墺地利洪牙利君主國ノ所屬港灣ニ於テ現ニ建造中ノ艦艇（潛水艦ヲ含ム）ハ總テ之ヲ解體スヘシ

該艦艇ノ解體作業ハ本條約實施後成ルヘク速ニ之ニ著手スルコトヲ要ス

第百三十九條

水上艦艇タルト潛水艦タルトヲ問ハス各種ノ墺地利洪牙利國艦艇ノ解體ニ因リテ生シタル一切ノ物品、機械及材料ハ純然タル產業上又ハ商業上ノ目的外ニ之ヲ使用スルコトヲ得ス

前項ノ物品、機械及材料ハ外國ニ之ヲ賣却シ又ハ讓渡スルコトヲ得ス

第百四十條

一切ノ潛水艦船ノ建造又ハ取得ハ墺地利國ニ於テ禁止セラルヘシ商業用ノモノト雖異ルコトナシ

第百四十一條

千九百十八年十一月三日ノ休戰條約ノ署名當時墺地利洪牙利國ニ屬シタル一切ノ兵器、彈藥及海軍用材料（機雷及魚雷ヲ含ム）ハ確定的ニ主タル同盟及聯合國ニ之ヲ引渡シタルモノト聲明ス

第百四十二條

墺地利國ハ前諸條ノ物件ノ引渡（第百三十六條及第百四十一條）、武裝解除（第百三十七條）、解體（第百三十八條）及取扱（第百三十七條）又ハ使用（第百三十九條）ニ關シテハ自國ノ版圖內ニ存在スル物件ニ付テノミ其ノ責ニ任スルモノトス

第百四十三條

本條約實施後三月ノ期間維納ノ墺地利國大電力無線電信所ハ主タル同盟及聯合國ノ許可アルニ非サレハ墺地利國又ハ戰時中墺地利洪牙利國ノ同盟國タリシ他ノ國ニ利害關係アル海陸軍事上又ハ政治上ノ問題ノ通信ニ之ヲ使用スルコトヲ得ス該無線電信所ハ主タル同盟及聯合國ノ監視ノ下ニ於テノミ商業上ノ電信ヲ發受スルコトヲ得ヘク使用スル波長ハ右諸國之ヲ決定ス

前項ノ期間墺地利國ハ其ノ版圖內又ハ洪牙利國、獨逸國、勃爾牙利國若ハ土耳其國ノ版圖內ニ大電力無線電信所ヲ建設スルコトヲ得ス

第三款　陸海軍ノ航空ニ關スル條項

第百四十四條

墺地利國軍ニハ陸軍又ハ海軍ノ航空隊ヲ包含セサルコトヲ要ス

航空船ハ之ヲ保有スルコトヲ得ス

第百四十五條

現ニ墺地利國陸海軍軍人名簿ニ錄セラルル航空隊ノ兵員ハ本條約實施後二月以內ニ之ヲ復員スヘシ

第百四十六條

同盟及聯合國ノ航空機ハ同盟及聯合國軍隊ノ墺地利國版圖內ヨリ完全ニ撤退スルニ至ル迄ノ間墺地利國內ニ於テ航空ノ自由竝通過及著陸ノ自由ヲ有ス

第百四十七條

航空機、航空機ノ部品、航空機用發動機及航空機用發動機ノ部品ノ製造、

又ハ入手セシムルノ任務ヲ有スル一切ノ情報又ハ文書ヲ該委員會ニ供給シ

第百五十二條

監督委員會ノ維持及經費竝其ノ任務ヲ爲ス必要ノ場合ニハ所定材料ノ移動ヲ許可シ且該材料ノ引渡ヲ受クルノ任務ヲ特ニ有スヘシ

埃及ニ於ケル埃及政府ノ經費ヲ以テスル埃及ノ陸軍ノ維持及經費竝其ノ任務ハ埃及ニ於ケル同盟及聯合國ノ軍隊ノ駐屯ニ關スル一九三六年八月二十六日ノ條約ノ規定ニ從フヘシ

第百五十三條

埃及ニ於ケル埃及政府ノ經費ヲ以テスル埃及ノ空軍ノ維持及經費竝其ノ任務ハ埃及ニ於ケル同盟及聯合國ノ軍隊ノ駐屯ニ關スル一九三六年八月二十六日ノ條約ノ規定ニ從フヘシ

第百五十四條

同委員會ハ兵器彈藥及陸軍用材料ノ引渡ヲ受ケ且所定ノ破壞又ハ解體ヲ監督シ、同國際軍事監督委員會ハ造船所ニ在テ建造中ノ艦艇ニ付キ監督シ、行ハルヘキ地點ニ在テ兵器彈藥及陸軍用材料ノ引渡ヲ受ケ且所定ノ破壞又ハ解體ヲ監督シ、同委員會ハ兵器彈藥及陸軍用材料及軍事製造用裝置ノ引渡ヲ受ケ、右引渡ノ際ニ於ケル埃及ノ作業狀態ニ關スル通報ヲ埃地利國政府ヨリ受領スルノ任務ヲ特ニ有スヘシ

第百五十五條

同委員會ハ兵器彈藥及陸軍用材料及軍事製造用裝置ノ引渡ヲ受ケ、右引渡ノ際ニ於ケル埃及ノ作業狀態ニ關スル通報ヲ埃地利國政府ヨリ受領スルノ任務ヲ特ニ有スヘシ

第百五十六條

同國際陸軍監督委員會ハ彈藥ノ貯藏所及補給廠ノ位置、築城工事ノ位置及其ノ兵備竝兵器彈藥及軍用材料ノ工場又ハ製造場ノ位置ヲ監督シ、同委員會ハ兵器彈藥及陸軍用材料ノ引渡ヲ受ケ且所定ノ破壞又ハ解體ヲ監督シ、行ハルヘキ地點ニ在テ兵器彈藥及陸軍用材料ノ引渡ヲ受ケ且所定ノ破壞又ハ解體ヲ監督シ、同委員會ハ兵器彈藥及陸軍用材料及軍事製造用裝置ノ引渡ヲ受ケ、右引渡ノ際ニ於ケル埃及ノ作業狀態ニ關スル通報ヲ埃地利國政府ヨリ受領スルノ任務ヲ特ニ有スヘシ

第百五十七條

同國際陸軍監督委員會ハ彈藥ノ貯藏所及補給廠ノ位置、築城工事ノ位置及其ノ兵備竝兵器彈藥及軍用材料及軍事製造用裝置ノ引渡ヲ受ケ、右引渡ノ際ニ於ケル埃及ノ作業狀態ニ關スル通報ヲ埃地利國政府ヨリ受領スルノ任務ヲ特ニ有スヘシ

第百五十八條

同國際陸軍監督委員會ハ彈藥ノ貯藏所及補給廠ノ位置、築城工事ノ位置及其ノ兵備竝兵器彈藥及軍用材料及軍事製造用裝置ノ引渡ヲ受ケ、右引渡ノ際ニ於ケル埃及ノ作業狀態ニ關スル通報ヲ埃地利國政府ヨリ受領スルノ任務ヲ特ニ有スヘシ

第百五十九條

同國際陸軍監督委員會ハ彈藥ノ貯藏所及補給廠ノ位置、築城工事ノ位置及其ノ兵備竝兵器彈藥及軍用材料及軍事製造用裝置ノ引渡ヲ受ケ、右引渡ノ際ニ於ケル埃及ノ作業狀態ニ關スル通報ヲ埃地利國政府ヨリ受領スルノ任務ヲ特ニ有スヘシ

第百六十條

同國際陸軍監督委員會ハ彈藥ノ貯藏所及補給廠ノ位置、築城工事ノ位置及其ノ兵備竝兵器彈藥及軍用材料及軍事製造用裝置ノ引渡ヲ受ケ、右引渡ノ際ニ於ケル埃及ノ作業狀態ニ關スル通報ヲ埃地利國政府ヨリ受領スルノ任務ヲ特ニ有スヘシ

第百六十一條

同國際陸軍監督委員會ハ彈藥ノ貯藏所及補給廠ノ位置、築城工事ノ位置及其ノ兵備竝兵器彈藥及軍用材料及軍事製造用裝置ノ引渡ヲ受ケ、右引渡ノ際ニ於ケル埃及ノ作業狀態ニ關スル通報ヲ埃地利國政府ヨリ受領スルノ任務ヲ特ニ有スヘシ

第百六十二條

同國際陸軍監督委員會ハ彈藥ノ貯藏所及補給廠ノ位置、築城工事ノ位置及其ノ兵備竝兵器彈藥及軍用材料及軍事製造用裝置ノ引渡ヲ受ケ、右引渡ノ際ニ於ケル埃及ノ作業狀態ニ關スル通報ヲ埃地利國政府ヨリ受領スルノ任務ヲ特ニ有スヘシ

第百六十三條

同國際陸軍監督委員會ハ彈藥ノ貯藏所及補給廠ノ位置、築城工事ノ位置及其ノ兵備竝兵器彈藥及軍用材料及軍事製造用裝置ノ引渡ヲ受ケ、右引渡ノ際ニ於ケル埃及ノ作業狀態ニ關スル通報ヲ埃地利國政府ヨリ受領スルノ任務ヲ特ニ有スヘシ

第百六十四條

同國際陸軍監督委員會ハ彈藥ノ貯藏所及補給廠ノ位置、築城工事ノ位置及其ノ兵備竝兵器彈藥及軍用材料及軍事製造用裝置ノ引渡ヲ受ケ、右引渡ノ際ニ於ケル埃及ノ作業狀態ニ關スル通報ヲ埃地利國政府ヨリ受領スルノ任務ヲ特ニ有スヘシ

第百六十五條

同國際陸軍監督委員會ハ彈藥ノ貯藏所及補給廠ノ位置、築城工事ノ位置及其ノ兵備竝兵器彈藥及軍用材料及軍事製造用裝置ノ引渡ヲ受ケ、右引渡ノ際ニ於ケル埃及ノ作業狀態ニ關スル通報ヲ埃地利國政府ヨリ受領スルノ任務ヲ特ニ有スヘシ

第百六十六條

同國際陸軍監督委員會ハ彈藥ノ貯藏所及補給廠ノ位置、築城工事ノ位置及其ノ兵備竝兵器彈藥及軍用材料及軍事製造用裝置ノ引渡ヲ受ケ、右引渡ノ際ニ於ケル埃及ノ作業狀態ニ關スル通報ヲ埃地利國政府ヨリ受領スルノ任務ヲ特ニ有スヘシ

第百六十七條

同國際陸軍監督委員會ハ彈藥ノ貯藏所及補給廠ノ位置、築城工事ノ位置及其ノ兵備竝兵器彈藥及軍用材料及軍事製造用裝置ノ引渡ヲ受ケ、右引渡ノ際ニ於ケル埃及ノ作業狀態ニ關スル通報ヲ埃地利國政府ヨリ受領スルノ任務ヲ特ニ有スヘシ

第百六十八條

同國際陸軍監督委員會ハ彈藥ノ貯藏所及補給廠ノ位置、築城工事ノ位置及其ノ兵備竝兵器彈藥及軍用材料及軍事製造用裝置ノ引渡ヲ受ケ、右引渡ノ際ニ於ケル埃及ノ作業狀態ニ關スル通報ヲ埃地利國政府ヨリ受領スルノ任務ヲ特ニ有スヘシ

第百六十九條

同國際陸軍監督委員會ハ彈藥ノ貯藏所及補給廠ノ位置、築城工事ノ位置及其ノ兵備竝兵器彈藥及軍用材料及軍事製造用裝置ノ引渡ヲ受ケ、右引渡ノ際ニ於ケル埃及ノ作業狀態ニ關スル通報ヲ埃地利國政府ヨリ受領スルノ任務ヲ特ニ有スヘシ

第百七十條

同國際陸軍監督委員會ハ彈藥ノ貯藏所及補給廠ノ位置、築城工事ノ位置及其ノ兵備竝兵器彈藥及軍用材料及軍事製造用裝置ノ引渡ヲ受ケ、右引渡ノ際ニ於ケル埃及ノ作業狀態ニ關スル通報ヲ埃地利國政府ヨリ受領スルノ任務ヲ特ニ有スヘシ

第百七十一條

同國際陸軍監督委員會ハ彈藥ノ貯藏所及補給廠ノ位置、築城工事ノ位置及其ノ兵備竝兵器彈藥及軍用材料及軍事製造用裝置ノ引渡ヲ受ケ、右引渡ノ際ニ於ケル埃及ノ作業狀態ニ關スル通報ヲ埃地利國政府ヨリ受領スルノ任務ヲ特ニ有スヘシ

第百七十二條

同國際陸軍監督委員會ハ彈藥ノ貯藏所及補給廠ノ位置、築城工事ノ位置及其ノ兵備竝兵器彈藥及軍用材料及軍事製造用裝置ノ引渡ヲ受ケ、右引渡ノ際ニ於ケル埃及ノ作業狀態ニ關スル通報ヲ埃地利國政府ヨリ受領スルノ任務ヲ特ニ有スヘシ

第百七十三條

同國際陸軍監督委員會ハ彈藥ノ貯藏所及補給廠ノ位置、築城工事ノ位置及其ノ兵備竝兵器彈藥及軍用材料及軍事製造用裝置ノ引渡ヲ受ケ、右引渡ノ際ニ於ケル埃及ノ作業狀態ニ關スル通報ヲ埃地利國政府ヨリ受領スルノ任務ヲ特ニ有スヘシ

第百七十四條

同國際陸軍監督委員會ハ彈藥ノ貯藏所及補給廠ノ位置、築城工事ノ位置及其ノ兵備竝兵器彈藥及軍用材料及軍事製造用裝置ノ引渡ヲ受ケ、右引渡ノ際ニ於ケル埃及ノ作業狀態ニ關スル通報ヲ埃地利國政府ヨリ受領スルノ任務ヲ特ニ有スヘシ

第百七十五條

同國際陸軍監督委員會ハ彈藥ノ貯藏所及補給廠ノ位置、築城工事ノ位置及其ノ兵備竝兵器彈藥及軍用材料及軍事製造用裝置ノ引渡ヲ受ケ、右引渡ノ際ニ於ケル埃及ノ作業狀態ニ關スル通報ヲ埃地利國政府ヨリ受領スルノ任務ヲ特ニ有スヘシ

第百七十六條

同國際陸軍監督委員會ハ彈藥ノ貯藏所及補給廠ノ位置、築城工事ノ位置及其ノ兵備竝兵器彈藥及軍用材料及軍事製造用裝置ノ引渡ヲ受ケ、右引渡ノ際ニ於ケル埃及ノ作業狀態ニ關スル通報ヲ埃地利國政府ヨリ受領スルノ任務ヲ特ニ有スヘシ

第百七十七條

同國際陸軍監督委員會ハ彈藥ノ貯藏所及補給廠ノ位置、築城工事ノ位置及其ノ兵備竝兵器彈藥及軍用材料及軍事製造用裝置ノ引渡ヲ受ケ、右引渡ノ際ニ於ケル埃及ノ作業狀態ニ關スル通報ヲ埃地利國政府ヨリ受領スルノ任務ヲ特ニ有スヘシ

第百七十八條

同國際陸軍監督委員會ハ彈藥ノ貯藏所及補給廠ノ位置、築城工事ノ位置及其ノ兵備竝兵器彈藥及軍用材料及軍事製造用裝置ノ引渡ヲ受ケ、右引渡ノ際ニ於ケル埃及ノ作業狀態ニ關スル通報ヲ埃地利國政府ヨリ受領スルノ任務ヲ特ニ有スヘシ

第百七十九條

同國際陸軍監督委員會ハ彈藥ノ貯藏所及補給廠ノ位置、築城工事ノ位置及其ノ兵備竝兵器彈藥及軍用材料及軍事製造用裝置ノ引渡ヲ受ケ、右引渡ノ際ニ於ケル埃及ノ作業狀態ニ關スル通報ヲ埃地利國政府ヨリ受領スルノ任務ヲ特ニ有スヘシ

第百八十條

同國際陸軍監督委員會ハ彈藥ノ貯藏所及補給廠ノ位置、築城工事ノ位置及其ノ兵備竝兵器彈藥及軍用材料及軍事製造用裝置ノ引渡ヲ受ケ、右引渡ノ際ニ於ケル埃及ノ作業狀態ニ關スル通報ヲ埃地利國政府ヨリ受領スルノ任務ヲ特ニ有スヘシ

第百八十一條

同國際陸軍監督委員會ハ彈藥ノ貯藏所及補給廠ノ位置、築城工事ノ位置及其ノ兵備竝兵器彈藥及軍用材料及軍事製造用裝置ノ引渡ヲ受ケ、右引渡ノ際ニ於ケル埃及ノ作業狀態ニ關スル通報ヲ埃地利國政府ヨリ受領スルノ任務ヲ特ニ有スヘシ

第百八十二條

同國際陸軍監督委員會ハ彈藥ノ貯藏所及補給廠ノ位置、築城工事ノ位置及其ノ兵備竝兵器彈藥及軍用材料及軍事製造用裝置ノ引渡ヲ受ケ、右引渡ノ際ニ於ケル埃及ノ作業狀態ニ關スル通報ヲ埃地利國政府ヨリ受領スルノ任務ヲ特ニ有スヘシ

第百八十三條

同國際陸軍監督委員會ハ彈藥ノ貯藏所及補給廠ノ位置、築城工事ノ位置及其ノ兵備竝兵器彈藥及軍用材料及軍事製造用裝置ノ引渡ヲ受ケ、右引渡ノ際ニ於ケル埃及ノ作業狀態ニ關スル通報ヲ埃地利國政府ヨリ受領スルノ任務ヲ特ニ有スヘシ

第百八十四條

同國際陸軍監督委員會ハ彈藥ノ貯藏所及補給廠ノ位置、築城工事ノ位置及其ノ兵備竝兵器彈藥及軍用材料及軍事製造用裝置ノ引渡ヲ受ケ、右引渡ノ際ニ於ケル埃及ノ作業狀態ニ關スル通報ヲ埃地利國政府ヨリ受領スルノ任務ヲ特ニ有スヘシ

第百八十五條

同國際陸軍監督委員會ハ彈藥ノ貯藏所及補給廠ノ位置、築城工事ノ位置及其ノ兵備竝兵器彈藥及軍用材料及軍事製造用裝置ノ引渡ヲ受ケ、右引渡ノ際ニ於ケル埃及ノ作業狀態ニ關スル通報ヲ埃地利國政府ヨリ受領スルノ任務ヲ特ニ有スヘシ

第百八十六條

同國際陸軍監督委員會ハ彈藥ノ貯藏所及補給廠ノ位置、築城工事ノ位置及其ノ兵備竝兵器彈藥及軍用材料及軍事製造用裝置ノ引渡ヲ受ケ、右引渡ノ際ニ於ケル埃及ノ作業狀態ニ關スル通報ヲ埃地利國政府ヨリ受領スルノ任務ヲ特ニ有スヘシ

第百八十七條

同國際陸軍監督委員會ハ彈藥ノ貯藏所及補給廠ノ位置、築城工事ノ位置及其ノ兵備竝兵器彈藥及軍用材料及軍事製造用裝置ノ引渡ヲ受ケ、右引渡ノ際ニ於ケル埃及ノ作業狀態ニ關スル通報ヲ埃地利國政府ヨリ受領スルノ任務ヲ特ニ有スヘシ

第百八十八條

同國際陸軍監督委員會ハ彈藥ノ貯藏所及補給廠ノ位置、築城工事ノ位置及其ノ兵備竝兵器彈藥及軍用材料及軍事製造用裝置ノ引渡ヲ受ケ、右引渡ノ際ニ於ケル埃及ノ作業狀態ニ關スル通報ヲ埃地利國政府ヨリ受領スルノ任務ヲ特ニ有スヘシ

第百八十九條

同國際陸軍監督委員會ハ彈藥ノ貯藏所及補給廠ノ位置、築城工事ノ位置及其ノ兵備竝兵器彈藥及軍用材料及軍事製造用裝置ノ引渡ヲ受ケ、右引渡ノ際ニ於ケル埃及ノ作業狀態ニ關スル通報ヲ埃地利國政府ヨリ受領スルノ任務ヲ特ニ有スヘシ

第百九十條

同國際陸軍監督委員會ハ彈藥ノ貯藏所及補給廠ノ位置、築城工事ノ位置及其ノ兵備竝兵器彈藥及軍用材料及軍事製造用裝置ノ引渡ヲ受ケ、右引渡ノ際ニ於ケル埃及ノ作業狀態ニ關スル通報ヲ埃地利國政府ヨリ受領スルノ任務ヲ特ニ有スヘシ

第百九十一條

同國際陸軍監督委員會ハ彈藥ノ貯藏所及補給廠ノ位置、築城工事ノ位置及其ノ兵備竝兵器彈藥及軍用材料及軍事製造用裝置ノ引渡ヲ受ケ、右引渡ノ際ニ於ケル埃及ノ作業狀態ニ關スル通報ヲ埃地利國政府ヨリ受領スルノ任務ヲ特ニ有スヘシ

第百九十二條

同國際陸軍監督委員會ハ彈藥ノ貯藏所及補給廠ノ位置、築城工事ノ位置及其ノ兵備竝兵器彈藥及軍用材料及軍事製造用裝置ノ引渡ヲ受ケ、右引渡ノ際ニ於ケル埃及ノ作業狀態ニ關スル通報ヲ埃地利國政府ヨリ受領スルノ任務ヲ特ニ有スヘシ

第百九十三條

同國際陸軍監督委員會ハ彈藥ノ貯藏所及補給廠ノ位置、築城工事ノ位置及其ノ兵備竝兵器彈藥及軍用材料及軍事製造用裝置ノ引渡ヲ受ケ、右引渡ノ際ニ於ケル埃及ノ作業狀態ニ關スル通報ヲ埃地利國政府ヨリ受領スルノ任務ヲ特ニ有スヘシ

第百九十四條

同國際陸軍監督委員會ハ彈藥ノ貯藏所及補給廠ノ位置、築城工事ノ位置及其ノ兵備竝兵器彈藥及軍用材料及軍事製造用裝置ノ引渡ヲ受ケ、右引渡ノ際ニ於ケル埃及ノ作業狀態ニ關スル通報ヲ埃地利國政府ヨリ受領スルノ任務ヲ特ニ有スヘシ

第百九十五條

同國際陸軍監督委員會ハ彈藥ノ貯藏所及補給廠ノ位置、築城工事ノ位置及其ノ兵備竝兵器彈藥及軍用材料及軍事製造用裝置ノ引渡ヲ受ケ、右引渡ノ際ニ於ケル埃及ノ作業狀態ニ關スル通報ヲ埃地利國政府ヨリ受領スルノ任務ヲ特ニ有スヘシ

第百九十六條

同國際陸軍監督委員會ハ彈藥ノ貯藏所及補給廠ノ位置、築城工事ノ位置及其ノ兵備竝兵器彈藥及軍用材料及軍事製造用裝置ノ引渡ヲ受ケ、右引渡ノ際ニ於ケル埃及ノ作業狀態ニ關スル通報ヲ埃地利國政府ヨリ受領スルノ任務ヲ特ニ有スヘシ

第百九十七條

同國際陸軍監督委員會ハ彈藥ノ貯藏所及補給廠ノ位置、築城工事ノ位置及其ノ兵備竝兵器彈藥及軍用材料及軍事製造用裝置ノ引渡ヲ受ケ、右引渡ノ際ニ於ケル埃及ノ作業狀態ニ關スル通報ヲ埃地利國政府ヨリ受領スルノ任務ヲ特ニ有スヘシ

第百九十八條

同國際陸軍監督委員會ハ彈藥ノ貯藏所及補給廠ノ位置、築城工事ノ位置及其ノ兵備竝兵器彈藥及軍用材料及軍事製造用裝置ノ引渡ヲ受ケ、右引渡ノ際ニ於ケル埃及ノ作業狀態ニ關スル通報ヲ埃地利國政府ヨリ受領スルノ任務ヲ特ニ有スヘシ

第百九十九條

同國際陸軍監督委員會ハ彈藥ノ貯藏所及補給廠ノ位置、築城工事ノ位置及其ノ兵備竝兵器彈藥及軍用材料及軍事製造用裝置ノ引渡ヲ受ケ、右引渡ノ際ニ於ケル埃及ノ作業狀態ニ關スル通報ヲ埃地利國政府ヨリ受領スルノ任務ヲ特ニ有スヘシ

第百二十條

同國際陸軍監督委員會ハ彈藥ノ貯藏所及補給廠ノ位置、築城工事ノ位置及其ノ兵備竝兵器彈藥及軍用材料及軍事製造用裝置ノ引渡ヲ受ケ、右引渡ノ際ニ於ケル埃及ノ作業狀態ニ關スル通報ヲ埃地利國政府ヨリ受領スルノ任務ヲ特ニ有スヘシ

第百二十一條

同國際陸軍監督委員會ハ彈藥ノ貯藏所及補給廠ノ位置、築城工事ノ位置及其ノ兵備竝兵器彈藥及軍用材料及軍事製造用裝置ノ引渡ヲ受ケ、右引渡ノ際ニ於ケル埃及ノ作業狀態ニ關スル通報ヲ埃地利國政府ヨリ受領スルノ任務ヲ特ニ有スヘシ

第百二十二條

同國際陸軍監督委員會ハ彈藥ノ貯藏所及補給廠ノ位置、築城工事ノ位置及其ノ兵備竝兵器彈藥及軍用材料及軍事製造用裝置ノ引渡ヲ受ケ、右引渡ノ際ニ於ケル埃及ノ作業狀態ニ關スル通報ヲ埃地利國政府ヨリ受領スルノ任務ヲ特ニ有スヘシ

第百二十三條

同國際陸軍監督委員會ハ彈藥ノ貯藏所及補給廠ノ位置、築城工事ノ位置及其ノ兵備竝兵器彈藥及軍用材料及軍事製造用裝置ノ引渡ヲ受ケ、右引渡ノ際ニ於ケル埃及ノ作業狀態ニ關スル通報ヲ埃地利國政府ヨリ受領スルノ任務ヲ特ニ有スヘシ

第百二十四條

同國際陸軍監督委員會ハ彈藥ノ貯藏所及補給廠ノ位置、築城工事ノ位置及其ノ兵備竝兵器彈藥及軍用材料及軍事製造用裝置ノ引渡ヲ受ケ、右引渡ノ際ニ於ケル埃及ノ作業狀態ニ關スル通報ヲ埃地利國政府ヨリ受領スルノ任務ヲ特ニ有スヘシ

第百二十五條

同國際陸軍監督委員會ハ彈藥ノ貯藏所及補給廠ノ位置、築城工事ノ位置及其ノ兵備竝兵器彈藥及軍用材料及軍事製造用裝置ノ引渡ヲ受ケ、右引渡ノ際ニ於ケル埃及ノ作業狀態ニ關スル通報ヲ埃地利國政府ヨリ受領スルノ任務ヲ特ニ有スヘシ

第百二十六條

同國際陸軍監督委員會ハ彈藥ノ貯藏所及補給廠ノ位置、築城工事ノ位置及其ノ兵備竝兵器彈藥及軍用材料及軍事製造用裝置ノ引渡ヲ受ケ、右引渡ノ際ニ於ケル埃及ノ作業狀態ニ關スル通報ヲ埃地利國政府ヨリ受領スルノ任務ヲ特ニ有スヘシ

第百二十七條

同國際陸軍監督委員會ハ彈藥ノ貯藏所及補給廠ノ位置、築城工事ノ位置及其ノ兵備竝兵器彈藥及軍用材料及軍事製造用裝置ノ引渡ヲ受ケ、右引渡ノ際ニ於ケル埃及ノ作業狀態ニ關スル通報ヲ埃地利國政府ヨリ受領スルノ任務ヲ特ニ有スヘシ

第百二十八條

同國際陸軍監督委員會ハ彈藥ノ貯藏所及補給廠ノ位置、築城工事ノ位置及其ノ兵備竝兵器彈藥及軍用材料及軍事製造用裝置ノ引渡ヲ受ケ、右引渡ノ際ニ於ケル埃及ノ作業狀態ニ關スル通報ヲ埃地利國政府ヨリ受領スルノ任務ヲ特ニ有スヘシ

第百二十九條

同國際陸軍監督委員會ハ彈藥ノ貯藏所及補給廠ノ位置、築城工事ノ位置及其ノ兵備竝兵器彈藥及軍用材料及軍事製造用裝置ノ引渡ヲ受ケ、右引渡ノ際ニ於ケル埃及ノ作業狀態ニ關スル通報ヲ埃地利國政府ヨリ受領スルノ任務ヲ特ニ有スヘシ

第百三十條

同國際陸軍監督委員會ハ彈藥ノ貯藏所及補給廠ノ位置、築城工事ノ位置及其ノ兵備竝兵器彈藥及軍用材料及軍事製造用裝置ノ引渡ヲ受ケ、右引渡ノ際ニ於ケル埃及ノ作業狀態ニ關スル通報ヲ埃地利國政府ヨリ受領スルノ任務ヲ特ニ有スヘシ

第百三十一條

同國際陸軍監督委員會ハ彈藥ノ貯藏所及補給廠ノ位置、築城工事ノ位置及其ノ兵備竝兵器彈藥及軍用材料及軍事製造用裝置ノ引渡ヲ受ケ、右引渡ノ際ニ於ケル埃及ノ作業狀態ニ關スル通報ヲ埃地利國政府ヨリ受領スルノ任務ヲ特ニ有スヘシ

第百三十二條

同國際陸軍監督委員會ハ彈藥ノ貯藏所及補給廠ノ位置、築城工事ノ位置及其ノ兵備竝兵器彈藥及軍用材料及軍事製造用裝置ノ引渡ヲ受ケ、右引渡ノ際ニ於ケル埃及ノ作業狀態ニ關スル通報ヲ埃地利國政府ヨリ受領スルノ任務ヲ特ニ有スヘシ

第百三十三條

同國際陸軍監督委員會ハ彈藥ノ貯藏所及補給廠ノ位置、築城工事ノ位置及其ノ兵備竝兵器彈藥及軍用材料及軍事製造用裝置ノ引渡ヲ受ケ、右引渡ノ際ニ於ケル埃及ノ作業狀態ニ關スル通報ヲ埃地利國政府ヨリ受領スルノ任務ヲ特ニ有スヘシ

第百三十四條

同國際陸軍監督委員會ハ彈藥ノ貯藏所及補給廠ノ位置、築城工事ノ位置及其ノ兵備竝兵器彈藥及軍用材料及軍事製造用裝置ノ引渡ヲ受ケ、右引渡ノ際ニ於ケル埃及ノ作業狀態ニ關スル通報ヲ埃地利國政府ヨリ受領スルノ任務ヲ特ニ有スヘシ

第百三十五條

同國際陸軍監督委員會ハ彈藥ノ貯藏所及補給廠ノ位置、築城工事ノ位置及其ノ兵備竝兵器彈藥及軍用材料及軍事製造用裝置ノ引渡ヲ受ケ、右引渡ノ際ニ於ケル埃及ノ作業狀態ニ關スル通報ヲ埃地利國政府ヨリ受領スルノ任務ヲ特ニ有スヘシ

第百三十六條

同國際陸軍監督委員會ハ彈藥ノ貯藏所及補給廠ノ位置、築城工事ノ位置及其ノ兵備竝兵器彈藥及軍用材料及軍事製造用裝置ノ引渡ヲ受ケ、右引渡ノ際ニ於ケル埃及ノ作業狀態ニ關スル通報ヲ埃地利國政府ヨリ受領スルノ任務ヲ特ニ有スヘシ

第百三十七條

同國際陸軍監督委員會ハ彈藥ノ貯藏所及補給廠ノ位置、築城工事ノ位置及其ノ兵備竝兵器彈藥及軍用材料及軍事製造用裝置ノ引渡ヲ受ケ、右引渡ノ際ニ於ケル埃及ノ作業狀態ニ關スル通報ヲ埃地利國政府ヨリ受領スルノ任務ヲ特ニ有スヘシ

第百三十八條

同國際陸軍監督委員會ハ彈藥ノ貯藏所及補給廠ノ位置、築城工事ノ位置及其ノ兵備竝兵器彈藥及軍用材料及軍事製造用裝置ノ引渡ヲ受ケ、右引渡ノ際ニ於ケル埃及ノ作業狀態ニ關スル通報ヲ埃地利國政府ヨリ受領スルノ任務ヲ特ニ有スヘシ

第百三十九條

同國際陸軍監督委員會ハ彈藥ノ貯藏所及補給廠ノ位置、築城工事ノ位置及其ノ兵備竝兵器彈藥及軍用材料及軍事製造用裝置ノ引渡ヲ受ケ、右引渡ノ際ニ於ケル埃及ノ作業狀態ニ關スル通報ヲ埃地利國政府ヨリ受領スルノ任務ヲ特ニ有スヘシ

第百四十條

同國際陸軍監督委員會ハ彈藥ノ貯藏所及補給廠ノ位置、築城工事ノ位置及其ノ兵備竝兵器彈藥及軍用材料及軍事製造用裝置ノ引渡ヲ受ケ、右引渡ノ際ニ於ケル埃及ノ作業狀態ニ關スル通報ヲ埃地利國政府ヨリ受領スルノ任務ヲ特ニ有スヘシ

第百四十一條

同國際陸軍監督委員會ハ彈藥ノ貯藏所及補給廠ノ位置、築城工事ノ位置及其ノ兵備竝兵器彈藥及軍用材料及軍事製造用裝置ノ引渡ヲ受ケ、右引渡ノ際ニ於ケル埃及ノ作業狀態ニ關スル通報ヲ埃地利國政府ヨリ受領スルノ任務ヲ特ニ有スヘシ

第百四十二條

同國際陸軍監督委員會ハ彈藥ノ貯藏所及補給廠ノ位置、築城工事ノ位置及其ノ兵備竝兵器彈藥及軍用材料及軍事製造用裝置ノ引渡ヲ受ケ、右引渡ノ際ニ於ケル埃及ノ作業狀態ニ關スル通報ヲ埃地利國政府ヨリ受領スルノ任務ヲ特ニ有スヘシ

第百四十三條

同國際陸軍監督委員會ハ彈藥ノ貯藏所及補給廠ノ位置、築城工事ノ位置及其ノ兵備竝兵器彈藥及軍用材料及軍事製造用裝置ノ引渡ヲ受ケ、右引渡ノ際ニ於ケル埃及ノ作業狀態ニ關スル通報ヲ埃地利國政府ヨリ受領スルノ任務ヲ特ニ有スヘシ

第百四十四條

同國際陸軍監督委員會ハ彈藥ノ貯藏所及補給廠ノ位置、築城工事ノ位置及其ノ兵備竝兵器彈藥及軍用材料及軍事製造用裝置ノ引渡ヲ受ケ、右引渡ノ際ニ於ケル埃及ノ作業狀態ニ關スル通報ヲ埃地利國政府ヨリ受領スルノ任務ヲ特ニ有スヘシ

第百四十五條

同國際陸軍監督委員會ハ彈藥ノ貯藏所及補給廠ノ位置、築城工事ノ位置及其ノ兵備竝兵器彈藥及軍用材料及軍事製造用裝置ノ引渡ヲ受ケ、右引渡ノ際ニ於ケル埃及ノ作業狀態ニ關スル通報ヲ埃地利國政府ヨリ受領スルノ任務ヲ特ニ有スヘシ

第百四十六條

同國際陸軍監督委員會ハ彈藥ノ貯藏所及補給廠ノ位置、築城工事ノ位置及其ノ兵備竝兵器彈藥及軍用材料及軍事製造用裝置ノ引渡ヲ受ケ、右引渡ノ際ニ於ケル埃及ノ作業狀態ニ關スル通報ヲ埃地利國政府ヨリ受領スルノ任務ヲ特ニ有スヘシ

第百四十七條

同國際陸軍監督委員會ハ彈藥ノ貯藏所及補給廠ノ位置、築城工事ノ位置及其ノ兵備竝兵器彈藥及軍用材料及軍事製造用裝置ノ引渡ヲ受ケ、右引渡ノ際ニ於ケル埃及ノ作業狀態ニ關スル通報ヲ埃地利國政府ヨリ受領スルノ任務ヲ特ニ有スヘシ

第百四十八條

同國際陸軍監督委員會ハ彈藥ノ貯藏所及補給廠ノ位置、築城工事ノ位置及其ノ兵備竝兵器彈藥及軍用材料及軍事製造用裝置ノ引渡ヲ受ケ、右引渡ノ際ニ於ケル埃及ノ作業狀態ニ關スル通報ヲ埃地利國政府ヨリ受領スルノ任務ヲ特ニ有スヘシ

第百四十九條

同國際陸軍監督委員會ハ彈藥ノ貯藏所及補給廠ノ位置、築城工事ノ位置及其ノ兵備竝兵器彈藥及軍用材料及軍事製造用裝置ノ引渡ヲ受ケ、右引渡ノ際ニ於ケル埃及ノ作業狀態ニ關スル通報ヲ埃地利國政府ヨリ受領スルノ任務ヲ特ニ有スヘシ

第百五十條

同國際陸軍監督委員會ハ彈藥ノ貯藏所及補給廠ノ位置、築城工事ノ位置及其ノ兵備竝兵器彈藥及軍用材料及軍事製造用裝置ノ引渡ヲ受ケ、右引渡ノ際ニ於ケル埃及ノ作業狀態ニ關スル通報ヲ埃地利國政府ヨリ受領スルノ任務ヲ特ニ有スヘシ

第百五十一條

同國際陸軍監督委員會ハ彈藥ノ貯藏所及補給廠ノ位置、築城工事ノ位置及其ノ兵備竝兵器彈藥及軍用材料及軍事製造用裝置ノ引渡ヲ受ケ、右引渡ノ際ニ於ケル埃及ノ作業狀態ニ關スル通報ヲ埃地利國政府ヨリ受領スルノ任務ヲ特ニ有スヘシ

第百五十二條

同國際陸軍監督委員會ハ彈藥ノ貯藏所及補給廠ノ位置、築城工事ノ位置及其ノ兵備竝兵器彈藥及軍用材料及軍事製造用裝置ノ引渡ヲ受ケ、右引渡ノ際ニ於ケル埃及ノ作業狀態ニ關スル通報ヲ埃地利國政府ヨリ受領スルノ任務ヲ特ニ有スヘシ

第百五十三條

同國際陸軍監督委員會ハ彈藥ノ貯藏所及補給廠ノ位置、築城工事ノ位置及其ノ兵備竝兵器彈藥及軍用材料及軍事製造用裝置ノ引渡ヲ受ケ、右引渡ノ際ニ於ケル埃及ノ作業狀態ニ關スル通報ヲ埃地利國政府ヨリ受領スルノ任務ヲ特ニ有スヘシ

第百五十四條

同國際陸軍監督委員會ハ彈藥ノ貯藏所及補給廠ノ位置、築城工事ノ位置及其ノ兵備竝兵器彈藥及軍用材料及軍事製造用裝置ノ引渡ヲ受ケ、右引渡ノ際ニ於ケル埃及ノ作業狀態ニ關スル通報ヲ埃地利國政府ヨリ受領スルノ任務ヲ特ニ有スヘシ

第百五十五條

同國際陸軍監督委員會ハ彈藥ノ貯藏所及補給廠ノ位置、築城工事ノ位置及其ノ兵備竝兵器彈藥及軍用材料及軍事製造用裝置ノ引渡ヲ受ケ、右引渡ノ際ニ於ケル埃及ノ作業狀態ニ關スル通報ヲ埃地利國政府ヨリ受領スルノ任務ヲ特ニ有スヘシ

第百五十六條

同國際陸軍監督委員會ハ彈藥ノ貯藏所及補給廠ノ位置、築城工事ノ位置及其ノ兵備竝兵器彈藥及軍用材料及軍事製造用裝置ノ引渡ヲ受ケ、右引渡ノ際ニ於ケル埃及ノ作業狀態ニ關スル通報ヲ埃地利國政府ヨリ受領スルノ任務ヲ特ニ有スヘシ

第百五十七條

同國際陸軍監督委員會ハ彈藥ノ貯藏所及補給廠ノ位置、築城工事ノ位置及其ノ兵備竝兵器彈藥及軍用材料及軍事製造用裝置ノ引渡ヲ受ケ、右引渡ノ際ニ於ケル埃及ノ作業狀態ニ關スル通報ヲ埃地利國政府ヨリ受領スルノ任務ヲ特ニ有スヘシ

第百五十八條

同國際陸軍監督委員會ハ彈藥ノ貯藏所及補給廠ノ位置、築城工事ノ位置及其ノ兵備竝兵器彈藥及軍用材料及軍事製造用裝置ノ引渡ヲ受ケ、右引渡ノ際ニ於ケル埃及ノ作業狀態ニ關スル通報ヲ埃地利國政府ヨリ受領スルノ任務ヲ特ニ有スヘシ

第百五十九條

同國際陸軍監督委員會ハ彈藥ノ貯藏所及補給廠ノ位置、築城工事ノ位置及其ノ兵備竝兵器彈藥及軍用材料及軍事製造用裝置ノ引渡ヲ受ケ、右引渡ノ際ニ於ケル埃及ノ作業狀態ニ關スル通報ヲ埃地利國政府ヨリ受領スルノ任務ヲ特ニ有スヘシ

第百六十條

同國際陸軍監督委員會ハ彈藥ノ貯藏所及補給廠ノ位置、築城工事ノ位置及其ノ兵備竝兵器彈藥及軍用材料及軍事製造用裝置ノ引渡ヲ受ケ、右引渡ノ際ニ於ケル埃及ノ作業狀態ニ關スル通報ヲ埃地利國政府ヨリ受領スルノ任務ヲ特ニ有スヘシ

第百六十一條

同國際陸軍監督委員會ハ彈藥ノ貯藏所及補給廠ノ位置、築城工事ノ位置及其ノ兵備竝兵器彈藥及軍用材料及

空軍ノ訓練ヲ援助シ其ノ他一般ニ軍事教育ニ協力スルノ目的ヲ以テ外國ノ陸海若ハ空軍ニ附屬スル爲墺地利國領土ヲ離ルルコトヲ防止スヘキ適當ノ措置ヲ執ルコトヲ約ス

同盟及聯合國ハ本條約實施後其ノ軍事訓練ヲ援助セシムル目的ヲ以テ墺地利國民ヲ其ノ陸海又ハ空軍ニ編入シ又ハ附屬セシメ其ノ他一般ニ陸海又ハ空軍ノ教官トシテ墺地利國民ヲ雇入レサルコトヲ自國ノ關スル限リ約ス

尤モ本條ノ規定ハ佛蘭西國カ佛蘭西國陸軍法令ニ依リ外人聯隊ノ募兵ヲ爲スノ權利ヲ妨ケサルモノトス

第百五十九條

本條約カ效力ヲ有スル限リ墺地利國ハ國際聯盟理事會カ其ノ過半數決ヲ以テ必要ト認ムル一切ノ調査ニ應スヘキコトヲ約ス

第六編　俘虜及墳墓

第一款　俘虜

第百六十條

墺地利俘虜及抑留墺地利人民ノ送還ハ本條約實施後成ルヘク速ニ之ニ著手シ且最迅速ニ之ヲ實行スヘシ

第百六十一條

墺地利俘虜及抑留墺地利人民ノ送還ハ一方ニ於テ同盟及聯合國ノ代表者ト他方ニ於テ墺地利國政府ノ代表者トヲ以テ組織スル委員會第百六十條ニ定ムル條件ニ從ヒテ其ノ實行ヲ擔任スヘシ

各同盟及聯合國ニ在リテハ當該國代表者及墺地利國政府ノ代表委員ノミヲ以テ組織スル小委員會ニ於テ俘虜送還ノ實行ニ關スル細目ヲ定ムヘシ

第百六十二條

墺地利國官憲ハ前記俘虜及抑留人民ノ引渡ヲ受ケタルトキハ遲滯ナク之ヲ各自ノ鄉里ニ歸還セシムルコトヲ要ス

前記俘虜及抑留人民中同盟及聯合國軍隊ノ占領地内ニ戰爭前其ノ住所ヲ有セシ者ハ亦之ヲ該住所ニ歸還セシムルコトヲ要ス尤モ同盟及聯合國ノ占領軍官憲ノ同意及監督ヲ受クヘキモノトス

第百六十三條

墺地利國政府ハ送還ニ要スル出發以後ノ一切ノ費用ヲ負擔シ且第百六十一條ノ委員會ニ於テ必要ト認ムル輸送機關及職員ヲ供給スルコトヲ要ス

第百六十四條

紀律違反ノ犯行ニ付取調中又ハ處罰中ノ俘虜及抑留人民ハ其ノ處罰又ハ取調手續ノ完了スルト否トヲ問ハス之ヲ送還スヘシ

前項ノ規定ハ千九百十九年六月一日以後ノ犯行ニ付罰ヲ受クル俘虜及抑留人民ニハ之ヲ適用セス

一切ノ俘虜及抑留人民ハ其ノ送還ニ至ル迄ノ間引續キ現行ノ規則殊ニ作業及紀律ニ關スル規則ノ適用ヲ受クヘシ

第百六十五條

紀律違反以外ノ犯行ニ付取調中又ハ處罰中ノ俘虜及抑留人民ハ引續キ之ヲ抑留スルコトヲ得

第百六十六條

墺地利國政府ハ送還セラルヘキ一切ノ者ニ付差別ヲ設クルコトナク之ヲ自國版圖内ニ入國セシムルコトヲ約ス

俘虜其ノ他ノ墺地利國民ニシテ送還ヲ欲セサル者ハ之ヲ送還セサルコトヲ得但シ同盟及聯合國政府ハ右ノ者ヲ送還シ、中立國ニ送致シ又ハ自國版圖内ノ居住ヲ之ニ許可スルノ權利ヲ留保ス

墺地利國政府ハ右ノ者又ハ其ノ家族ニ對シ何等例外的取扱方法ヲ設ケス又從テ何等抑壓的若ハ煩瑣ナル措置ヲ執ラサルコトヲ約ス

第百六十七條

同盟及聯合國政府ハ墺地利國政府ヲシテ同國内ニ本人ノ意思ニ反シテ仍留置セラレ居ル一切ノ俘虜其ノ他ノ同盟及聯合國國民ニ關シ直ニ通告ヲ爲サシメ且直ニ之ヲ解放セシムルコトヲ以テ其ノ權内ニ在ル墺地利俘虜及墺地利國民ノ送還ノ條件ト爲スノ權利ヲ留保ス

第百六十八條

墺地利國政府ハ左ノ事項ヲ約ス

一　失踪者調査委員ニ對シ一切ノ便宜ヲ供與シ、有用ナル一切ノ輸送機關ヲ供給シ、收容所監獄病院其ノ他一切ノ場所ニ出入スルコトヲ許容シ及調査ヲ容易ナラシムヘキ公私一切ノ書類ヲ其ノ使用ニ供スルコト

二　同盟國又ハ聯合國ノ國民ノ所在ヲ隱蔽シ又ハ其ノ所在ヲ知リタル後之カ報告ヲ怠リタル墺地利國ノ官吏又ハ人民ヲ處罰スルコト

第百六十九條

墺地利國政府ハ同盟國又ハ聯合國ノ國民ニ屬シタル一切ノ物品、有價證券又ハ書類ニシテ墺地利國官憲ノ押收シタルモノヲ本條約實施後遲滯ナク返還スルコトヲ約ス

第百七十條

第一類　一般共通條約　第二編　平和條約

（外務省）

締約國ハ各自國版圖内ニ於ケル俘虜收容ニ因ル費用ノ相互ノ償還ヲ爲ササルコトヲ聲明ス

第二款　墳墓

第百七十一條

同盟及聯合國政府竝墺地利國政府ハ各其ノ版圖内ニ埋葬セラレタル陸海軍軍人ノ墳墓ヲ尊重シ且保存スヘシ

前記諸國政府ハ右墳墓ノ識別、登錄若ハ管理ノ爲又ハ其ノ上ニ適當ナル記念碑ヲ建設スル爲各其ノ任命スル委員ヲ承認シ且其ノ職務執行ニ付便宜ヲ與フルコトヲ約ス

尚前記諸國政府ハ自國法ノ規定上及公共衞生ノ必要上差支ナキ限リ陸海軍軍人ノ遺骸ヲ其ノ本國ニ移サムトスル要求ヲ滿足セシムル爲一切ノ便宜ヲ相互ニ供與スルコトヲ約ス

第百七十二條

各交戰國國民タル俘虜及抑留人民ニシテ拘束中死亡シタルモノノ墳墓ハ第百七十一條ノ條件ニ從ヒ適當ニ之ヲ保存スヘシ

同盟及聯合國政府竝墺地利國政府ハ相互ニ左記ノモノヲ供給スルコトヲ約ス

一　死亡者全表及職別上有用ナル一切ノ情報

二　識別セラレスシテ埋葬セラレタル者ノ墳墓ノ數及其ノ位置ニ關スル一切ノ表示

第七編　制裁

第百七十三條

墺地利國政府ハ戰爭ノ法規慣例ニ違反スル行爲アリトシテ起訴セラルル

者ヲ同盟及聯合國ノ軍事裁判所ノ裁判ニ付スルノ自由ヲ同盟及聯合國ニ承認ス有罪ト認メラルル者ハ之ヲ法定ノ刑罰ニ處スヘシ本規定ハ塲地利國又ハ其ノ同盟國ノ裁判所ニ於ケル訴訟手續又ハ訴追ノ爲其ノ適用ヲ妨ケラルルコトナシ

塲地利國政府ハ戰爭ノ法規慣例ニ違反スル行爲アリトシテ起訴セラルル者ニシテ或ハ其ノ氏名ヲ明示セラレ或ハ塲地利國官憲ニ依リテ與ヘラレタル其ノ地位官職ヲ明示セラルルモノヲ總テ同盟及聯合國又ハ之カ引渡ヲ要求スル其ノ一國ニ引渡スコトヲ要ス

第百七十四條

同盟及聯合國中ノ一國ノ國民ニ對シ罪ヲ犯シタル者ハ之ヲ該國ノ軍事裁判所ノ裁判ニ付ス

同盟及聯合國中ノ二國以上ノ國民ニ對シ罪ヲ犯シタル者ハ之ヲ關係諸國ノ軍事裁判所所屬ノ職員ヲ以テ組織スル軍事裁判所ノ裁判ニ付ス

被告人ハ何レノ場合ニ於テモ自ラ其ノ辯護人ヲ指定スルノ權ヲ有ス

第百七十五條

塲地利國政府ハ犯罪事實ノ知悉、犯罪人ノ搜索及責任ノ適正ナル量定ニ付必要ト認メラルル文書及資料ヲ其ノ種類ノ何タルヲ問ハス總テ供給スルコトヲ約ス

第百七十六條

第百七十三條乃至第百七十五條ノ規定ハ戰爭ノ法規慣例ニ違反スル行爲アリトシテ起訴セラルル者ニシテ舊塲地利洪牙利君主國ノ諸地方ノ讓渡ヲ受ケタル諸國ノ版圖内ニ在リ又ハ其ノ處分權内ニ在ルモノニ關スル限リ右諸國政府ニモ均シク之ヲ適用ス

前項ノ犯人カ右諸國中ノ一國ノ國籍ヲ取得シタル場合ニ於テハ該國政府ハ關係國ノ要求ニ基キ且之ト協議シテ當該犯罪人ノ訴追及處罰ヲ確保スル爲必要ナル一切ノ措置ヲ執ルコトヲ約ス

第八編　賠償

第一款　一般規定

第百七十七條

同盟及聯合國政府ハ塲地利洪牙利國及其ノ同盟國ノ攻撃ニ因リテ強ヒラレタル戰爭ノ結果其ノ政府及國民ノ被リタル損失及損害ヲ生セシメタル責任ノ塲地利國及其ノ同盟國ニ在ルコトヲ聲明シ塲地利國ハ之ヲ承認ス

第百七十八條

同盟及聯合國政府ハ塲地利國ノ資源カ本條約ノ他ノ規定ノ結果永遠ニ減少スヘキコトヲ考量シ其ノ前記損失及損害ノ完全ナル賠償ヲ保障スルニ充分ナラサルコトヲ認ム

然レトモ同盟及聯合國政府ハ其ノ各國ト塲地利國トノ交戰期間内陸上海上及空中ノ前記攻撃ニ因リ同盟及聯合國ノ普通人民及其ノ財產ニ對シ加ヘラレタル損害即チ概要本款第一附屬書ニ掲クル損害ニ付次條以下ニ定ムル條件ニ從ヒ賠償ヲ要求シ塲地利國ハ之ニ應スヘキコトヲ約ス

第百七十九條

塲地利國ノ賠償スヘキ前記損害ノ總額ハ同盟國國際委員會之ヲ決定スヘシ該委員會ハ賠償委員會ト稱シ其ノ組織及權能ハ本款及本款第二乃至第五附屬書ノ定ムル所ニ依ル獨逸國トノ條約第二百三十三條ノ委員會ハ本條約ニ基ク變更ヲ除クノ外本委員會ト同一トス委員會ハ本條約ノ適用上生スル特別ノ問題ニ關シ分科會ヲ設置スヘシ該分科會ハ單ニ諮問機關トシテノ權能ヲ有スルモノトス但シ賠償委員會カ便宜ト認ムル權能ヲ之ニ委任スル場合ハ此ノ限ニ在ラス

賠償委員會ハ請求ヲ審査シ且意見陳述ノ權利ヲ衡平ニ塲地利國政府ニ與フヘシ

委員會ハ獨逸國及其ノ同盟國ニ對シテ提出セラレ且委員會ノ查定シタル請求總額ニ付獨逸國カ差引殘高ヲ支拂ヒ得ルヤ否ヤヲ評定シタル後塲地利國ノ負擔トセラルヘキ債務ノ部分ヲ千九百二十一年五月一日以後三十年ノ期間内ニ塲地利國カ辨濟スヘキ時期及方法ヲ定ムル支拂一覽表ヲ同時ニ調製スヘシ但シ塲地利國カ右期間内ニ其ノ債務ヲ辨濟セサル場合ニ於テハ未拂額ハ委員會ノ裁量ニ依リテ其ノ決濟ヲ後平ニ延期スルカ又ハ同盟及聯合國政府カ本編所定ノ手續ニ從ヒ決定スヘキ條件ニ依リ別ニ之ヲ處理スルコトヲ得

第百八十條

賠償委員會ハ千九百二十一年五月一日以後隨時塲地利國ノ資源及能力ヲ審查スヘク且意見陳述ノ權利ヲ衡平ニ塲地利國ノ代表者ニ與ヘタル後ニ第百七十九條ニ依リ定ムル支拂ノ期限ヲ延長シ又ハ其ノ方法ヲ變更スルノ裁量ヲ有ス但シ委員會ニ代表セラルル各國政府ノ特定ノ承認アルニ非サレハ如何ナル額ノ免除ヲモ爲スコトヲ得ス

第百八十一條

塲地利國ハ賠償委員會ノ決定スヘキ相當額ヲ前記債權ノ一部支拂トシテ右委員會ノ定ムル割賦及方法(金、貨物、船舶、有價證券其ノ他)ヲ以テ千九百十九年及千九百二十年中竝千九百二十一年四月末日迄ニ支拂フヘシ千九百十八年十一月三日ノ休戰條約以後ニ於ケル占領軍ノ費用ハ右ノ額ノ中ヨリ先ツ之ヲ支辨スヘシ塲地利國ヲシテ其ノ賠償義務ヲ履行セシムル爲主タル同盟及聯合國政府カ必要ト認ムル糧食及原料ノ供給量ニ對シテモ亦右政府ノ承認ヲ經テ該額中ヨリ之カ支辨ヲ爲スコトヲ得殘額ハ塲地利國ノ賠償義務額中ヨリ之ヲ差引クヘキモノトス塲地利國ハ又本款第二附屬書十二ノ(ハ)號ニ掲クル債券ヲ交付スヘシ

第百八十二條

塲地利國ハ商船、物質的回復及原料ニ付夫々第三、第四及第五附屬書ニ定ムル通其ノ經濟資源ヲ直接ニ賠償ニ充ツルコトニ同意ス但シ右各附屬書ニ依ル讓渡財產及財產利用ノ價額ハ同附屬書ニ掲クル方法ヲ以テ之ヲ定メタル後塲地利國ノ貸方ニ之ヲ計上シ前諸條ノ債務額中ヨリ差引クヘキモノトス

第百八十三條

前記請求ニ應シテ塲地利國ノ支拂フ累次ノ割賦(前諸條ニ掲クルモノヲ含ム)ハ同盟及聯合國政府ニ於テ衡平及各自ノ權利ヲ基礎トシテ豫メ決定スル割合ニ依リ同政府間ニ之ヲ分配スヘシ

右分配ニ付テハ第百八十九條竝第三、第四及第五附屬書ニ掲クル貸方ノ價額ハ當該年度ニ於ケル現金支拂ト同樣ニ之ヲ計算スヘシ

第百八十四條

前記支拂ノ外賠償委員會ノ定ムル手續ニ從ヒ塲地利國ハ搬去シ差押ヘ又ハ保管シタル正金ハ正金ヲ以テ還付スヘク又搬去シ差押ヘ又ハ保管シタル動物、各種物件及有價證券ハ塲地利國若ハ其ノ同盟國ニ屬スル領土内又ハ本條約ノ完全ナル履行ニ至ル迄塲地利國若ハ其ノ同盟國ノ占有スル諸地方内ニ於テ之ヲ識別シ得ヘキ場合ニハ之ヲ還付スルコトヲ要ス

第百八十五條

墺地利國政府ハ第百八十四條ニ定ムル還付ヲ直ニ實行シ且第百七十九條乃至第百八十二條ニ定ムル支拂及引渡ヲ實行スルコトヲ約ス

第百八十六條

墺地利國政府ハ第二附屬書ニ依リ同盟及聯合國政府ノ組織スヘキ第百七十九條ノ委員會ヲ承認シ該委員會カ本條約ニ依リ付與セラルル權利及權能ヲ有シ且之ヲ行使スルコトヲ確定的ニ承認ス

墺地利國政府ハ金融ノ狀態及作用竝墺地利國及其ノ國民ノ財産及生産力、其ノ原料及製造品ノ貯藏額及當時ノ産額ニ關シ賠償委員會ノ必要トスルコトアルヘキ一切ノ資料ヲ之ニ供給スヘシ同政府ハ又千九百十四年—千九百十九年戰爭ノ軍事行動ニ關スル情報ニシテ該委員會ノ必要ト認ムルモノヲ之ニ供與スヘシ

墺地利國政府ノ正式ニ派遣セラレタル友好國ノ外交官カ墺地利國ニ於テ享有スル一切ノ權利及免除ヲ賠償委員會ノ委員及權限アル其ノ事務員ニ許與スヘシ

墺地利國ハ倘委員會及其ノ使用スル職員ノ俸給及費用ヲ負擔スルコトヲ約諾ス

第百八十七條

墺地利國ハ此等諸規定ノ完全ナル實行ニ必要ナル法律命令ヲ制定シ公布シ及施行スルコトヲ約ス

第百八十八條

本編ノ規定ハ第十編（經濟條項）第三款及第四款ノ規定ニ何等ノ影響ヲ及ホスコトナシ

第百八十九條

左ニ掲クルモノハ墺地利國ノ賠償債務ニ關シ其ノ貸方ニ之ヲ計上スヘシ

（イ）第十編（經濟條項）第三款及第四款ノ規定ニ依リ墺地利國ノ受取勘定ト爲ルヘキ最終殘額

（ロ）第九編（財政條項）及第十二編（港、水路及鐵道）ニ依ル讓渡ニ關シ墺地利國ニ支拂フヘキ額

（ハ）右ノ外本條約ニ依リ財産、權利、利權其ノ他ノ利益ヲ讓渡シタル結果賠償委員會ニ於テ墺地利國ノ貸方ニ計上スヘシト決定シタル額

第百八十四條ノ規定ニ依リ還付シタル財産ハ如何ナル場合ニ於テモ墺地利國ノ貸方ニ之ヲ計上スルコトナシ

第百九十條

墺地利海底電信線ノ讓渡ハ本條約ニ別段ノ規定ナキ限リ本款第六附屬書ノ規定ニ依ル

第一附屬書

補償ハ前記第百七十八條ニ依リ左記種目ノ全損害ニ付墺地利國ニ之ヲ請求スルコトヲ得

一　場所ノ如何ヲ問ハス戰爭行爲（陸上海上又ハ空中ノ砲撃其ノ他ノ攻撃ヲ含ム）ニ因リ及其ノ一切ノ直接ノ結果ニ因リ又ハ交戰國ノ雙方ノ行ヘル一切ノ軍事行動ニ因リ普通人民ノ身體又ハ生命ニ及ホシタル損害及右普通人民ノ生殘被扶養者ノ損害

二　場所ノ如何ヲ問ハス墺地利國又ハ其ノ同盟國ノ殘忍、兇暴又ハ虐待ノ行爲ノ犧牲ト爲リタル普通人民及其ノ生殘被扶養者ノ損害（監禁、追放、抑留、退去命令、海上遺棄又ハ强制勞働ノ結果トシテ生命又ハ健康ニ及ホシタル損害ヲ含ム）

三　墺地利國又ハ其ノ同盟國カ其ノ領土、占領地又ハ侵入地ニ於テ行ヒタル健康、活動力又ハ名譽ヲ害スル一切ノ行爲ノ犧牲ト爲リタル普通人民及其ノ生殘被扶養者ノ損害

四　俘虜ニ對スル各種ノ虐待ニ基ク損害

五　同盟及聯合國國民ノ被リタル損害トシテ戰爭ノ犧牲即チ傷痍ヲ受ケ疾病ニ罹リ又ハ不具癈疾ト爲リタル軍人（陸海軍及空軍）及其ノ被扶養者ニ對スル一切ノ恩給金又ハ同性質ノ補償金但シ同盟及聯合國政府ニ支拂フヘキ金額ハ千九百十九年五月一日ニ於ケル佛蘭西國現行ノ給與率ヲ基礎トシ本條約實施ノ日ニ於テ右恩給金又ハ補償金ヲ一時金ニ換算シタル額ニ依リ右各國政府毎ニ之ヲ計算スヘシ

六　俘虜又ハ其ノ家族若ハ被扶養者ニ對スル同盟及聯合國政府ノ扶助費

七　動員セラレタル者又ハ從軍シタル者ノ家族及被扶養者ニ對スル同盟及聯合國政府ノ給與額但シ戰時狀態ニ在リタル各曆年ニ付同盟及聯合國政府ニ支拂フヘキ額ハ此ノ種支拂ニ關シ當該曆年ニ於テ佛蘭西國ノ適用シタル平均ノ率ヲ基礎トシ右各國政府毎ニ之ヲ計算スヘシ

八　墺地利國又ハ其ノ同盟國カ正當ノ報酬ヲ與ヘスシテ課シタル勞働義務ニ基ク普通人民ノ損害

九　同盟國若ハ聯合國ノ中ノ一國又ハ其ノ國民ニ屬スル一切ノ財産（陸海軍ノ工作物及材料ヲ除ク）ニシテ其ノ所在地ノ如何ヲ問ハス陸上海上又ハ空中ニ於ケル墺地利國又ハ其ノ同盟國ノ行爲ニ因リ搬去、差押、毀損又ハ破壞セラレタルモノニ關スル損害及敵對行爲又ハ軍事行動ノ直接ノ結果タル損害

十　墺地利國又ハ其ノ同盟國カ普通人民ニ課シタル賦金、罰金其ノ他之ニ類スル强制徵收ノ形式ニ依ル損害

第二附屬書

一

第百七十九條ノ委員會ニハ「賠償委員會」ノ名稱ヲ附スヘク以下之ヲ「委員會」ト稱ス

二

委員會ノ委員ハ亞米利加合衆國、大不列顛國、佛蘭西國、伊太利國、日本國、白耳義國、希臘國、波蘭國、羅馬尼亞國、「セルブ、クロアート、スロヴェーヌ」國及「チエッコ、スロヴァキア」國之ヲ任命スヘシ亞米利加合衆國、大不列顛國、佛蘭西國、伊太利國、日本國及白耳義國ハ各委員一名ヲ、爾餘ノ五國ハ左記三ノ第三項ニ定ムル條件ニ從ヒ共通ノ委員一名ヲ任命スヘシ各委員ト同時ニ副委員一名ヲ任命スヘシ副委員ハ委員ノ病氣又ハ已ムヲ得サル闕席ノ場合ニ於テ之ニ代ルヘク其ノ他ノ場合ニ於テハ單ニ會議ニ出席スルノ權利ヲ有シ議事ニ參與スルコトヲ得ス

如何ナル場合ニ於テモ上記委員中五名以外ノ者ハ委員會ノ議事ニ參與シ且表決ニ加ハルノ權利ヲ有スルコトナシ亞米利加合衆國、大不列顛國、佛蘭西國及伊太利國ノ委員ハ每ニ此ノ權利ヲ有ス白耳義國委員ハ以下ノ場合ヲ除ク一切ノ場合ニ此ノ權利ヲ有ス日本國委員ハ海上ニ於ケル損害ニ關スル問題ヲ審議スル場合ニ此ノ權利ヲ有ス上記ノ爾餘五國ノ共通委員ハ墺地利國、洪牙利國又ハ勃爾牙利國ニ關スル問題ヲ審議スル場合ニ此ノ權利ヲ有ス

委員會ニ代表セラルル各政府ハ委員會ニ對シ十二月前ノ豫告ヲ爲シ且其ノ通告ノ日以後第六月中ニ之カ確認ヲ爲スコトニ依リ委員會ヨリ脱退スルノ權利ヲ有ス

三

同盟及聯合國中利害關係ヲ有スルモノハ各自國ノ請求權及利益ノ審査討議中ニ限リ陪席委員トシテ出席シ且行動スル委員一名ヲ任命スルノ權利ヲ有ス該委員ハ表決權ヲ有スルコトナシ

委員會カ第百七十九條ニ依リ設置スヘキ分科會ハ亞米利加合衆國、大不列顛國、佛蘭西國、伊太利國、希臘國、波蘭國、羅馬尼亞國、「セルブ、クロアート、スロヴェーヌ」國及「チェッコ、スロヴァキア」國ノ代表者ヲ包含スヘシ但シ此ノ構成ノ請求ノ認否ヲ何等豫斷スルモノニ非ス分科會ニ於テ表決ヲ爲スニ當リテハ亞米利加合衆國、大不列顛國、佛蘭西國及伊太利國ノ代表者ハ各二箇ノ表決權ヲ有スヘシ

前記ノ爾餘五國ノ代表者ハ本附屬書二ニ掲クル條件ニテ賠償委員會ニ列席スヘキ共通ノ委員一名ヲ任命スヘシ右共通委員ノ任期ハ一年トシ前記五國中ノ各國ノ國民中ヨリ順次之ヲ選擇スヘキモノトス

四

委員、副委員又ハ陪席委員ノ死亡、辭任又ハ召還ノ場合ニ於テハ成ルヘク速ニ後任者ヲ任命スヘシ

五

委員會ハ其ノ常設事務局本部ヲ巴里ニ設ケ本條約實施後成ルヘク速ニ其ノ第一回會議ヲ巴里ニ開クヘシ爾後ハ其ノ便宜ナリト認メ且其ノ職務ノ最敏活ナル執行ニ必要ナル地及時期ニ於テ開會スヘシ

六

委員會ハ其ノ第一回會議ニ於テ前記委員中ヨリ議長一名及副議長一名ヲ選擧スヘシ議長及副議長ノ任期ハ一年トシ再選ヲ妨ケス任期中議長又ハ副議長ニ闕員ヲ生シタルトキハ委員會ハ當該任期ノ殘餘ニ對シ直ニ新選擧ヲ行フヘシ

七

委員會ハ其ノ職務ノ執行ニ必要ナル一切ノ役員事務員及使用人ヲ任命シ其ノ給與額ヲ定メ、委員會ノ委員タルコトヲ要件トセサル委員ヨリ成ル分科會又ハ小委員會ヲ組織シ、任務ノ遂行ニ必要ナル一切ノ執行手段ヲ講シ且役員事務員分科會及小委員會ニ其ノ權限及裁量ヲ委任スルコトヲ得

八

委員會ノ一切ノ議事ハ之ヲ公開セス但シ特殊ノ理由ニ因リ委員會カ特別ノ場合ニ別段ノ決定ヲ爲シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

九

委員會ハ墺地利國政府ノ請求アルトキハ隨時期間ヲ定メ墺地利國ノ支拂能力ニ關スル問題ニ付其ノ辯論及立證ヲ聽取スルコトヲ要ス

十

委員會ハ請求ヲ審査シ且意見陳述ノ權利ヲ衡平ニ墺地利國政府ニ與フヘシ尤モ墺地利國政府ハ委員會ノ決定ニ何等參與セサルモノトス委員會カ墺地利國ノ同盟國ノ利害關係事項ト認ムルトキハ右ノ權利ヲ該同盟國ニ與フヘシ

十一

委員會ハ何等ノ法令、特定ノ法典又ハ審理若ハ手續ニ關スル何等特別ノ規則ニ拘束セラルルコトナク正義衡平及信義ヲ本旨トスヘシ委員會ノ決定ハ其ノ適用シ得ル限リ一切ノ場合ヲ通シテ劃一ノ原則及規則ニ準據スルコトヲ要ス委員會ハ請求ノ立證方法ニ關スル規則ヲ設クヘシ委員會ハ一切ノ正當ナル計算方法ヲ用ヰルコトヲ得

十二

委員會ハ本條約ニ依リ其ノ付與セラルル一切ノ權能ヲ有シ且其ノ付託セラルル一切ノ職務ヲ行フヘシ

委員會ハ本編ニ規定スル賠償問題ノ管掌及處理ニ付一般ニ廣汎ナル權能ヲ有シ且本編ノ規定ヲ解釋スル權限ヲ有スヘシ本條約ノ規定ニ依ルノ外委員會ハ本編ノ規定ニ依リテ墺地利國ノ支拂フヘキ賠償金品ノ受領、賣却、保有及分配ニ付前記二及三ノ同盟及聯合國政府各自ノ唯一ノ代表者トシテ右諸國政府カ一體トシテ之ヲ組織スルモノトス委員會ハ左記ノ條件及規定ニ準據スルコトヲ要ス

（イ）査定濟請求總額中金ヲ以テ又ハ船舶、有價證券、貨物其ノ他ヲ以テ支拂ハレサル部分ニ付テハ墺地利國ハ該部分ノ債務ヲ承認スル目的ヲ以テ委員會ノ決定スル條件ニ依リ擔保トシテ同額ノ債券、債務證書其ノ他ヲ交付シ之ニ充ツルコトヲ要ス

（ロ）委員會ハ墺地利國ノ支拂能力ヲ定期ニ評定スルニ際シ第一ニ墺地利國ノ全歳入（內國債ノ利息支拂又ハ償還ニ充ツヘキ歳入ヲ含ム）ヲ先ツ墺地利國ノ支拂フヘキ賠償額ニ供スル爲第二ニ一般ニ墺地利國ノ租稅制度カ委員會ニ付表セラルル何レノ國ノ制度ト比較スルモ其ノ負擔決シテ輕カラサルコトニ付確信ヲ得ル爲墺地利國ノ租稅制度ヲ檢査スヘシ

賠償委員會ハ第一ニ本條約ニ依リ劃定セラルル墺地利國領土內ノ經濟及金融ノ實狀第二ニ本條約ノ條項ニ基ク墺地利國領土內ノ資源及支拂能力ノ減少ヲ特ニ考量スヘキ趣旨ノ訓令ヲ接受スヘシ墺地利國ノ狀態ノ變化セサル限リ委員會ハ墺地利國ノ確定債務總額、同國カ債務ヲ辨濟スル爲ノ割賦及同國ノ請求スルコトアルヘキ利息支拂延期ヲ決定スルニ付右ノ事項ヲ參酌スヘシ

（ハ）委員會ハ第百八十一條ノ規定ニ從ヒ墺地利國ヲシテ其ノ債務ノ擔保及承認トシテ金貨無記名債券ヲ交付セシムヘシ該債券ハ墺地利國政府又ハ之ニ屬スル官憲ノ課シ又ハ課スルコトアルヘキ各種ノ租稅又ハ公課ヲ免除セラルヘシ右債券ハ委員會ノ適當ト認ムル時期ニ於テ且委員會ノ定ムル各額ニ依リ三回ニ之ヲ交付スヘシ其ノ「冠」金貨ノ支拂ニ付テハ第九編（財政條項）第二百十四條ニ依ル

（一）無記名債券ノ第一回發行ヲ爲スコト　本債券ハ無利息トシ千九百二十一年五月一日前ニ支拂フヘキモノトス墺地利國カ第百八十一條ニ從ヒ履行ヲ約シタル支拂額ハ占領軍隊ノ維持費ノ償還竝糧食及原料ノ代金支拂ニ供シタル金額ヲ控除シタル上特ニ之ヲ本債券ノ償却ニ充當スヘシ右債券ニシテ千九百二十一年五月一日前ニ償却セラレサルモノハ次（十二ノハ號ノ（二））ニ規定スル債券ト同一樣式ノ新債券ヲ以テ之ヲ引換フヘシ

（二）無記名債券ノ第二回發行ヲ爲スコト　本債券ニハ千九百二十一年ヨリ千九百二十六年迄ハ年二分五厘（百分ノ二半）、爾後ハ年五分（百分ノ五）ノ利息ヲ附シ更ニ千九百二十六年ヨリ償還ノ爲發行總額ニ

（外初版）

對シ年一分(百分ノ一)ヲ添加ス

(三)　更ニ新割賦トシテ年五分(百分ノ五)利附無記名債券ヲ發行スヘキ旨ヲ約束書ヲ作成スルコト　右ノ發行ハ委員會ニ於テ埃地利國カ前記ノ利息及償還基金ノ債務ヲ確ニ履行シ得ルコトノ確信ヲ得タル場合ニ限ル　本債券ノ元利支拂ノ時期及方法ハ委員會之ヲ決定スヘシ

債券ノ利息支拂ノ期日、償還基金ノ使用方法其ノ他類似ノ問題ニシテ發行、管理及債券發行規則ニ關スルモノハ委員會隨時之ヲ決定ス」爾後委員會ノ隨時決定スル條件ニ依リ債務ノ承認及擔保タル債券ノ新發行ヲ要求スルコトヲ得

賠償委員會カ同盟及聯合國ノ要求ニ基キ共同負擔額中埃地利國ノ負擔スヘキ部分ヲ最終確定的ニ決定シタル場合ニハ委員會ハ該金額ニ超過シテ發行セラレタルコトアルヘキ一切ノ債券ヲ直ニ無效ナラシムヘシ

(ニ)　賠償債務ノ擔保又ハ承認トシテ埃地利國ノ發行シタル債券、債券證書其ノ他ノ債務證憑カ埃地利國ノ賠償債務額ノ原債權者タル諸政府ニ非サル者ニ確定的(擔保ノ爲ニ非ス)ニ歸屬シタル場合ニ於テハ該賠償債務額ハ斯ク確定的ニ歸屬シタル債券等ノ券面價額ニ相當スル額ニ付右諸政府ニ關スル限リ消滅シタルモノト看做サルヘシ此ノ債券等ニ關スル埃地利國ノ債務ハ券面記載ノ義務ニ限定セラルヘシ

(ホ)　侵入ヲ受ケ荒廢ニ歸シタル諸地方ニ在ル財產ノ修復及再造(家具、機械其ノ他ノ物件ノ再裝置ヲ含ム)ニ要スル費用ハ其ノ作業實行ノ時期ニ於ケル修復及再造ノ費額ニ依リ之ヲ計算スヘシ

(ヘ)　埃地利國ノ查定濟債務ノ元本又ハ利息ノ全部又ハ一部ノ免除ニ關スル委員會ノ決定ニハ其ノ理由ヲ附スルコトヲ要ス

十三

委員會ハ表決ニ關シ左ノ規則ニ準據スヘシ

委員會ノ決定ヲ爲スニ當リテハ表決權ヲ有スル各委員ノ表決、關席委員アル場合ニ於テハ其ノ副委員ノ表決ヲ記錄スヘシ表決ノ棄權ハ審議中ノ議案ニ反對スル表決ト看做スヘシ陪席委員ハ表決權ヲ有セス

左記ノ問題ニ關シテハ全會一致ヲ要ス

(イ)　同盟及聯合國ノ主權ニ關聯スル問題又ハ埃地利國ノ債務若ハ義務ノ全部若ハ一部ノ免除ニ關スル問題

(ロ)　埃地利國政府ノ交付スヘキ債券其他ノ債務證書ノ金額及條件ニ關スル問題竝右債券等ノ賣却、流通又ハ分配ノ時期及方法ヲ定ムル問題

(ハ)　千九百二十一年五月一日以後千九百二十六年末迄ノ間ニ辨濟期ニ達スル支拂ノ全部又ハ一部ヲ千九百三十年終了後ニ延期スルコト

(ニ)　千九百二十六年終了後ニ辨濟期ニ達スル支拂ノ全部又ハ一部ヲ三年ヲ超ユル期間延期スルコト

(ホ)　特定ノ場合ニ於テ從來同樣ノ場合ニ採用シタル損害見積方法ト異ル方法ヲ適用スル問題

(ヘ)　本編ノ規定ノ解釋ニ關スル問題

右以外ノ一切ノ問題ハ過半數ノ表決ヲ以テ之ヲ決ス

一ノ事件カ其ノ決定ニ全會一致ヲ要スルヤ否ヤノ問題ニ付委員間ニ意見ノ相違アリテ其ノ本國政府ニ請訓スルモ尙解決スルコト能ハサル場合ニ於テハ同盟及聯合國政府ハ直ニ公平ナル人ノ仲裁ニ之ヲ付スヘキコトヲ約シ仲裁人ノ指名ハ當事國間ニ協定セラルヘク同盟及聯合國政府ハ其ノ裁定ヲ承認スルコトヲ約ス

十四

委員會カ其ノ付與セラレタル權能ニ依リテ下シタル決定ハ卽時ニ執行力ヲ有スヘク且他ノ手續ヲ經スシテ直ニ之ヲ實行スルコトヲ得

十五

委員會ハ其ノ定ムル樣式ニ依リ關係各國ニ左ノ證明書ヲ交付スヘシ

一　委員會カ當該國ノ計算ニ於テ前記發行ノ債券ヲ保有スル旨ヲ記載シタル證明書　本證明書ハ當事國ノ請求アルトキハ五箇ヲ超エサル部分ニ之ヲ分割スルコトヲ得

二　埃地利國カ其ノ賠償債務ノ一部支拂トシテ引渡シタル他ノ一切ノ財產ヲ委員會カ當該國ノ計算ニ於テ保有スル旨ヲ記載シタル時時ノ證明書

右證明書ハ記名式タルヘク且委員會ニ通知シタル上裏書ヲ以テ之ヲ移轉スルコトヲ得ヘシ

債券カ賣却又ハ流通ノ爲發行セラレタルトキ及財產カ委員會ヨリ引渡サレタルトキハ其ノ價格ニ相當スル證明書ハ之ヲ回收スルコトヲ要ス

十六

委員會ニ於テ決定シタル埃地利國ノ債務中正金若ハ其ノ相當物又ハ委員會ノ爲ニ發行セラレタル債券ヲ以テスル支拂ニ依リ履行濟ノ割賦額及第百八十九條ノ支拂額ヲ控除シタル殘額ニ對シテハ千九百二十一年五月一日以後ノ利息ヲ埃地利國政府ノ借方ニ計上スヘシ

前項利息ノ率ハ年五分トス但シ委員會カ將來右ノ率ノ變更ヲ正當トスル事情アリト認メタルトキハ此ノ限ニ在ラス

委員會ハ千九百二十一年五月一日ニ於テ埃地利國ノ債務總額ヲ決定スルニ當リ物質的損害ノ賠償額ニ對スル千九百十八年十一月十一日ヨリ千九百二十一年五月一日前迄ノ利息ヲ算入スルコトヲ得

十七

埃地利國カ本編規定ノ義務中何レカ一ノ履行ヲ怠リタル場合ニ於テハ委員會ハ直ニ之ヲ關係各國ニ通知シ右不履行ノ爲執ルヘキ措置ニ付其ノ適當ト認ムル提議ヲ該通知ニ添附スヘシ

十八

埃地利國カ故意ニ履行ヲ怠リタル場合ニ同盟及聯合國カ執ルノ權利ヲ有スル措置ニハ經濟上及金融上ノ禁止及報復其ノ他一般ニ當該國政府カ事情ニ應シ必要ト認ムルコトアルヘキ措置ヲ包含ス埃地利國ハ右ノ措置ヲ以テ敵對行爲ト認メサルコトヲ約ス

十九

同盟及聯合國ノ查定濟請求ニ對スル一部支拂トシテ金又ハ其ノ相當物ヲ以テ爲スコトヲ要スル支拂ハ埃地利國領土ノ內外ニ在ル動產不動產貨物企業權利及利權竝船舶債券株券若ハ各種ノ有價證券又ハ埃地利國若ハ他ノ諸國ノ通貨ヲ以テスルコトヲ委員會ニ於テ何時ニテモ受諾スルコトヲ得此等ノモノノ金ニ對スル交換價格ハ正當且公平ナル率ニ依リ委員會自ラ之ヲ決定スヘシ

二十

委員會ハ特定ノ財產又ハ權利ノ引渡ヲ以テ爲ス支拂ヲ決定シ又ハ受諾スルニ當リ同盟及聯合國又ハ中立國竝其ノ國民カ右ノ財產又ハ權利ニ對シ

〔外務省版〕

テ有スル正當ノ權利及利益ヲ參酌スヘシ

二十一

委員會ノ委員ハ其ノ任務上ノ作爲又ハ不作爲ニ付任命國政府ニ對スルノ外其ノ責ニ任セス各同盟及聯合國政府ハ他ノ政府ノ爲ニ何等ノ責ヲ負フコトナシ

二十二

本條約ノ規定ニ依ルノ外本附屬書ハ委員會ニ代表セラルル諸國政府ノ一致ノ決定ヲ以テ之ヲ修正スルコトヲ得

二十三

埃地利國及其ノ同盟國カ本條約ニ依リ又ハ委員會ノ決定ニ依リ負擔スル債務總額ノ辨濟ヲ了シ且委員會カ其ノ受領シタル一切ノ金額又ハ其ノ相當物ヲ關係諸國ニ分配シタルトキハ委員會ハ解散スヘシ

第三附屬書

一

埃地利國ハ戰爭ニ因リ喪失シ又ハ損害ヲ受ケタル一切ノ商船及漁船ニ付噸數對噸數（總噸數）及等級對等級ノ代償ヲ受クル同盟及聯合國ノ權利ヲ承認ス

尤モ現存ノ埃地利船舶ノ噸數ハ埃地利國及其ノ同盟國ノ攻擊ニ因ル同盟及聯合國ノ喪失噸數ニ比スレハ遙ニ小ナリト雖右承認セラレタル權利ハ次ノ條件ニ依リ該埃地利船舶ノ上ニ之ヲ行使スヘシ

埃地利國政府ハ舊埃地利帝國ノ國民ニ屬スル一切ノ商船及漁船ノ所有權ヲ自己ノ名ニ於テ且一切ノ關係者ヲ拘束スルモノトシテ同盟及聯合國政府ニ讓渡ス

埃地利國政府ハ右ノ如ク引渡ス各船舶ニ對スル權原證書ヲ供給スル爲

(イ) 各船舶ニ付先取特權、抵當權其ノ他何等ノ負擔ナキ完全ナル船舶所有權ヲ賠償委員會ニ移轉シタルコトヲ證明スル賣渡證書其ノ他ノ權原證書ヲ該委員會ノ請求ニ從ヒ之ニ交付スヘシ

(ロ) 右ノ船舶ヲ賠償委員會ノ處分ニ委スルコトヲ確保スル爲同委員會ノ指示スルコトアルヘキ一切ノ措置ヲ執ルヘシ

五

埃地利國ハ名義ノ如何ヲ問ハス千九百十四年七月二十八日以後自國又ハ自國民中ノ一人ノ占有ニ歸シタル河川航行用ノ一切ノ船舶其ノ他ノ可動具ニシテ之ヲ識別シ得ルモノヲ賠償委員會ノ定ムル手續ニ依リ本條約實施後二月ノ期間內ニ現物ノ儘普通ノ保存狀態ニ於テ同盟及聯合國ニ還付スルコトヲ約ス

戰時中原因ノ如何ヲ問ハス同盟及聯合國ノ被リタル河川用船舶噸數ノ喪失ニシテ前項ノ還付ニ依リ賠償スルコト能ハサルモノヲ補償スル爲埃地利國ハ右喪失ノ總額ニ達スル迄同國河川船隊ノ一部ヲ賠償委員會ニ讓渡スルコトヲ約ス但シ該讓渡ハ千九百十八年十一月三日現在ノ河川船隊ノ總噸數ノ二割ヲ超エルコトヲ得ス

右讓渡ノ態樣ハ特定河系ノ新國際制度ニ因リ又ハ該河系ニ影響スル領土ノ變更ニ因リ河川用船舶噸數ノ分配ニ關シテ生スヘキ紛爭ヲ解決スルノ任務ヲ有スル第十二編（港、水路及鐵道）第三百條ノ數名ノ仲裁委員之ヲ定ムヘシ

六

埃地利國ハ同盟及聯合國政府ノ同意ナクシテ中立國國籍ニ戰時中移轉シ又ハ現ニ移轉中ニ屬スル一切ノ船舶ノ上ニ完全ナル所有權ヲ取得スル爲賠償委員會ノ指示スル一切ノ措置ヲ執ルコトヲ約ス

七

埃地利國ハ一切ノ埃地利船舶ノ抑留又ハ利用及該船舶ノ喪失又ハ損害ニ付同盟及聯合國政府竝其ノ國民ニ對スル各種ノ請求權ヲ拋棄ス

八

埃地利國ハ海軍ノ行動ニ依リ又ハ其ノ結果トシテ沈沒シ其ノ後救助セラレタル船舶又ハ載貨ニシテ同盟國若ハ聯合國政府ノ一政府又ハ國民カ所有者、傭船者、保險者其ノ他トシテ利害關係ヲ有スルモノニ對スル一切ノ請求權ヲ拋棄ス舊埃地利洪牙利君主國又ハ其ノ同盟國ノ捕獲審檢所ニ於テ捕獲ノ宣告アリタル場合ト雖異ルコトナシ

第四附屬書

一

同盟及聯合國ハ埃地利國カ本編ニ掲クル其ノ義務ノ一部履行トシテ以下定ムル態樣ニ依リ同國ノ經濟資源ヲ同盟及聯合國ノ決定スル範圍內ニ於テ該諸國ノ被侵入地方ノ物質的回復ニ直接充當スルコトヲ要求シ埃地利國ハ之ヲ受諾ス

二

同盟及聯合國政府ハ左記品目表ヲ賠償委員會ニ提出スヘシ

(イ) 埃地利國カ差押ヘ消費シ若ハ破壞シ又ハ軍事行動ノ直接ノ結果破壞セラレタル動物、機械、設備、器具其ノ他商品ノ性質ヲ有スル類似ノ物品ニシテ同盟及聯合國政府カ本條約實施ノ當日埃地利國領土內ニ現存スル同種ノ動物又ハ物品ヲ以テ代償セラルルコトヲ卽時緊急ノ必要ニ應スル爲希望スルモノ

(ロ) 再築材料（石材、煉瓦、硬質煉瓦、瓦、木材、窓硝子、鋼鐵、石灰、「セメント」等）、機械、煖房具、家具其ノ他商品ノ性質ヲ有スル物品ニシテ同盟及聯合國政府カ被侵入地方ノ回復ノ爲埃地利國內ニ於テ生產又ハ製造セラレ且自國ニ交付セラルルコトヲ希望スルモノ

三

右二ノ(イ)號ニ掲クル物品ノ品目表ハ本條約實施後六十日以內ニ之ヲ提出スヘシ二ノ(ロ)號ニ掲クル物品ノ品目表ハ千九百十九年十二月三十一日以前ニ之ヲ

ヲ提出スヘシ

該品目表ニハ當該物品ニ關シ品種、引渡期限（但シ四年ヲ超ユルコトヲ得ス）、引渡ノ場所其ノ他商業契約ノ慣習上ノ一切ノ細目ヲ掲載スヘシ尤モ物品ノ價格又ハ評價額ハ左記ノ規定ニ從ヒ委員會之ヲ決定スルコトヲ要シ該品目表ニ掲クヘカラサルモノトス

四

委員會ハ右品目表ヲ接受シタルトキハ直ニ該品目表ニ記載スル材料及動物ヲ如何ナル範圍ニ於テ墺地利國ニ要求シ得ヘキカヲ審査スヘシ委員會ハ此ノ決定ヲ爲スニ當リ墺地利國ノ社會的及經濟的生活ノ維持ニ必要ナル限リ同國ノ國內ノ需要ヲ參酌スヘク又同盟及聯合國內ニ於テ類似ノ物品ヲ取得スルニ要スル價格及期限ヲ考量シ之ヲ墺地利品ニ付必要トスル價格及期限ト比較スヘク最後ニ墺地利國ノ產業生活カ擾亂セラレ之カ爲同國ノ他ノ賠償行爲ヲ完了スル能力ヲ害スルニ至ラサルコトニ付同盟及聯合國政府ノ有スル一般的利益ヲ考量スヘシ

尤モ現ニ產業ニ使用中ノ機械、設備、器具及商品ノ性質ヲ有スル類似ノ物品ハ此等物品ノ貯藏額ニシテ利用賣却シ得ヘキモノナキ場合ニ非サレハ墺地利國ニ之ヲ要求スルコトヲ得ス但シ此ノ種ノ要求額ハ同國ノ一事業所又ハ一企業ニ於ケル各物品ノ使用量ノ三割以內ニ限ルヘシ

委員會ハ前記ノ材料、動物及物件ヲ供給シ得ル墺地利國政府ノ能力ニ關シ一定ノ期間內ニ意見ヲ陳述スルノ權利ヲ同國政府ノ代表者ニ與フヘシ」

委員會ノ決定ハ其ノ後成ルヘク速ニ墺地利國政府及利害關係ヲ有スル各同盟及聯合國政府ニ之ヲ通告スヘシ

墺地利國政府ハ該通告中ニ指定スル材料、物件及動物ヲ交付スヘキコトヲ約シ利害關係ヲ有スル同盟及聯合國政府ハ此等ノ物品カ其ノ提出スル明細書ニ該當スル場合又ハ委員會ニ於テ同復作業ニ使用スルニ適セスト認メサル場合ニ於テノミ之ヲ受諾スヘキコトヲ各自國ノ關スル限リ約ス

五

委員會ハ右規定ニ依リ交付セラルヘキ材料、物件及動物ノ價額ヲ決定スヘシ該物品ヲ受領スル同盟及聯合國政府ハ右ノ價額カ其ノ借方ニ計上セラルルコトヲ受諾シ其ノ相當額ハ第百八十三條ノ規定ニ依リテ分配スヘキ墺地利國ノ支拂トシテ之ヲ取扱フヘキコトヲ承認ス

右ニ定ムル條件ニ依リ物質的回復ヲ要求スル權利ヲ行使スル場合ニ於テハ委員會ハ墺地利國ノ貸方ニ計上セラルヘキ額カ同國ノ爲シタル役務又ハ供給シタル材料ノ普通價額タルヘキコト及右一部ノ賠償アリタル損害ニ付關係國ノ爲シタル請求額ハ右ノ既濟賠償額ノ割合ニ於テ減少セラルヘキコトヲ確保スヘシ

六

前記二ニ掲クル動物ニ付テハ墺地利國ハ卽時ノ前渡トシテ本條約實施後三月內ニ左記頭數ノ家畜ヲ各種類每ニ每月其ノ三分ノ一ツツ交付スルコトヲ約ス

一　伊太利國政府ニ

乳牛	（三歲乃至五歲）	四千頭
仔牝牛		一千頭
牡牛	（十八月乃至三歲）	五十頭
犢牛		一千頭
輓曳用去勢牛		一千頭
牝豚		二千頭

二　「セルブ、クロアート、スロヴェーヌ」國政府ニ

乳牛	（三歲乃至五歲）	一千頭
仔牝牛		五百頭
牡牛	（十八月乃至三歲）	二十五頭
犢牛		一千頭
輓曳用去勢牛		五百頭
輓馬		一千頭
羊		一千頭

三　羅馬尼亞國政府ニ

乳牛	（三歲乃至五歲）	一千頭
仔牝牛		五百頭
牡牛	（十八月乃至三歲）	二十五頭
犢牛		一千頭
輓曳用去勢牛		五百頭
輓馬		一千頭
羊		一千頭

引渡サルル動物ハ普通ノ健康及狀態ヲ有スルモノタルヘシ

斯ク引渡サルル動物カ墺ニ搬去セラレ又ハ差押ヘラレタルモノト識別シ得サルトキハ該動物ノ價額ハ本附屬書五ノ規定ニ依リ墺地利國ノ賠償債務ニ付其ノ貸方ニ之ヲ計上スヘシ

七

前記二ニ揭クル物品ニ付テハ墺地利國ハ同國內ノ賣品タル硬質木製及軟質木製ノ一定量ノ家具ヲ卽時ノ前渡トシテ本條約實施後六月內ニ每月其ノ六分ノ一ツツ引渡スコトヲ約ス該家具ハ同盟及聯合國カ賠償委員會ノ仲介ニ由リ每月之ヲ要求スヘク其ノ數量ハ委員會カ一方右諸國ノ版圖內ニ於テ戰時中行ハレタル搬去又ハ破壞ニ照シ相當ト認ムルモノニシテ他方墺地利國ノ供給シ得ル數量ニ對シ適當ノ割合ト認ムルモノタルヘシ斯ク供給セラルル物品ノ價格ハ本附屬書五ノ條件ニ依リ墺地利國ノ貸方ニ之ヲ計上スヘシ

第五附屬書

一

墺地利國ハ本條約實施後五年間左記原料ノ年々ノ引渡ニ付選擇權ヲ一部賠償トシテ各同盟及聯合國政府ニ許與ス該引渡ノ額カ墺地利洪牙利國ヨリ來ル右原料ノ戰前輸入年額ニ對スル割合ハ本條約ノ定ムル國境ヲ有スル墺地利國ノ資源カ舊墺地利洪牙利君主國ノ戰前資源ニ對スル割合ニ均シキモノタルヘシ

木材及木製品

鐵及其ノ合金

「マグネサイト」

二

右一ニ揭クル生產品ニ對シ支拂フ價格ハ墺地利國民ノ支拂フモノト同額タルヘク其ノ荷造及墺地利國境ニ到ル迄ノ運賃ニ關スル一切ノ條件ハ同種生產品ノ引渡ニ付墺地利國民ニ許容セラルル最有利ナルモノタルヘシ

三

本附屬書ノ選擇權ハ賠償委員會ノ仲介ニ由リ之ヲ行使スヘシ該委員會ハ前記規定ヲ實行スル爲手續、物品ノ品質及數量竝引渡及支拂ノ期限及方

法ニ關スル一切ノ問題ヲ決定スル權能ヲ有ス要求額ハ千九百二十年一月一日以後ニ於テ行ハルヘキ引渡ニ付テハ履行開始期日ノ百二十日前、本條約實施ノ日ト千九百二十年一月一日トノ間ニ行ハルヘキ引渡ニ付テハ右履行開始期日ノ三十日前ニ有用ナル明細書ヲ添附シテ墺地利國ニ之ヲ豫告スヘシ委員會ハ右要求ヲ完全ニ滿足セシムルコトヲ以テ墺地利國ノ產業上ノ必要ニ甚シク累ヲ及ホスモノト認メタルトキハ該引渡ヲ延期シ又ハ取消シ尙優先ノ順位ヲ決定スルコトヲ得ヘシ

第六附屬書

墺地利國ハ伊太利國ノ諸地方（本條約ニ依リ伊太利國ニ歸屬スルニ至リタル諸地方ヲ含ム）ヲ連絡スル海底電信線又ハ其ノ部分ニ關スル各種ノ權利、權原又ハ特權ヲ自國及其ノ國民ノ名ニ於テ總テ伊太利國ノ爲ニ拋棄ス

墺地利國ハ又本條約ニ依リ同國カ同盟及聯合國中ノ諸國ニ讓渡スル諸地方ヲ互ニ連絡スル海底電信線又ハ其ノ部分ニ關スル各種ノ權利、權原又ハ特權ヲ自國及其ノ國民ノ名ニ於テ總テ主タル同盟及聯合國ノ爲ニ拋棄ス

關係諸國ハ前記海底電信線ノ陸揚及運用ヲ維持スルコトヲ要ス

伊太利國政府ハ「トリエスト」「コルフー」間ノ海底電信線ニ付該線ノ所有者タル會社トノ關係ニ於テ墺地利洪牙利國政府ノ享有セシ所ト同一ノ地位ヲ享有スヘシ

本附屬書第一項及第二項ニ記載スル海底電信線又ハ其ノ部分ニ對スル價額ハ敷設費ヲ基礎トシテ計算シ相當ナル減價率ニ依ル控除ヲ爲シタル上賠償名義ニ於テ墺地利國ノ貸方ニ之ヲ計上スヘシ

第二款　特別規定

第百九十一條

第百八十四條ノ規定ノ適用トシテ墺地利國ハ其ノ侵入地方ヨリ搬去シタル記錄　文書、考古品及美術品竝科學及書目ニ關スル一切ノ材料カ國ニ屬スルト又ハ州、市町村、慈善若ハ宗教上ノ設備其ノ他公私ノ施設ニ屬スルトヲ問ハス同盟及聯合國ノ各國ニ夫々之ヲ還付スルコトヲ約ス

第百九十二條

墺地利國ハ前條ノ物品ト同種ノモノニシテ讓渡諸地方ヨリ千九百十四年六月一日以後搬去セルモノヲ亦還付スヘシ但シ私人タル所有者ヨリ買取リタル物品ハ此ノ限ニ在ラス

賠償委員會ハ此等ノ物品ニ付第九編（財政條項）第二百八條ノ規定ヲ必要ニ應シ適用スヘシ

第百九十三條

墺地利國ハ讓渡諸地方ノ歷史ニ直接ノ關係ヲ有スル一切ノ記錄、文書及歷史的覺書ニシテ最近十年間ニ右諸地方ヨリ搬出セラレ且同國公共施設ノ占有ニ係ルモノヲ同盟國又ハ聯合國ノ各關係政府ニ夫々還付スヘシ右ノ期間ハ伊太利國ノ關スル限リ王國宣言ノ日（千八百六十一年）ニ遡及スヘシ

他ノ一方ニ於テ舊墺地利洪牙利君主國ヨリ生スル諸新國及該君主國領土ノ一部分ヲ讓受クル諸國ハ墺地利國領土ノ歷史又ハ施政ニ直接ノ關係ヲ有スル記錄、文書及覺書ニシテ偶讓渡諸地方內ニ存在スルモノカ二十年ヲ超エテ遡及セサル限リ墺地利國ニ之ヲ還付スルコトヲ約ス

第百九十四條

墺地利國ハ伊太利國ト墺地利洪牙利國トノ間ニ締結セラレタル千八百五十九年十一月十日ノ「ツーリッヒ」條約第十五條千八百六十六年十月三日ノ維納條約第十八條及千八百六十八年七月十四日ノ「フローレンス」條約ニ規定シタル義務ヲ伊太利國ニ對シ履行スヘキ責務ノ存續スルコトヲ承認ス尤モ右ニ揭クル諸條項カ事實上未タ完全ニ履行セラレス且關係ノ文書及物件カ墺地利國又ハ其ノ同盟國ノ版圖內ニ存在スル場合ニ限ル

第百九十五條

賠償委員會ノ選任スル法律家三名ノ小委員會ハ「ハプスブルグ」家及伊太利ニ君臨セシ其ノ他ノ諸家カ本款第一附屬書ニ列擧スル墺地利國占有中ノ物件又ハ寫本ヲ搬去スルニ至リタル事情ヲ本條約實施後十二月ノ期間內ニ審査スヘシ右物件又ハ寫本ノ搬去カ伊太利國諸州ノ權利ヲ侵害シタルモノナルトキハ賠償委員會ハ右小委員會ノ報告ニ基キ其ノ還付ヲ命スヘシ伊太利國及墺地利國ハ委員會ノ決定ヲ承認スルコトヲ約ス

白耳義國、波蘭國及「チェッコ、スロヴァキア」國ハ又本款第二、第三及第四附屬書ニ夫々列擧スル物件及文書ニ關シ還付ノ請求ヲ爲スコトヲ許容セラルヘク其ノ請求ハ右ノ法律家三名ノ小委員會之ヲ審査スヘシ白耳義國、波蘭國、「チェッコ、スロヴァキア」國及墺地利國ハ該小委員會ノ報告ニ基キ賠償委員會ノ爲ス決定ヲ承認スルコトヲ約ス

第百九十六條

墺地利國ハ美術的、考古學的、科學的又ハ歷史的性質ヲ有シ嘗テ舊墺地利洪牙利君主國政府又ハ帝室ノ有タリシ蒐集品ノ一部タル一切ノ物件ニシテ本條約中別段ノ規定ナキモノニ關シ左ノ事項ヲ約ス

（イ）讓渡諸地方ノ智能的世襲財產ニ屬スヘキ右ノ蒐集品又ハ物件ヲ相互的ニ總テ其ノ本源地方ニ送還スルコトヲ定ムル友誼的協定ヲ要求ニ應シ關係諸國ト交涉スルコト

（ロ）二十年ノ期間滿了前特別協定ノ成立セサル限リ同期間內右蒐集品ノ何レヲモ讓渡セス若ハ散逸セシメス又右物件ノ何レヲモ處分セスシテ其ノ安全及保存ヲ確保シ右蒐集品ノ管理ニ關スル品目、目錄及文書ト共ニ各同盟及聯合國國民タル研究者ヲシテ之ヲ利用セシムルコト

第一附屬書

「トスカーナ」

王室ノ寶石（散逸後ノ殘存部分）、「メディチ」選擧公夫人ノ私有寶石、「メディチ」家ノ相續財產ノ一部タル徽章類其ノ他ノ貴重品、以上何レモ契約上ノ取極及遺言處分ニ依リ御料財產ト爲リタルモノニシテ第十八世紀中維納ニ移送セラレタルモノ

「メディチ」家所屬ノ家具及銀盤竝「トスカーナ」王室ニ對スル墺地利家ノ金錢債務ノ辨濟ニ充當セラレタル「アスパシガス」ノ寶玉

「ロレーヌ」家カ搬去シテ維納帝室ノ從兄弟ニ贈物ト爲シタル「チメント」

「モデナ」

千八百五十九年「フランソア」公五世カ搬去シタル「モデナ」繪畫陳列館所屬ノ「アンドレア、デル、サルト」筆「處女」及「コレージュ」筆圖畫四箇

千八百五十九年「フランソア」公五世カ搬去シタル「モデナ」圖書館ノ三寫本卽チ「ビブリア、ヴルガータ」（拉典寫本部四二二―二三）、「ブレヴィアリウム、ロマーヌム」（拉典寫本部四二四）及「オフィシウム、ペアテ、ヴィルジニス」（拉典寫本部二六二）

（外務版）

千八百五十九年右同樣ニ搬去セラレタル青銅器

千八百六十八年六月二十日ノ條約ノ履行條件トシテ同年「モデナ」公ノ要求シタル諸物件（就中「サルヴァトール、ローサ」筆繪畫二箇及「ドッソ、ドッシ」筆肖像畫一箇）竝千八百七十二年右同一ノ事情ノ下ニ引渡サレタル其ノ他ノ諸物件

「パレルモ」

第十二世紀ニ「パレルモ」ニ於テ「ノルマン」諸王ノ爲ニ製作セラレ諸帝ノ戴冠式ニ使用セラレタル諸物件ニシテ「パレルモ」ヨリ搬去セラレ現ニ維納ニ在ルモノ

「ナポリ」

千七百十八年墺地利國ノ命令ニ依リ「カルボナラ」ノ聖「ジオヴァンニ」圖書館其ノ他「ナポリ」内ノ諸圖書館ヨリ搬去セラレ維納ニ移送セラレタル寫本九十八部

「ミラーノ」、「マントヴァ」、「ヴェネツィア」、「モデナ」及「フィレンツェ」ノ國立記錄局ヨリ時期ヲ異ニシテ搬去セラレタル諸文書

第二附屬書

一　千七百七十七年買收セラレ維納ニ移送セラレタル「ブリュッセル」ノ聖「ジャック」、シュール、グーデンベール」寺院所藏ノ「ルーベンズ」筆聖「イルデフォンス」ノ三對畫

二　千七百九十四年白耳義國ヨリ搬去セラレ保藏ノ爲墺地利國ニ移送セラレタル物件及文書即チ

(イ)「ブリュッセル」ノ舊武庫所藏ノ武器、甲冑其ノ他ノ物件

(ロ)「ブリュッセル」ノ宮廷禮拜堂ニ曾テ保存セラレタル「トアゾン、ドール」ノ寶物

(ハ)「ブリュッセル」會計檢查院ノ藏品ノ一部タリシ貨幣ノ鑄型、徽章類及「テオドール、ヴァン、ベルケル」作ノ計算板

(ニ)千七百七十年乃至千七百七十七年ノ間ニ於テ陸軍中將「ジャン、ドゥ、フェラーリ」伯ノ作成シタル「墺地利領和蘭ノ地方誌圖」ノ寫本ノ原本及該圖關係書類

第三附屬書

波蘭國ノ一部分タル地方ヨリ千七百七十二年ノ第一回分割以後搬去セラレタル物件即チ

維納ノ帝室博物館所藏品第千百十四號「ラディスラス」王四世ノ金盃

第四附屬書

一　「マリア、テレザ」ノ命令ニ依リ「タウロー、フォン、ローゼンタール」ノ搬去セシ文書、歷史的覺書、寫本、地圖等ニシテ「チェコ、スロヴァキア」國ノ要求ニ係ルモノ

二　「ボヘミア」ノ王國宰相府及王國會計檢查院所藏ノ文書竝「プラーグ」王城其ノ他ノ「ボヘミア」ノ諸王城ノ設備ノ一部分タリシ美術品ニシテ「マティアス」、「フェルディナンド」二世、「シャルル」六世（千七百十八年、千七百二十三年及千七百三十七年頃）及「フランツア、ジョゼフ」一世ノ諸帝ニ依リ搬去セラレ現ニ維納ノ記錄局、宮城、博物館其ノ他ノ中央公共施設内ニ存スルモノ

第九編　財政條項

第百九十七條

賠償委員會ノ許容スルコトアルヘキ例外ノ場合ヲ除クノ外本條約又ハ附屬諸條約ニ依リ竝千九百十八年十一月三日署名ノ休戰條約ノ休戰中墺地利國ト同盟及聯合國トノ間ニ締結セラレタル諸協定ニ依リ生シタル賠償其ノ他ノ負擔ヲ處理スル爲墺地利國ノ一切ノ財產及資源ノ上ニ第一順位ノ優先權ヲ設定ス

墺地利國政府ハ千九百二十一年五月一日前ニ至ル迄ハ賠償委員會ニ依リテ代表セラルル同盟及聯合國ノ事前ノ許諾アルニ非サレハ金ヲ輸出シ又ハ之ヲ處分スルコトヲ得サルヘク又金ノ輸出又ハ其ノ處分ヲ許スコトヲ得サルヘシ

第百九十八條

本條約ニ依リ境界ノ確定セル墺地利國内ノ占領地ニ在ル同盟及聯合國ノ一切ノ軍隊ノ經費ハ千九百十八年十一月三日ノ休戰條約署名ノトキヨリ總テ墺地利國ノ負擔タルヘシ右經費中ニハ兵員及軍用動物ノ給養　宿舍及廠舍、給料及手當、俸給及賃銀、寢具、煖房、燈火、被服、裝具、馬具、兵器及車輛　航空勤務、傷病者手當、獸醫勤務及軍用動物補充勤務、各種輸送勤務（鐵道、河海、自動貨車ニ依ルモノ等）、交通及通信其ノ他一般ニ部隊ヲ訓練シ其ノ兵力及其ノ軍事上ノ能率ヲ維持スル爲必要ナル行政上及專門事項上ノ一切ノ勤務ニ要スルモノヲ包含ス

前項ニ掲クル各種ノ經費ニシテ占領地ニ於ケル同盟及聯合國政府ノ買入又ハ徵發ニ關スルモノハ公示爲替相場又ハ協定爲替相場ヲ以テ換算シタル「冠」又ハ「冠」ニ代ルヘキ墺地利國ノ法貨ヲ以テ墺地利國政府ヨリ同盟及聯合國政府ニ支拂フヘシ

他ノ一切ノ前記經費ハ債權國ノ通貨ヲ以テ之ヲ支拂フヘシ

第百九十九條

墺地利國ハ千九百十八年十一月三日ノ休戰條約及其ノ後ノ休戰諸條約ニ依リ同盟及聯合國ニ引渡シタル又ハ引渡スヘキ一切ノ物資ノ讓渡ヲ確認シ且該物資ニ對スル同盟及聯合國ノ權利ヲ承認ス

前項ノ物資ニシテ賠償委員會カ軍事上ノ價値ナキ爲其ノ價額ヲ墺地利國ノ貸方ニ計上スヘシト認メタルモノニ付テハ同委員會ハ其ノ評定セル價額ヲ同盟及聯合國ニ對スル賠償負擔額中ヨリ差引クヘキモノトシテ墺地利國ノ貸方ニ計上スヘシ

同盟及聯合國ノ政府又ハ國民ニ屬スル財產ニシテ休戰諸條約ニ依リ現物ヲ以テ還付セラレ又ハ引渡サレタルモノハ墺地利國ノ貸方ニ之ヲ計上スルコトナカルヘシ

第二百條

第百九十七條ニ依リ設定セル優先權ハ本條末項ノ特例ヲ除クノ外左ノ順位ニ於テ之ヲ行使スヘシ

(イ)第百九十八條ニ定ムル占領軍ノ經費ニシテ休戰中ノモノ

(ロ)第百九十八條ニ定ムル占領軍ノ經費ニシテ本條約實施後ノモノ

(ハ)(ニ)本條約又ハ附屬諸條約ニ依リ生スル賠償總額

休戰諸條約、本條約又ハ附屬諸條約ニ依ル墺地利國ノ他ノ一切ノ負擔

食料品及原料品ノ墺地利國ヘノ供給ニ對スル支拂竝同國ノ爲スヘキ他ノ一切ノ支拂ニシテ主タル同盟及聯合國政府カ墺地利國ニシテ其ノ賠償ノ債務ヲ履行シ得シムル爲必要ナリト認メタル程度ニ屬スルモノハ右諸國政府ノ定メタル又ハ定ムルコトアルヘキ程度及條件ニ於テ優先順位ヲ有スヘシ

【外務省】

第二百一條

前諸條ノ規定ハ同盟及聯合國ノ各國カ本條約實施ノ際其ノ法權内ニ在ル敵ノ資産及財産ヲ處分スルノ權利ヲ害スルコトナシ

第二百二條

前諸條ノ規定ハ舊墺地利國政府又ハ舊墺地利帝國民カ同盟及聯合國又ハ其ノ國民ノ爲自己ノ所有財産及收入ノ上ニ適法ニ設定シタル擔保權ニシテ墺地利洪牙利國ト當該各國トノ間ニ戰爭狀態ノ成立スルニ先チ其ノ設定アリタルモノニ何等影響スルコトナシ但シ本條約又ハ附屬諸條約ニ依リ特ニ該擔保權ノ變更ヲ定ムルトキハ其ノ變更ノ範圍内ニ於テ此ノ限ニ在ラス

第二百三條

一　舊墺地利洪牙利君主國ノ一地方ノ讓渡ヲ受クル各國及該君主國ノ解體ニ因リ生スル各國(墺地利國ヲ含ム)ハ鐵道、鹽鑛其ノ他ノ財産ヲ特別擔保物トシタル舊墺地利國政府ノ千九百十四年七月二十八日現在ノ金錢債務ノ一部分ニ對シ責任ヲ負擔スルコトヲ要ス右各國ノ負擔スヘキ部分ハ本條約又ハ附屬諸條約ニ依リ當該國カ讓受ケタル鐵道、鹽鑛其ノ他ノ財産ヲ擔保トシタル金錢債務ノ部分ヲ表示スルモノト賠償委員會ニ於テ認ムルモノタルヘシ

墺地利國以外ノ各國カ負擔スル擔保附金錢債務ニ關スル引受額ハ賠償委員會ニ於テ其ノ衡平ト認ムル原則ニ從ヒ評價セラルヘシ右ニ依リ定メラルル價額ハ當該國カ其ノ讓受領土ト共ニ取得シタル新舊墺地利國政府ノ財産及所有物ニ付墺地利國ニ支拂フヘキ金額中ヨリ之ヲ控除スヘシ各國ハ本條ニ依リ自國ノ負擔ニ歸シタル擔保附金錢債務ノ部分ニ關シテノミ其ノ責ニ任スヘク領土讓受國ノ引受ケタル擔保附公債ノ部分ノ所持人ハ該引受國以外ノ何レノ國ニ對シテモ請求權ヲ有スルコトナカルヘシ

本條ニ掲クル金錢債務ノ特別擔保物タル財産ハ依然新金錢債務ノ特別擔保物タルヘシ但シ本條約ノ結果右ノ擔保財産カ數國間ニ分屬スルニ至ルヘキ場合ニ於テハ其ノ一國ノ版圖内ニ在ル財産ノ部分ハ單ニ同國ノ引受ケタル當該金錢債務ノ部分ノミノ擔保物タルヘク其ノ他ノ部分ニ及ハサルモノトス

鐵道線又ハ同種ノ財産ノ買收ニ關シ舊墺地利國政府ノ爲シタル支拂ノ約定ハ本條ノ適用上之ヲ擔保附金錢債務ト看做スヘシ右ノ約定ヨリ生スル負擔ノ割當ハ擔保附金錢債務ノ場合ニ於ケル同一ノ方法ヲ以テ賠償委員會之ヲ決定スヘシ

本條ノ規定ニ依リ負擔ノ移轉スル金錢債務ハ其ノ原金錢債務カ墺地利洪牙利國紙幣ヲ以テ表示セラレタルトキハ債務引受國カ自國通貨ヲ以テ之ヲ表示スヘシ右換貨ニ用ヰル換算率ハ債務引受國カ自國通貨ト墺地利洪牙利國「冠」紙幣トヲ最初引換ヘタル場合ノ換算率ト同一ナルヘシ證券面ニ表示スヘキ通貨ニ墺地利洪牙利國「冠」紙幣ヲ換貨スル基礎ハ賠償委員會ノ同意ヲ經ヘク該委員會ハ若シ適當ト認ムルトキハ換貨國ニ對シテ換貨條件ノ變更ヲ求ムルコトヲ得右條件ノ變更ハ舊證券ニ表示セラレタル通貨ニ代ルヘキ一通貨又ハ數通貨ノ外國爲替上ノ價格カ換貨當時ニ於テ原通貨ノ外國爲替上ノ價格ヨリモ著シク小ナリト賠償委員會カ認ムル場合ニ於テノミ之ヲ請求スヘキモノトス

墺地利國ノ原金錢債務カ一種又ハ數種ノ外國通貨ヲ以テ表示セラレタルトキハ新金錢債務ハ同一ノ通貨ヲ以テ之ヲ表示スヘシ

墺地利國ノ原金錢債務カ墺地利洪牙利國金貨ヲ以テ表示セラレタルトキハ新金錢債務ハ「磅」金貨又ハ亞米利加合衆國「弗」金貨ノ相當額ヲ以テ之ヲ表示スヘシ該相當額ノ計算ハ右三金貨ノ千九百十四年一月一日現在ノ法定量目及法定品位ヲ基礎トス

舊證券面ニ明示的又ハ默示的ニ外國爲替ノ一定相場ノ選擇又ハ爲替ノ他ノ選擇權ヲ定メタルトキハ新證券ニ付テモ亦同一ノ便益ヲ許與スルコトヲ要ス

二　舊墺地利洪牙利君主國ノ一地方ノ讓渡ヲ受クル各國及該君主國ノ解體ニ因リ生スル各國(墺地利國ヲ含ム)ハ千九百十四年七月二十八日現在ノ舊墺地利國政府無擔保金錢債務證券ノ一部分ニ對シ責任ヲ負擔スルコトヲ要ス右ノ負擔部分ハ分屬地域ノ或種目ノ歳入額及舊墺地利國全版圖ノ同種目ノ歳入額ニシテ賠償委員會ニ於テ此等地域ノ各分擔能力ヲ正確ニ量定スルニ最適當ナリト認メタルモノノ割合ニ從ヒ千九百十一年、千九百十二年及千九百十三年ノ三會計年度ノ平均ヲ基礎トシテ之ヲ算出スヘシ「ポスニア」及「ヘルツエゴヴィーナ」ノ歳入ハ右ノ算出ヲ爲スニ當リ計算外トス

金錢債務證券ニ關シ本條ニ定ムル義務ハ左記附屬書ニ定ムル條件ニ從ヒ之ヲ履行スヘシ

舊墺地利國政府カ千九百十四年七月二十八日以前ニ締結シタル一切ノ約定ニ對シテハ墺地利國政府ノミ其ノ責ニ任スヘシ但シ特ニ本條約ニ規定スル年金證書、債券、債務證書、有價證券及銀行券ニ依リ表示セラルル約定ヲ除ク

本條及本條附屬書ノ規定ハ墺地利洪牙利銀行發行ノ銀行券ニ對スル保證トシテ同銀行ニ寄託セラレタル舊墺地利國政府ノ證券ニ之ヲ適用セス

附屬書

第二百三條ニ依リ分擔セラルヘキ金錢債務ハ千九百十四年七月二十八日現在ノ舊墺地利國無擔保公債ニシテ證券ニ依リ表示セラルルモノタルヘシ尤モ千九百七年十二月三十日ノ墺地利洪牙利國法律(帝國法令彙報、法令第二百七十八號)ヲ以テ承認セラレタル追加條約ニ依リ舊洪牙利王國政府ノ負擔ニ歸シタル債務ノ部分ニシテ墺地利洪牙利國ノ一般的金錢債務ニ對スル神聖洪牙利王室所屬領地ノ分擔割合ヲ表示スルモノハ右公債中ヨリ之ヲ控除スヘキモノトス

舊墺地利國無擔保公債ノ負擔ヲ引受クル諸國ハ夫々自國版圖内ニ在スル一切ノ前記公債證券ニ若シ捺印未濟ノトキハ本條約實施後三月ノ期間内ニ各自國特有ノ印章ヲ押捺スヘシ捺印濟證券ノ番號ハ之ヲ記錄シ捺印ニ關スル其ノ他ノ書類ト共ニ賠償委員會ニ之ヲ送付スヘシ

本附屬書ノ規定ニ依リ證券ニ捺印スルコトヲ要スル國ノ版圖内ニ保有セラルル證券ノ所持人ハ本條約實施ノ日ヨリ右證券ノ額面價格ニ付該國ノ債權者ト爲ルヘク他ノ何レノ國ニ對シテモ請求權ヲ行使スルコトヲ得サルヘシ

或一國ノ版圖内ニ保有セラルル舊墺地利國無擔保公債ノ發行濟證券ノ總額カ賠償委員會ニ於テ同國ニ負擔セシメタル右發行證券ノ部分ヨリ小ナルコト捺印ニ依リ明白ナルニ至リタルトキハ其明白ト爲リタル差額ト同額ノ新證券ヲ該國ヨリ同委員會ニ引渡スヘシ賠償委員會ハ右新證券ノ樣式及額面金額ヲ定ムヘシ新證券ハ利子及償還ニ關シテハ舊證券ト同一ノ

權利ヲ許與スヘク其ノ他ノ事項ニ付テハ賠償委員會ノ同意ヲ得テ之ヲ定ムヘシ

原證券カ墺地利洪牙利國紙幣ヲ以テ表示セラレタルトキハ之ニ代ルヘキ新證券ハ發行國ノ通貨ヲ以テ之ヲ表示スヘシ右換貨ニ用ヰル換算率ハ發行國カ自國通貨ト墺墺利洪牙利國「冠」紙幣トヲ最初引換ヘタル場合ノ換算率ト同一ナルヘシ證券面ニ表示スヘキ通貨ニ墺地利洪牙利國「冠」紙幣ヲ換貨スル基礎ハ賠償委員會ノ同意ヲ經ヘク該委員會ハ若シ適當ト認ムルトキハ換貨國ニ對シテ換貨條件ノ變更ヲ求ムルコトヲ得右條件ノ變更ハ舊證券ニ表示セラレタル通貨ニ代ルヘキ一通貨又ハ數通貨ノ外國爲替上ノ價格カ換貨當時ニ於テ原通貨ノ外國爲替上ノ價格ヨリ著シク少ナリト賠償委員會カ認ムル場合ニ於テノミ之ヲ請求スヘキモノトス

原證券カ一種又ハ數種ノ外國通貨ヲ以テ表示セラレタルトキハ新證券モ亦同一ノ通貨ヲ以テ之ヲ表示スヘシ原證券カ墺地利洪牙利國金貨ヲ以テ表示セラレタルトキハ新證券ハ「磅」金貨又ハ亞米利加合衆國「弗」金貨ノ相當額ヲ以テ之ヲ表示スヘシ該相當額ノ計算ハ右三金貨ノ千九百十四年一月一日現在ノ法定量目及法定品位ヲ基礎トス

舊證券面ニ明示的又ハ默示的ニ外國爲替ノ一定相場ノ選擇又ハ爲替ノ他ノ選擇權ヲ定メタルトキハ新證券ニ付テモ亦同一ノ便益ヲ許與スルコトヲ要ス

或一國ノ版圖内ニ保有セラルル舊墺地利國無擔保公債ノ發行濟證券ノ總額カ賠償委員會ニ於テ同國ニ負擔セシメタル右發行證券ノ部分ヨリ大ナルコト捺印ニ依リ明白ナルニ至リタルトキハ該國ハ本附屬書ノ規定ニ從ヒテ新ニ發行スル證券中其ノ相當部分ヲ該證券發行毎ニ同委員會ヨリ受領スヘシ

舊墺地利洪牙利君主國ノ一地方ノ讓渡ヲ受ケタル諸國及該君主國ノ解體ニ因リ生シタル諸國（墺地利國ヲ含ム）ノ版圖外ニ保有セラルル舊墺地利國無擔保公債證券ノ所持人ハ其ノ所持ニ係ル證券ヲ各自國政府ノ仲介ニ由リ賠償委員會ニ引渡スヘシ同委員會ハ之ト引換ニ其ノ引渡ヲ受ケタル當該證券ト交換スル爲本附屬書ノ規定ニ從ヒテ新ニ發行スル證券中其ノ相當部分ニ付該證券發行毎ニ權利ヲ與フヘキ證明書ヲ右所持人ニ交付スヘシ

本附屬書ノ規定ニ從ヒテ新ニ發行スル證券ノ一部分ニ付權利ヲ有スヘキ國又ハ所持人ハ該證券發行毎ニ其ノ總額中ノ一部分ヲ受領スヘシ右受領部分ハ其ノ保有セシ舊證券額ト本附屬書ニ依リ交換ノ爲賠償委員會ニ提出シタル舊證券ノ總額トノ間ニ存スル割合ニ從ヒ之ヲ計算スヘシ右利害關係ヲ有スル國又ハ所持人ハ又洪牙利國トノ條約ニ依リ定ムル條件ニ於テ發行セラルル證券中ノ相當ニ決定セラルル一部分ヲ洪牙利國カ千九百七年ノ追加條約ニ依リ負擔ヲ引受ケタル墺地利國無擔保公債ノ部分ト引換ニ受領スヘシ

賠償委員會ハ若シ適當ト認ムルトキハ本附屬書ニ依リ發行スル新證券ノ所持人ト各債務國ニ於ケル整理公債ノ發行ニ付協定スルコトヲ得右ノ整理公債證券ト本附屬書ニ依リ發行スル證券トノ引換ハ同委員會ト所持人トノ取極ヲ以テ定ムル條件ニ依ルヘシ

舊墺地利國政府ノ證券ニ付責任ヲ引受ケル國ハ該證券ノ利札又ハ償還年額ニシテ本條約實施後辨濟期限到來スルモノノ支拂未濟部分ヲモ均シク負擔スヘシ

第二百四條

一　適法ニ成立シタル自己ノ公債ノ負擔ヲ有セシ一行政區劃カ本條約ノ定ムル新境界ニ依リ分割セラルルニ至ルトキハ該行政區劃ノ各新部分ハ第二百三條ノ定ムル國債分擔ノ原則ニ從ヒ賠償委員會ニ於テ定ムヘキ右公債ノ一部分ヲ負擔スヘシ賠償委員會ハ之カ實行方法ヲ定ムヘシ

二　「ボスニア」及「ヘルツェゴヴィーナ」ノ公債ハ行政區劃ノ金錢債務ト看做サルヘク舊墺地利洪牙利君主國ノ公債ト看做サルルコトナカルヘシ

第二百五條

舊墺地利洪牙利君主國ノ一地方ヲ讓受ケタル各國又ハ該君主國ノ解體ニ因リ生シタル各國（墺地利國ヲ含ム）ハ千九百十八年十月三十一日以前ニ適法ニ發行セラレタル舊墺地利國政府ノ戰時公債證券ニシテ夫々自國版圖内ニ保有セラルルモノノ部分ニ相當スル諸證券ニ若シ捺印未濟ノトキハ本條約實施後二月ノ期間内ニ各自國特有ノ印章ヲ押捺スヘシ

右捺印濟證券ハ證明書ト引換ニ之ヲ回收シテ其ノ流通ヲ止ムヘク其ノ番號ヲ記錄シ且引換實行ニ關スル一切ノ書類ト共ニ該證券ヲ賠償委員會ニ送付スヘシ

一國カ本條ニ定メタル條件ニ從ヒテ證券ニ捺印シ及之ヲ證明書ト引換ヘタルノ事實ハ當該國ヲシテ之ニ付何等負擔ヲ引受ケ又ハ承認スルノ義務ヲ負ハシムルモノニ非ス但シ當該國カ捺印及引換ノ實行ニ付上記ノ意味ヲ的確ニ表示シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

墺地利國ヲ除ク前記諸國ハ舊墺地利國政府ノ戰時公債ニ關シテハ其ノ證券ノ存在スル場所ノ如何ヲ問ハス何等ノ義務ヲ負擔スルコトナカルヘシ

尤モ右諸國ノ政府又ハ國民ハ其ノ所有スル戰時公債證券ニ關シ他國（墺地利國　含ム）ニ對シ如何ナル場合ニ於テモ請求權ヲ行使スルコトヲ得サルヘシ

舊墺地利洪牙利君主國ノ一地方ヲ讓受ケル國以外ノ諸國ノ國民又ハ政府カ本條約署名以前ニ所有セシ舊墺地利國政府ノ戰時公債ノ部分ハ墺地利國政府ニ於テ專ラ之ヲ負擔スヘク右讓受國以外ノ諸國ハ該戰時公債ノ部分ニ付何等ノ責任ヲ負フコトナカルヘシ

本條ノ規定ハ墺地利洪牙利銀行發行ノ銀行券ニ對スル保證トシテ舊墺地利國政府カ同銀行ニ寄託シタル同政府ノ證券ニ之ヲ適用セス

舊墺地利國政府ノ戰時中締結シタル一切ノ約定ニ對シテハ現墺地利國政府ノミ其ノ責ニ任スヘシ但シ特ニ本條約ニ規定スル年金證書、債券、債務證書、有價證券及銀行券ニ依リ表示セラルル約定ヲ除ク

第二百六條

一　舊墺地利洪牙利君主國ノ一地方ヲ讓受ケル國又ハ該君主國ノ解體ニ因リ生シタル國（墺地利國及現洪牙利國ヲ含ム）ハ各自國版圖内ニ保有セラルル墺地利洪牙利銀行券ニ若シ捺印未濟ノトキハ本條約實施後二月ノ期間内ニ各自國特有ノ印章ヲ押捺スヘシ

二　舊墺地利洪牙利君主國ノ一地方ヲ讓受ケタル國又ハ該君主國ノ解體ニ因リ生シタル國（墺地利國及現洪牙利國ヲ含ム）ハ各自國ノ定ムル條件ニ依リ本條約實施後十二月ノ期間内ニ前記捺印濟銀行券ヲ自國通貨又ハ新通貨ニ引換フルコトヲ要ス

三　捺印ニ依リ又ハ自國通貨若ハ新通貨ノ發行ニ依リ墺地利洪牙利銀行券ノ切替ヲ了シ右切替ノ實行中該銀行券ノ一部又ハ全部ニ捺印セス之

ヲ回收シテ其ノ流通ヲ止メタル諸國政府ハ其ノ回收シタル銀行券ニ捺印スルカ又ハ之カ處分ヲ賠償委員會ニ委スルコトヲ要ス

四　本條ノ規定ニ依リ墺地利洪牙利銀行券ヲ自國通貨又ハ新通貨ニ引換ヘタル諸政府ハ捺印濟又ハ捺印未濟ノ墺地利洪牙利銀行券ニシテ引換中回收シテ其ノ流通ヲ止メタル一切ノモノヲ本條約實施後十四月ノ期間内ニ賠償委員會ニ引渡スコトヲ要ス

五　賠償委員會ハ本條ノ規定ニ依リ同委員會ニ引渡サレタル一切ノ銀行券ヲ本條附屬書ノ條件ニ從ヒテ處分スヘシ

六　墺地利洪牙利銀行ノ清算ハ本條約署名ノ翌日ヨリ之ヲ開始スヘシ

七　清算ハ賠償委員會ノ之カ爲選任シタル數名ノ委員之ヲ行フヘシ委員ハ右清算ヲ爲スニ當リ定款ノ規定其ノ他一般ニ同銀行ノ業務ニ關スル現行ノ規則ニ準據スルコトヲ要ス但シ本條ノ規定ノ適用ヲ妨ケス本諸條及諸附屬書ヲ以テ又ハ同銀行定款ヲ以テ定ムル同銀行ノ清算ニ關スル規定ノ解釋ニ付疑義ヲ生シタルトキハ其ノ紛議ヲ賠償委員會又ハ其ノ選任スル一名ノ仲裁委員ニ付託スヘシ其ノ決定ハ之ヲ終審トス

八　千九百十八年十月二十七日ノ後ニ同銀行ノ發行シタル銀行券ハ新舊ノ墺地利國政府及洪牙利國政府ノ發行シタル證券ニシテ右銀行券ノ發行ニ對スル保證トシテ同銀行ニ寄託セラレタルモノヲ其ノ唯一ノ擔保トスヘシ從テ右銀行券ノ所持人ハ該銀行ノ他ノ資産上ニ何等ノ權利ヲ有セサルヘシ

九　同銀行カ千九百十八年十月二十七日又ハ其ノ前ニ發行シタル銀行券ノ所持人ハ右銀行券カ本條ノ規定ニ依リ清算組入ノ必要條件ヲ具備スルトキハ該銀行ノ各資産上ニ同等ノ權利ヲ有スヘシ但シ新舊ノ墺地利

國政府及洪牙利國政府ノ發行シタル證券ニシテ銀行券ノ累次ノ發行ノ保證トシテ該銀行ニ寄託セラレタルモノハ右資産ノ一部分ヲ爲スモノト看做サルルコトナシ

十　新舊ノ墺地利國政府及洪牙利國政府カ千九百十八年十月二十七日又ハ其ノ前ニ發行セラレタル銀行券ノ保證トシテ同銀行ニ寄託シタル證券ニシテ舊墺地利洪牙利君主國ノ諸地方ノ讓渡ヲ受ケタル國又ハ該君主國ノ解體ニ因リテ生シタル國(墺地利國及現洪牙利國ヲ含ム)カ千九百十四年七月二十八日現在ノ該君主國版圖内ニ於テ引換ヘタル銀行券ニ相當スルモノハ之ヲ廢棄スヘシ

十一　新舊ノ墺地利國政府及洪牙利國政府カ千九百十八年十月二十七日又ハ其ノ前ニ發行セラレタル銀行券ノ保證トシテ寄託シタル證券ニシテ本條第十號ノ適用ニ依リ廢棄セラレサリシモノハ其ノ券面價額ヲ限度トシテ舊墺地利洪牙利君主國外ニ千九百十九年六月十五日保有シアリタル前記銀行券ノ擔保トシテ存續スヘシ右銀行券ニハ(一)領土讓受國カ各自國版圖中右舊君主國外ノ地域ニ於テ蒐集シタル銀行券ニシテ第四號ニ依リ賠償委員會ニ引渡サルヘキモノ(二)他ノ一切ノ國カ蒐集シタル銀行券ニシテ本條附屬書ノ規定ニ從ヒ銀行清算委員ニ提出セラルヘキモノヲ包含シ其ノ他ノモノヲ包含セス

十二　千九百十八年十月二十七日又ハ其ノ前ニ發行セラレタル他ノ一切ノ銀行券ノ所持人ハ新舊ノ墺地利國政府及洪牙利國政府カ銀行券發行ノ保證トシテ寄託シタル證券又ハ一般ニ同銀行ノ資産ノ上ニ何等ノ權利ヲ有セサルヘシ第十號及第十一號ノ條件ニ從ヒ破毀セラレス又ハ擔保ニ供用セラレサル證券ハ之ヲ廢棄スヘシ

十三　墺地利國政府及現洪牙利國政府ハ新舊ノ墺地利國政府及洪牙利國政府カ銀行券發行ノ保證トシテ同銀行ニ寄託シタル一切ノ證券ニシテ廢棄セラレサリシモノニ付夫々自國ノ負擔部分ニ對シ單獨ニ責任ヲ負フヘク他ノ諸國ハ何等其ノ責ニ任セサルヘシ

十四　墺地利洪牙利銀行券ノ所持人ハ同銀行清算ノ結果其ノ受クルコトアルヘキ損害ニ關シ墺地利國政府及現洪牙利國政府其ノ他如何ナル政府ニ對シテモ何等請求權ヲ有セサルヘシ

附屬書

一

當該政府ハ第二百六條ニ依リ其ノ回收シテ流通ヲ止メタル一切ノ墺地利洪牙利銀行券ヲ賠償委員會ニ交付スルニ當リ其ノ實行シタル引換ノ性質及總額ヲ證明スヘキ一切ノ書類ヲ均シク委員會ニ引渡スヘシ

二

賠償委員會ハ此等ノ書類ヲ審査シタル後前記政府カ左ノ場所ニ於テ引換ヘタル銀行券ノ總額ヲ各別ニ證明スル證明書ヲ同政府ニ交付スヘシ

(イ)　千九百十四年七月二十八日現在ノ舊墺地利洪牙利君主國境界内

(ロ)　其ノ他ノ一切ノ場所

右證明書ノ所持人ハ引換濟銀行券カ銀行資産ノ分配ヲ受クルニ付表示スル權利ヲ銀行清算委員ニ對シテ主張スルコトヲ得ヘシ

三

銀行ノ清算終了シタルトキハ賠償委員會ハ回收濟銀行券ヲ破毀スヘシ

四

千九百十八年十月二十七日又ハ其ノ前ニ發行セラレタル銀行券ハ其ノ保

有セラレシ國ノ政府ヨリ提出ナキ限リ同銀行ノ資産ニ對スル何等ノ權利ヲ生スルコトナシ

第二百七條

舊墺地利洪牙利君主國ノ一地方ノ讓渡ヲ受ケタル各國又ハ該君主國ノ解體ニ因リ生シタル各國(墺地利國ヲ含ム)ハ各自國版圖内ニ存在スル舊墺地利洪牙利君主國ノ補助貨幣ニ關シ完全ナル自由處分權ヲ有スヘシ右諸國ハ其ノ保有スル補助貨幣ニ付自國又ハ其ノ國民ノ計算ニ於テ他ノ諸國ニ對シ如何ナル場合ニ於テモ請求權ヲ行使スルコトヲ得サルヘシ

第二百八條

舊墺地利洪牙利君主國ノ一地方ノ讓渡ヲ受ケタル諸國又ハ該君主國ノ解體ニ因リ生シタル諸國ハ各自國版圖内ニ存スル新舊墺地利國政府所屬ノ一切ノ財産及所有物ヲ取得スヘシ

本條ノ新舊墺地利國政府ノ財産及所有物ニハ舊墺地利帝國所屬ノ財産及墺地利洪牙利君主國ノ共有財産ニ付同帝國ノ有スル持分竝一切ノ帝室財産及舊墺地利洪牙利元首ノ一家ノ私財産ヲ包含スルモノト認ムヘシ尤モ此等ノ諸國ハ各自國版圖外ニ存スル新舊墺地利國政府ノ財産及所有物ニ對シ何等ノ主張ヲ爲スコトヲ得サルヘシ

墺地利國以外ノ諸國カ取得シタル財産及所有物ノ價額ハ賠償委員會ニ於テ之ヲ評定シ賠償負擔額中ヨリ差引クヘキモノトシテ財産取得國ノ借方、墺地利國ノ貸方ニ之ヲ計上スヘシ賠償委員會ハ斯ク取得セラレタル公財産ノ價額中ヨリ州、市町村其ノ他ノ自治地方團カ右財産ノ爲正金、土地又ハ物資ヲ以テ直接ニ爲シタル出捐ニ相當スル金額ヲ控除スヘシ

本條ニ依ル財産取得國ニ付テハ前項ニ依リ同國ノ借方、墺地利國ノ貸方

トシテ計上セラルル價額中ヨリ第二百三條ニ依リ財産取得國ノ負擔ニ歸スヘキ舊墺地利國政府無擔保金錢債務ノ部分ニシテ賠償委員會カ取得財産及所有物ニ付要シタル費用ニ該當スト認メタルモノヲ控除スヘシ但シ擔保附金錢債務ニ關スル右第二百三條ノ規定ノ適用ヲ妨ケス控除スヘキ價額ハ賠償委員會ニ於テ其ノ衡平ト認ムル原則ニ從ヒ之ヲ決定スヘシ

新舊墺地利國政府ノ財産及所有物中ニハ「ボスニア、ヘルツェゴヴィーナ」ニ在ル各種不動産ニシテ舊墺地利洪牙利君主國政府カ千九百九年二月二十六日ノ條約第五條ニ依リ土耳其國政府ニ土耳其貨二百五十萬「磅」ヲ支拂ヒタルモノノ一部分ヲ包含スルモノトス右不動産ノ部分ハ前記支拂金額中舊墺地利帝國ノ負擔額ノ割合ニ相當スルモノタルヘク其ノ價額ハ賠償委員會之ヲ評定シ賠償名義ニ於テ墺地利國ノ貸方ニ之ヲ計上スヘシ

上記規定ノ例外トシテ左記ノモノハ無償ニテ之ヲ讓渡スヘシ

一　舊墺地利洪牙利君主國ノ州、市町村其ノ他ノ地方自治團體ノ財産及所有物竝「ボスニア、ヘルツェゴヴィーナ」ニ存シ舊墺地利洪牙利君主國ニ屬セサリシ財産及所有物

二　舊墺地利洪牙利君主國ノ財産タル學校及病院

三　舊波蘭王國ニ屬セシ森林

第一項ニ掲クル領土讓受國ハ右ノ外尚各自國版圖內ニ屬シ且嘗テ「ボヘミア」王國、波蘭王國、「クロアシア、スラヴォニア、ダルマシア」王國、「ボスニア、ヘルツェゴヴィーナ」、「ラグーザ」共和國、「ヴェネツィア」共和國又ハ「トリエント」及「ブレッサノーネ」ノ司教管區ニ屬シタリシ一切ノ不動産其ノ他ノ財産ニシテ其ノ主タル價値カ當該地域ニ關スル歷史的記念物タルニ在ルモノヲ賠償委員會ノ承認ヲ經タル上無償ニテ取得スルコトヲ得

エルサイユ」ニ於テ締結シタル平和條約ノ第二百五十九條第五號ニ定メタル金ノ引渡竝同條約第二百六十一條ニ掲クル請求權ノ讓渡ヲ承認スルコトヲ約ス

第二百十一條

本條約實施後一年ノ期間內ニ賠償委員會ハ露西亞國、土耳其國、獨逸國、洪牙利國若ハ勃爾牙利國ニ於テ、右諸國ノ領地若ハ屬地ニ於テ又ハ墺地利國若ハ其ノ同盟國ニ屬セシ一地方ニシテ同盟又ハ聯合國トノ條約ニ從ヒ該諸國ヨリ讓渡セラレ若ハ別國ノ委任統治ニ付セラルヘキモノニ於テ經營セラルル公益企業又ハ特許事業ニ關スル墺地利國民ノ權利又ハ利益ヲ墺地利國政府ニ於テ取得スルコトヲ要求スルコトヲ得ヘシ但シ右ノ規定ハ墺地利國カ自國民又ハ自國民ノ權利ヲ拋棄スルコトヲ定メタル本條約中ノ他ノ規定ノ適用ヲ妨ケサルモノトス尚右要求ノ日ヨリ起算シ六月ノ期間內ニ墺地利國ハ前記ノ權利及利益竝新舊墺地利國政府自身有スルコトアルヘキ同種ノ權利及利益ノ全部ヲ賠償委員會ニ讓渡スルコトヲ要ス

墺地利國ハ斯ク權利及利益ヲ奪ハレタル自國民ノ損害ヲ賠償スルノ責ヲ負フヘシ賠償委員會ハ讓渡サレタル權利及利益ノ價額トシテ其ノ評定シタル金額ヲ賠償負擔額中ヨリ差引クヘキモノトシテ墺地利國ノ貸方ニ計上スヘシ前記一切ノ權利及利益ハ其ノ既得ナルト條件附ナルト未タ行使セラレサルトヲ問ハス其ノ一覽表ヲ本條約實施後六月ノ期間內ニ墺地利國ヨリ賠償委員會ニ通牒スルコトヲ要ス前記ノ權利及利益ニシテ右一覽表ニ掲記セラレサルモノニ付テハ墺地利國ハ自國及其ノ國民ノ名ニ於テ同盟國又ハ聯合國ノ爲ニ總テ之ヲ拋棄スヘシ

第二百十二條

第一類　一般共通條約　第二編　平和條約

第二百九條

墺地利國ハ同盟及聯合國中ノ一國、獨逸國、洪牙利國、勃爾牙利國、土耳其國、右諸國ノ領地若ハ屬地又ハ前露西亞帝國內ニ於テ行動スル委員會、代表機關及國立銀行ノ管理又ハ取締其ノ他國際的性質ヲ有スル金融上又ハ經濟上ノ監督機關又ハ管理機關ニ付各種ノ條約又ハ取極カ墺地利國又ハ其ノ國民ニ保障セル一切ノ代表權又ハ參加權ヲ自國ノ關スル限リ拋棄ス

第二百十條

一　墺地利國ハ土耳其國政府紙幣第一回發行ノ保證トシテ土耳其國公債管理委員會ノ名ニ於テ墺地利洪牙利銀行ニ寄託シタル額ノ金ヲ主タル同盟及聯合國ノ指定スル官憲ニ本條約實施後一月ノ期間內ニ引渡スコトヲ約ス

二　墺地利國ハ「ブカレスト」條約及「ブレスト、リトウスク」條約竝附屬諸條約中ニ存スル一切ノ規定ノ利益ヲ自國ノ關スル限リ拋棄ス但シ第十編（經濟條項）第二百四十四條ノ適用ヲ妨ケス

墺地利國ハ前記諸條約ニ依リ其ノ收受シタル一切ノ金錢證書、正金、有價證券及流通證券又ハ物品ヲ羅馬尼亞國又ハ主タル同盟及聯合國ト夫々引渡スコトヲ約ス

三　本條ノ規定ニ依リ支拂フコトヲ要スル正金ノ額竝交付シ又ハ引渡スコトヲ要スル一切ノ金錢證書、有價證券及物品ハ主タル同盟及聯合國ノ後日決定スヘキ方法ニ依リ右諸國之ヲ使用スヘシ

四　墺地利國ハ同盟及聯合國竝獨逸國カ千九百十九年六月二十八日「ヴ

墺地利國ハ同盟及聯合國ト獨逸國、洪牙利國、勃爾牙利國又ハ土耳其國ノ政府トノ間ニ夫々締結セラルル平和條約又ハ附屬諸條約ニ依リ賠償委員會カ要求スルコトアルヘキ墺地利國內ノ公益企業又ハ特許事業ニ關スル獨逸國、洪牙利國、勃爾牙利國又ハ土耳其國ノ國民ノ權利及利益ヲ此等諸國ノ政府ニ於テ取得スルコトニ付何等之ヲ阻礙セサルコトヲ約ス

第二百十三條

墺地利國ハ新舊墺地利國政府カ獨逸國、洪牙利國、勃爾牙利國又ハ土耳其國ニ對シテ有スル一切ノ債權又ハ賠償請求權殊ニ千九百十四年七月二十八日以後本條約ノ實施ニ至ル迄ノ間ニ爲シタル約定ノ履行ニ依リ現ニ生シ又ハ將來生スルコトアルヘキ一切ノ債權又ハ賠償請求權ヲ同盟及聯合國ニ讓渡スルコトヲ約ス

賠償委員會ハ前記ノ債權又ハ賠償請求權ノ價額ヲ評定シ賠償負擔額中ヨリ差引クヘキモノトシテ墺地利國ノ貸方ニ之ヲ計上スヘシ

第二百十四條

本條約ニ依リ正金ヲ以テ支拂フヘキ債務ニシテ墺地利洪牙利國「冠」金貨ニテ表示セラルルモノハ債權者ノ選擇ニ從ヒ倫敦拂「磅」金貨、紐育拂亞米利加合衆國「弗」金貨、巴里拂「法」金貨又ハ羅馬拂「利」金貨ニテ之ヲ支拂フヘシ但シ本條約又ハ附屬諸條約中ニ反對ノ規定アル場合ハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ諸金貨ハ本條ノ適用上夫々千九百十四年一月一日現在ノ法定量目及法定品位ヲ有スヘキモノトス

第二百十五條

舊墺地利洪牙利君主國ノ解體ニ因リ竝前諸條ノ條件ニ從フ公債及貨幣創

度ノ改革ニ因リ必要ト爲リタル財政上ノ一切ノ整理ハ各當事者ニ最良且最衡平ナル待遇ヲ保障スルコトヲ得ル樣關係諸政府間ノ取極ヲ以テ之ヲ定ムヘシ右財政上ノ整理ハ殊ニ舊墺地利洪牙利君主國版圖內ニ於テ經營セラルル銀行、保險會社、貯蓄銀行、郵便貯金局、不動產抵當銀行、抵當貸付會社其ノ他同種ノ施設ニ關スルモノトス此等財政上ノ問題ニ關シ右諸政府間ニ協議調ハサル場合又ハ或國ノ政府カ自國民ノ受クル待遇衡平ナラスト認ムル場合ニ於テハ賠償委員會ハ關係諸政府中ノ或政府ノ請求ニ基キ一名又ハ數名ノ仲裁委員ヲ選任スヘシ右仲裁委員ノ決定ハ之ヲ終審トス

第二百十六條

舊墺地利帝國ノ文官恩給金又ハ軍人恩給金ノ受給者ニシテ本條約ニ依リ墺地利國以外ノ國ノ國民ト認メラレ又ハ其ノ國民ト爲ルモノハ自己ノ恩給金ニ付墺地利國政府ニ對シテ何等請求權ヲ行使スルコトヲ得サルヘシ

第十編　經濟條項

第一款　通商關係

第一章　稅關ノ規則、稅金及制限

第二百十七條

墺地利國ハ其ノ版圖內ニ輸入セラルル同盟國又ハ聯合國中ノ一國ノ天產物又ハ製造品タル貨物ニ對シ其ノ何レノ地ヨリ來ルヲ問ハス他ノ同盟國若ハ聯合國又ハ爾餘ノ外國ノ天產物又ハ製造品タル同種ノ貨物ニ課スルト異ルカ又ハ之ヨリ高キ稅金又ハ課金（內國課稅金ヲ含ム）ヲ課セサルコトヲ約ス

墺地利國ハ同盟國又ハ聯合國中ノ一國ノ版圖內ノ天產物又ハ製造品タル貨物ノ墺地利國版圖內ヘノ輸入ニ對シ其ノ何レノ地ヨリ來ルヲ問ハス他ノ同盟國若ハ聯合國又ハ爾餘ノ外國ノ天產物又ハ製造品タル同種ノ貨物ノ輸入ニ均シク及ホササル何等ノ禁止又ハ制限ヲ存續又ハ設定スルコトナカルヘシ

第二百十八條

墺地利國ハ又輸入制度ニ關シ同盟國又ハ聯合國中ノ一國ノ通商ニ對シ他ノ同盟國若ハ聯合國又ハ爾餘ノ外國ノ通商ニ比シ何等不利益ナル差別ヲ設ケサルコトヲ約ス右ノ差別ハ稅關ノ規則若ハ手續、檢定若ハ分析ノ方法、稅金納付ノ條件、稅率表ノ分類若ハ解釋ノ方法又ハ專賣制ノ運用ノ如キ間接ノ手段ニ依リテモ之ヲ設クルコトナカルヘシ

第二百十九條

輸出ニ關シ墺地利國ハ其ノ版圖ヨリ同盟國又ハ聯合國中ノ一國ノ版圖ニ向ケ輸出セラルル天產物又ハ製造品タル貨物ニ對シ他ノ同盟國若ハ聯合國又ハ爾餘ノ外國ニ向ケ輸出セラルル同種ノ貨物ニ課スルト異ルカ又ハ之ヨリ高キ稅金又ハ課金（內國課稅金ヲ含ム）ヲ課セサルコトヲ約ス

墺地利國ハ其ノ版圖ヨリ同盟國又ハ聯合國中ノ一國ニ仕向ケラルル貨物ノ輸出ニ對シ他ノ同盟國若ハ聯合國又ハ爾餘ノ外國ニ仕向ケラルル天產物又ハ製造品タル同種ノ貨物ノ輸出ニ均シク及ホササル何等ノ禁止又ハ制限ヲ存續又ハ設定スルコトナカルヘシ

第二百二十條

貨物ノ輸入、輸出又ハ通過ニ關シ墺地利國カ同盟國若ハ聯合國又ハ爾餘ノ外國ニ許與スル一切ノ恩典、免除又ハ特權ハ請求又ハ報償ヲ要スルコトナク同時且無條件ニテ一切ノ同盟國又ハ聯合國ニ及ホサルヘシ

第十二編ニ港、水路及鐵道ノ第二百八十六條ノ規定ニ拘ラス本條約實施後三年間ハ戰爭前舊墺地利洪牙利君主國ノ版圖內ニ在リシ港ヲ通過スル生產品ハ其ノ墺地利國ヘノ輸入ニ際シ同種ノ生產品カ前記ノ港ヨリ輸入セラルルニ當リ千九百六年二月十三日ノ墺地利洪牙利國關稅率表ニ從ヒ適用セラレシ稅率ノ輕減ニ相當スル割合ニ於テ稅金輕減ノ利益ヲ享受スヘシ

第二百二十二條

第二百十七條乃至第二百二十條ノ規定ニ拘ラス同盟及聯合國ハ洪牙利國又ハ「チェッコ、スロヴアキア」國ニ原產シ且右兩國ヨリ來ル或種ノ天產物又ハ製造品ニ關シテ特別關稅制度ヲ設定スル目的ヲ以テ墺地利國政府カ將來右兩國政府ト締結スルコトアルヘキ特別協定ノ利益ヲ確保スル爲前記ノ諸規定ヲ援用セサルコトニ同意スル但シ右天產物又ハ製造品ノ品目ハ該協定中ニ之ヲ列記スヘク該協定ノ存續時間ハ本條約實施後五年ヲ超エサルモノトス

第二百二十三條

本條約實施後六月ノ期間內ハ同盟及聯合國ヨリノ輸入品ニ墺地利國ノ課スル稅金ハ舊墺地利洪牙利君主國ヘノ輸入品ニ千九百十四年七月二十八日ニ於テ適用セラレシ最惠稅金ヨリ高カルヘカラス

前項ノ規定ハ最初ノ六月ノ期間滿了後更ニ三十月間生果及乾果、青物、「オリーヴ」油、卵、豚肉及其ノ製品竝生禽ノ輸入ニノミ引續キ之ヲ適用スヘシ但シ此等ノ生產品カ同盟國又ハ聯合國トノ條約ニ依ル協定稅率ノ利益ヲ前記ノ期日（千九百十四年七月二十八日）ニ於テ受ケタル範圍內ニ限ル

第二百二十四條

一　「チェッコ、スロヴアキア」國及波蘭國ハ本條約實施後十五年間其ノ版圖內ノ炭鑛ノ產出物ヲ墺地利國ニ向ケ輸出スルニ當リ別國ニ對スル同種ノ輸出品ニ課スルモノト異ルカ又ハ之ヨリ重キ何等ノ輸出稅其ノ他ノ輸出ニ關スル課金又ハ制限ヲ其ノ種類ノ如何ヲ問ハス課セサルコトヲ約ス

二　「チェッコ、スロヴアキア」國及波蘭國竝墺地利國ハ石炭及原料品ノ相互供給ニ關スル特別協定ヲ締結スヘシ

三　右協定ノ締結ニ至ル迄ノ間但シ如何ナル場合ニ於テモ本條約實施後三年ヲ超エサル間「チェッコ、スロヴアキア」國及波蘭國ハ墺地利國ニ向ケ輸出スル一定量以內ノ石炭又ハ褐炭ニ對シ何等ノ輸出稅又ハ制限ヲ其ノ種類ノ如何ヲ問ハス課セサルコトヲ約ス右ノ一定量ニ付關係諸國間ニ一致ヲ見サルトキハ賠償委員會之ヲ決定スヘシ該委員會カ右ノ數量ヲ決定スルニ當リテハ上部「シレジア」ヨリ竝本條約ニ依リ「チェッコ、スロヴアキア」國及波蘭國ニ讓渡セラルル舊墺地利帝國ノ諸地方ヨリ戰爭前現墺地利國領土ニ供給セラレタル石炭及褐炭ノ數量竝此等ノ諸國ヨリ現ニ輸出シ得ル數量其ノ他一切ノ事項ヲ考量スヘシ右ノ代償トシテ墺地利國ハ「チェッコ、スロヴアキア」國及波蘭國ニ對シ賠償委員會ノ決定ニ從ヒ第二號ニ揭クル原料品ヲ供給スルコトヲ要ス

四　前號ノ期間內「チェッコ、スロヴアキア」國及波蘭國ハ又墺地利國居住ノ購買者カ右ノ生產品ヲ取得スルニ付「チェッコ、スロヴアキア」國又ハ波蘭國居住ノ購買者カ類似ノ狀態ニ在ル同種ノ生產品ヲ各自國又ハ別

國ニ於テ取得スルト同樣ノ有利ナル條件ニ依ルヲ得ルコトヲ保障スル爲必要ナル一切ノ措置ヲ執ルコトヲ約ス

五　前記諸規定ノ實行又ハ解釋ニ關シ紛議アルトキハ賠償委員會之ヲ決定スヘシ

第二章　海運

第二百二十五條

海岸ヲ有セサル締約國ノ船舶カ同國版圖內ノ或一定ノ地ニ登錄セラレタルモノナルトキハ締約國ハ該船舶ノ國旗ヲ承認スルコトニ同意ス右ノ地ハ之ヲ該船舶ノ船籍港ト看做ス

第三章　不正競爭

第二百二十六條

塊地利國ハ商業取引ニ於ケル各形式ノ不正競爭ニ對シ同盟國又ハ聯合國中ノ一國ニ原產スル天產物又ハ製造品ヲ保護スル爲必要ナル立法上及行政上ノ一切ノ措置ヲ執ルコトヲ約ス

塊地利國ハ一切ノ生產品又ハ商品ニシテ其ノ自體又ハ外觀若ハ包裝上ニ其ノ原產地、種類、性質又ハ特色ニ關シ直接又ハ間接ニ虛僞ノ表示ト爲ルヘキ各種ノ標章、名稱、記入又ハ符牒ヲ附シタルモノニ付テハ其ノ輸入及輸出竝國內ニ於ケル製造、分配、販賣及販賣ノ提供ヲ差押其ノ他ノ適當ナル一切ノ制裁ニ依リ防遏及禁止スルコトヲ約ス

第二百二十七條

同盟國又ハ聯合國中ノ一國ニ生產セラルル葡萄酒又ハ火酒ニ同國內ノ一地方ノ名稱ヲ附スルノ權利又ハ一地方ノ名稱ノ使用ヲ許スニ付テノ條件ヲ定ムル同國法令及其ノ法令ニ依リ行フ行政上若ハ司法上ノ裁決ニシテ現ニ效力ヲ有シ且當該官憲ヨリ正式ニ塊地利國ニ通告セラレタルモノハ此ノ事項ニ關シ相互待遇ヲ許與セラルルコトヲ條件トシテ塊地利國之ニ準據スヘキコトヲ約ス右ノ法令又ハ裁決ニ違反シテ地方名ヲ附シタル生產品又ハ商品ノ輸入、輸出又ハ製造、分配、販賣若ハ販賣ノ提供ハ塊地利國之ヲ禁止シ且前條ニ規定スル措置ニ依リ之ヲ防遏スヘシ

第四章　同盟及聯合國ノ國民ノ待遇

第二百二十八條

塊地利國ハ左ノ事項ヲ約ス

(イ) 生業、職業、商業及產業ニ從事スルコトニ關シ同盟及聯合國ノ國民ニ對シ一切ノ外國人ニ例外ナク均シク適用セラレサル何等ノ禁止ヲ加ヘサルコト

(ロ) (イ)號ノ權利ニ關シ同號ノ規定ニ直接間接違反スルノ虞アリ又ハ最惠國國民タル外國人ニ適用スルモノト異ルカ若ハ之ヨリ不利益ナル規則又ハ制限ヲ以テ同盟及聯合國ノ國民ヲ律セサルコト

(ハ) 同盟及聯合國ノ國民又ハ其ノ財產、權利若ハ利益（其ノ國民ヲ當事者トスル會社又ハ組合ヲ含ム）ニ對シ塊地利國民又ハ其ノ財產、權利若ハ利益ニ課シ又ハ課スルコトアルヘキモノト異ルカ又ハ之ヨリ高キ直接又ハ間接ノ課金又ハ稅金ヲ課セサルコト

(ニ) 千九百十四年七月一日ニ於テ同盟及聯合國ノ國民ニ適用シ得ヘカラサリシ制限ハ塊地利國民ニ均シク之ヲ加フルニ非サレハ此等諸國中ノ一國ノ國民ニ之ヲ加ヘサルコト

第二百二十九條

同盟及聯合國ノ國民ハ塊地利國版圖內ニ於テ其ノ身體、財產、權利及利益ノ間斷ナキ保護ヲ享受スヘク且自由ニ裁判所ニ出訴スルコトヲ得ヘシ

塊地利國ハ同盟國又ハ聯合國ノ法令ニ依リ及右諸國ノ當該官憲ノ裁決ニ從ヒ或ハ歸化ノ手續ニ依リ或ハ條約ノ條項ノ結果トシテ自國民カ取得シ又ハ取得スルコトアルヘキ新國籍ヲ承認シ該國民ヲシテ新國籍取得ノ結果其ノ原國籍國ニ對スル忠誠ノ義務ヨリ一切離脫セシムルコトヲ約ス

第二百三十一條

同盟及聯合國ハ塊地利國ノ都市及港ニ駐在スル總領事、領事、副領事及領事事務官ヲ任命スルコトヲ得右總領事、領事、副領事及領事事務官ノ氏名ハ塊地利國ニ之ヲ通知スヘク塊地利國ハ其ノ任命ヲ承認シ且常規及慣例ニ依ル其ノ職務ノ執行ヲ許容スルコトヲ約ス

第五章　一般條項

第二百三十二條

本款第一章ニ依リ塊地利國ニ課セラルル義務ハ本條約實施ノ日以後五年ヲ以テ消滅スヘシ但シ本條約中別段ノ規定アルカ又ハ國際聯盟理事會カ右ノ義務ヲ修正シ又ハ修正セスシテ更ニ一定ノ期間存續スヘキコトヲ前記期間滿了ノ少クトモ十二月前ニ決シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第二百十七條乃至第二百二十條ニ依リ塊地利國ニ課セラルル義務ハ本條約實施ノ日ヨリ三年ノ期間滿了ノ後ハ塊地利國ニ對シテ相互待遇ヲ與ヘサル同盟國又ハ聯合國ニ於テ之ヲ援用スルコトヲ得ス但シ國際聯盟カ別段ノ決定ヲ爲シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第二百二十八條ハ前記五年ノ期間滿了後國際聯盟理事會ノ過半數カ決定スルコトアルヘキ五年ヲ超エサル一定ノ期間之ヲ修正シ又ハ修正セスシテ效力ヲ存續スヘシ

第二百三十三條

塊地利國政府ハ其ノ國際貿易ニ從事スル場合ト雖之ニ付主權ニ屬スル何等ノ權利、特權及免除ヲ有スルコトナク又有スト看做サルルコトナカルヘシ

第二款　條約

第二百三十四條

本條約ニ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外舊塊地利洪牙利君主國ノ締結シタル經濟上又ハ技術上ノ性質ヲ有スル多數國間ノ條約及取極ニシテ本條以下數條ニ列記シタルモノニ限リ塊地利國ト同條約及取極ノ當事國タル同盟及聯合國トノ間ニ本條約實施ノ時ヨリ之ヲ適用スヘシ

一　海底電信線ノ保護ニ關スル千八百八十四年三月十四日、千八百八十六年十二月一日及千八百八十七年三月二十三日ノ條約竝千八百八十七年七月七日ノ最終議定書

二　自動車ノ國際通行ニ關スル千九百九年十月十一日ノ條約

三　千八百八十六年五月十五日ノ稅關ノ檢査ヲ受クヘキ鐵道貨車ノ封印ニ關スル取極及千九百七年五月十八日ノ議定書

四　鐵道ノ技術上ノ規格一定ニ關スル千八百八十六年五月十五日ノ取極

五　萬國關稅誌ノ刊行及萬國關稅誌刊行ノ爲ノ萬國協會ノ組織ニ關スル千八百九十年七月五日ノ條約

六　土耳其國關稅率引上ニ關スル千九百七年四月二十五日ノ條約

七　「ズンド」海峽及「ベルト」海峽ノ通航稅ノ免除ニ關スル千八百五十七年三月十四日ノ條約

〔外務省版〕